

市政世論調査報告書

(第45回・平成25年)

調査項目

定 住 意 向
生 活 環 境
市 政 へ の 要 望
喫 煙 に つ い て
救 命 に つ い て
小・中学生の教育について
生涯学習について
「八王子ビジョン2022」の施策指標の
目標値に対する達成度



八王子市

はじめに

八王子市では、市民の皆様の生活環境への意識、市の施策に対する評価及び市政への意見・要望を把握するために、毎年「市政世論調査」を実施しています。

さて、本年度、市政運営の基本的指針となる基本構想・基本計画「八王子ビジョン2022」をスタートしました。その策定にあたっては、素案づくりを始め、パブリックコメントなど、多くの市民の方々に御参加いただくとともに、市政世論調査の結果も反映しています。

この市政世論調査は、「八王子ビジョン2022」の進行管理を目的とした行政評価を行う上でも、各施策別に設定している目標値の達成度を確認するための重要な役割も担っています。

この冊子は、平成25年5月に実施した市政世論調査の結果をとりまとめたもので、今回は調査項目として「定住意向」「生活環境」「市政への要望」の継続的項目に加え、「喫煙について」「救命について」「小・中学生の教育について」「生涯学習について」「『八王子ビジョン2022』の施策指標の目標値に対する達成度」を設定しました。

今後も市政世論調査を始め、様々なかたちで市民の皆様の御意見をお聴きしながら、協働による「活力ある魅力あふれるまちづくり」を進めていきます。

結びにあたり、この調査に御協力いただきました皆様方に心から御礼申し上げます。

平成25年10月

八王子市長 石 森 孝 志

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	3
2.	調査設計	3
3.	調査項目	3
4.	回収結果	4
5.	報告書の見方	4
6.	回答者の属性	5
II	調査結果の分析	11
1.	定住意向	13
1-1	定住意向	13
1-2	住み続けたい理由	16
1-3	市外へ移りたい理由	19
1-4	中核市移行の周知度	22
2.	生活環境	24
2-1	生活環境の評価	24
3.	市政への要望	30
3-1	重点施策要望	30
4.	喫煙について	34
4-1	喫煙状況	34
4-2	禁煙意向	36
4-3	ほかの人が吸ったタバコの煙に対する感じ方	38
4-4	タバコについて考えること	40
5.	救命について	41
5-1	AEDの周知度	41
5-2	最寄のAED設置場所の周知度	43
5-3	救命講習の経験	45
5-4	救命講習を受講した場所	47

6. 小・中学生の教育について	48
6-1 小学生に必要な教育	48
6-2 中学生に必要な教育	52
6-3 家庭教育で重要なこと	56
6-4 小中一貫教育の周知度	60
6-5 学校選択制の周知度	63
6-6 小学校の学校選択制の必要性	66
6-7 小学校の学校選択制が必要な理由	69
6-8 小学校の学校選択制が必要でない理由	73
6-9 中学校の学校選択制の必要性	76
6-10 中学校の学校選択制が必要な理由	79
6-11 中学校の学校選択制が必要でない理由	82
6-12 学校・家庭・地域が協働した教育活動の周知度	85
6-13 学校・家庭・地域のつながりを深める上で重要なこと	88
6-14 地域の学校に協力してみたい（している）こと	92
6-15 八王子の子どもに望む育ち方	96
7. 生涯学習について	100
7-1 この1年間に取り組んだ生涯学習活動	100
7-2 生涯学習活動の情報入手手段	103
7-3 生涯学習活動に取り組む方法	106
7-4 生涯学習活動に取り組む目的	109
7-5 生涯学習活動で身に付けた知識、技能、経験の活かし方	112
7-6 生涯学習活動に取り組んでいない理由	115
7-7 生涯学習活動を支援するために推進すべき施策	118
7-8 生涯学習センターの利用目的	121
7-9 生涯学習センターを利用しない理由	124
7-10 図書館の利用頻度	126
7-11 図書館を利用しない理由	128
8. 「八王子ビジョン2022」の施策指標の目標値に対する達成度	131
8-1 市の窓口利用の有無	131
8-2 市の窓口サービスの満足度	133
8-3 市の情報の分かりやすさ	135
8-4 健康のために心がけていること	137
8-5 この1年間の運動頻度	139
8-6 かかりつけの医療機関の有無	142

8-7	食料・飲料水の備蓄の有無	144
8-8	食料・飲料水の備蓄量	147
8-9	食料・飲料水を備蓄していない理由	150
8-10	隣近所とのつきあい方	156
8-11	地域と子どもたちのかかわりあい	159
8-12	地域と学校が協力して子どもたちを育てているか	161
8-13	市などの支援による子育ての状況	163
8-14	市民協働の推進状況	165
8-15	この1年間の文化活動への参加・鑑賞頻度	167
8-16	この1年間の伝統行事・伝統芸能への参加状況	170
8-17	障害のある方への配慮	172
8-18	誰もが安全で快適に暮らせるまちになっていると思うか	174
8-19	市は美観が保持されたまちだと思うか	176
8-20	都市の美観が損なわれる原因	178
8-21	市の自然、歴史、文化が景観に生かされていると思うか	181
8-22	市内の交通渋滞が緩和されていると思うか	183
8-23	公共交通機関の満足度	185
8-24	市内の産業活動に対する意識	187
8-25	市内産農産物の購入経験	189
8-26	市内産農産物購入に対する意識	191
8-27	省エネ・省資源への配慮	193
8-28	この1年間の生ごみのたい肥化の有無	195
8-29	市の生活環境	198
8-30	ワーク・ライフ・バランスの周知度	200
8-31	「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度	203
8-32	市に相談したいことの有無	209
8-33	市の相談体制の満足度	211

Ⅲ 調査票・・ 213

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民の生活環境への意識、市の施策に対する評価及び市政への意見・要望を把握し、本市の市政運営の資料として活用することを目的とする。

2. 調査設計

- (1) 調査地域：八王子市内全域
- (2) 調査対象：市内在住の満20歳以上の男女個人
- (3) 対象者数：3,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳からの層化二段無作為抽出法
 - ・層化…「八王子ビジョン2022」で示された6地域に区分する。(下の地域区分図参照)
 - ・地点抽出…各地域の調査対象人口(満20歳以上の男女)に応じて調査対象を配分する。調査対象に基づいて合計100地点となるように各地区の地点数を決定、地点を抽出する。
 - ・対象者抽出…抽出された各地点において対象者数が30人となるように無作為系統抽出を行う。

【本調査における地域区分】

- 中央地域：本庁管内
西部地域：元八王子・恩方・川口
西南部地域：浅川・横山・館
北部地域：加住・石川
東南部地域：由井・北野
東部地域：由木・由木東・南大沢



- (5) 調査方法：郵送配布・郵送回収
- (6) 調査期間：平成25年5月15日～5月30日
- (7) 調査機関：株式会社 エスピー研

3. 調査項目

- (1) 定住意向
- (2) 生活環境
- (3) 市政への要望
- (4) 喫煙について
- (5) 救命について
- (6) 小・中学生の教育について
- (7) 生涯学習について
- (8) 「八王子ビジョン2022」の施策指標の目標値に対する達成度

4. 回収結果

対象者数 : 3,000人

有効回収数 : 1,685票 (有効回収率56.2%)

5. 報告書の見方

- (1) 集計は、小数第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100%ちょうどにならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 基数となるべき実数は、n(件数)として表示した。その比率は、n(件数)を100%として算出した。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 分析の軸(=表側)として回答者の属性や設問は、「無回答」を除いているため、各回答者の属性と基数の合計が全体と一致しない場合がある。また、クロス軸のカテゴリは性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別・職業別としている。
- (6) 割合の表現については、各値が、「0.0%」の場合は「〇割」、「0.1~0.9%」の場合は「約〇割」、「1.0~3.9%」の場合は「〇割強」、「4.0~5.9%」の場合は「〇割台半ば」、「6.0~8.9%」の場合は「〇割近く」、「9.0~9.9%」の場合は「〇割弱」との表記を基本とする。また、クロス軸の分類や質問における選択肢を統合し、《 》を用いて記述している場合がある。(例えば「20~29歳」と「30~39歳」を統合して《20~39歳》、「非常に満足」と「やや満足」を統合して《満足》と記述している。)
- (7) 標本誤差

標本誤差(サンプル誤差)はおおよそ下記の通りである。層化二段無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数(n)、および回答比率(P)によって異なる。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数

n = 比率算出の基数(サンプル数)

P = 回答比率

回答比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,685	± 2.07	± 2.76	± 3.16	± 3.38	± 3.45
1,500	± 2.19	± 2.92	± 3.35	± 3.58	± 3.65
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
500	± 3.79	± 5.06	± 5.80	± 6.20	± 6.32
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。この表の計算式の信頼度は95%である。

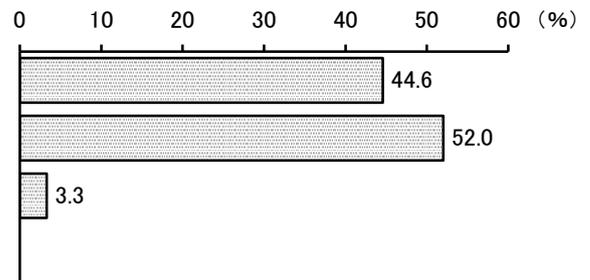
注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数が1,685で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.38%以内(56.6%~63.4%)である」と見ることができる。

6. 回答者の属性

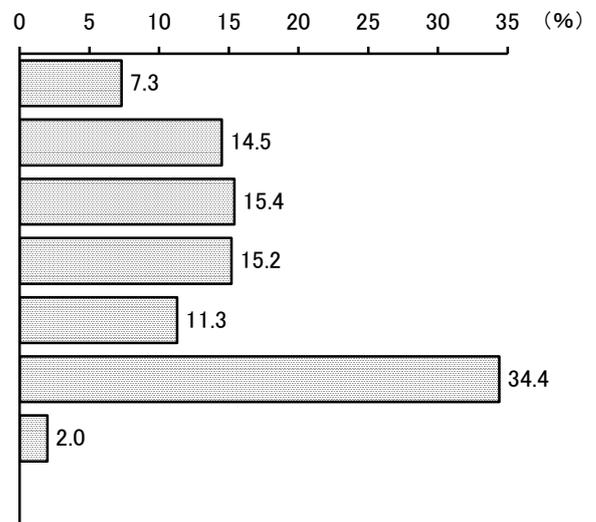
(1) 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	752	44.6
2 女性	877	52.0
無回答	56	3.3
合計	1,685	100.0

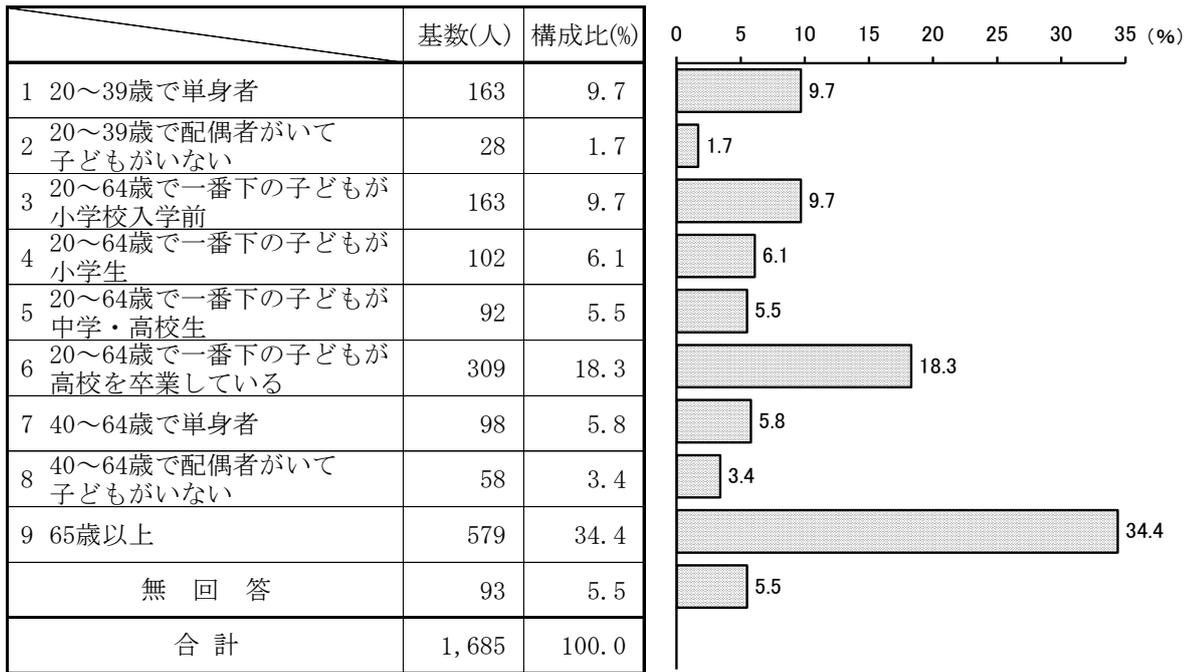


(2) 年齢

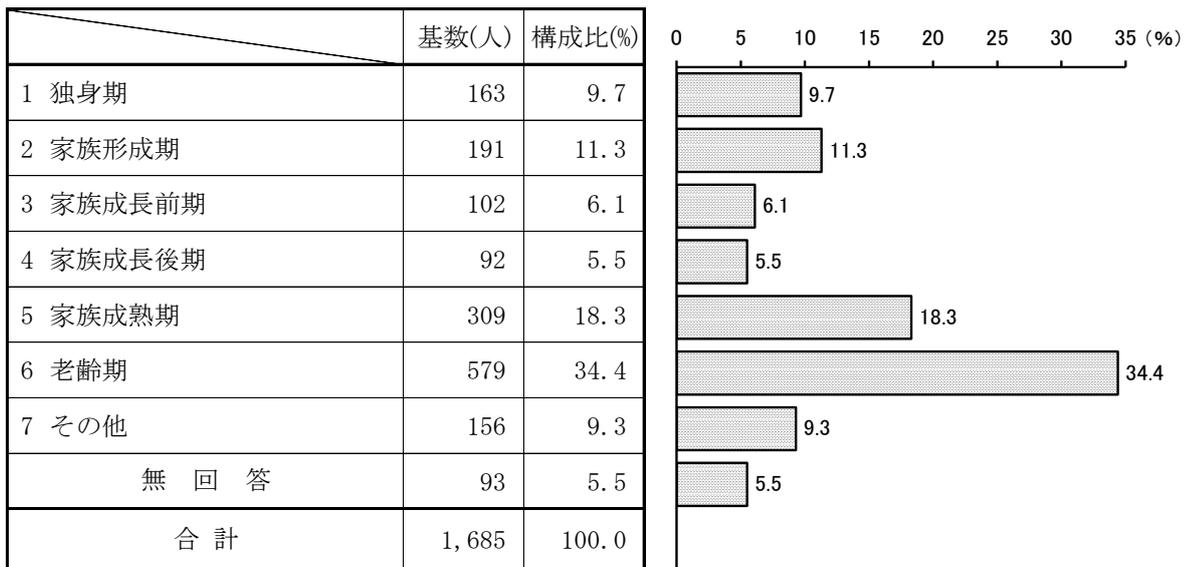
	基数(人)	構成比(%)
1 20～29歳	123	7.3
2 30～39歳	244	14.5
3 40～49歳	259	15.4
4 50～59歳	256	15.2
5 60～64歳	191	11.3
6 65歳以上	579	34.4
無回答	33	2.0
合計	1,685	100.0



(3) ライフステージ



■ ライフステージ (集約型)

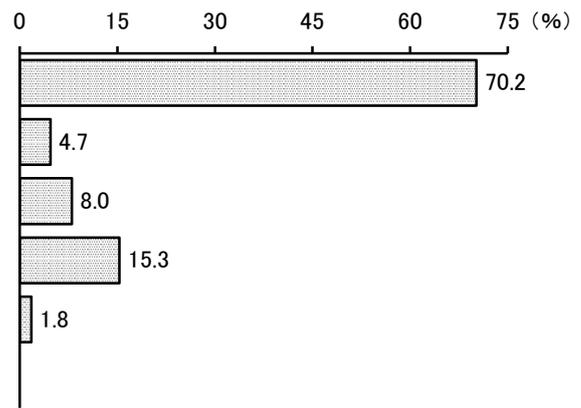


■ ライフステージ区分

独身期	20～39歳で単身者
家族形成期	20～39歳で配偶者がいて子どもがいない または、20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前
家族成長前期	20～64歳で一番下の子どもが小学生
家族成長後期	20～64歳で一番下の子どもが中学・高校生
家族成熟期	20～64歳で一番下の子どもが高校を卒業している
老齢期	65歳以上
その他	40～64歳で単身者 または、40～64歳で配偶者がいて子どもがいない

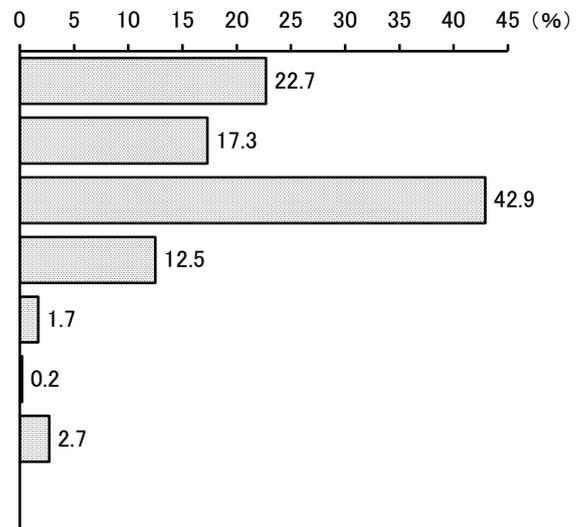
(4) 配偶者の有無

	基数(人)	構成比(%)
1 いる	1,183	70.2
2 いない (離別)	80	4.7
3 いない (死別)	134	8.0
4 結婚したことはない (未婚)	257	15.3
無回答	31	1.8
合計	1,685	100.0



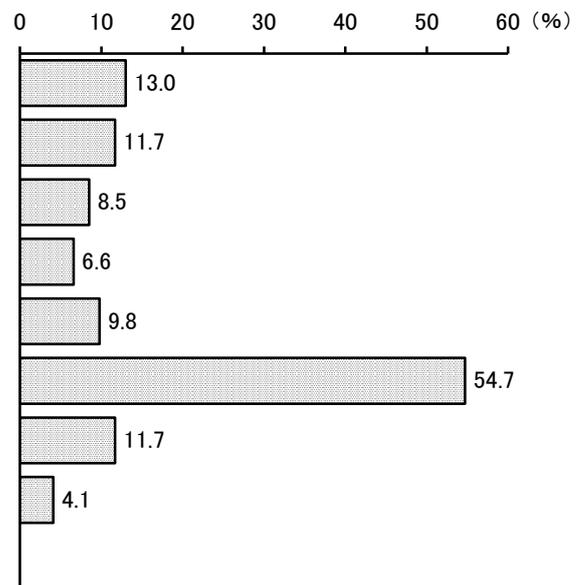
(5) 子どもの人数

	基数(人)	構成比(%)
1 いない	383	22.7
2 1人	291	17.3
3 2人	723	42.9
4 3人	211	12.5
5 4人	29	1.7
6 5人以上	3	0.2
無回答	45	2.7
合計	1,685	100.0



(5) - 1 子どもの成長段階

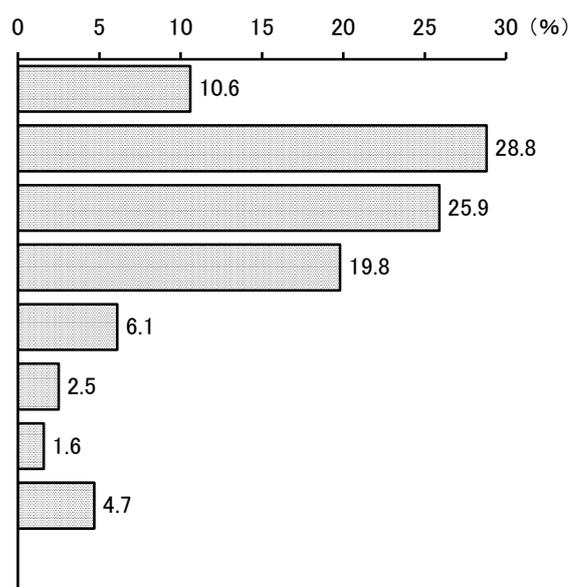
	基数(人)	構成比(%)
1 0歳～小学校入学前	163	13.0
2 小学生	147	11.7
3 中学生	107	8.5
4 高校生	83	6.6
5 専門学校・大学生など	123	9.8
6 学校教育終了	688	54.7
7 その他	147	11.7
無回答	52	4.1
合計	1,510	100.0



※複数回答につき合計は1,510人であるが、回答者数1,257人を基数として構成比を算出した。

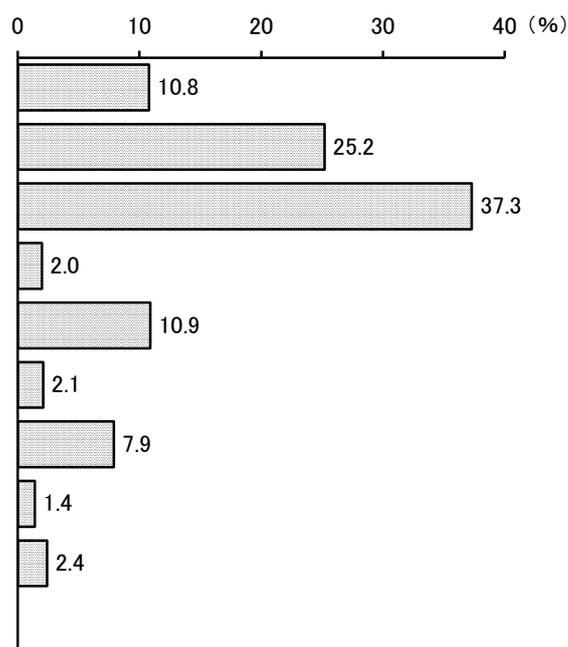
(6) 同居人数

	基数(人)	構成比(%)
1 1人	179	10.6
2 2人	485	28.8
3 3人	437	25.9
4 4人	333	19.8
5 5人	103	6.1
6 6人	42	2.5
7 7人以上	27	1.6
無回答	79	4.7
合計	1,685	100.0



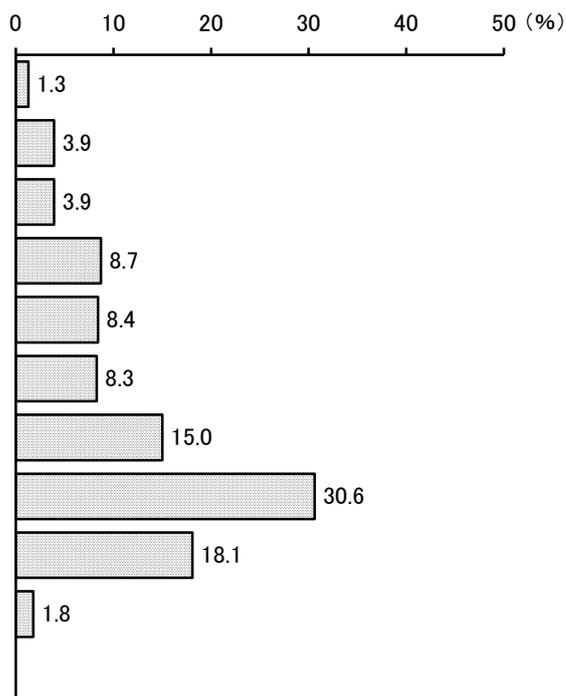
(7) 世帯種別

	基数(人)	構成比(%)
1 ひとり暮らし	182	10.8
2 配偶者とふたり暮らし	424	25.2
3 自分たち夫婦と未婚の子ども (または、自分と未婚の子どもなど)	629	37.3
4 自分たち夫婦と子ども夫婦 (または、自分と子ども夫婦など)	34	2.0
5 親と自分のみ (または、親と自 分と兄弟・姉妹など)	183	10.9
6 親と自分たち夫婦	36	2.1
7 三世代 (例えば、自分たち夫婦と子ども と孫、親と自分と子どもなど)	133	7.9
8 その他 (四世代など)	23	1.4
無回答	41	2.4
合計	1,685	100.0



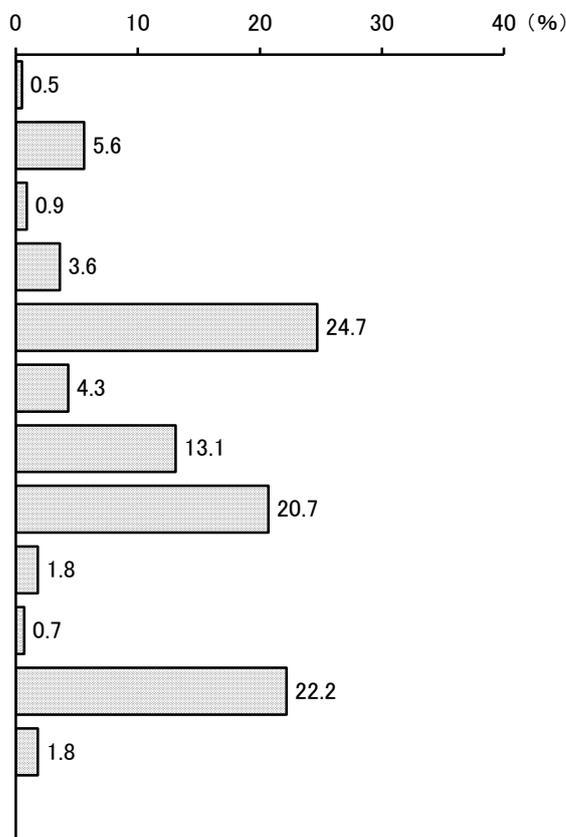
(8) 居住年数

	基数(人)	構成比(%)
1 1年未満	22	1.3
2 1～3年未満	65	3.9
3 3～5年未満	65	3.9
4 5～10年未満	147	8.7
5 10～15年未満	142	8.4
6 15～20年未満	140	8.3
7 20～30年未満	253	15.0
8 30年以上	516	30.6
9 生まれてからずっと	305	18.1
無回答	30	1.8
合計	1,685	100.0



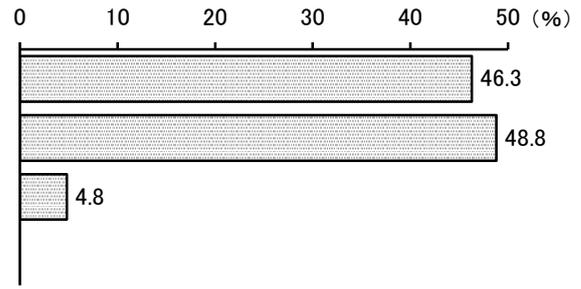
(9) 職業

	基数(人)	構成比(%)
1 農・林・漁業	8	0.5
2 自営業	94	5.6
3 自由業(開業医、弁護士、司法書士など)	16	0.9
4 会社や団体の役員	60	3.6
5 会社・商店・サービス業などの勤め人	417	24.7
6 教員・公務員	73	4.3
7 アルバイト・パート	221	13.1
8 (専業)主婦・主夫	349	20.7
9 学生	30	1.8
10 その他	12	0.7
11 無職	374	22.2
無回答	31	1.8
合計	1,685	100.0



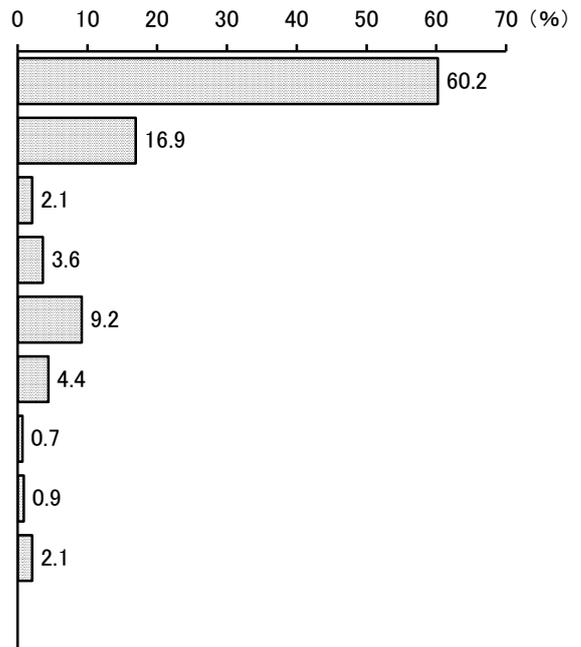
(9) - 1 仕事場

	基数(人)	構成比(%)
1 八王子市内	412	46.3
2 八王子市外	434	48.8
無回答	43	4.8
合計	889	100.0



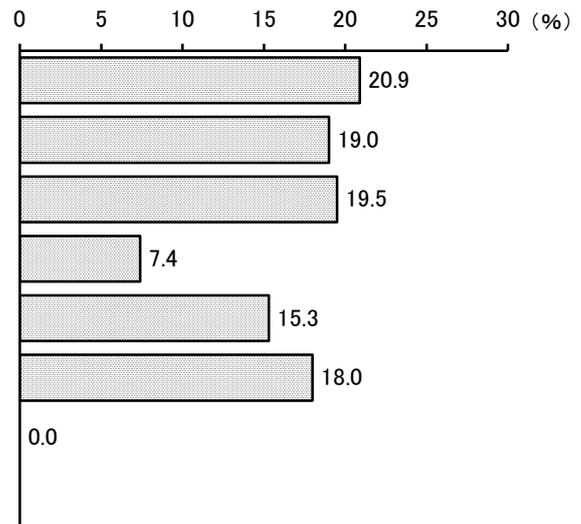
(10) 居住形態

	基数(人)	構成比(%)
1 戸建て (持ち家)	1,014	60.2
2 分譲マンション	285	16.9
3 戸建て (借家)	35	2.1
4 UR (旧公団) ・公社の賃貸住宅または都民住宅	60	3.6
5 民間の賃貸アパート ・マンション	155	9.2
6 公営賃貸住宅 (都営・市営)	74	4.4
7 社宅・官舎・寮	11	0.7
8 その他 (間借りなど)	15	0.9
無回答	36	2.1
合計	1,685	100.0



(11) 居住地域

	基数(人)	構成比(%)
1 本庁管内(中央地域)	353	20.9
2 元八王子・恩方・川口 (西部地域)	320	19.0
3 浅川・横山・館 (西南部地域)	328	19.5
4 加住・石川(北部地域)	124	7.4
5 由井・北野(東南部地域)	257	15.3
6 由木・由木東・南大沢 (東部地域)	303	18.0
7 不明	0	0.0
合計	1,685	100.0



Ⅱ 調査結果の分析

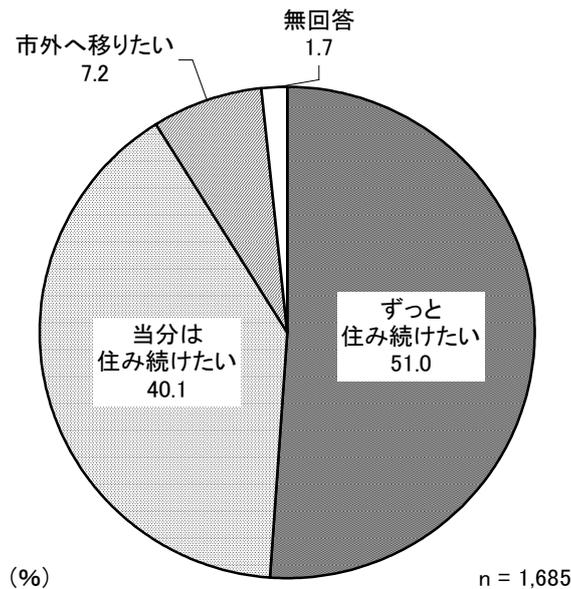
1. 定住意向

1-1 定住意向

◇ 《住み続けたい》が9割強を占め、「市外へ移りたい」は1割近く

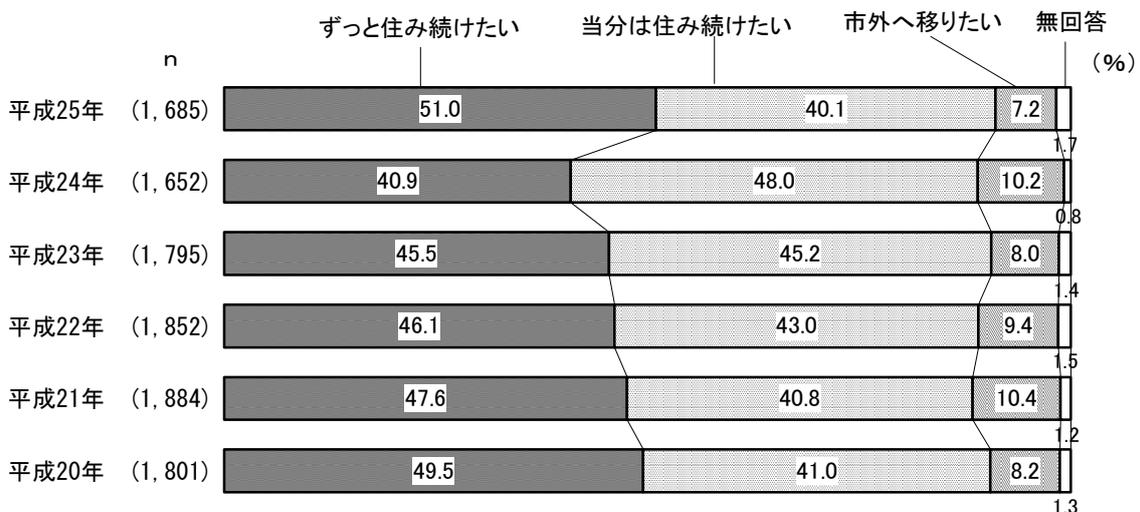
問1 あなたは、これからも八王子市に住み続けたいと思いますか。(○は1つだけ)

図1-1-1



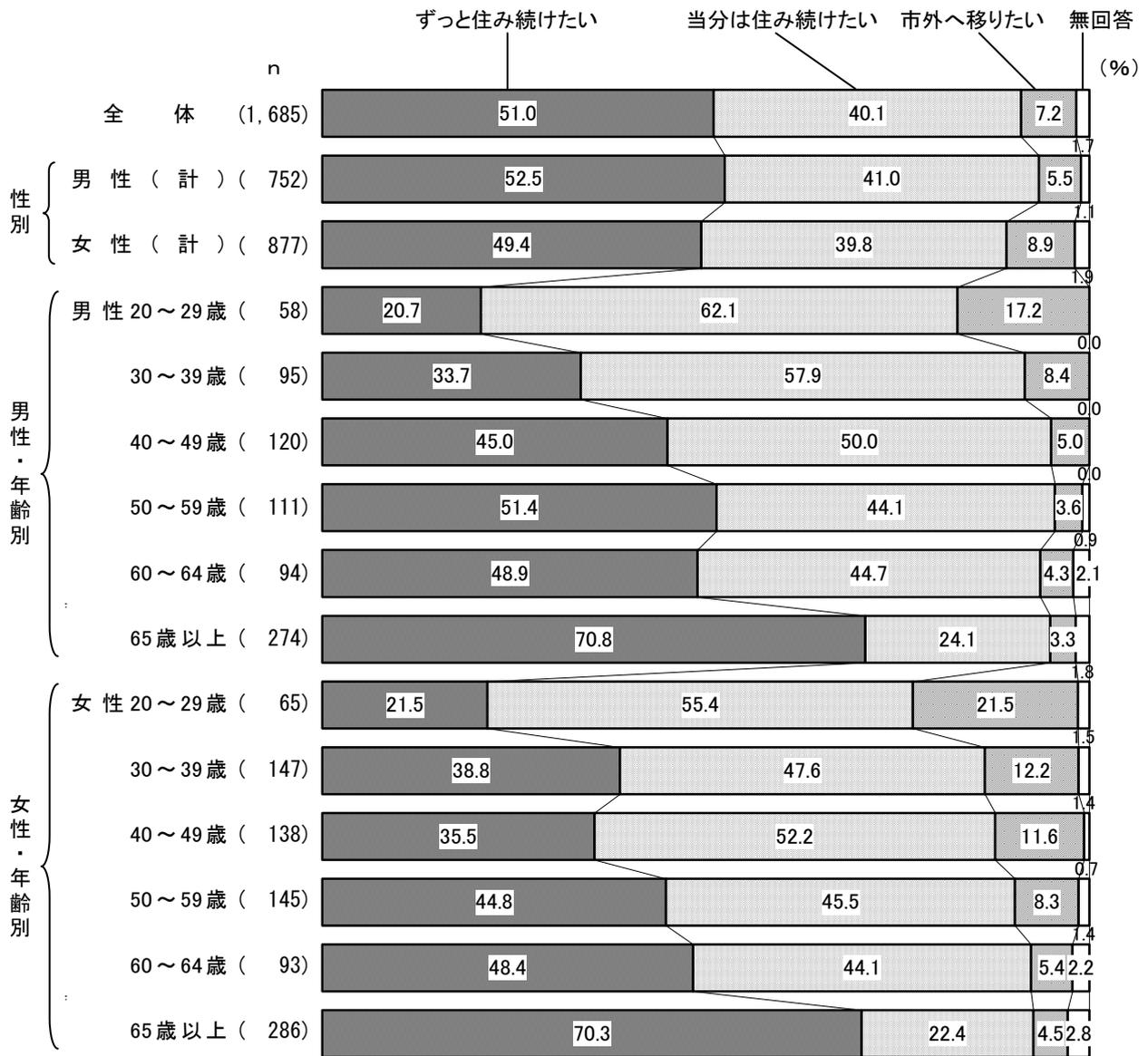
市への定住意向をみると、「ずっと住み続けたい」が5割強（51.0%）と最も高く、「当分は住み続けたい」（40.1%）と合わせた《住み続けたい》は9割強（91.1%）を占める。また、「市外へ移りたい」は1割近く（7.2%）にとどまっている。（図1-1-1）

図1-1-2 定住意向一経年比較



過去の調査と比較すると、「ずっと住み続けたい」は平成20年以降減少傾向にあったが、昨年と比べて10.1ポイント増加し、「当分は住み続けたい」と合わせた《住み続けたい》は引き続き9割前後の割合を占めている。（図1-1-2）

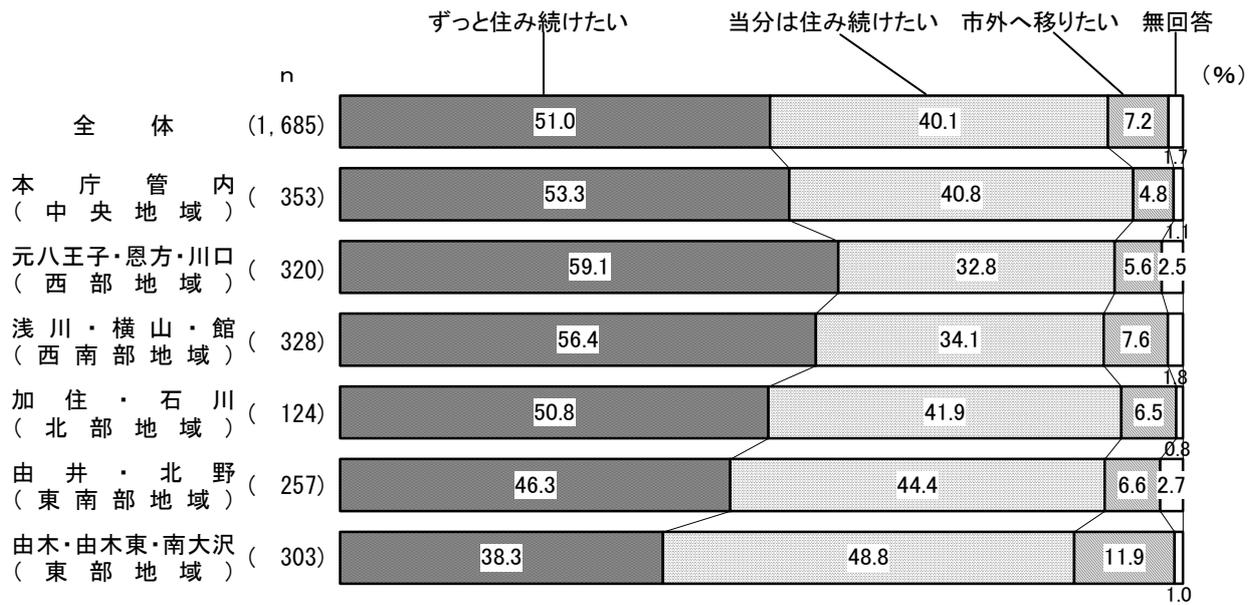
図 1-1-3 定住意向一性・年齢別



性別にみると、「ずっと住みたい」は男性が3.1ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「ずっと住みたい」は男女ともにおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、特に男女ともに65歳以上で約7割（男性70.8%、女性70.3%）と高くなっている。また、「市外へ移りたい」は女性20～29歳で2割強（21.5%）、男性20～29歳で2割近く（17.2%）と他の年代に比べて高くなっている。（図1-1-3）

図 1-1-4 定住意向—居住地域別



居住地域別にみると、「住みたい」はすべての地域で9割前後と高くなっている。また、「ずっと住みたい」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で6割弱（59.1%）と高くなっているが、由木・由木東・南大沢（東部地域）では4割近く（38.3%）と他の地域と比べて低くなっている。（図1-1-4）

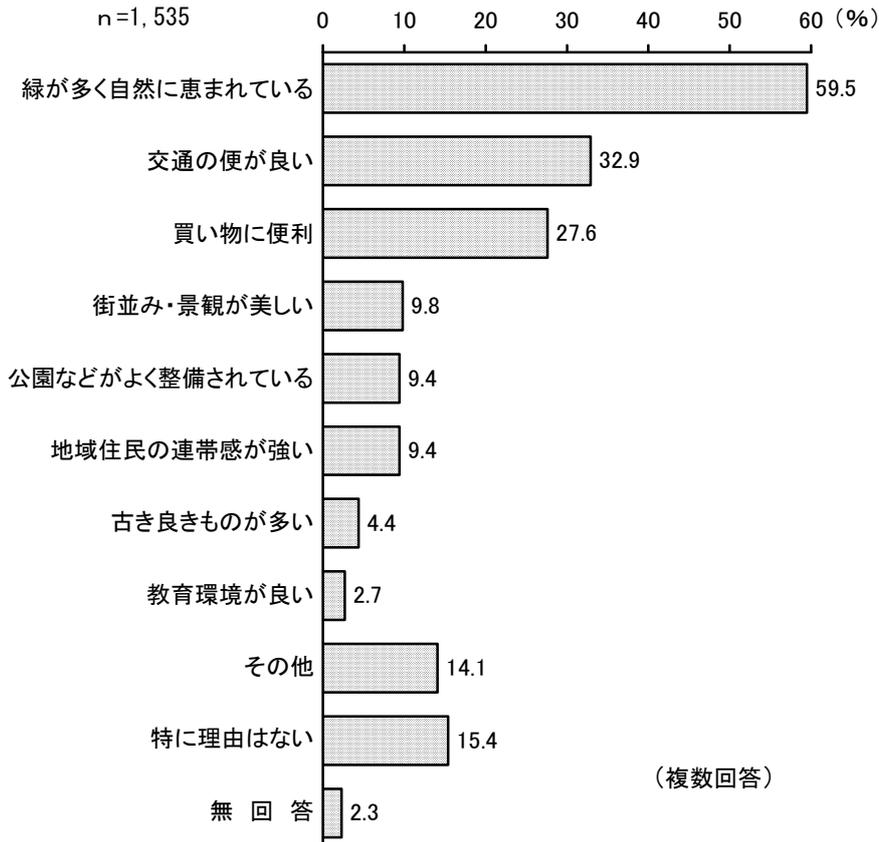
1-2 住み続けたい理由

◇「緑が多く自然に恵まれている」が6割弱

(問1で「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」とお答えの方に)

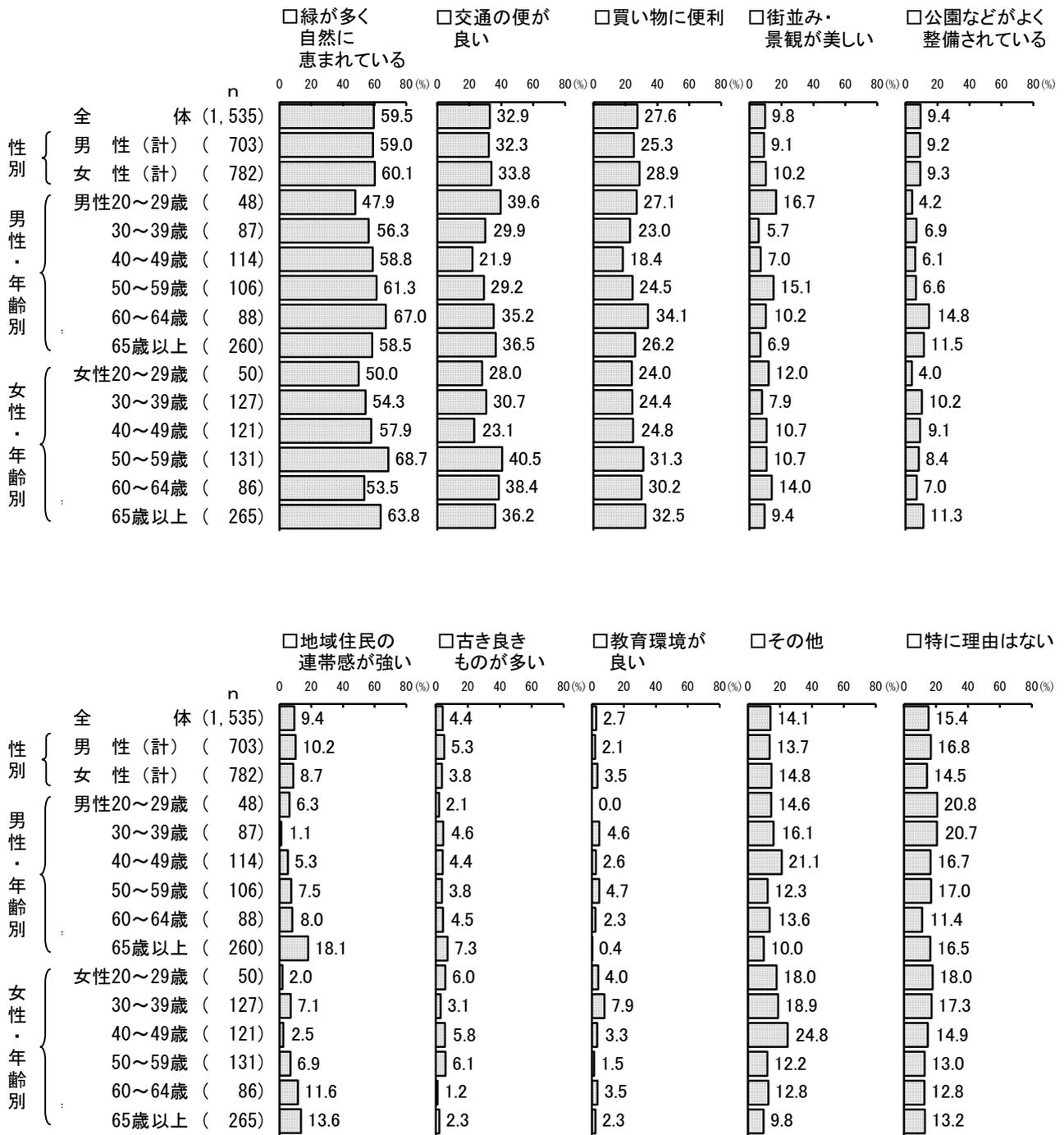
問1-1 住み続けたい主な理由は何ですか。(○は3つまで)

図1-2-1



八王子市への定住意向で「ずっと住み続けたい」、「当分は住み続けたい」と答えた人(1,535人)に、住み続けたい理由について聞いたところ、「緑が多く自然に恵まれている」が6割弱(59.5%)と最も高く、次いで「交通の便が良い」(32.9%)、「買い物に便利」(27.6%)、「街並み・景観が美しい」(9.8%)、「公園などがよく整備されている」(9.4%)、「地域住民の連帯感が強い」(9.4%)と続いている。(図1-2-1)

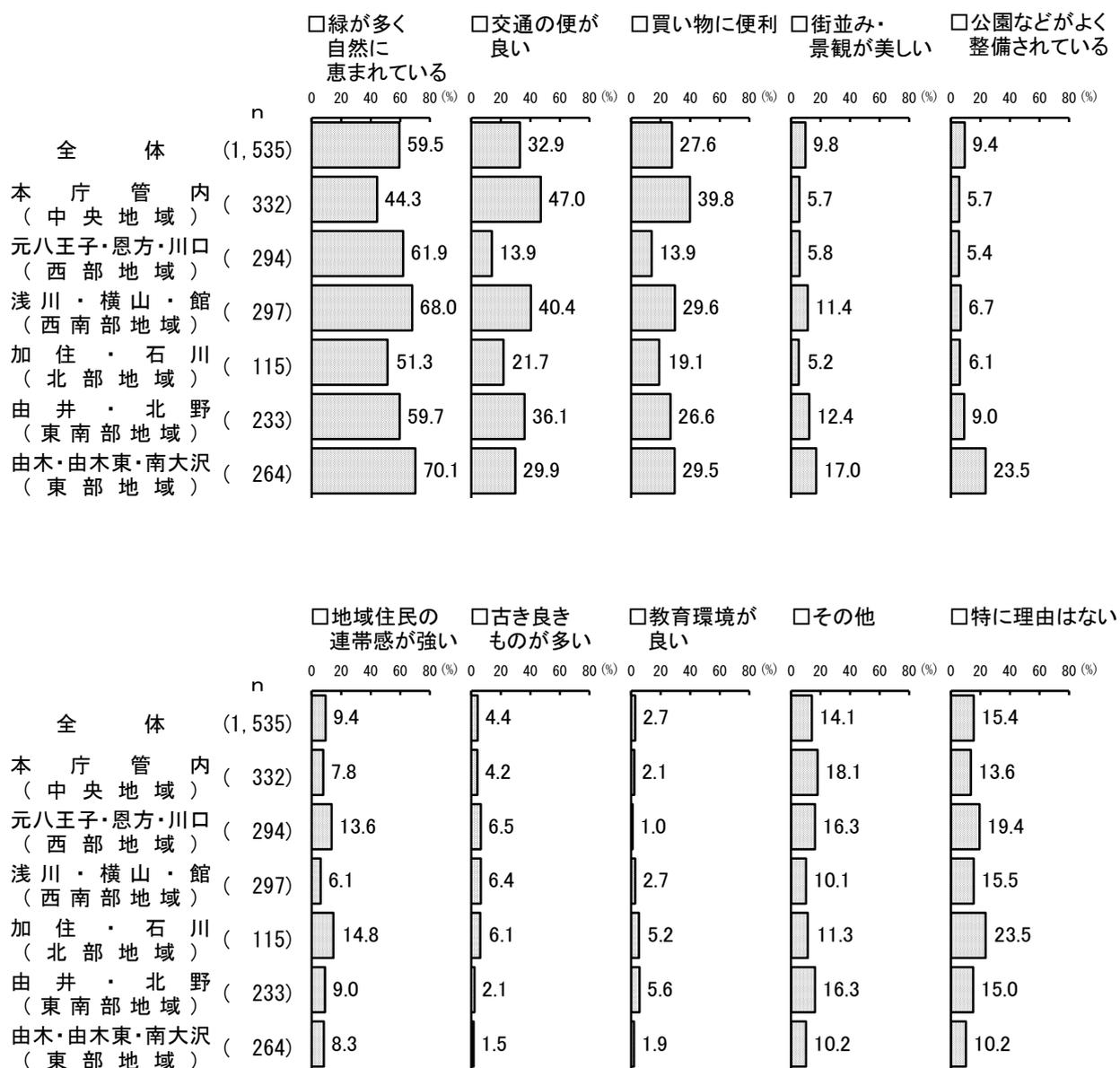
図 1-2-2 住みたい理由—性・年齢別



性別にみると、「買い物に便利」は女性が3.6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は男性20~29歳を除くすべての年代で5割を超えている。また、「交通の便が良い」は女性50~59歳で約4割(40.5%)と高くなっている。(図1-2-2)

図 1-2-3 住み続けたい理由—居住地地域別



居住地地域別にみると、「緑が多く自然に恵まれている」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で約7割（70.1%）、浅川・横山・館（西南部地域）で7割近く（68.0%）と高くなっている。また、「交通の便が良い」は本庁管内（中央地域）で5割近く（47.0%）と高く、「買い物に便利」も本庁管内（中央地域）で4割弱（39.8%）と高くなっている。（図1-2-3）

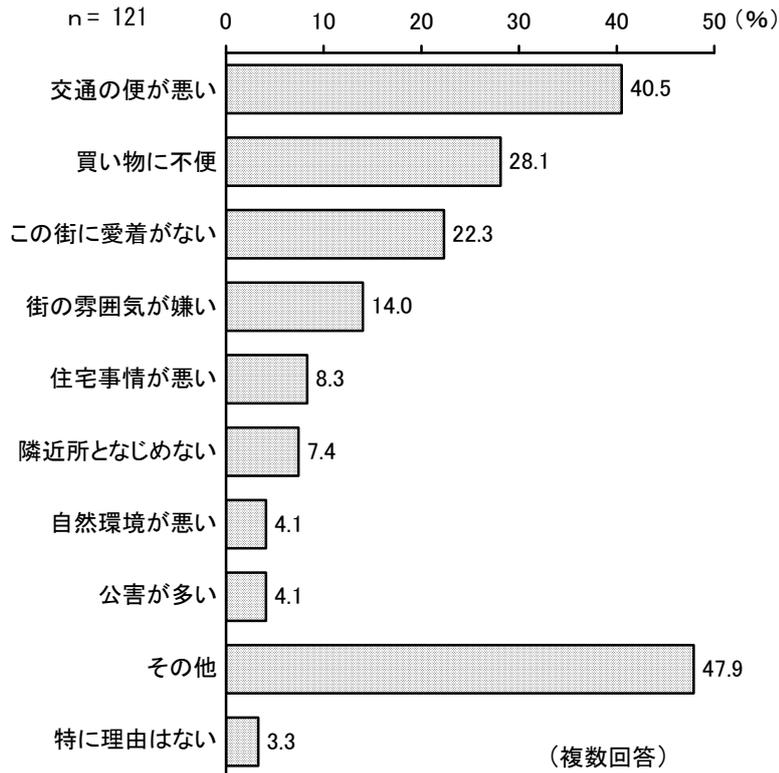
1-3 市外へ移りたい理由

◇「交通の便が悪い」が約4割、「買い物に不便」が3割近く

(問1で「市外へ移りたい」とお答えの方に)

問1-2 市外へ移りたい主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

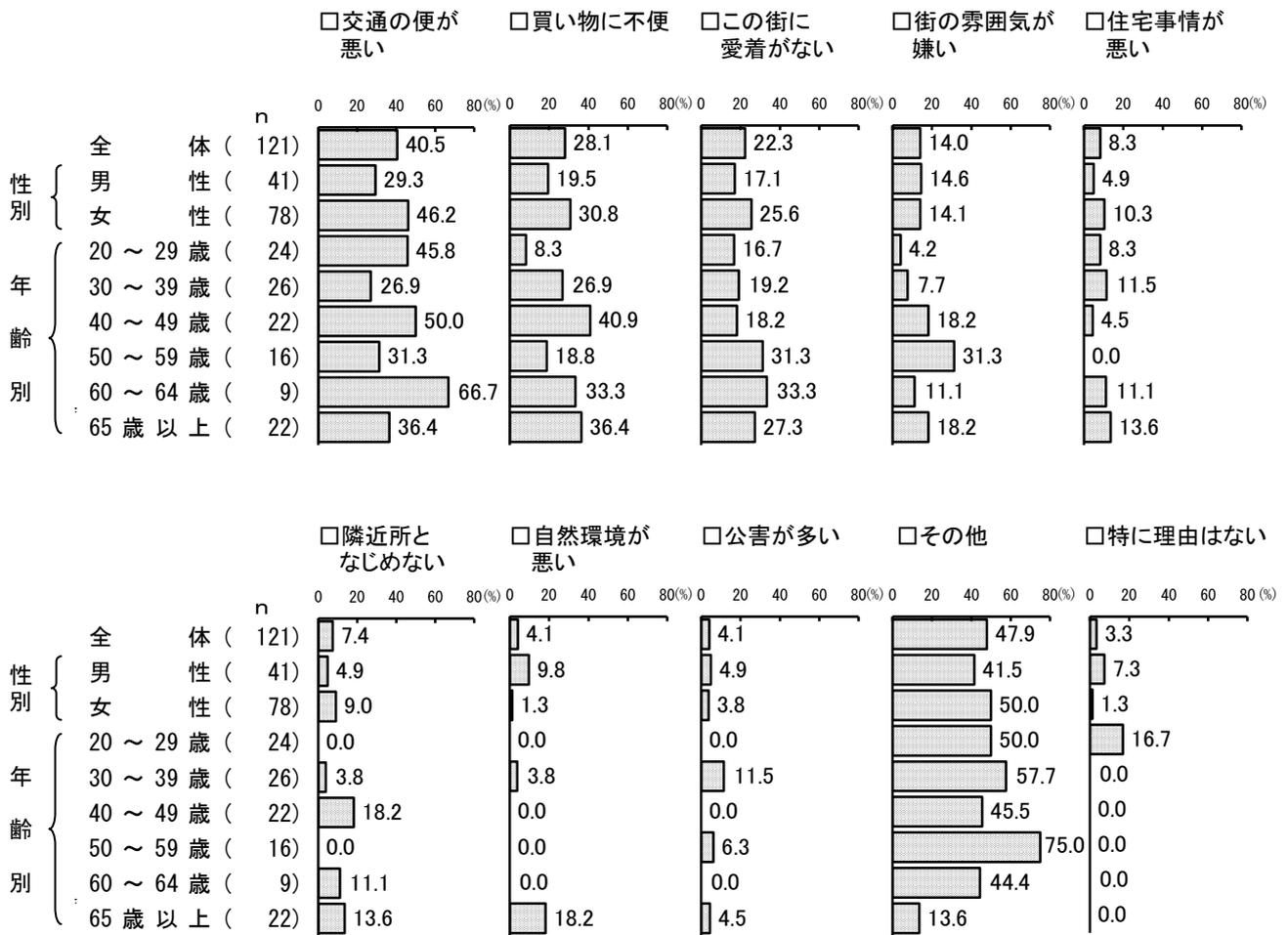
図1-3-1



八王子市への定住意向で「市外へ移りたい」と答えた人(121人)に、市外へ移りたい理由について聞いたところ、「交通の便が悪い」が約4割(40.5%)と高く、次いで「買い物に不便」(28.1%)、「この街に愛着がない」(22.3%)、「街の雰囲気が嫌い」(14.0%)と続いている。

(図1-3-1)

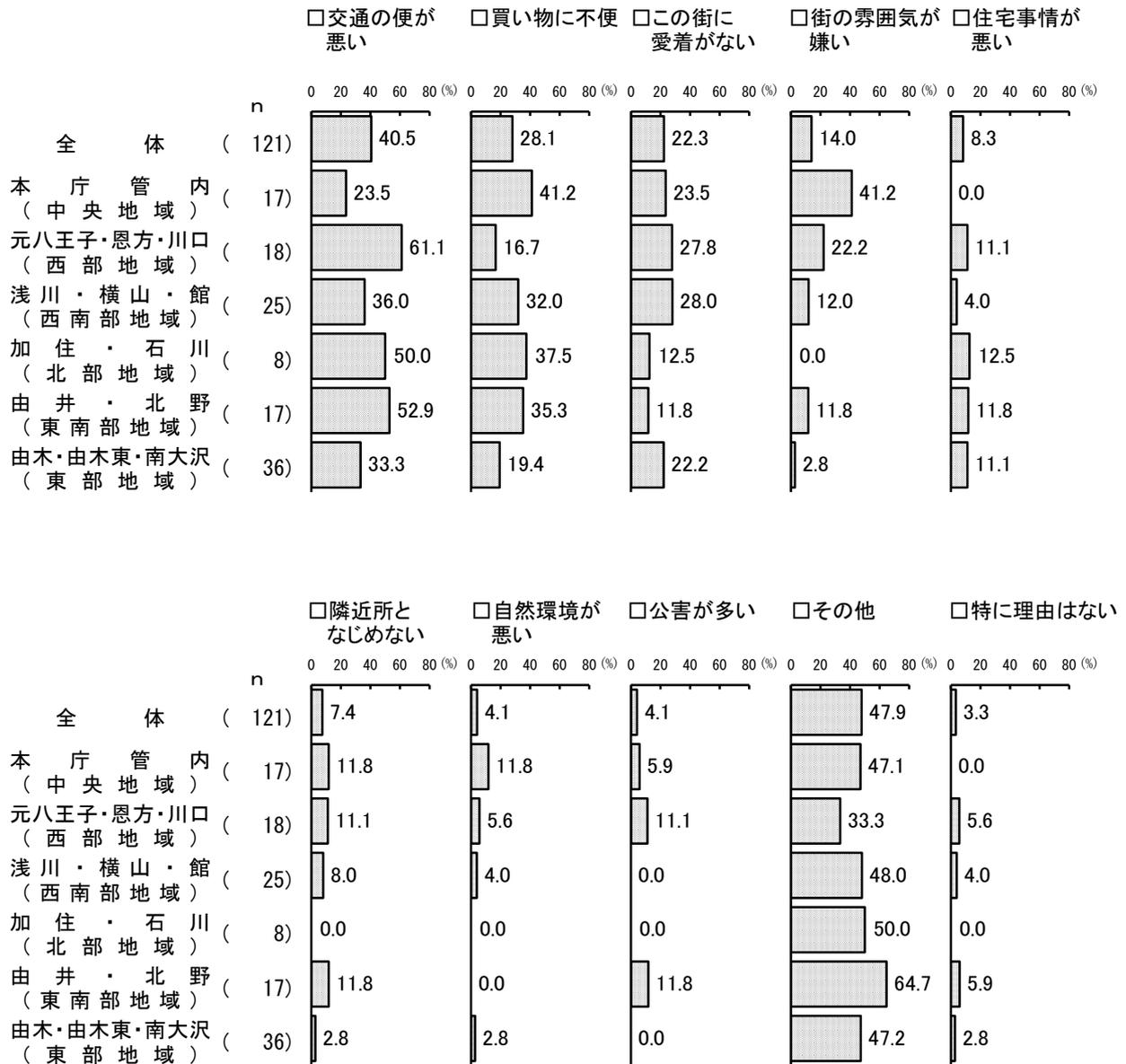
図1-3-2 市外へ移りたい理由—性別・年齢別



性別にみると、「交通の便が悪い」は16.9ポイント、「買い物に不便」は11.3ポイント、「この街に愛着がない」は8.5ポイント、それぞれ女性が高くなっている。一方、「自然環境が悪い」は8.5ポイント男性が高くなっている。

年齢別にみると、「交通の便が悪い」は60～64歳で7割近く（66.7%）と高くなっている。「買い物に不便」は40～49歳で約4割（40.9%）と高くなっている。また、「街の雰囲気が嫌い」は50～59歳で3割強（31.3%）と高くなっている。（図1-3-2）

図1-3-3 市外へ移りたい理由—居住地域別



居住地域別にみると、「交通の便が悪い」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で6割強（61.1%）と高くなっている。また、「街の雰囲気が嫌い」は本庁管内（中央地域）で4割強（41.2%）と高くなっている。（図1-3-3）

1-4 中核市移行の周知度

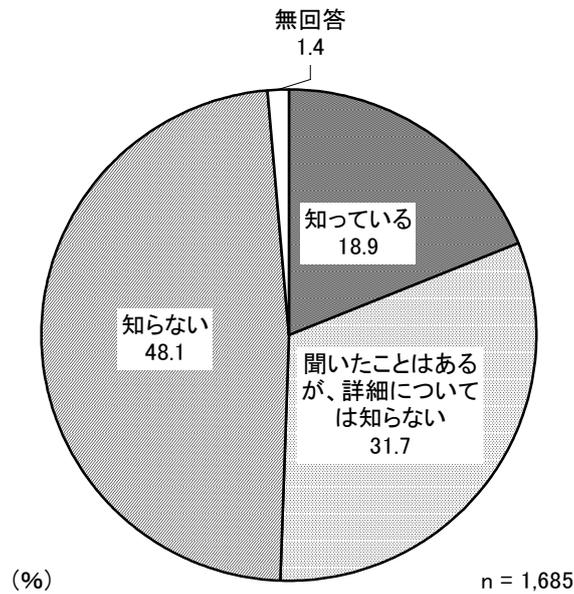
◇《知っている》が約5割

問2 あなたは、本市が中核市への移行を目指していることを知っていますか。(○は1つだけ)

※中核市とは・・・

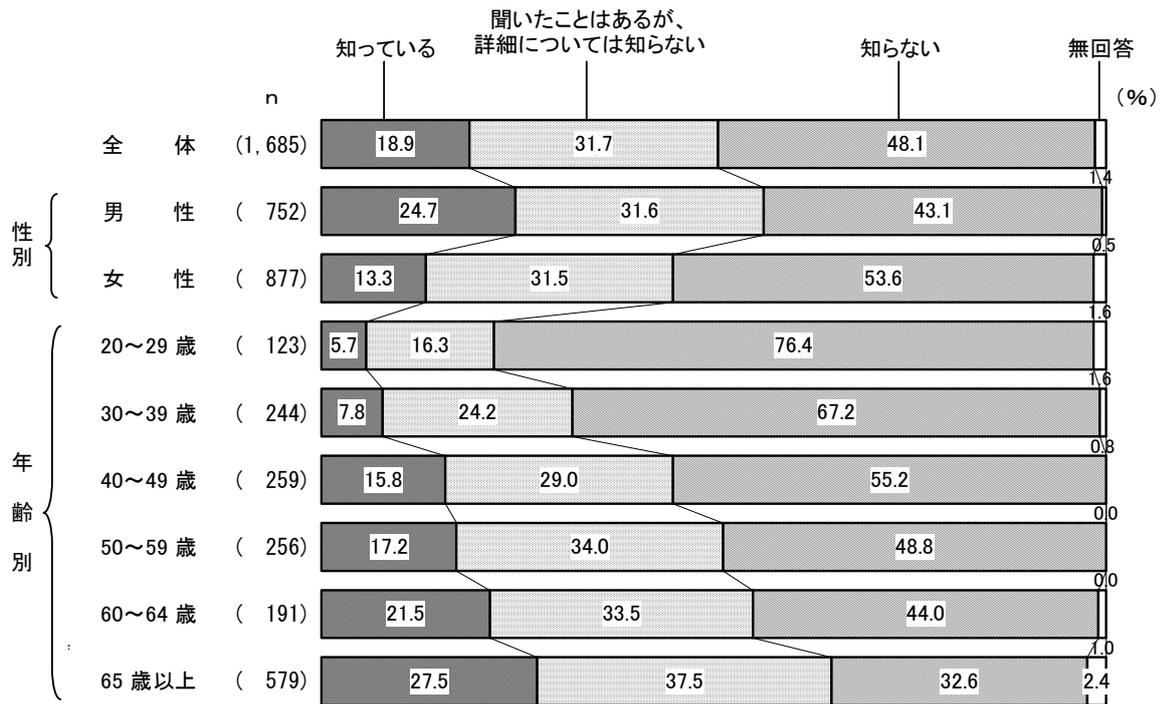
地方自治法により定められた制度で、規模が比較的大きく一定の事務処理能力を持つ都市について、市の事務権限を強化し、できる限り住民の身近で行政を行うことができるようにしたものです。

図1-4-1



中核市への移行を目指していることを知っているかを聞いたところ、「知っている」が2割近く（18.9%）であり、「聞いたことはあるが、詳細については知らない」（31.7%）と合わせた《知っている》は約5割（50.6%）となっている。一方、「知らない」は5割近く（48.1%）となっている。（図1-4-1）

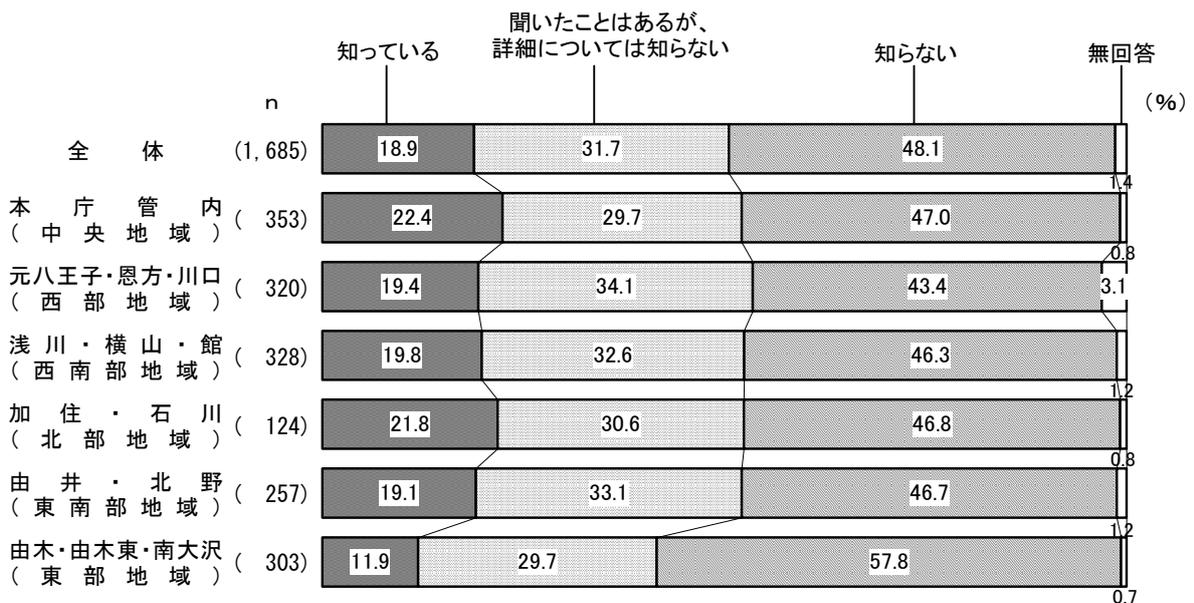
図 1-4-2 中核市移行の周知度—性別・年齢別



性別にみると、「知っている」は男性が11.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っている」は年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で3割近く(27.5%)と高くなっている。(図1-4-2)

図 1-4-3 中核市移行の周知度—居住地域別



居住地域別にみると、「知らない」は由木・由木東・南大沢(東部地域)で6割近く(57.8%)と高くなっている。(図1-4-3)

2. 生活環境

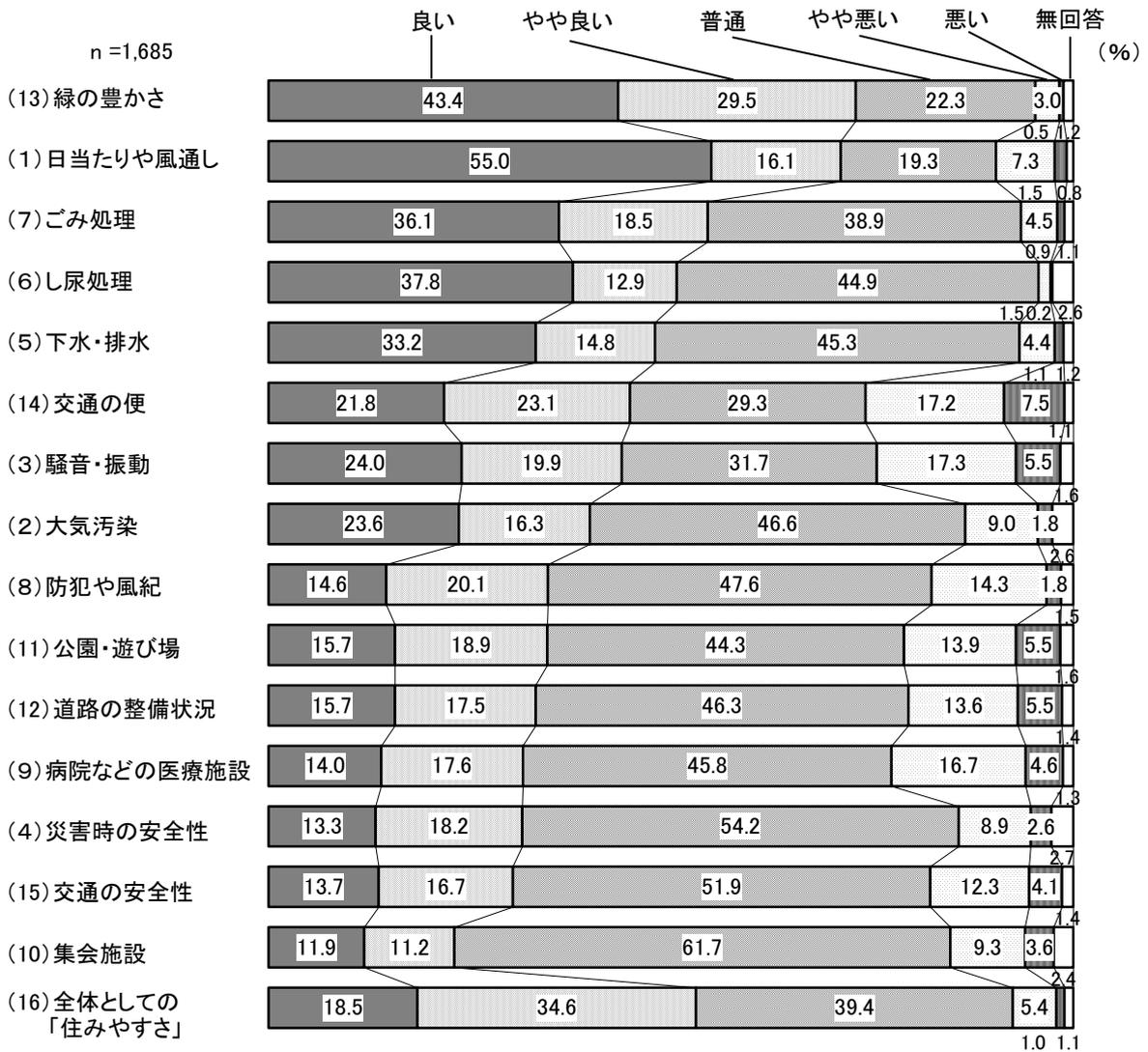
2-1 生活環境の評価

◇「緑の豊かさ」と「日当たりや風通し」の2項目の評価が高い

問3 あなたは、周囲の生活環境について日頃どのように感じていますか。

(1)～(16)の各項目それぞれについてお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

図2-1-1



※【(16) 全体としての「住みやすさ」】を除き、「良い」と「やや良い」の合算で比率の高い順に並べた

周囲の生活環境について聞いたところ、「(13) 緑の豊かさ」では、「良い」(43.4%)と「やや良い」(29.5%)を合わせた《良い》が7割強(72.9%)と高くなっている。「(1) 日当たりや風通し」では、「良い」が5割台半ば(55.0%)と最も高く、「やや良い」(16.1%)と合わせた《良い》は7割強(71.1%)となっている。一方、「(14) 交通の便」では、「やや悪い」(17.2%)と「悪い」(7.5%)を合わせた《悪い》が2割台半ば(24.7%)、「(3) 騒音・振動」は《悪い》が2割強(22.8%)と、他の項目に比べて高くなっている。(図2-1-1)

■評価順位

生活環境を15の項目に分け、それぞれの評価を聞いた。

「良い」と「やや良い」の合計を【良い】とし、「やや悪い」と「悪い」の合計を【悪い】とみなした場合の、それぞれ上位5項目をあげると次のようになっている。(図2-1-1)

【良 い】		【悪 い】	
①緑の豊かさ	(72.9%)	①交通の便	(24.7%)
②日当たりや風通し	(71.1%)	②騒音・振動	(22.8%)
③ごみ処理	(54.6%)	③病院などの医療施設	(21.3%)
④し尿処理	(50.7%)	④公園・遊び場	(19.4%)
⑤下水・排水	(48.0%)	⑤道路の整備状況	(19.1%)

なお、【(16)全体としての「住みやすさ」】は、【良い】が5割強(53.1%)、【悪い】が1割近く(6.4%)となり、【良い】が【悪い】よりも46.7ポイント高くなっている。

加重平均値(満足度)

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために、加重平均値による数量化を行った。これは、下記の計算式にあるように、数段階の評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = (\text{「良い」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「やや良い」の回答者数} \times 4 \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 3 \text{点} + \text{「やや悪い」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「悪い」の回答者数} \times 1 \text{点}) \div \text{回答者数}$$

この計算方法では、評価点は5.00点~1.00点の間に分布し、中間点の3.00点を境に、5.00点に近くなるほど満足度は高くなり、一方、1.00点に近くなるほど不満足度が高くなる。

■満足度順位

以上の算出方法による評価点の高いものと、低いものの上位5項目は次のようになっている。

(図2-1-2)

【上 位】		【下 位】	
①日当たりや風通し	(4.17点)	①集会施設	(3.19点)
②緑の豊かさ	(4.14点)	②病院などの医療施設	(3.20点)
③し尿処理	(3.89点)	③交通の安全性	(3.24点)
④ごみ処理	(3.85点)	④道路の整備状況	(3.25点)
⑤下水・排水	(3.75点)	⑤公園・遊び場	(3.26点)

図 2-1-2 生活環境の評価点

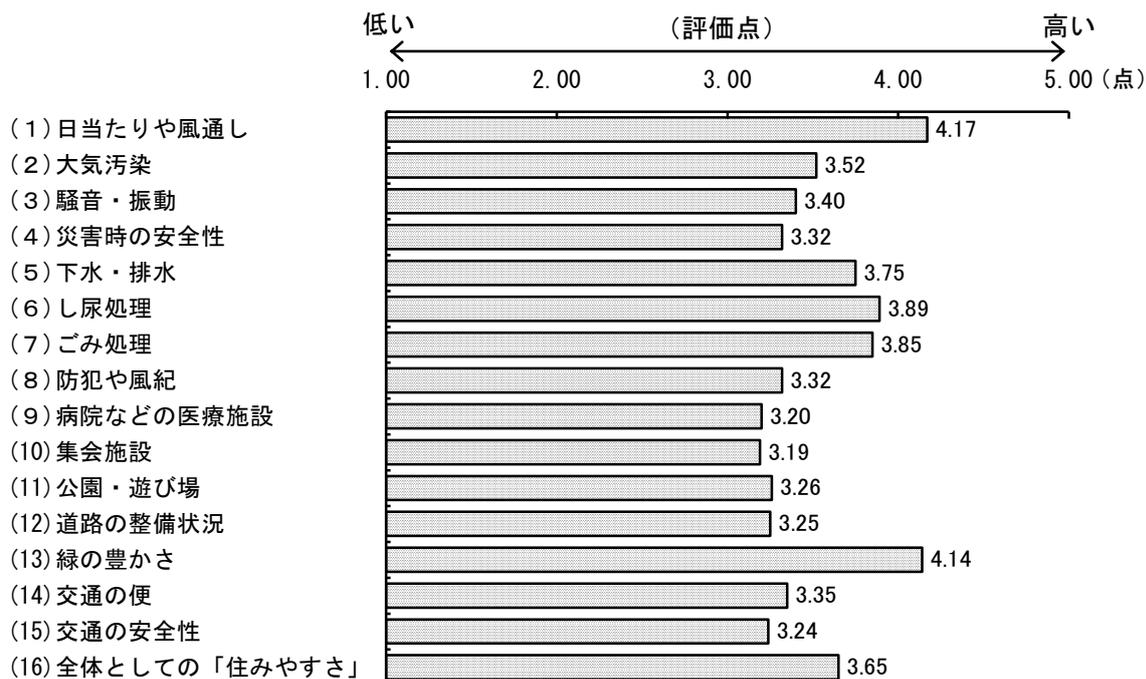


表 2-1-1 生活環境の評価点（加重平均）—居住地域別

	全 体	居 住 地 域					
		本 庁 中 央 地 域	恩 元 方 八 王 子 川 口 地 域	浅 川 西 南 部 山 地 館	加 住 北 部 石 川 地 域	由 井 東 南 部 地 域	南 大 沢 東 部 地 域
(1) 日当たりや風通し	4.17	4.03	4.15	4.19	4.22	4.21	4.26
(2) 大気汚染	3.52	3.29	3.65	3.57	3.24	3.56	3.68
(3) 騒音・振動	3.40	3.23	3.57	3.43	3.02	3.41	3.57
(4) 災害時の安全性	3.32	3.23	3.31	3.34	3.27	3.24	3.48
(5) 下水・排水	3.75	3.76	3.67	3.76	3.48	3.86	3.85
(6) し尿処理	3.89	3.89	3.86	3.89	3.74	3.96	3.90
(7) ごみ処理	3.85	3.84	3.85	3.85	3.77	3.89	3.87
(8) 防犯や風紀	3.32	3.22	3.35	3.39	3.15	3.34	3.37
(9) 病院などの医療施設	3.20	3.43	2.91	3.37	3.17	3.16	3.11
(10) 集会施設	3.19	3.23	3.12	3.19	3.06	3.16	3.29
(11) 公園・遊び場	3.26	3.15	2.93	3.25	3.19	3.31	3.73
(12) 道路の整備状況	3.25	3.20	2.84	3.30	3.09	3.26	3.72
(13) 緑の豊かさ	4.14	3.76	4.16	4.24	4.01	4.14	4.48
(14) 交通の便	3.35	3.76	2.67	3.60	2.92	3.43	3.43
(15) 交通の安全性	3.24	3.22	2.87	3.34	3.02	3.27	3.60
(16) 全体としての「住みやすさ」	3.65	3.68	3.42	3.75	3.42	3.66	3.83

(注1)  は項目内での最高値

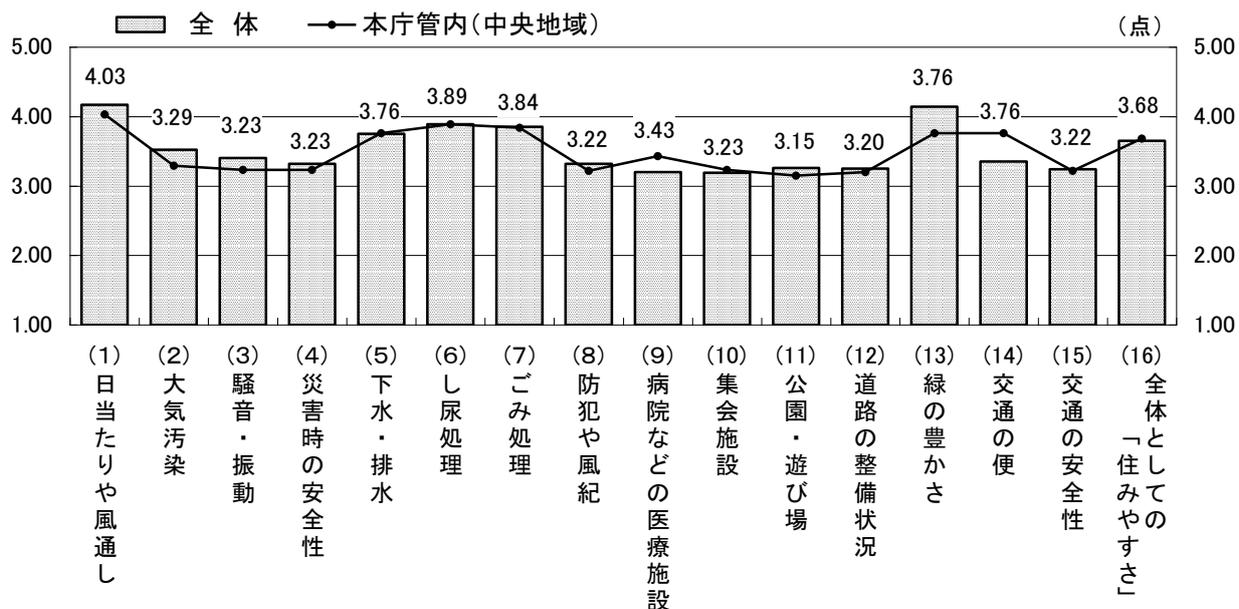
 は項目内での最低値

次に、16項目の評価の加重平均値を居住地ごとに、市全体と対比させてグラフを表示する。

【本庁管内（中央地域）】

市全体より上回っているのは、16項目中5項目で、最も差が大きいのは、「交通の便」（+0.41ポイント）となっている。下回っているのは16項目中10項目で、最も差が大きいのは、「緑の豊かさ」（-0.38ポイント）で、他に差が大きいのは、「大気汚染」（-0.23ポイント）となっている。（図2-1-3）

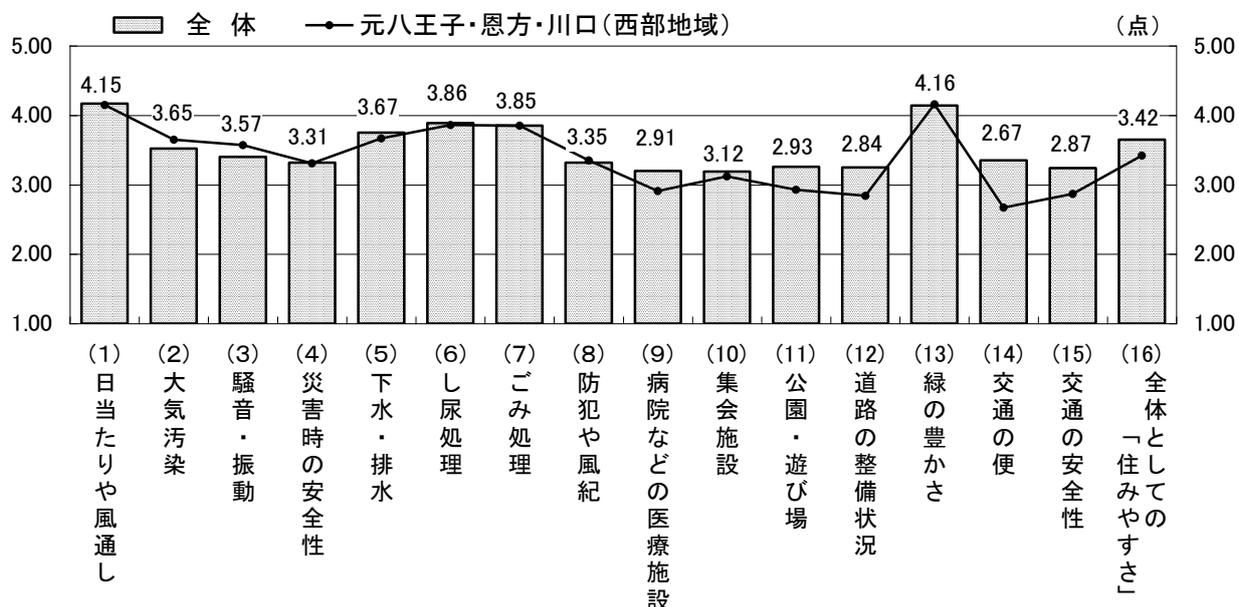
図2-1-3 生活環境の評価（加重平均）－居住地別「本庁管内（中央地域）」



【元八王子・恩方・川口（西部地域）】

市全体より上回っているのは、16項目中4項目で、最も差が大きいのは、「騒音・振動」（+0.17ポイント）となっている。下回っているのは16項目中11項目で、最も差が大きいのは「交通の便」（-0.68ポイント）で、他に差が大きいのは、「道路の整備状況」（-0.41ポイント）、「交通の安全性」（-0.37ポイント）となっている。（図2-1-4）

図2-1-4 生活環境の評価（加重平均）－居住地別「元八王子・恩方・川口(西部地域)」

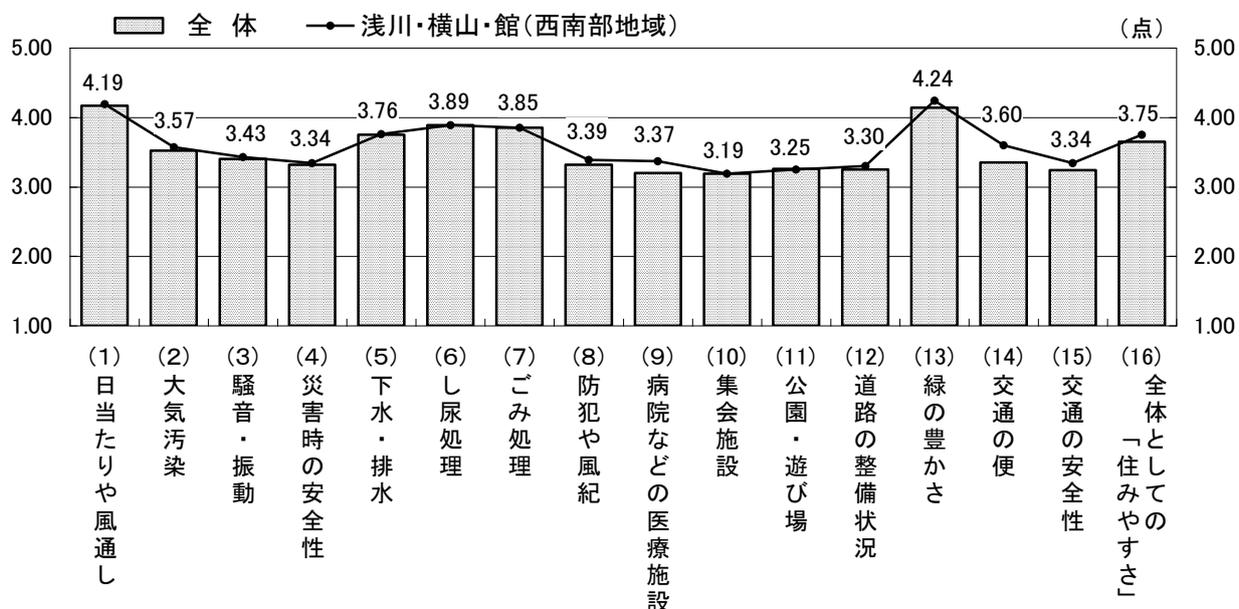


【浅川・横山・館（西南部地域）】

市全体より上回っているのは、16項目中12項目で、最も差が大きいのは、「交通の便」（+0.25ポイント）で、他に差が大きいのは、「病院などの医療施設」（+0.17ポイント）となっている。下回っているのは16項目中1項目であるが、-0.01ポイントの差となっている。

（図2-1-5）

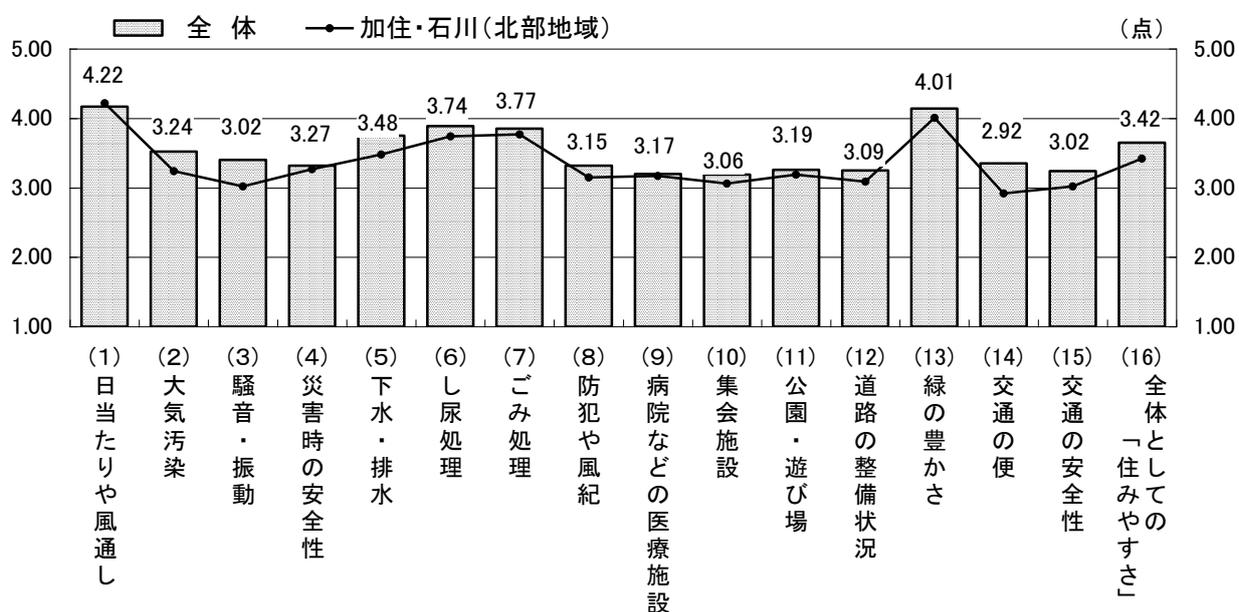
図2-1-5 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「浅川・横山・館（西南部地域）」



【加住・石川（北部地域）】

市全体より上回っているのは、16項目中1項目で、「日当たりや風通し」（+0.05ポイント）となっている。下回っているのは16項目中15項目で、最も差が大きいのは、「交通の便」（-0.43ポイント）で、他に差が大きいのは、「騒音・振動」（-0.38ポイント）、「大気汚染」（-0.28ポイント）となっている。（図2-1-6）

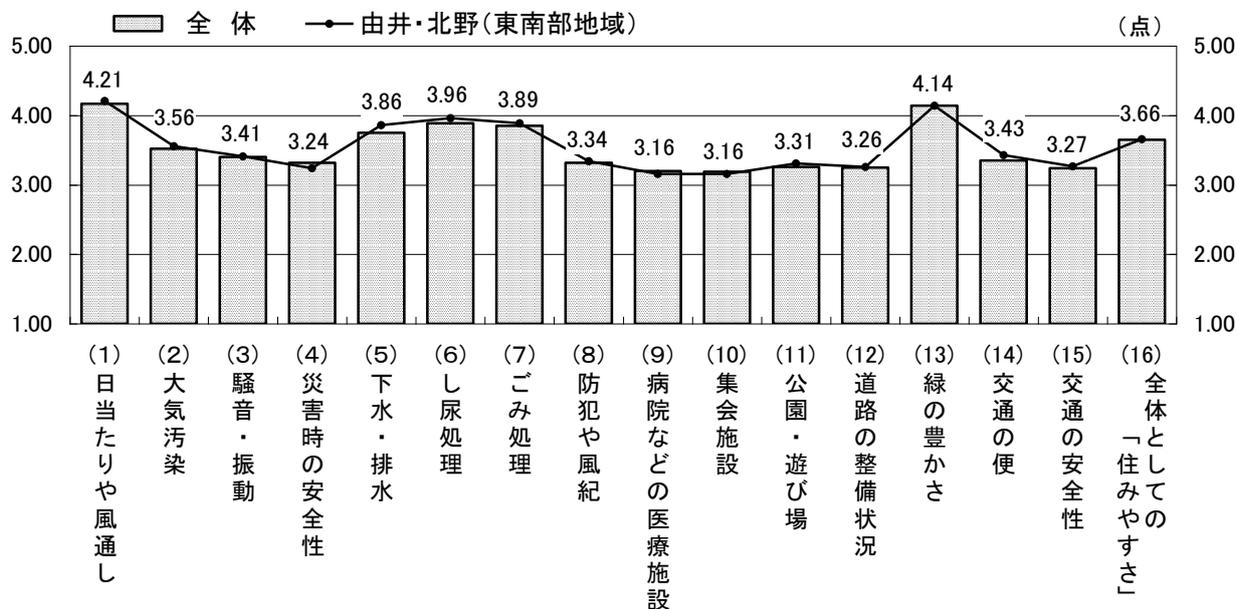
図2-1-6 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「加住・石川（北部地域）」



【由井・北野（東南部地域）】

市全体より上回っているのは、16項目中12項目で、最も差が大きいのは「下水・排水」（+0.11ポイント）となっている。下回っているのは16項目中3項目で、最も差が大きいのは「災害時の安全性」（-0.08ポイント）となっている。（図2-1-7）

図2-1-7 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「由井・北野（東南部地域）」

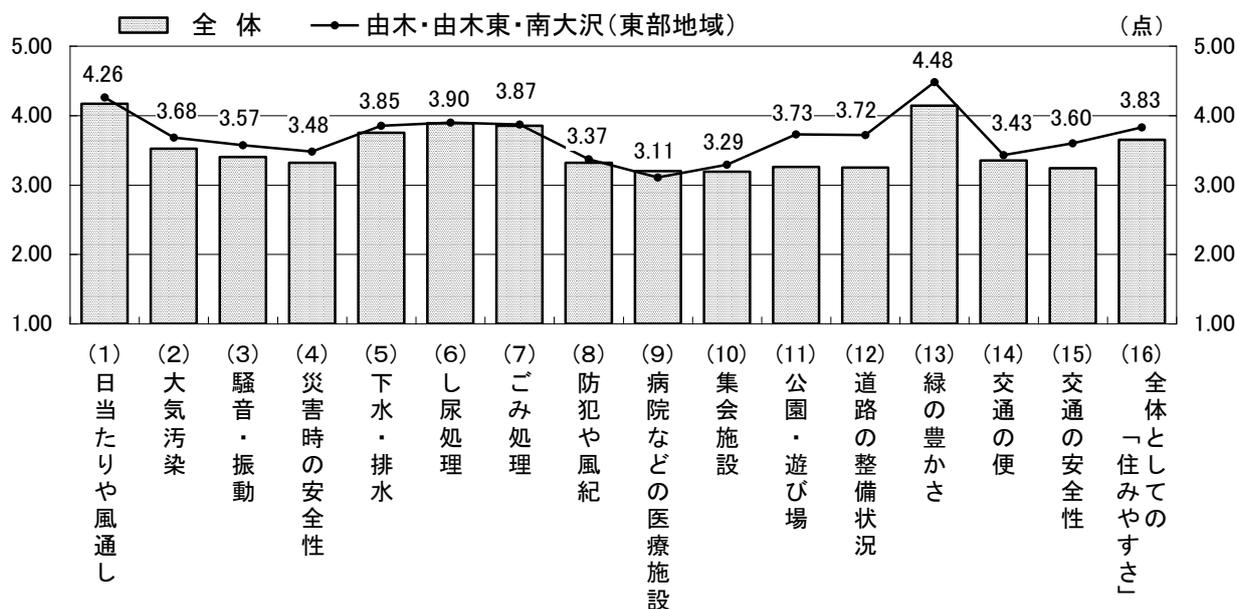


【由木・由木東・南大沢（東部地域）】

「病院などの医療施設」以外のすべての項目において市全体より上回っており、最も差が大きいのは、「公園・遊び場」、「道路の整備状況」（いずれも+0.47ポイント）で、他に差が大きいのは、「交通の安全性」（+0.36ポイント）、「緑の豊かさ」（+0.34ポイント）となっている。

（図2-1-8）

図2-1-8 生活環境の評価（加重平均）－居住地域別「由木・由木東・南大沢（東部地域）」



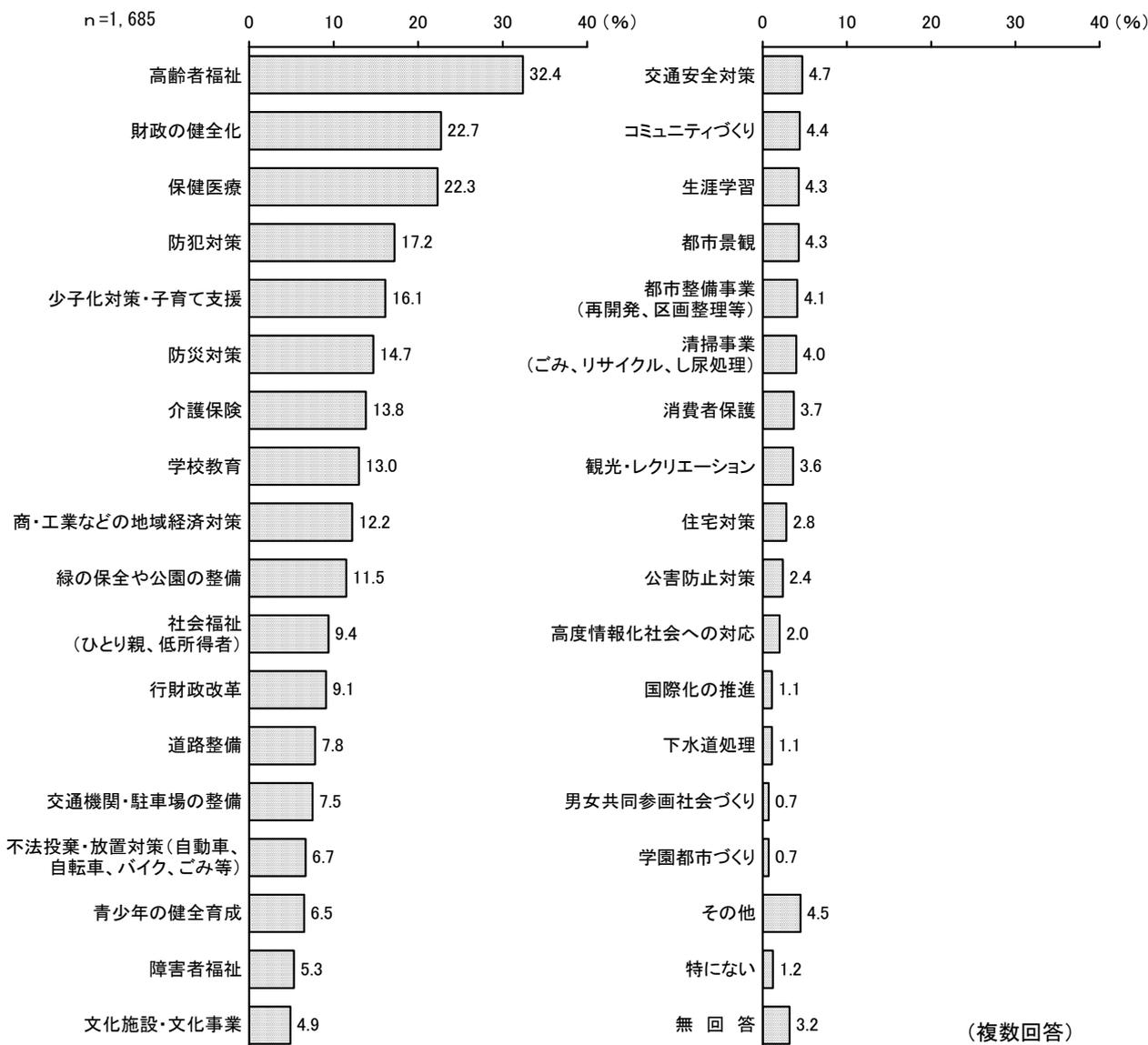
3. 市政への要望

3-1 重点施策要望

◇「高齢者福祉」が3割強、「財政の健全化」「保健医療」の2項目が2割強

問4 市政全般において、あなたが特に力を入れてほしいと思う施策は何ですか。次の1～35の中から3つ選び、下の回答欄内に番号をご記入ください

図3-1-1



市政全般において特に力を入れてほしいと思う施策について聞いたところ、「高齢者福祉」が3割強 (32.4%) と最も高く、次いで「財政の健全化」(22.7%)、「保健医療」(22.3%)、「防犯対策」(17.2%)、「少子化対策・子育て支援」(16.1%) と続いている。(図3-1-1)

経年での変化を見ると、前々回第1位、前回第3位であった「高齢者福祉」が前回より8.1ポイント上がり、第1位となっている。「財政の健全化」は前回より3.7ポイント下がり、第1位から第2位となっている。「保健医療」は前回より3.2ポイント下がり、第3位となっている。

(表3-1-1)

表3-1-1 重点施策要望一経年比較

年 順位	重点施策要望一経年比較 (％)		
	平成23年	平成24年	平成25年
第1位	高齢者福祉 (33.5)	財政の健全化 (26.4)	高齢者福祉 (32.4)
第2位	財政の健全化 (28.2)	保健医療 (25.5)	財政の健全化 (22.7)
第3位	保健医療 (26.9)	高齢者福祉 (24.3)	保健医療 (22.3)
第4位	少子化対策・子育て支援 (15.7)	少子化対策・子育て支援 (20.2)	防犯対策 (17.2)
第5位	防犯対策 (15.2)	防災対策 (16.8)	少子化対策・子育て支援 (16.1)
第6位	商・工業などの 地域経済対策 (13.3)	防犯対策 (14.4)	防災対策 (14.7)
第7位	防災対策 (12.9)	学校教育 (13.9)	介護保険 (13.8)
第8位	介護保険 (12.8)	商・工業などの 地域経済対策 (13.4)	学校教育 (13.0)
第9位	社会福祉 (ひとり親、低所得者) (12.5)	社会福祉 (ひとり親、低所得者) (13.0)	商・工業などの 地域経済対策 (12.2)
第10位	緑の保全や公園の整備 (12.0) 学校教育(12.0)	緑の保全や公園の整備 (12.9)	緑の保全や公園の整備 (11.5)

性別にみると、男女ともに第1位は「高齢者福祉」となっている。男性の第2位は「財政の健全化」、第3位は「保健医療」で、女性の第2位は「保健医療」、第3位は「財政の健全化」となっている。第4位は男女ともに「防犯対策」で、男性の第5位は「商・工業などの地域経済対策」、女性の第5位は「少子化対策・子育て支援」となっている。

性・年齢別に第1位をみると、男性は50歳以上の年代、女性は40歳以上の年代で「高齢者福祉」が第1位となっている。男女ともに30～39歳で「少子化対策・子育て支援」が第1位となっており、男性の40～49歳と女性の20～29歳では「防犯対策」が第1位となっている。

(表3-1-2)

表3-1-2 重点施策要望一性・年齢別

(%)

属性	順位	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		1,685	高齢者福祉 (32.4)	財政の健全化 (22.7)	保健医療 (22.3)	防犯対策 (17.2)	少子化対策・ 子育て支援 (16.1)
男性		752	高齢者福祉 (29.7)	財政の健全化 (23.0)	保健医療 (19.5)	防犯対策 (15.7)	商・工業などの 地域経済対策 (15.4)
女性		877	高齢者福祉 (34.7)	保健医療 (24.6)	財政の健全化 (22.7)	防犯対策 (19.2)	少子化対策・ 子育て支援 (17.1)
男性20～29歳		58	交通機関・ 駐車場の整備 (27.6)	財政の健全化 (15.5)	学校教育/ 緑の保全や公園の整備 (13.8)		保健医療 (12.1)
30～39歳		95	少子化対策・ 子育て支援 (43.2)	防犯対策 (31.6)	学校教育 (25.3)	商・工業などの 地域経済対策 (22.1)	財政の健全化 (20.0)
40～49歳		120	防犯対策 (20.0)	財政の健全化/学校教育 (19.2)		防災対策 (18.3)	保健医療 (16.7)
50～59歳		111	高齢者福祉 (36.0)	財政の健全化 (26.1)	防犯対策 (18.0)	行財政改革 (17.1)	防災対策/商・工業 などの地域経済対策 (15.3)
60～64歳		94	高齢者福祉 (38.3)	財政の健全化 (27.7)	保健医療/ 商・工業などの地域経済対策 (22.3)		緑の保全や公園 の整備 (20.2)
65歳以上		274	高齢者福祉 (44.5)	保健医療 (25.9)	財政の健全化 (24.5)	介護保険 (18.6)	行財政改革 (15.7)
女性20～29歳		65	防犯対策 (32.3)	学校教育/ 少子化対策・子育て支援 (23.1)		財政の健全化 (20.0)	緑の保全や公園 の整備 (16.9)
30～39歳		147	少子化対策・ 子育て支援 (46.9)	学校教育 (32.0)	保健医療 (23.8)	防犯対策 (18.4)	防災対策/緑の保 全や公園の整備 (17.7)
40～49歳		138	高齢者福祉 (27.5)	保健医療 (26.1)	学校教育 (25.4)	防犯対策 (21.0)	財政の健全化 (18.8)
50～59歳		145	高齢者福祉 (35.9)	財政の健全化 (29.0)	保健医療 (24.8)	防災対策 (20.7)	防犯対策 (17.9)
60～64歳		93	高齢者福祉 (46.2)	保健医療 (29.0)	財政の健全化 (24.7)	防犯対策 (18.3)	介護保険/ 防災対策 (16.1)
65歳以上		286	高齢者福祉 (53.5)	保健医療 (25.2)	財政の健全化/介護保険 (24.5)		防犯対策 (16.8)

居住地域別にみると、すべての地域で「高齢者福祉」が第1位となっている。元八王子・恩方・川口（西部地域）、加住・石川（北部地域）、由井・北野（東南部地域）、由木・由木東・南大沢（東部地域）では「保健医療」が第2位となっている。「財政の健全化」はすべての地域で3位以内にあげられている。（表3-1-3）

表3-1-3 重点施策要望－居住地域別

		(%)				
属性	順位 n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,685	高齢者福祉 (32.4)	財政の健全化 (22.7)	保健医療 (22.3)	防犯対策 (17.2)	少子化対策・ 子育て支援 (16.1)
本 庁 管 内 (中央地域)	353	高齢者福祉 (32.3)	防犯対策 (20.7)	財政の健全化 (19.3)	保健医療 (17.6)	商・工業などの 地域経済対策 (17.0)
元八王子・ 恩方・川口 (西部地域)	320	高齢者福祉 (34.1)	保健医療 (26.3)	財政の健全化 (24.4)	少子化対策・ 子育て支援 (17.2)	道路整備 (16.6)
浅川・横山・館 (西南部地域)	328	高齢者福祉 (31.7)	財政の健全化 (23.2)	防犯対策 (18.0)	少子化対策・ 子育て支援 (17.4)	保健医療 (17.1)
加住・石川 (北部地域)	124	高齢者福祉 (28.2)	保健医療 (22.6)	財政の健全化 (21.8)	防犯対策 (18.5)	緑の保全や公 園の整備 (16.9)
由井・北野 (東南部地域)	257	高齢者福祉 (28.8)	保健医療 (26.1)	財政の健全化 (24.1)	防犯対策 (21.8)	少子化対策・ 子育て支援 (18.7)
由木・由木東・ 南大沢 (東部地域)	303	高齢者福祉 (36.3)	保健医療 (25.7)	財政の健全化 (23.4)	学校教育 (18.2)	防災対策 (16.2)

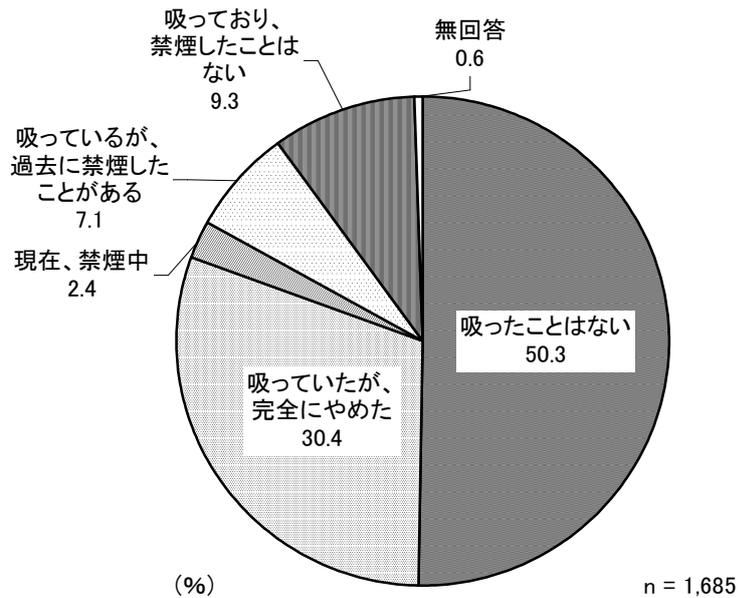
4. 喫煙について

4-1 喫煙状況

◇「吸ったことはない」が約5割

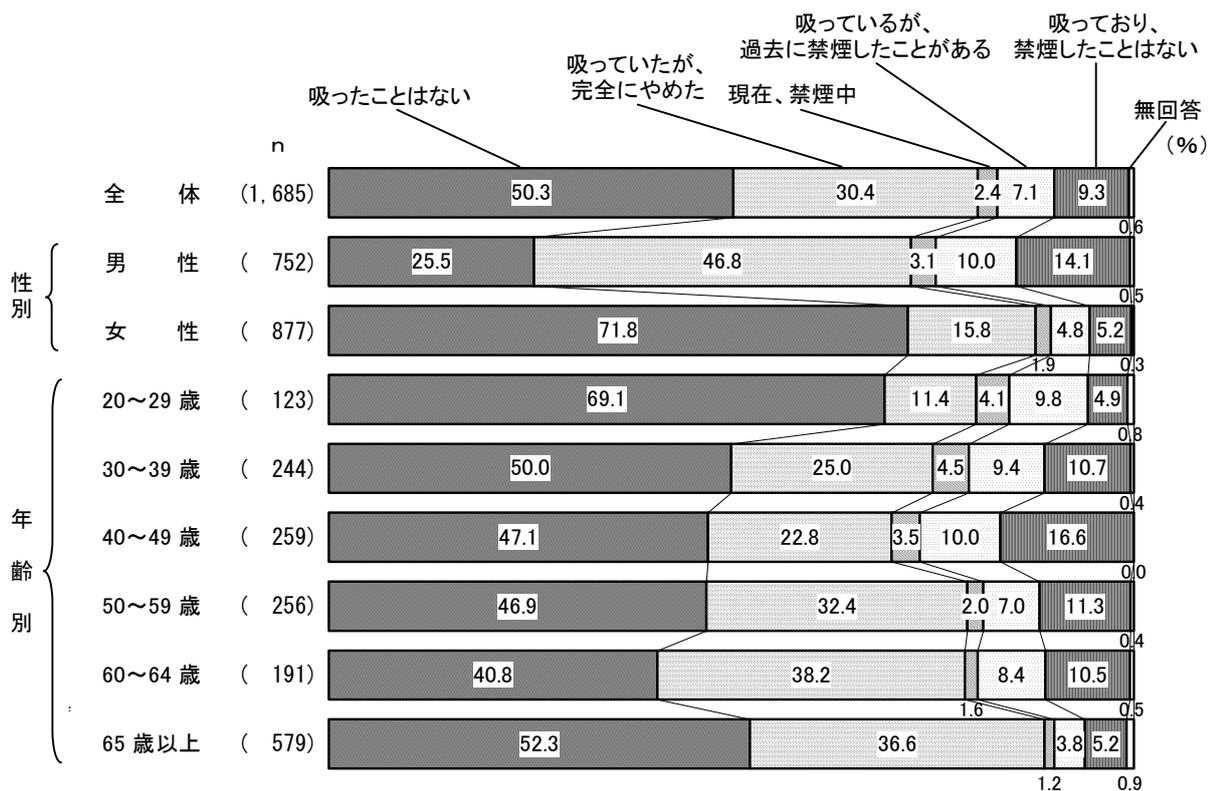
問5 あなたはタバコを吸ったことがありますか。また吸っている方は禁煙の経験がありますか。(〇は1つだけ)

図4-1-1



喫煙状況について聞いたところ、「吸ったことはない」が約5割（50.3%）と最も高くなっている。一方、吸ったことがある方の中では「吸っていたが、完全にやめた」が約3割（30.4%）と最も高く、次いで「吸っており、禁煙したことはない」（9.3%）、「吸っているが、過去に禁煙したことがある」（7.1%）、「現在、禁煙中」（2.4%）と続いている。（図4-1-1）

図 4-1-2 喫煙状況—性別・年齢別



性別にみると、「吸ったことはない」は女性が46.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「吸ったことはない」はおおむね年代が下がるにつれて割合が高くなっており、20~29歳で7割弱（69.1%）と高くなっている。（図4-1-2）

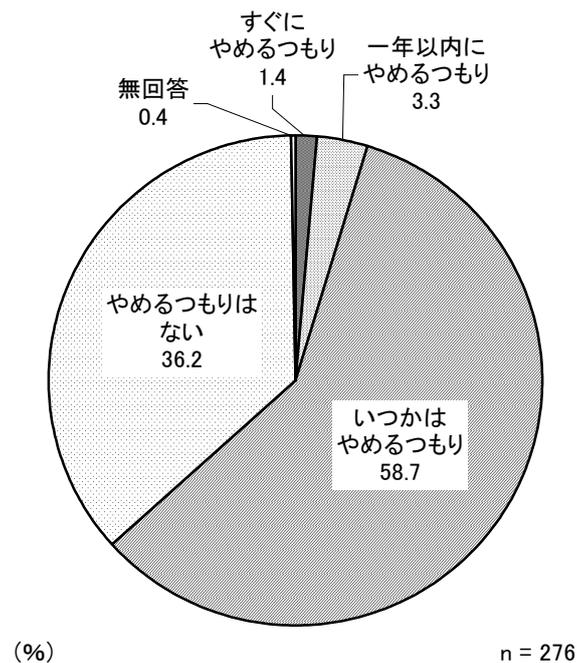
4-2 禁煙意向

◇ 《やめるつもり》が6割強

(問5で、「吸っているが、過去に禁煙したことがある」または「吸っており、禁煙したことはない」とお答えの方に)

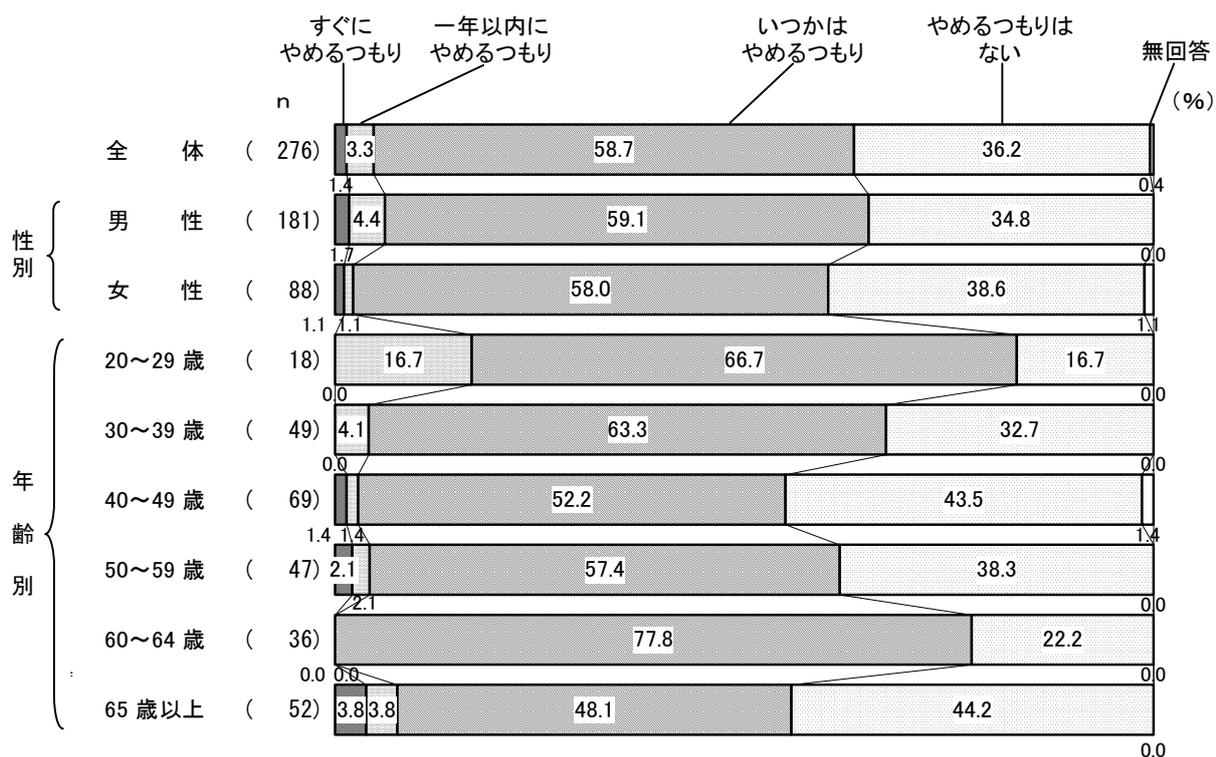
問5-1 あなたは「タバコをやめたい」と思いますか。最も気持ちに近いものをお答えください。(〇は1つだけ)

図4-2-1



喫煙状況で「吸っているが、過去に禁煙したことがある」、「吸っており、禁煙したことはない」と答えた人(276人)に、禁煙意向について聞いたところ、「いつかはやめるつもり」が6割近く(58.7%)と最も高く、これに「一年以内にやめるつもり」(3.3%)、「すぐにやめるつもり」(1.4%)を合わせた《やめるつもり》が6割強(63.4%)となっている。一方、「やめるつもりはない」は4割近く(36.2%)となっている。(図4-2-1)

図 4-2-2 禁煙意向—性別・年齢別



性別にみると、「やめるつもりはない」は女性が3.8ポイント高くなっている。

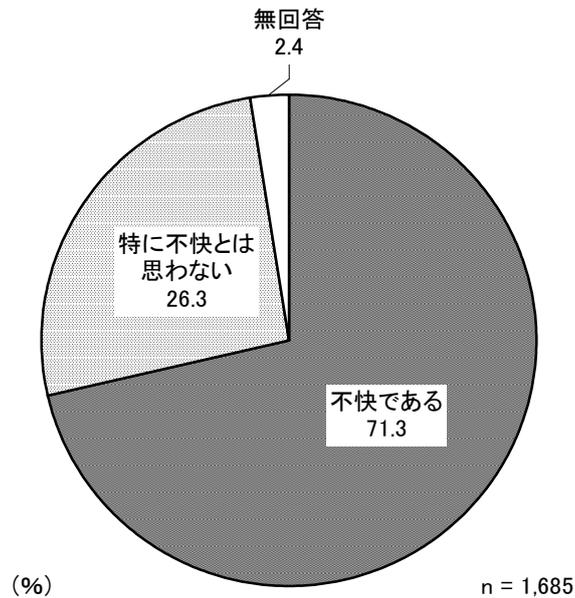
年齢別にみると、「いつかはやめるつもり」は60~64歳で8割近く（77.8%）と高くなっている。また、「やめるつもりはない」は65歳以上で4割台半ば（44.2%）、40~49歳で4割強（43.5%）と高くなっている。（図4-2-2）

4-3 ほかが人が吸ったタバコの煙に対する感じ方

◇「不快である」が7割強

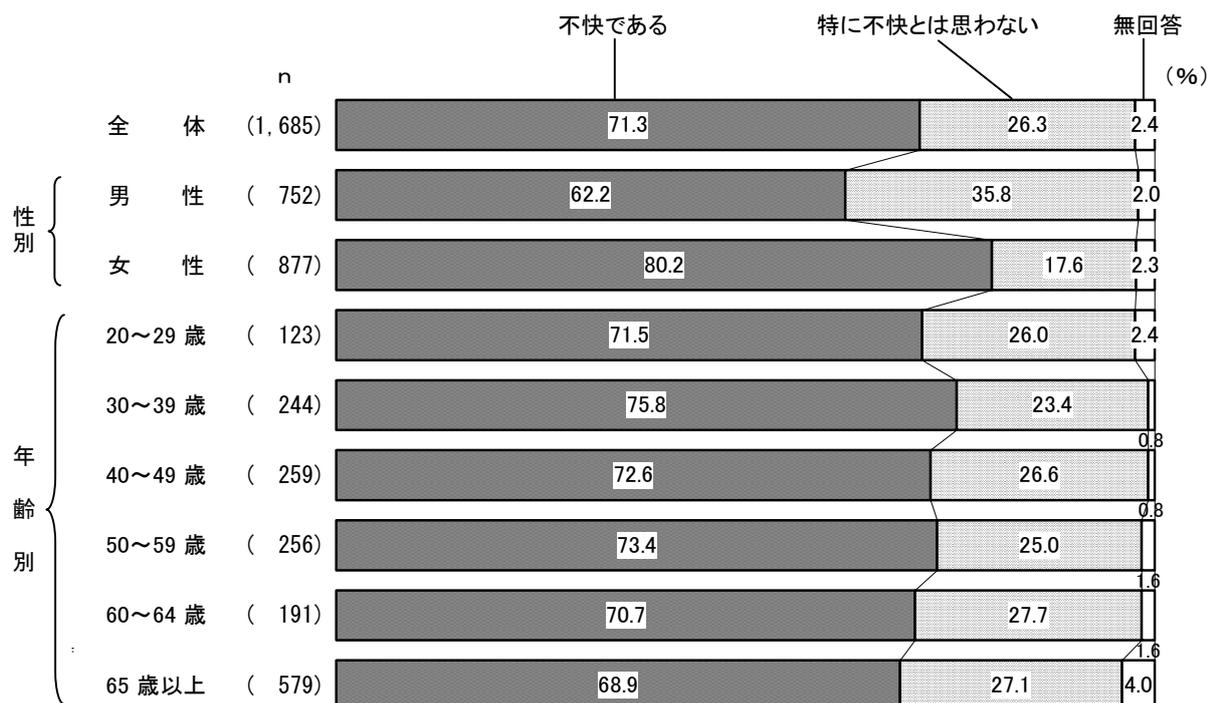
問6 あなたはほかの人が吸ったタバコの煙を不快と感じていますか。(○は1つだけ)

図4-3-1



ほかの人が吸ったタバコの煙を不快と感じるかを聞いたところ、「不快である」は7割強(71.3%)、「特に不快とは思わない」は3割近く(26.3%)となっている。(図4-3-1)

図4-3-2 ほかの人が吸ったタバコの煙に対する感じ方—性別・年齢別

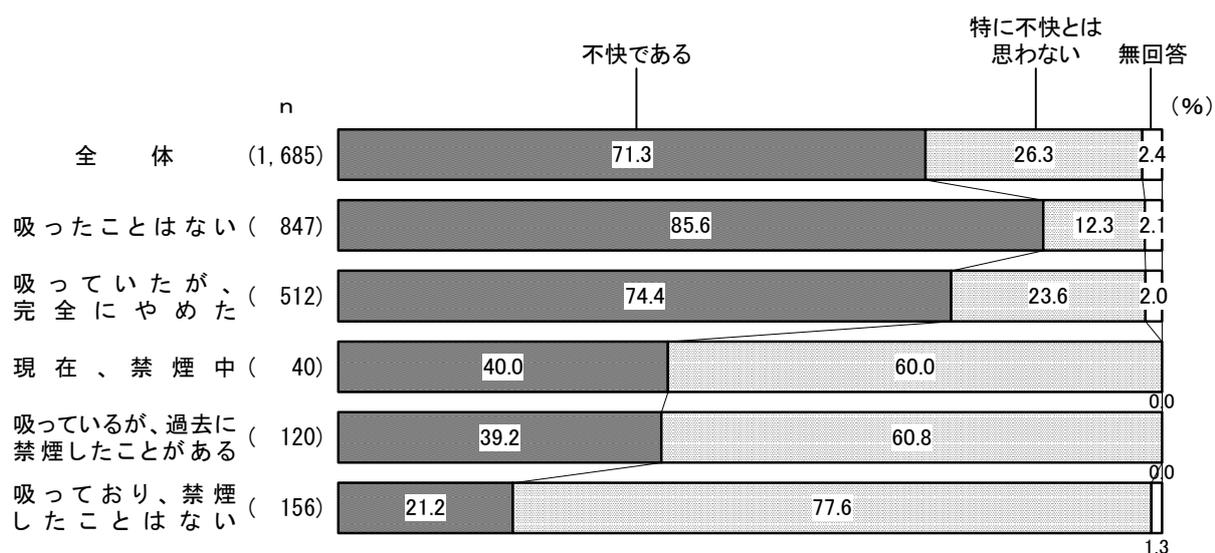


性別にみると、「不快である」は女性が18.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「不快である」はすべての年代で7割前後と高くなっている。

(図4-3-2)

図4-3-3 ほかの人が吸ったタバコの煙に対する感じ方—喫煙状況別



喫煙状況別にみると、「不快である」は“吸ったことはない”で8割台半ば（85.6%）、“吸っていたが、完全にやめた”で7割台半ば（74.4%）と高くなっている。一方、「特に不快とは思わない」は“吸っており、禁煙したことはない”で8割近く（77.6%）と高くなっている。

(図4-3-3)

4-4 タバコについて考えること

問7 あなたがタバコについて考えることなど自由にお聞かせください。(自由回答)

タバコについて考えることなどを自由に記述していただいたところ、798件(47.4%)の回答が寄せられた。

回答率を性別にみると、大きな差はなく、年齢別にみると、30～39歳(56.1%)で6割近くと最も高くなっている。

頻出単語を調べたところ、「歩く・歩き・歩行」113件、「マナー」77件、「ポイ捨て」61件、「喫煙所・喫煙場所」60件など、喫煙マナーを思わせる記述が目立った。また、「害」102件、「身体・体」101件、「健康」66件といった健康に関する記述も多くあった。このほか「子ども」58件と子どもに関する記述も見受けられた。

自由記述の回答率－性別・年齢別

		全体	回答数	回答率(%)
全 体		1,685	798	47.4
性別	男性	752	356	47.3
	女性	877	416	47.4
	無回答	56	26	46.4
年齢別	20～29歳	123	61	49.6
	30～39歳	244	137	56.1
	40～49歳	259	117	45.2
	50～59歳	256	126	49.2
	60～64歳	191	84	44.0
	65歳以上	579	258	44.6
	無回答	33	15	45.5

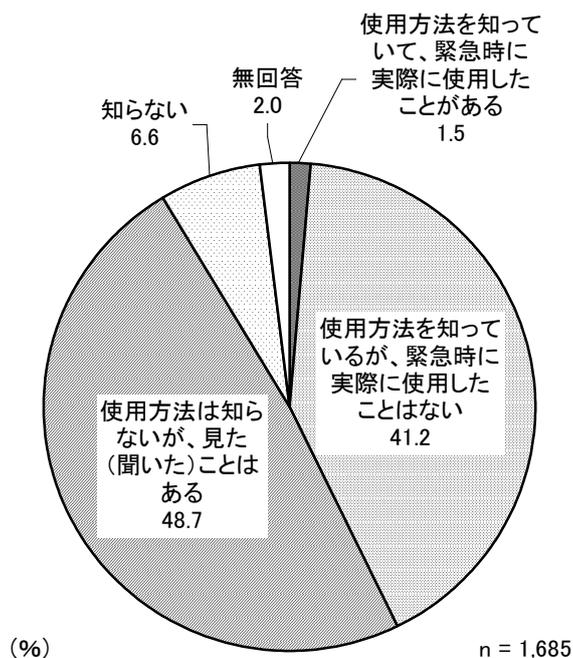
5. 救命について

5-1 AEDの周知度

◇ 《知っている》が9割強

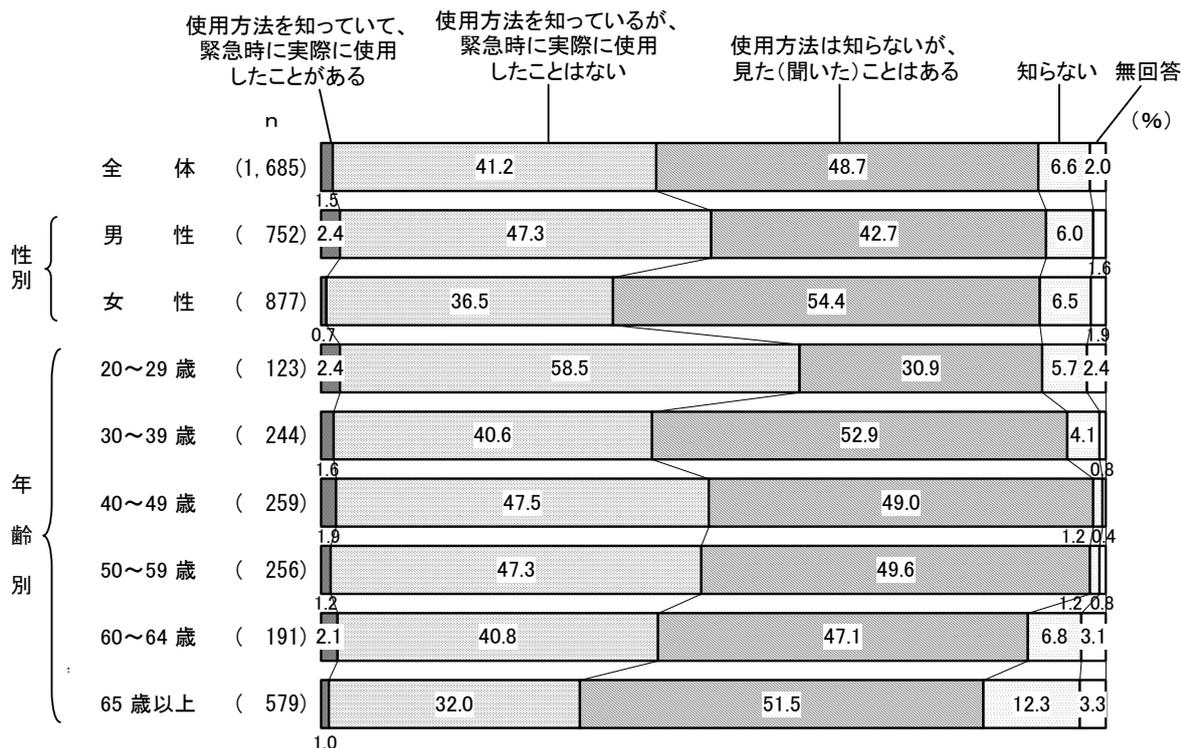
問8 AED(自動体外式除細動器)を知っていますか。(○は1つだけ)

図5-1-1



AEDを知っているか聞いたところ、「使用方法は知らないが、見た(聞いた)ことはある」が5割近く(48.7%)と最も高く、これに「使用方法を知っているが、緊急時に実際に使用したことはない」(41.2%)、「使用方法を知っていて、緊急時に実際に使用したことがある」(1.5%)を合わせた《知っている》は9割強(91.4%)となっている。一方、「知らない」は1割近く(6.6%)となっている。(図5-1-1)

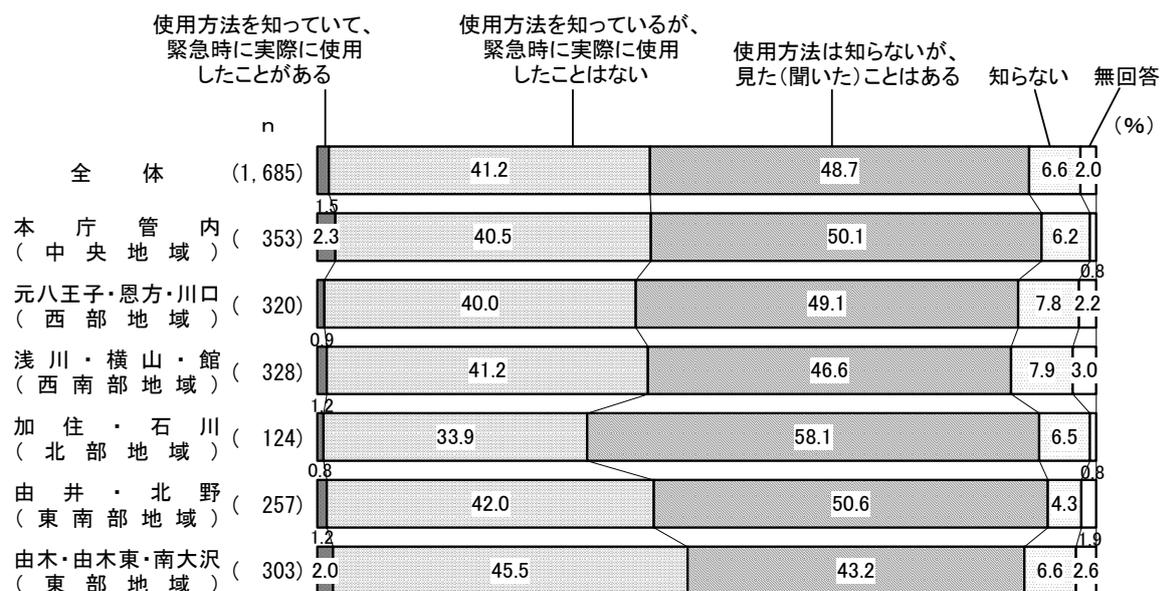
図5-1-2 AEDの周知度—性別・年齢別



性別にみると、「使用方法は知らないが、見た（聞いた）ことはある」は女性が11.7ポイント高くなっている。一方、「使用方法を知っているが、緊急時に実際に使用したことはない」は男性が10.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「使用方法を知っているが、緊急時に実際に使用したことはない」は20～29歳で6割近く（58.5%）と高くなっている。（図5-1-2）

図5-1-3 AEDの周知度—居住地域別



居住地域別にみると、「使用方法は知らないが、見た（聞いた）ことはある」は加住・石川（北部地域）で6割近く（58.1%）と高くなっている。（図5-1-3）

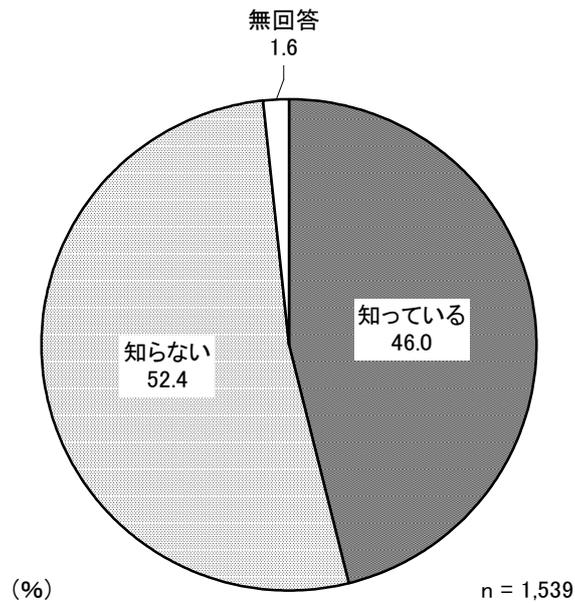
5-2 最寄のAED設置場所の周知度

◇「知らない」が5割強

(問8で、「知っている」とお答えの方に)

問8-1 自宅からの近くで最寄のAED(自動体外式除細動器)がどこにあるかを知っていますか。(〇は1つだけ)

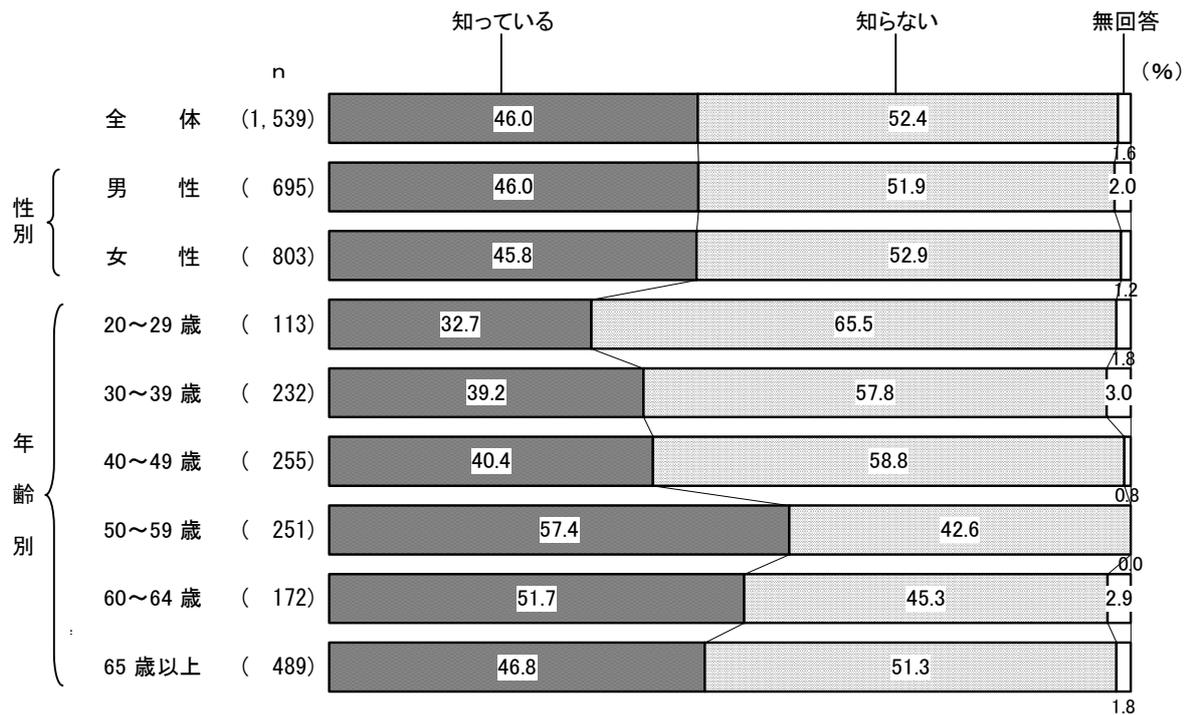
図5-2-1



AEDの周知度で《知っている》と答えた人(1,539人)に最寄のAEDがどこにあるかを知っているか聞いたところ、「知っている」は5割近く(46.0%)、「知らない」は5割強(52.4%)となっている。

(図5-2-1)

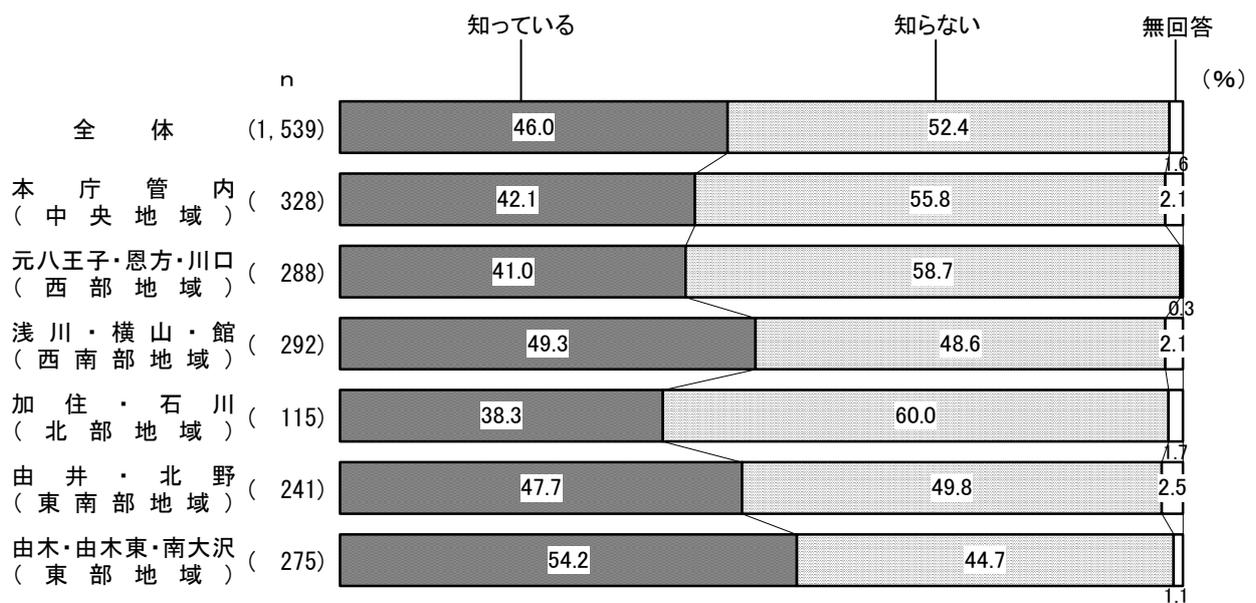
図5-2-2 最寄のAED設置場所の周知度—性別・年齢別



性別にみると、大きな差はない。

年齢別にみると、「知っている」は50~59歳で6割近く（57.4%）と高くなっている。一方、「知らない」は20~29歳で6割台半ば（65.5%）と高くなっている。（図5-2-2）

図5-2-3 最寄のAED設置場所の周知度—居住地域別



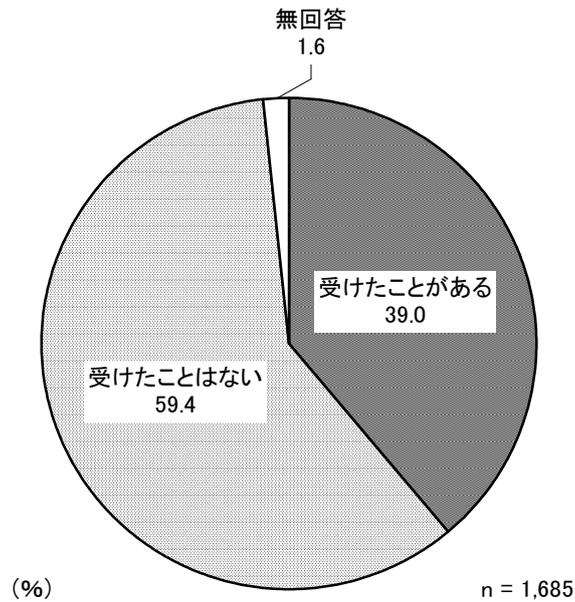
居住地域別にみると、「知っている」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で5割台半ば（54.2%）と高くなっている。一方、「知らない」は加住・石川（北部地域）で6割（60.0%）と高くなっている。（図5-2-3）

5-3 救命講習の経験

◇「受けたことはない」が6割弱

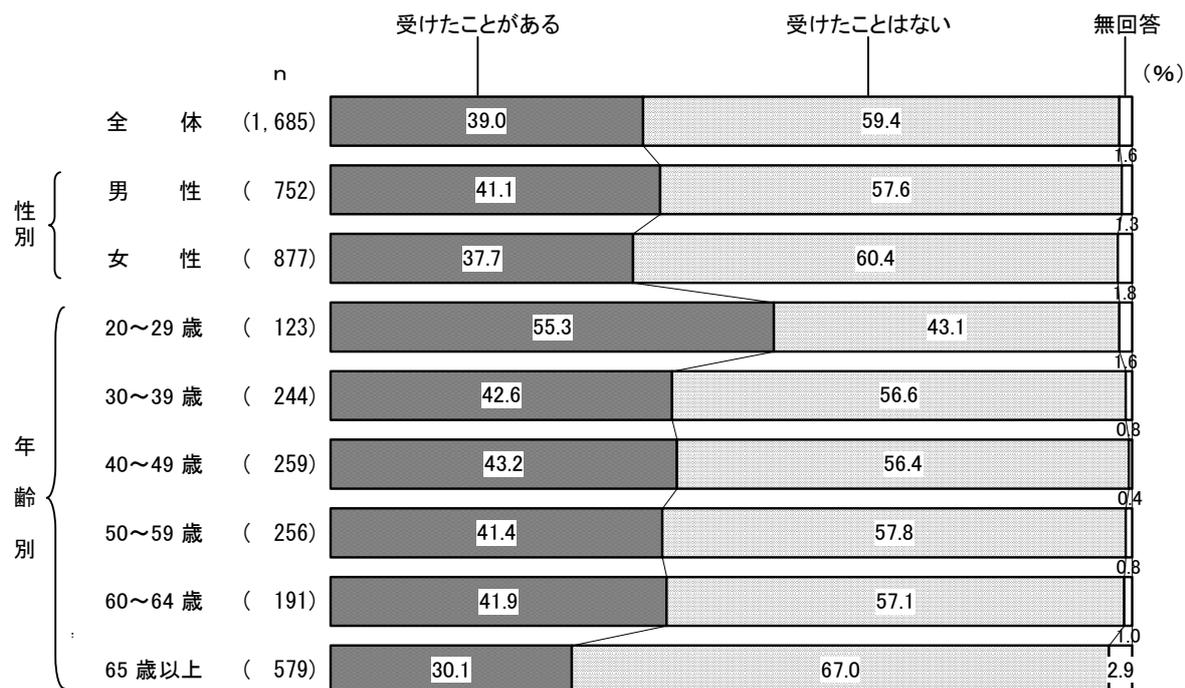
問9 救命講習（心肺蘇生やAEDの使い方、応急手当など）を受けたことがありますか。
(○は1つだけ)

図5-3-1



救命講習を受けたことがあるかを聞いたところ、「受けたことがある」は4割弱（39.0%）、「受けたことはない」は6割弱（59.4%）となっている。（図5-3-1）

図5-3-2 救命講習の経験—性別・年齢別

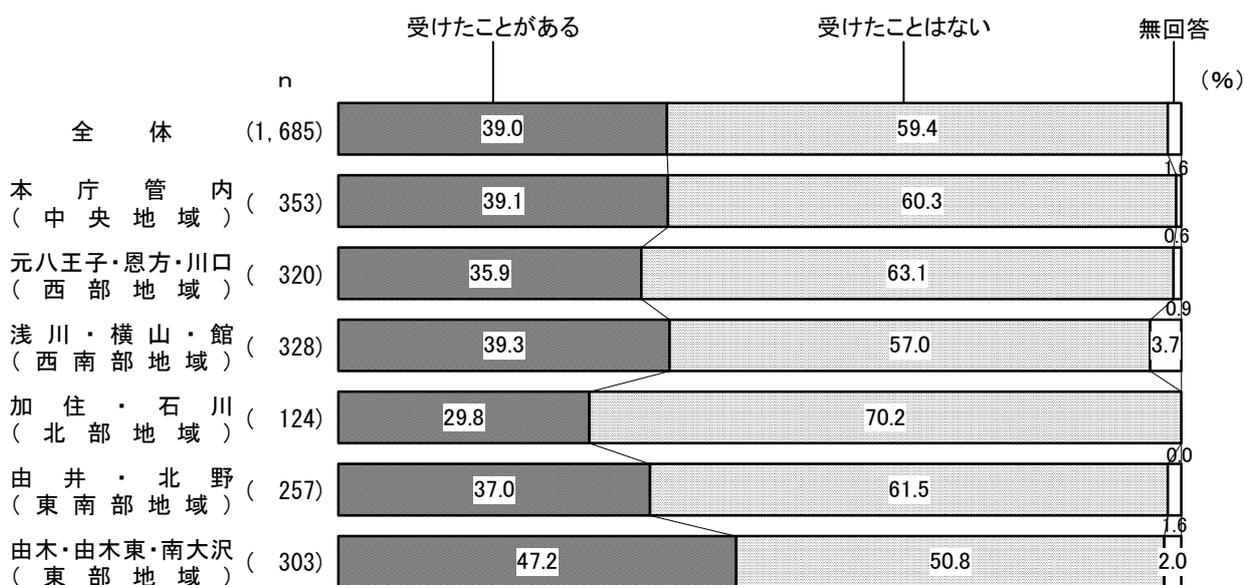


性別にみると、「受けたことがある」は男性が3.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「受けたことがある」は20~29歳で5割台半ば（55.3%）と高くなっている。一方、「受けたことはない」は65歳以上で7割近く（67.0%）と高くなっている。

(図5-3-2)

図5-3-3 救命講習の経験—居住地域別



居住地域別にみると、「受けたことがある」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で5割近く（47.2%）と高くなっている。一方、「受けたことはない」は加住・石川（北部地域）で約7割（70.2%）と高くなっている。（図5-3-3）

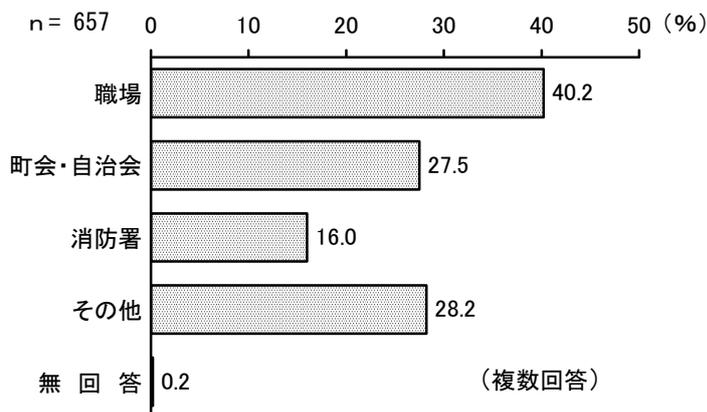
5-4 救命講習を受講した場所

◇「職場」が約4割

(問9で、「受けたことがある」とお答えの方に)

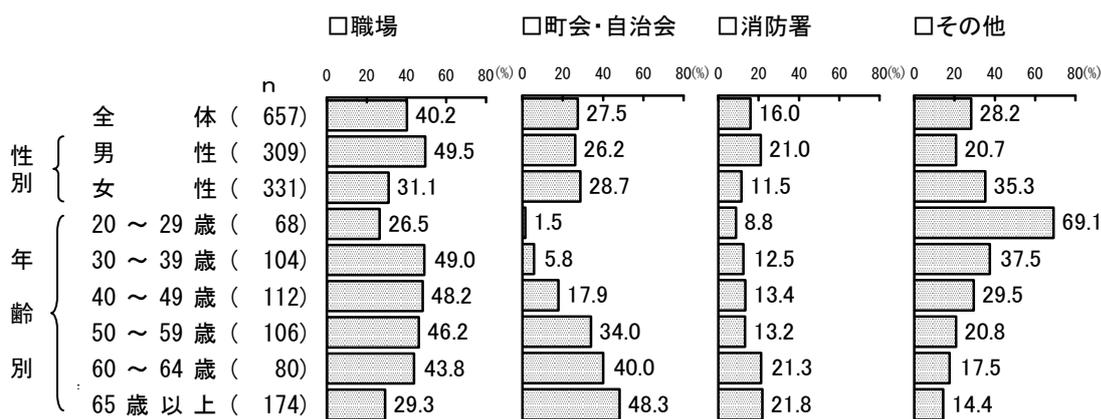
問9-1 どこで救命講習を受けましたか。(〇はいくつでも)

図5-4-1



救命講習の経験で「受けたことがある」と答えた人(657人)にどこで救命講習を受けたかを聞いたところ、「職場」が約4割(40.2%)と最も高く、次いで「町会・自治会」(27.5%)、「消防署」(16.0%)と続いている。(図5-4-1)

図5-4-2 救命講習を受講した場所-性別・年齢別



性別にみると、「職場」は18.4ポイント、「消防署」は9.5ポイント、それぞれ男性が高くなっている。一方、「町会・自治会」は女性が2.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「町会・自治会」は、年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で5割近く(48.3%)と高くなっている。また、「職場」は30歳から64歳までの年代で4割台と高くなっている。(図5-4-2)

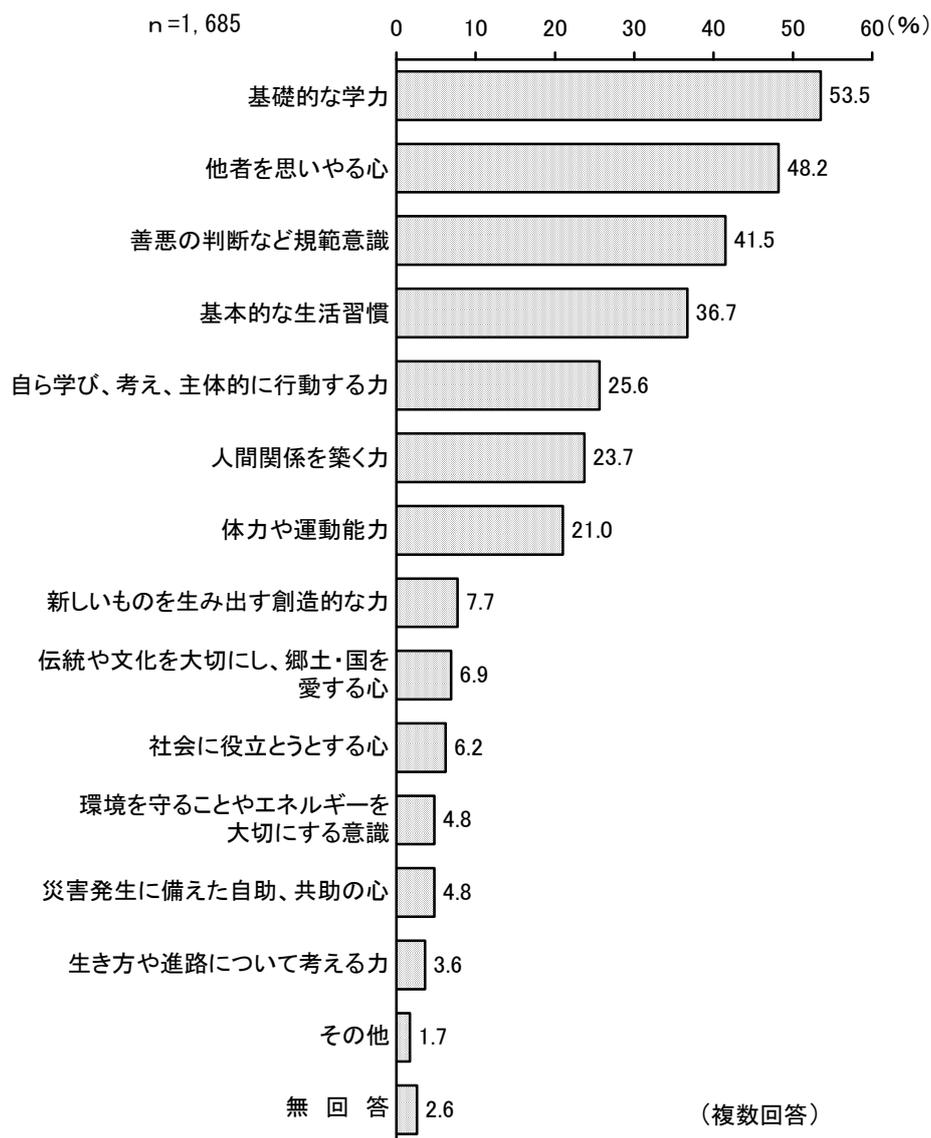
6. 小・中学生の教育について

6-1 小学生に必要な教育

◇「基礎的な学力」が5割強

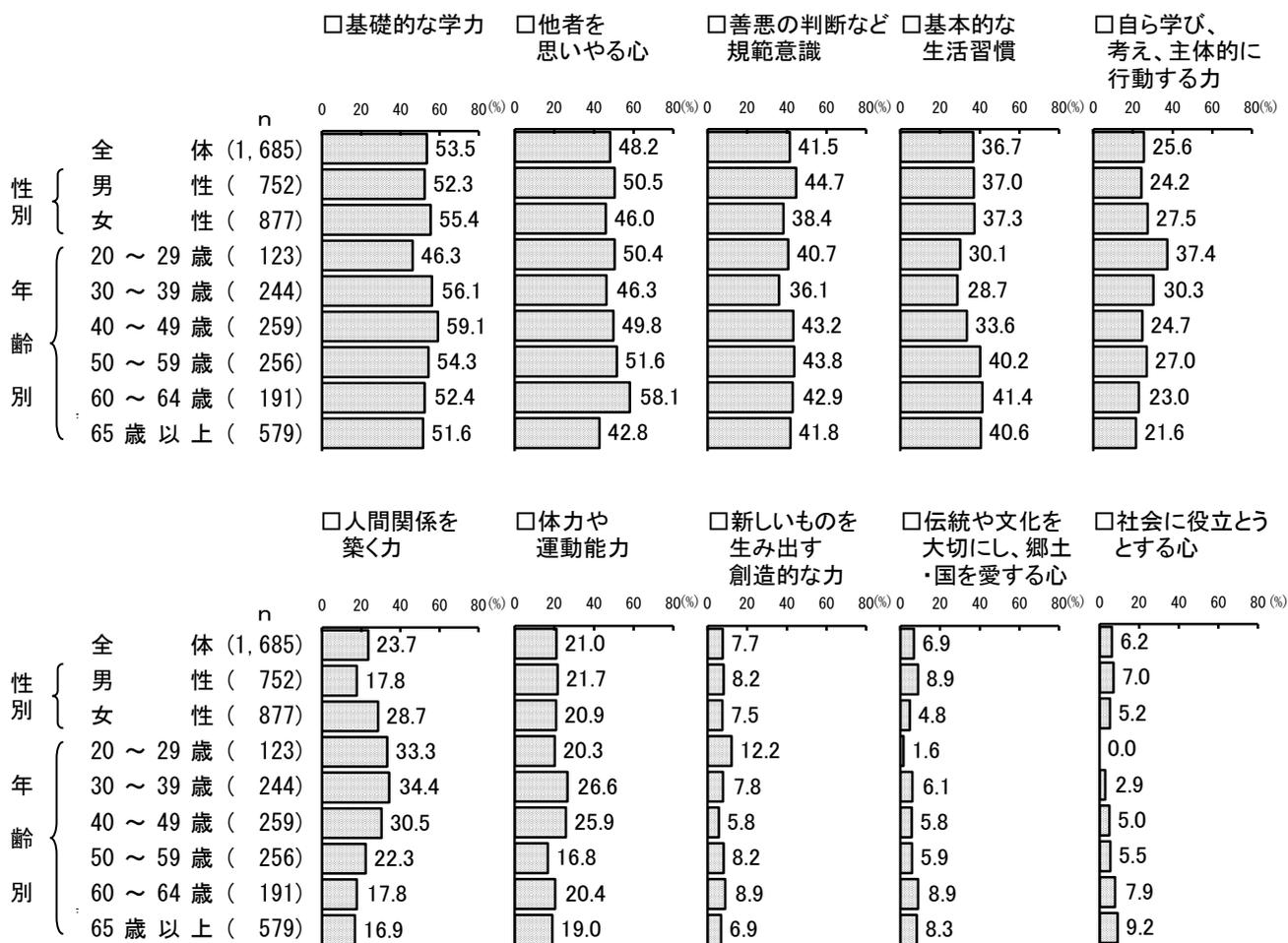
問10 あなたは、小学生にどのようなことを身につけさせる教育が必要であると思いますか。
あなたの考えに近いものを選び○をつけて下さい。(○は3つまで)

図6-1-1



小学生にどのようなことを身につけさせる教育が必要であるかを聞いたところ、「基礎的な学力」が5割強（53.5%）と最も高く、次いで「他者を思いやる心」（48.2%）、「善悪の判断など規範意識」（41.5%）、「基本的な生活習慣」（36.7%）と続いている。（図6-1-1）

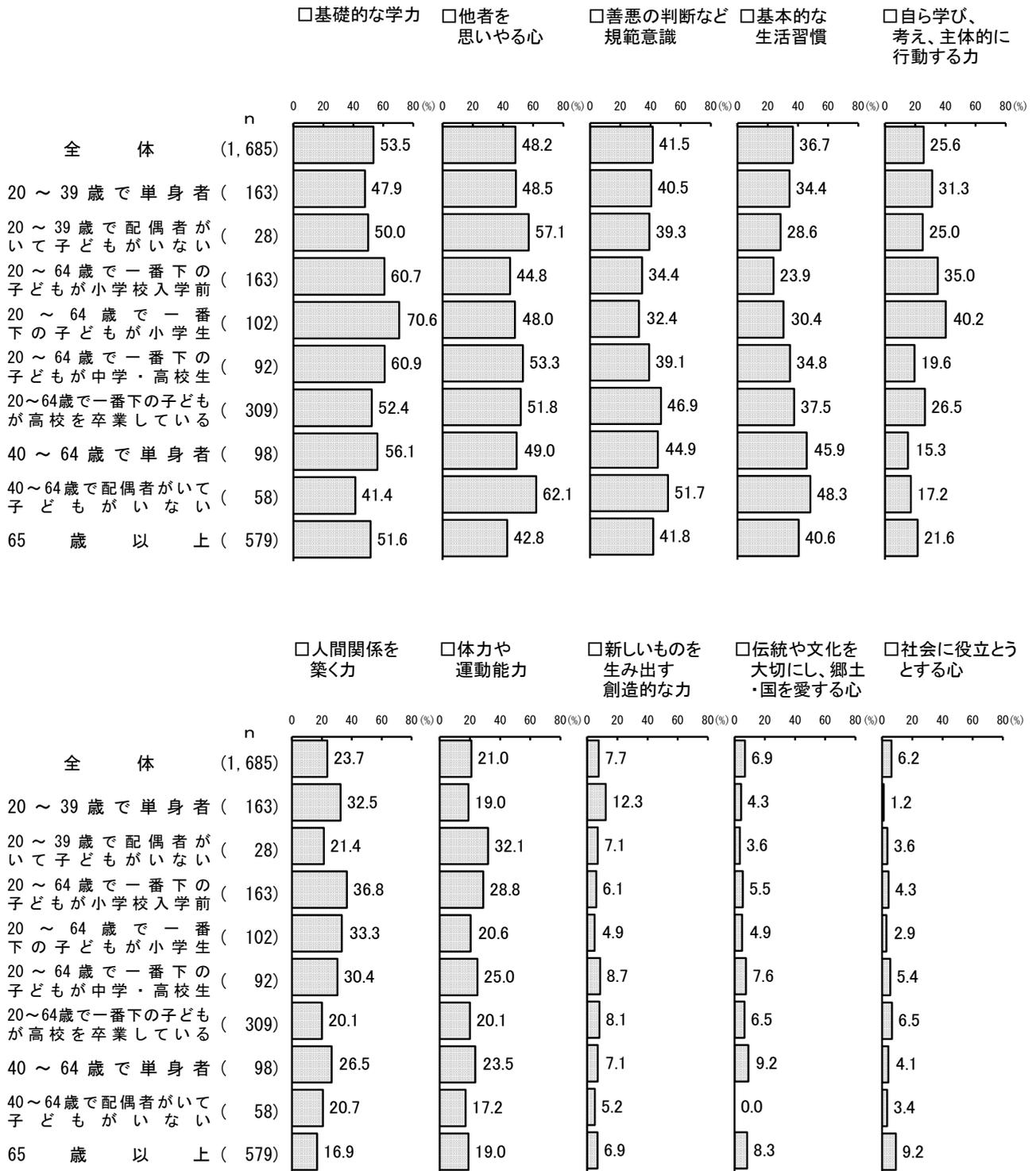
図6-1-2 小学生に必要な教育—性別・年齢別（上位10項目）



性別にみると、「人間関係を築く力」は女性が10.9ポイント高くなっている。一方、「善悪の判断など規範意識」は男性が6.3ポイント高くなっている。

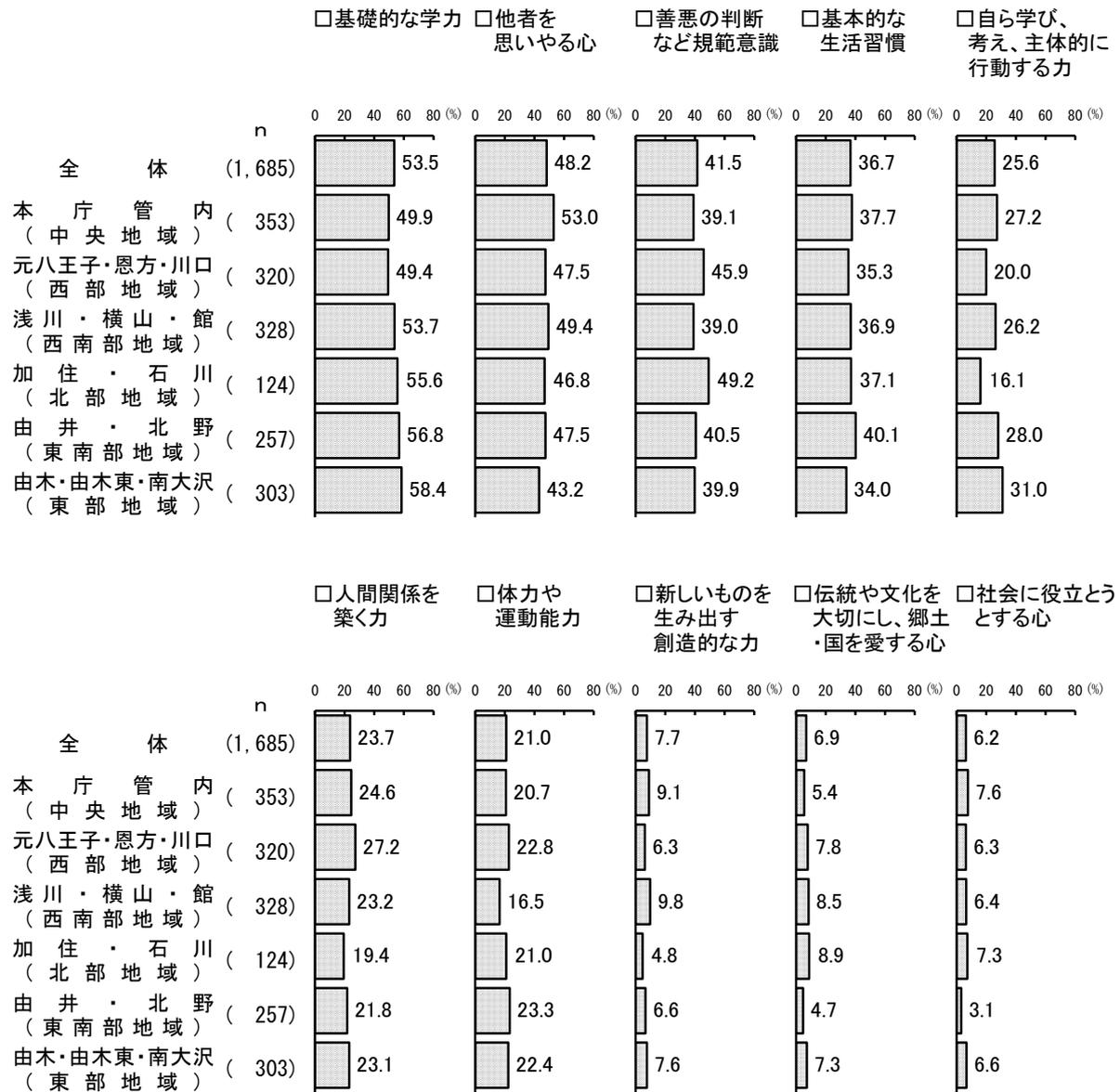
年齢別にみると、「他者を思いやる心」は60～64歳で6割近く（58.1%）と高くなっている。また、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」は20～29歳で4割近く（37.4%）と高くなっている。（図6-1-2）

図6-1-3 小学生に必要な教育－ライフステージ別（上位10項目）



ライフステージ別にみると、「基礎的な学力」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で約7割（70.6%）と高くなっている。また、「他者を思いやる心」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で6割強（62.1%）と高くなっている。（図6-1-3）

図6-1-4 小学生に必要な教育—居住地域別（上位10項目）



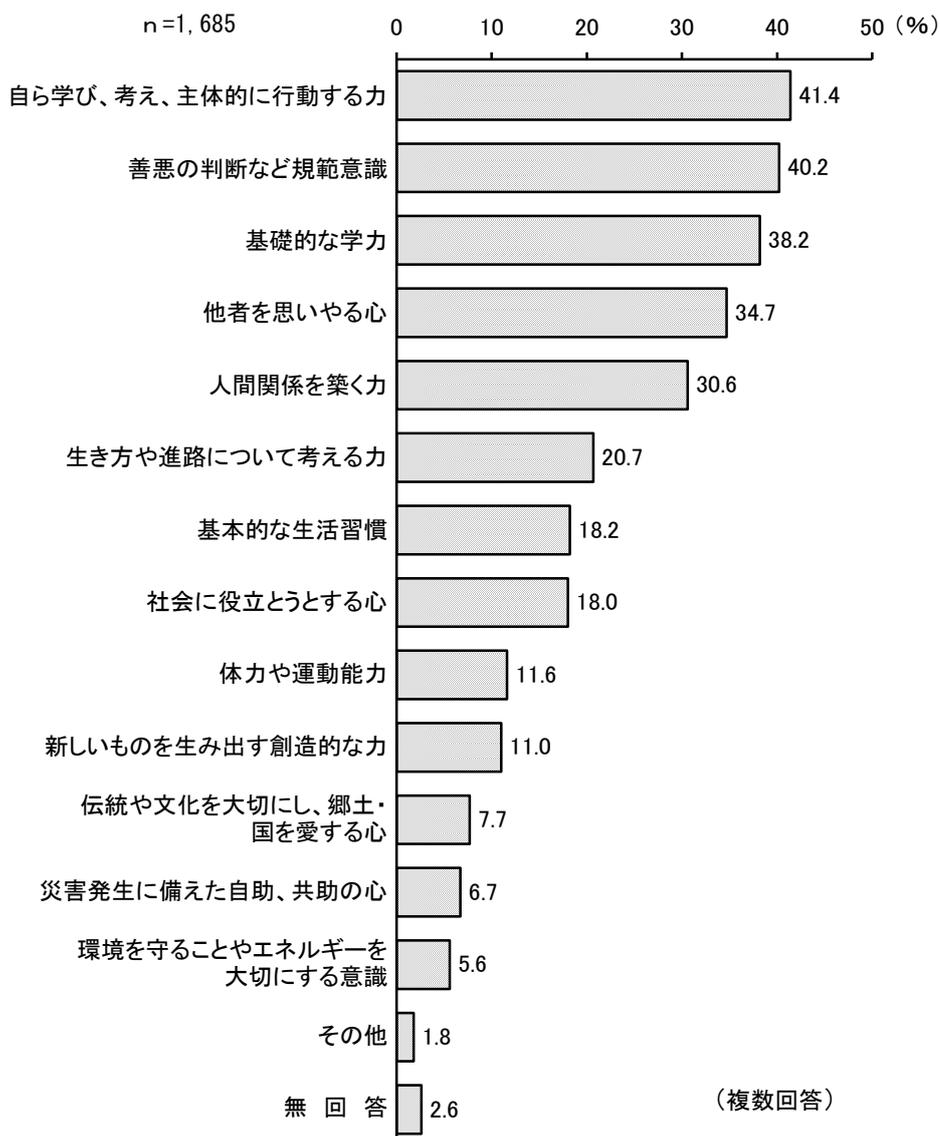
居住地域別にみると、「基礎的な学力」はどの地域もおおむね5割台となっている。また、「他者を思いやる心」はどの地域もおおむね4割台となっている。（図6-1-4）

6-2 中学生に必要な教育

◇「自ら学び、考え、主体的に行動する力」が4割強

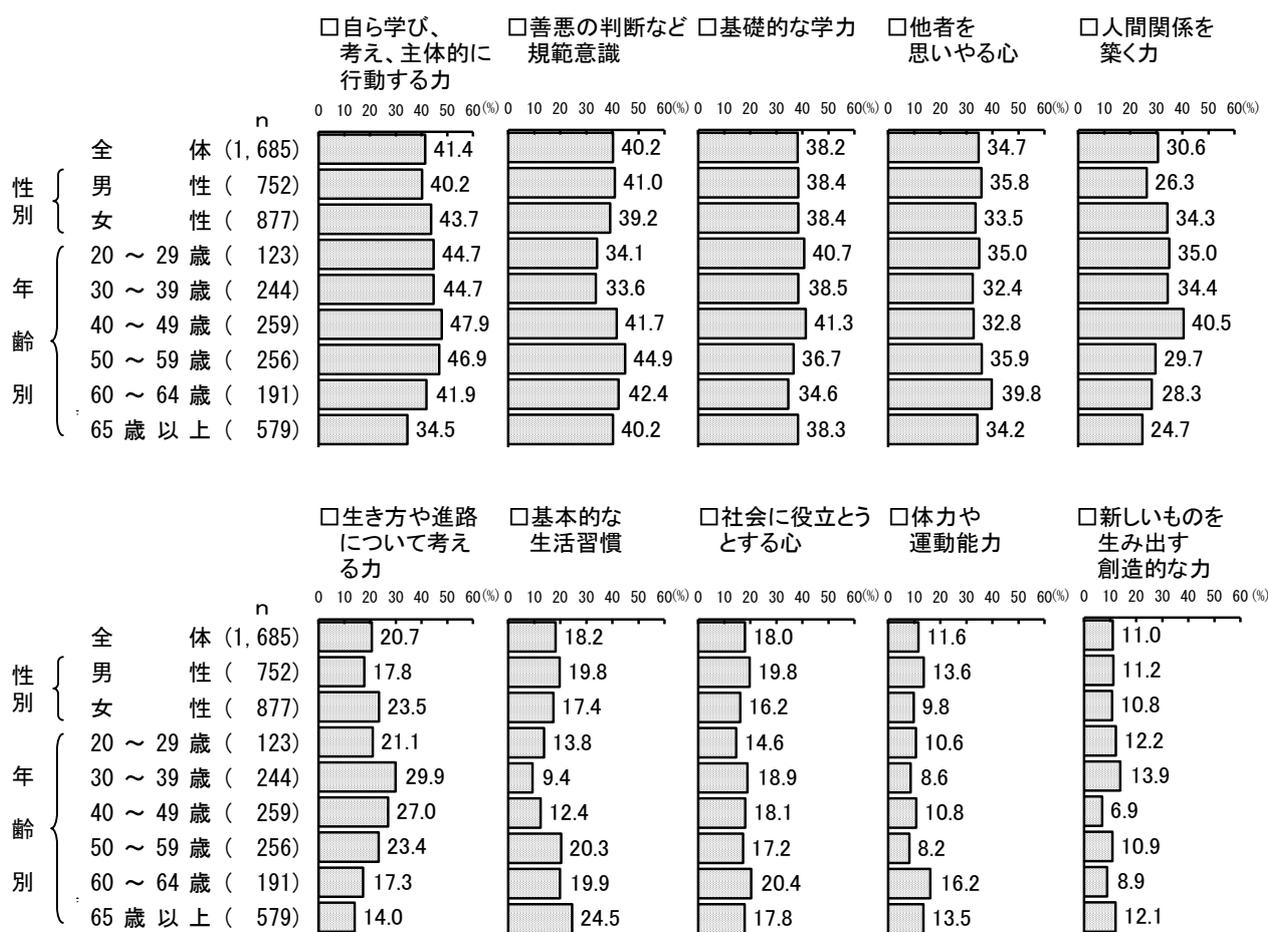
問11 あなたは、中学生にどのようなことを身につけさせる教育が必要であると思いますか。
あなたの考えに近いものを選び○をつけて下さい。(○は3つまで)

図6-2-1



中学生にどのようなことを身につけさせる教育が必要であるかを聞いたところ、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」が4割強（41.4%）と最も高く、次いで「善悪の判断など規範意識」（40.2%）、「基礎的な学力」（38.2%）、「他者を思いやる心」（34.7%）、「人間関係を築く力」（30.6%）と続いている。（図6-2-1）

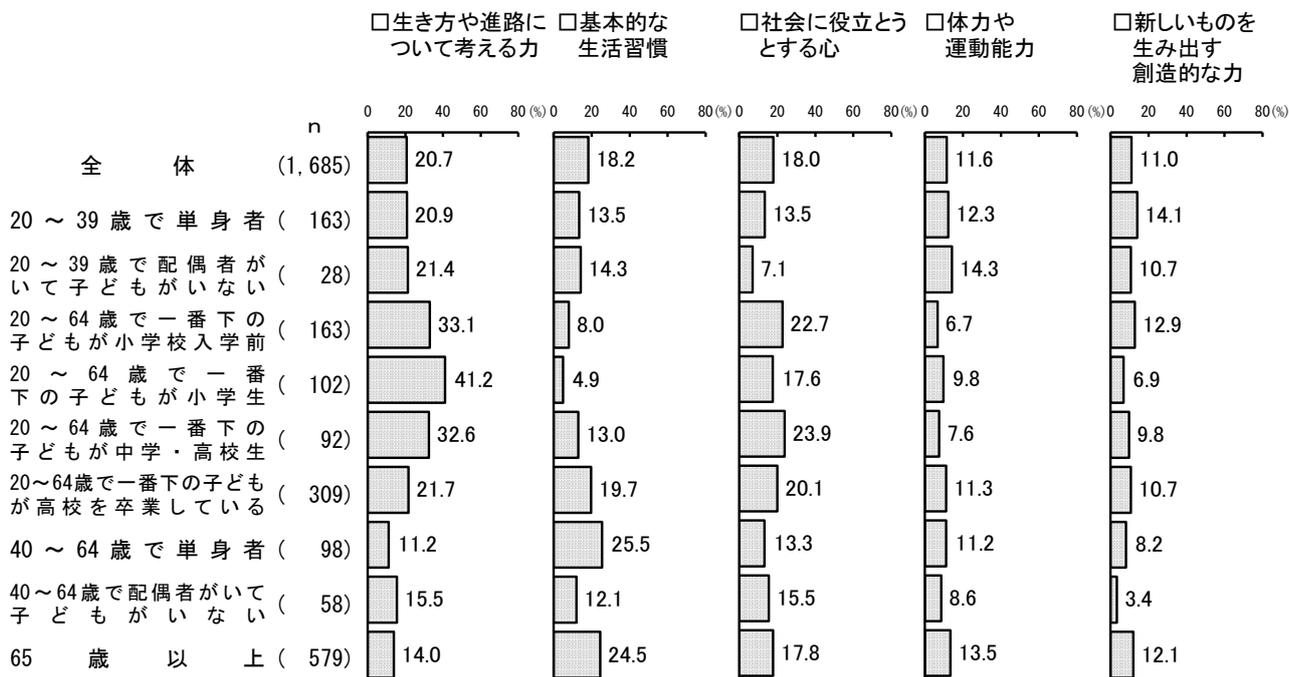
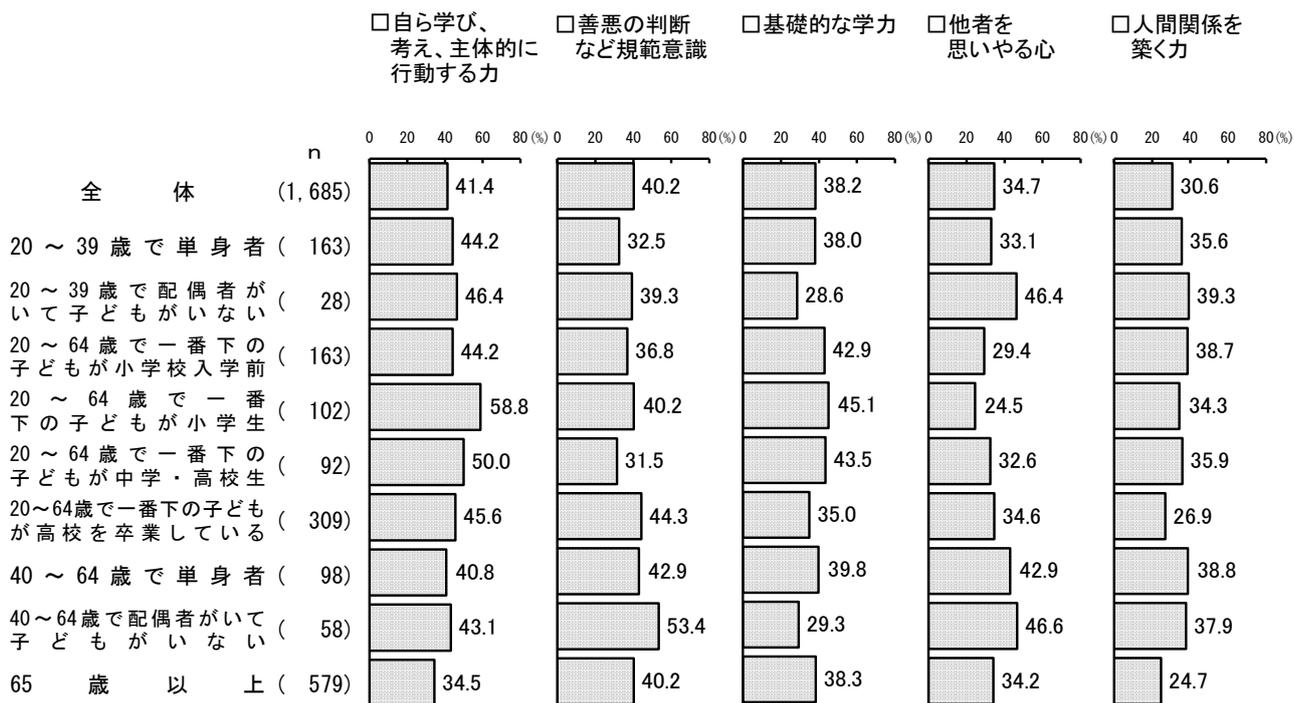
図6-2-2 中学生に必要な教育—性別・年齢別（上位10項目）



性別にみると、「人間関係を築く力」は女性が8.0ポイント高くなっている。一方、「体力や運動能力」は男性が3.8ポイント高くなっている。

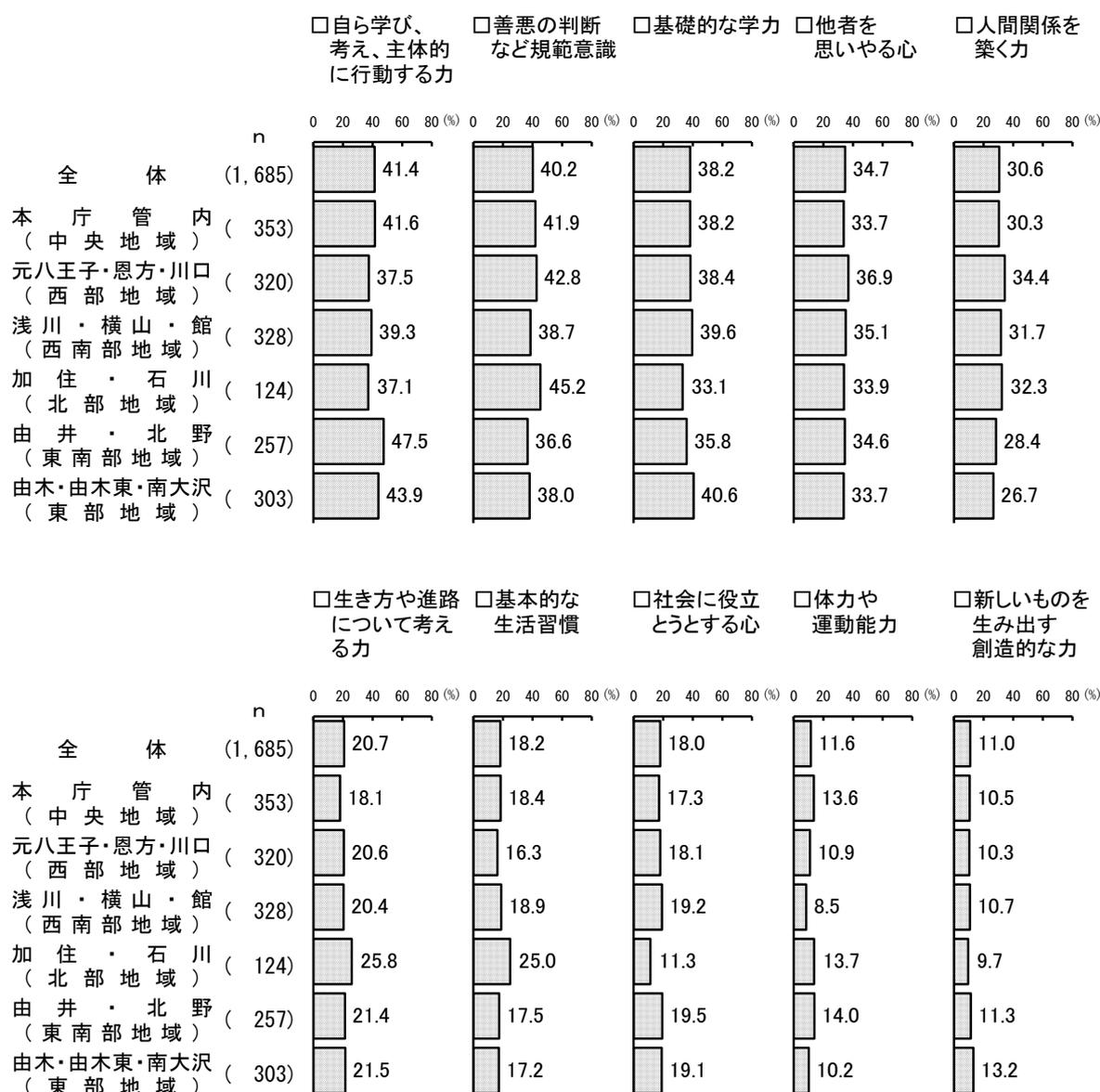
年齢別にみると、「人間関係を築く力」は40～49歳で約4割（40.5%）と高くなっている。また、「生き方や進路について考える力」はおおむね年代が下がるにつれて割合が高く、30～39歳で3割弱（29.9%）と高くなっている。（図6-2-2）

図6-2-3 中学生に必要な教育－ライフステージ別（上位10項目）



ライフステージ別にみると、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で6割近く（58.8%）と高くなっている。また、「善悪の判断など規範意識」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で5割強（53.4%）と高く、「生き方や進路について考える力」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で4割強（41.2%）と高くなっている。（図6-2-3）

図6-2-4 中学生に必要な教育—居住地域別（上位10項目）



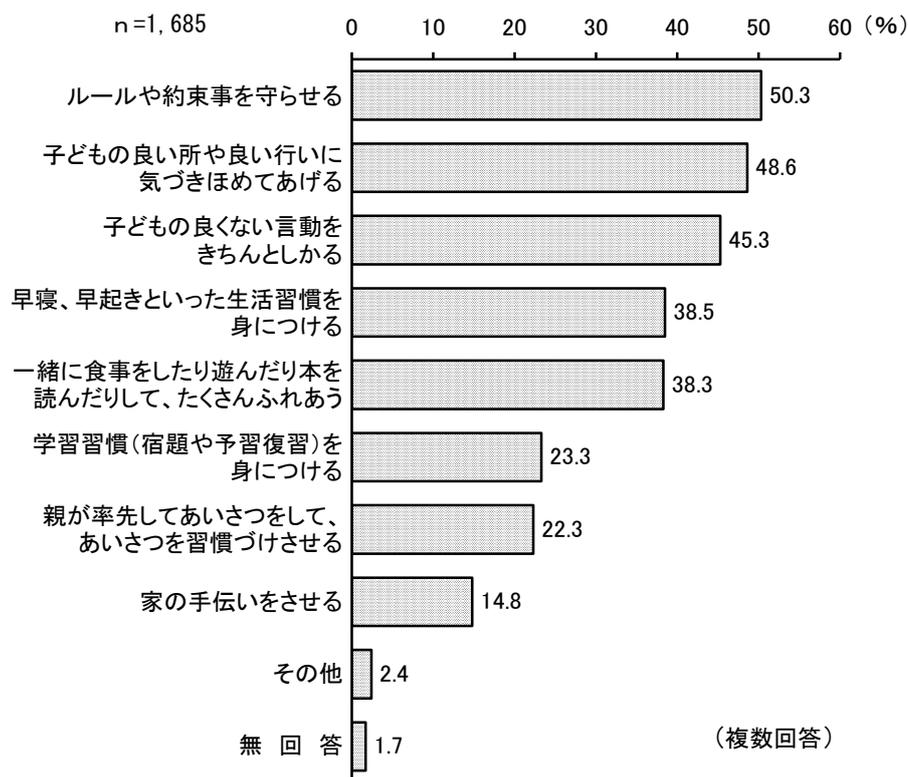
居住地域別にみると、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」、「善悪の判断など規範意識」、「基礎的な学力」はどの地域もおおむね4割前後となっている。(図6-2-4)

6-3 家庭教育で重要なこと

◇「ルールや約束事を守らせる」が約5割

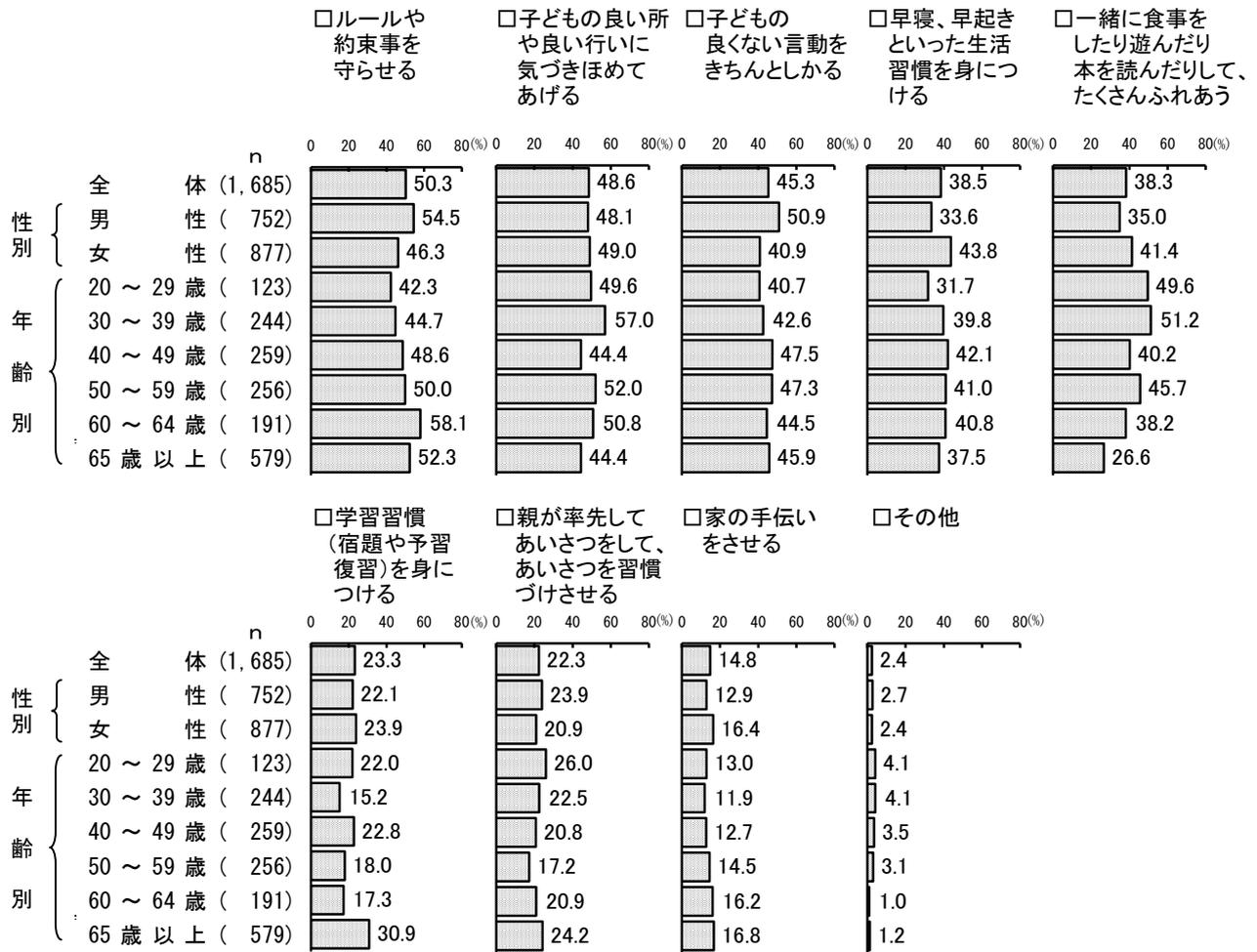
問12 あなたは、家庭教育においてどのようなことが重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを選び○をつけて下さい。(○は3つまで)

図6-3-1



家庭教育において重要なことを聞いたところ、「ルールや約束事を守らせる」が約5割(50.3%)と最も高く、次いで「子どもの良い所や良い行いに気づきほめてあげる」(48.6%)、「子どもの良くない言動をきちんとしかる」(45.3%)、「早寝、早起きといった生活習慣を身につける」(38.5%)、「一緒に食事をしたり遊んだり本を読んだりして、たくさんふれあう」(38.3%)と続いている。(図6-3-1)

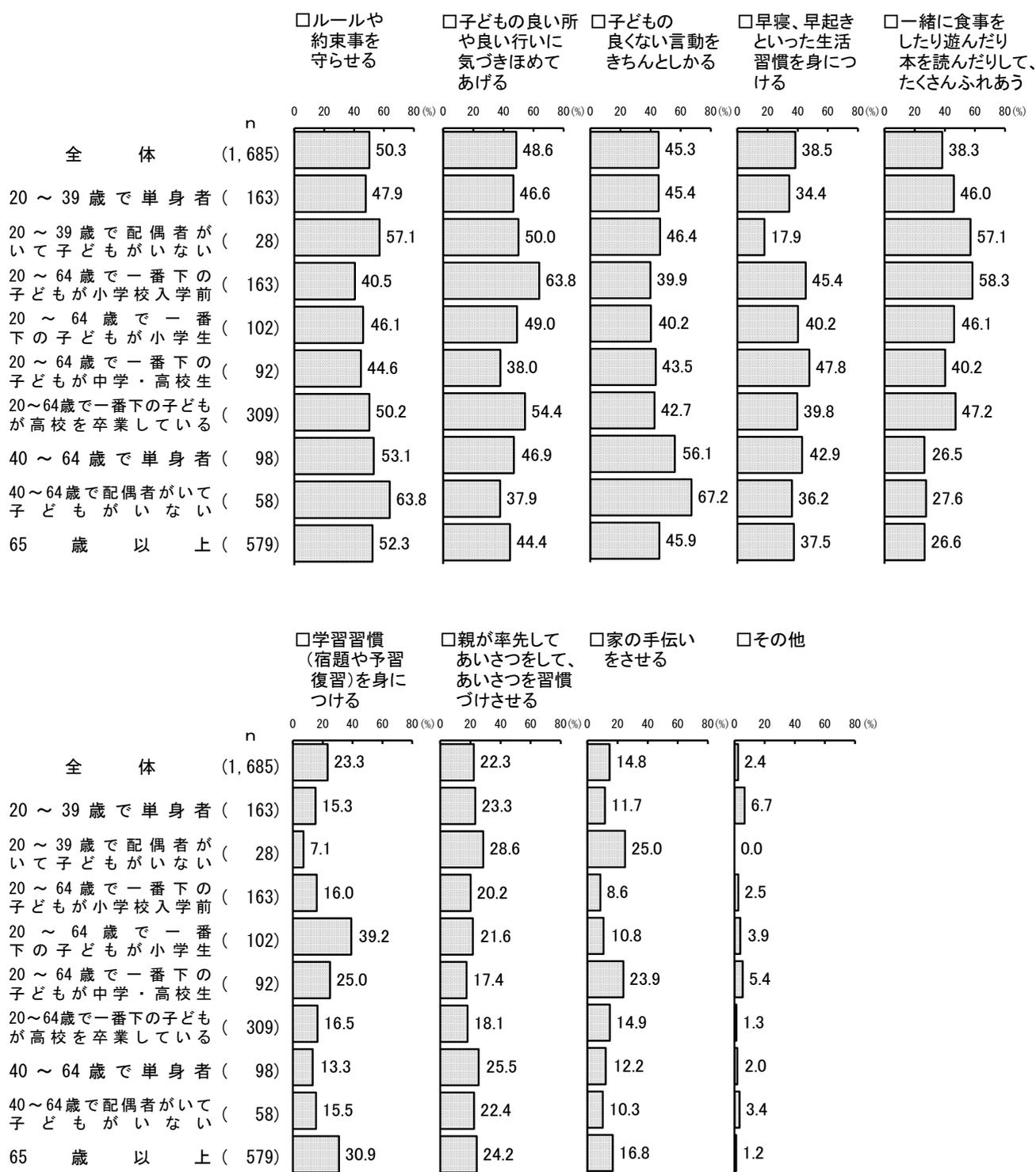
図6-3-2 家庭教育で重要なこと—性別・年齢別



性別にみると、「子どもの良くない言動をきちんとしかる」は10.0ポイント、「ルールや約束事を守らせる」は8.2ポイント、それぞれ男性が高くなっている。一方、「早寝、早起きといった生活習慣を身につける」は女性が10.2ポイント高くなっている。

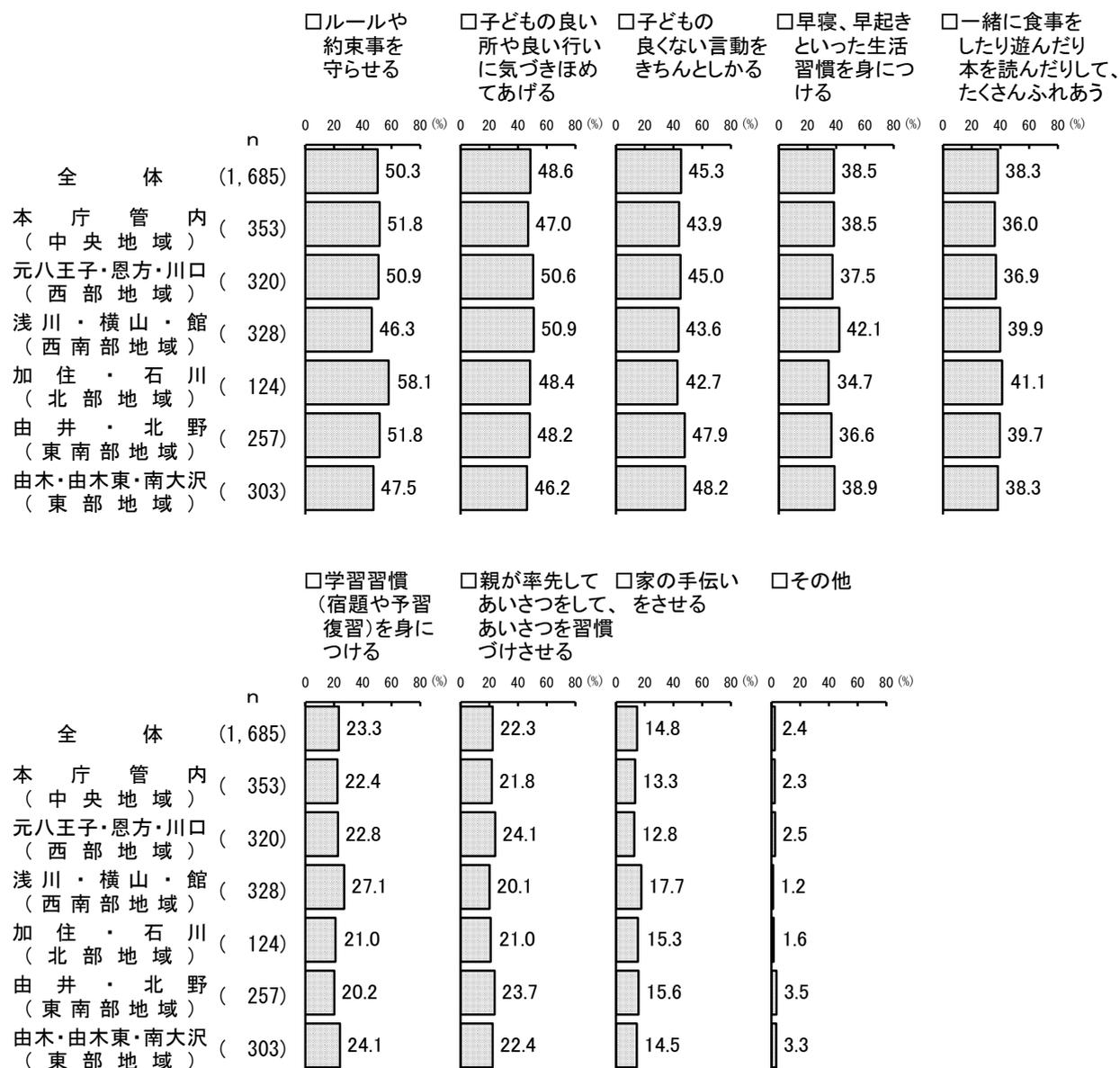
年齢別にみると、「ルールや約束事を守らせる」は60～64歳で6割近く（58.1%）と高くなっている。また、「子どもの良い所や良い行いに気づきほめてあげる」は30～39歳で6割近く（57.0%）と高くなっている。（図6-3-2）

図6-3-3 家庭教育で重要なこと—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「子どもの良くない言動をきちんとしかる」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で7割近く（67.2%）と高くなっている。また、「子どもの良い所や良い行いに気づきほめてあげる」は“20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前”で6割強（63.8%）と高く、「学習習慣（宿題や予習復習）を身につける」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で4割弱（39.2%）と高くなっている。（図6-3-3）

図6-3-4 家庭教育で重要なこと—居住地域別



居住地域別にみると、「ルールや約束事を守らせる」は加住・石川（北部地域）で6割近く（58.1%）と高くなっている。また、「早寝、早起きといった生活習慣を身につける」は浅川・横山・館（西南部地域）で4割強（42.1%）と高くなっている。（図6-3-4）

6-4 小中一貫教育の周知度

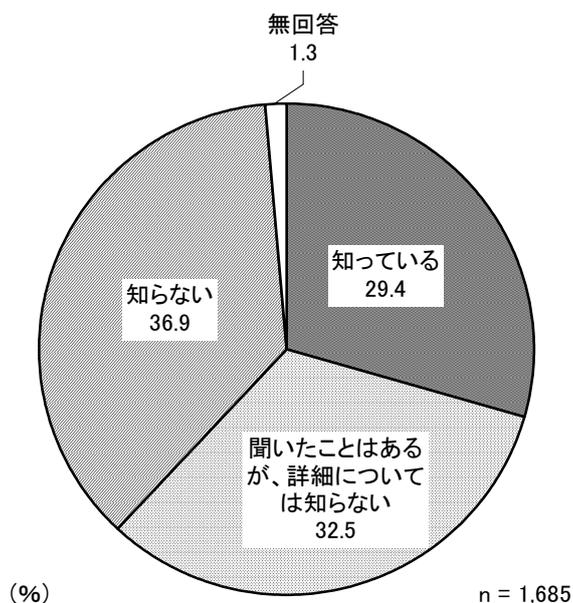
◇《知っている》が6割強

問13 あなたは、市が取り組んでいる小中一貫教育についてご存知ですか。あてはまるものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

※小中一貫教育とは・・・

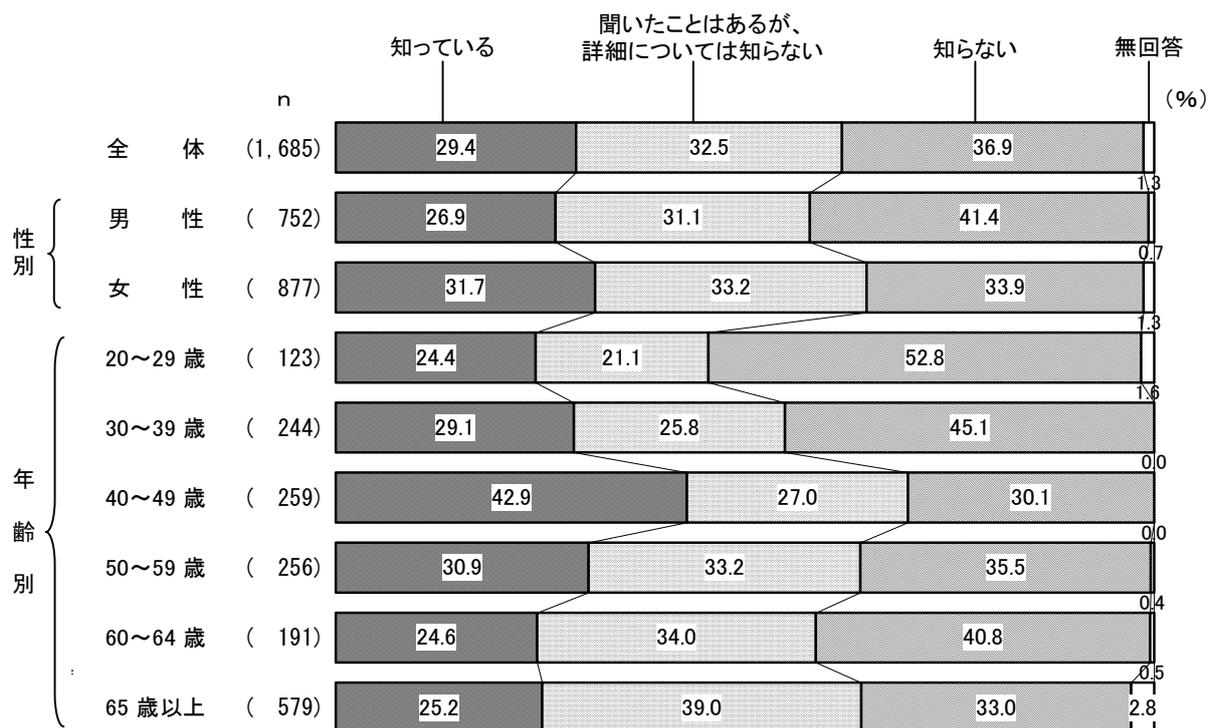
義務教育9年間を見通した教育活動を通して、児童・生徒の学力向上を図り、社会性・人間性豊かな児童・生徒の育成を目指す取り組みで、市内すべての小・中学校で取り組んでいます。小学生が中学校の部活動を体験したり、中学校教員が小学生に授業したり、小学校教員と中学校教員と一緒に授業したりしています。

図6-4-1



市が取り組んでいる小中一貫教育について知っているかを聞いたところ、「聞いたことはあるが詳細については知らない」が3割強（32.5%）と高く、これに「知っている」（29.4%）を合わせた《知っている》は6割強（61.9%）となっている。一方、「知らない」は4割近く（36.9%）となっている。（図6-4-1）

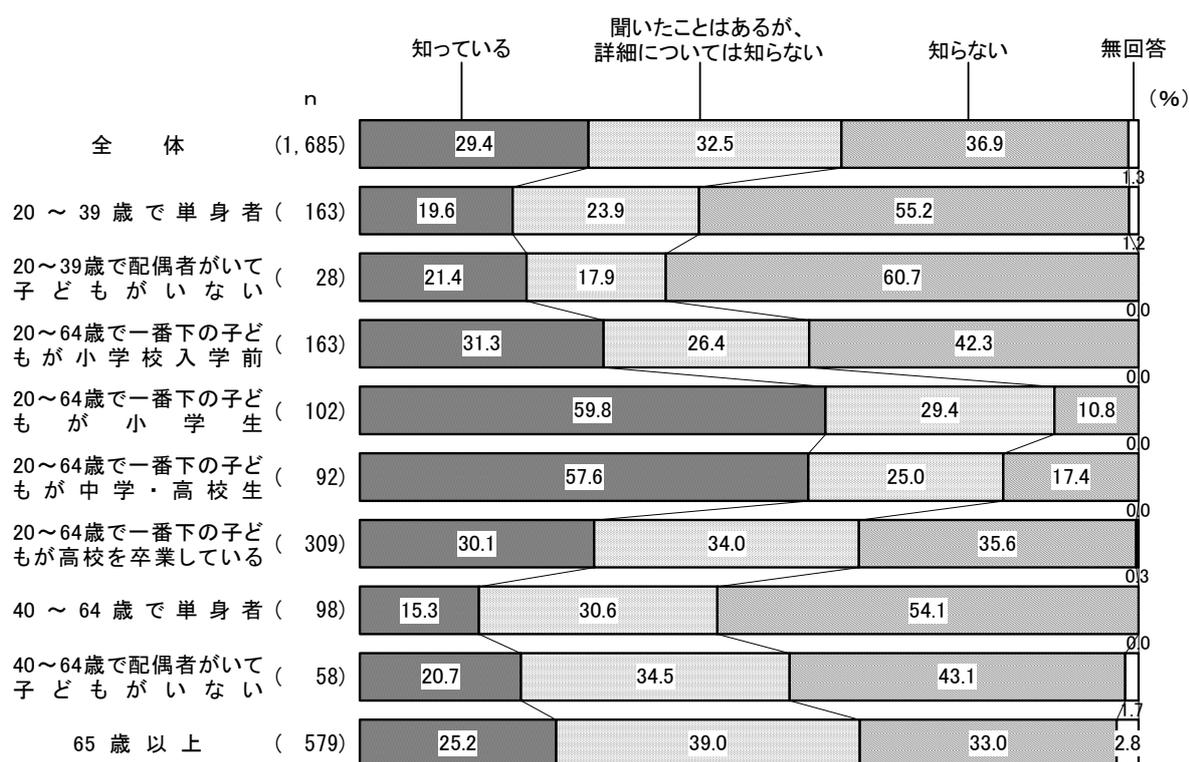
図6-4-2 小中一貫教育の周知度—性別・年齢別



性別にみると、「知らない」は男性が7.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っている」は40~49歳で7割弱（69.9%）と高くなっている。一方、「知らない」は20~29歳で5割強（52.8%）と高くなっている。（図6-4-2）

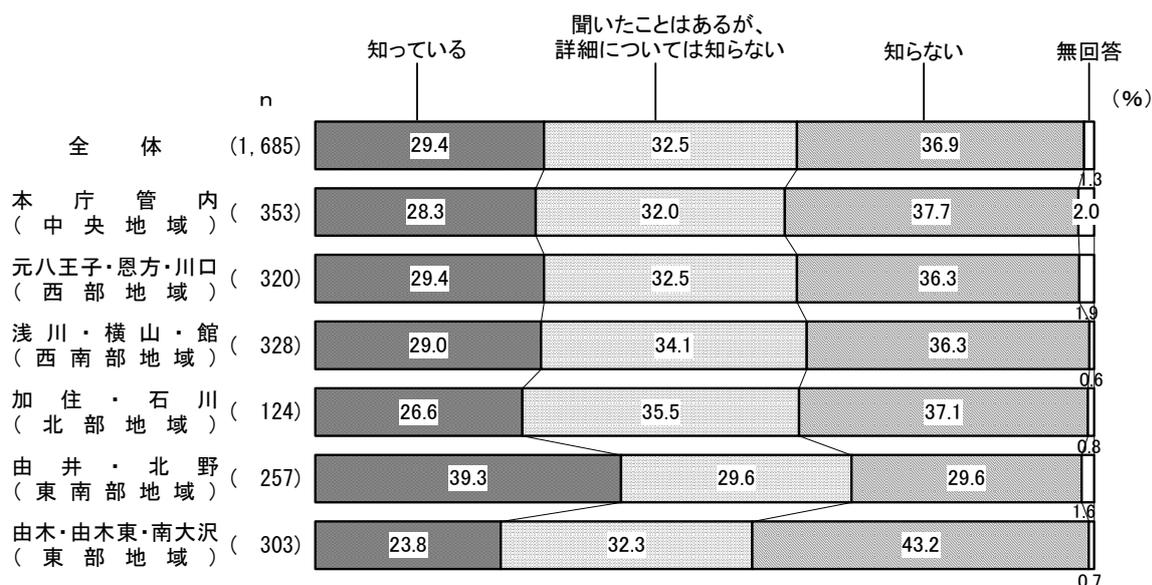
図6-4-3 小中一貫教育の周知度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《知っている》は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”、“20～64歳で一番下の子どもが中学・高校生”で8割以上と高くなっている。一方、「知らない」は“20～39歳で配偶者がいて子どもがいない”で約6割（60.7%）と高くなっている。

(図6-4-3)

図6-4-4 小中一貫教育の周知度－居住地域別



居住地域別にみると、《知っている》は由井・北野（東南部地域）で7割近く（68.9%）と高くなっている。一方、「知らない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で4割強（43.2%）と高くなっている。（図6-4-4）

6-5 学校選択制の周知度

◇ 《知っている》が7割台半ば

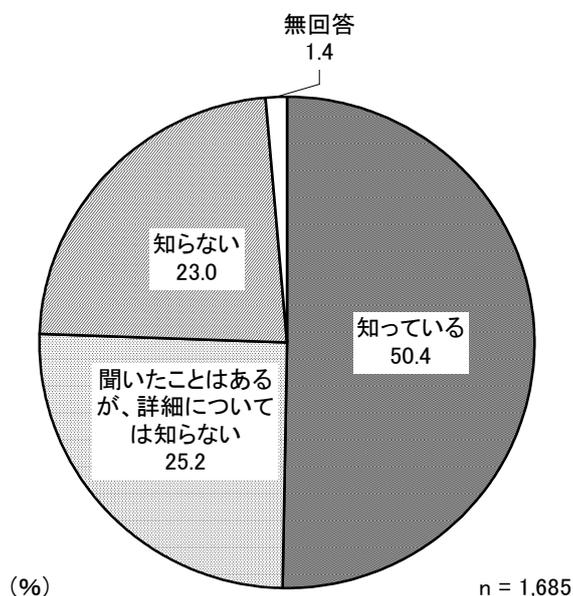
問14 あなたは、小・中学校に入学する際、子どもに適した小・中学校を選ぶことができる機会があること（学校選択制）をご存知ですか。あてはまるものに○をつけて下さい。

（○は1つだけ）

※学校選択制とは・・・

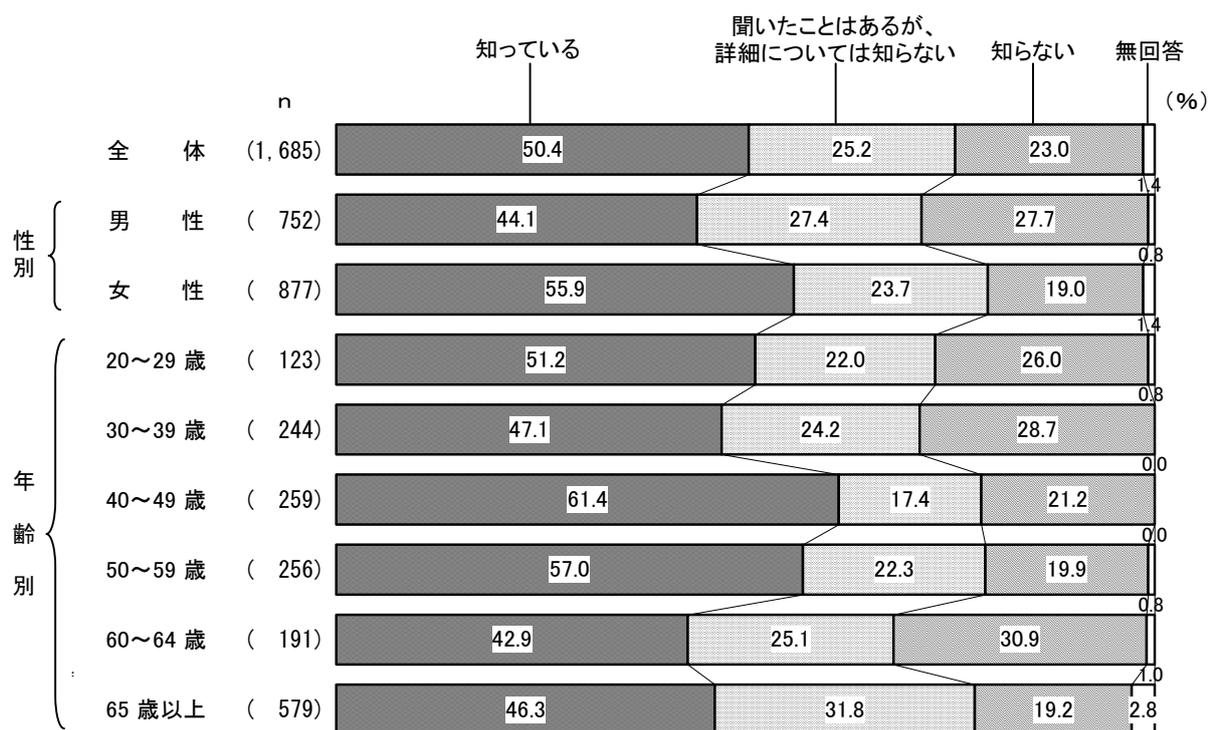
小・中学校に入学する際、小学校は住所により指定されている学校とその隣接校から、中学校は市内すべての市立学校から保護者や児童・生徒が希望する学校を選ぶことができる制度です。

図6-5-1



学校選択制について知っているかを聞いたところ、「知っている」が約5割（50.4%）で最も高く、これに「聞いたことはあるが、詳細については知らない」（25.2%）を合わせた《知っている》は7割台半ば（75.6%）となっている。一方、「知らない」は2割強（23.0%）となっている。（図6-5-1）

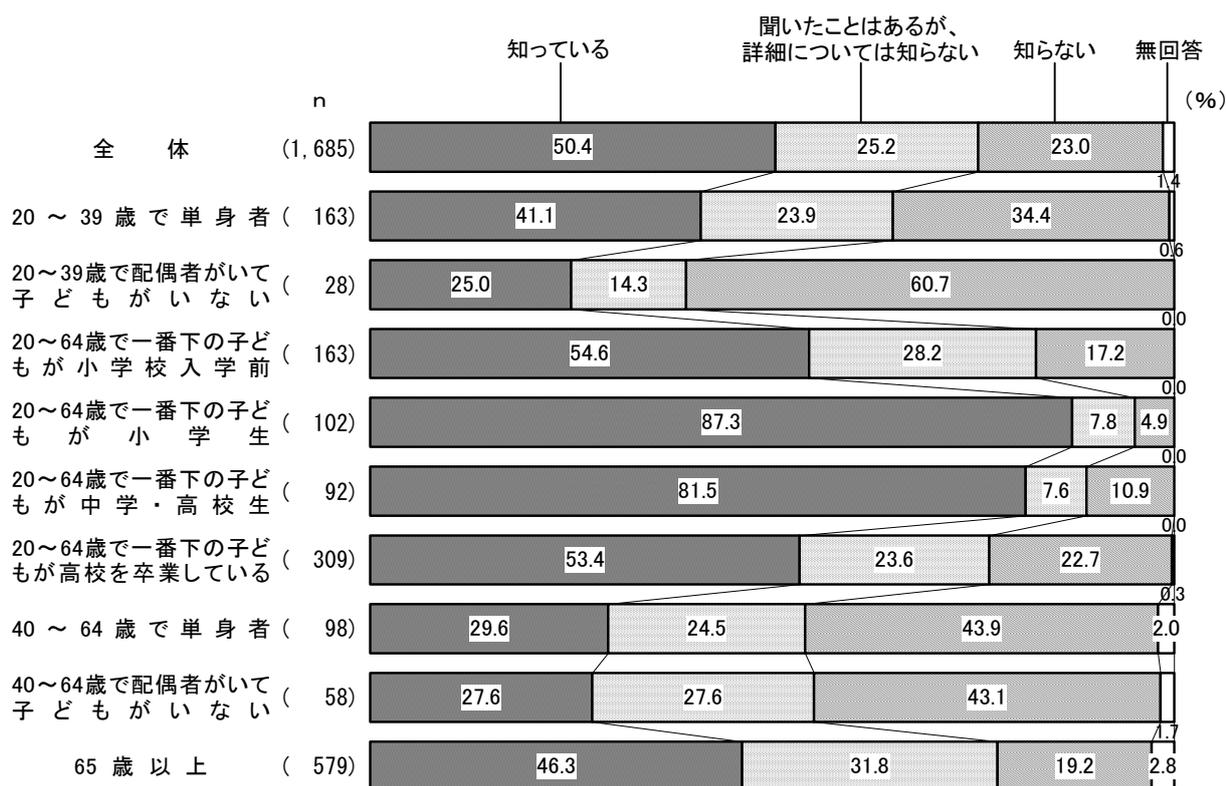
図6-5-2 学校選択制の周知度—性別・年齢別



性別にみると、「知っている」は女性が11.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っている」は、40~49歳で6割強（61.4%）と高くなっている。一方、「知らない」は60~64歳で約3割（30.9%）と高くなっている。（図6-5-2）

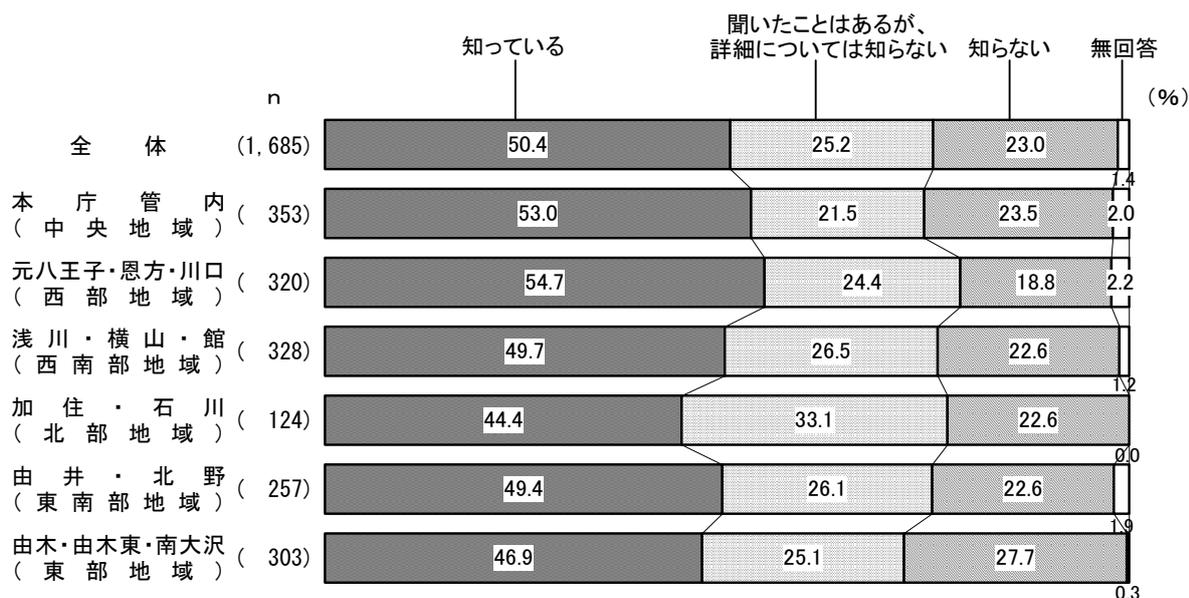
図6-5-3 学校選択制の周知度—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「知っている」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”、“20～64歳で一番下の子どもが中学・高校生”で8割台と高くなっている。一方、「知らない」は“20～39歳で配偶者がいて子どもがいない”で約6割（60.7%）と高くなっている。

(図6-5-3)

図6-5-4 学校選択制の周知度—居住地域別



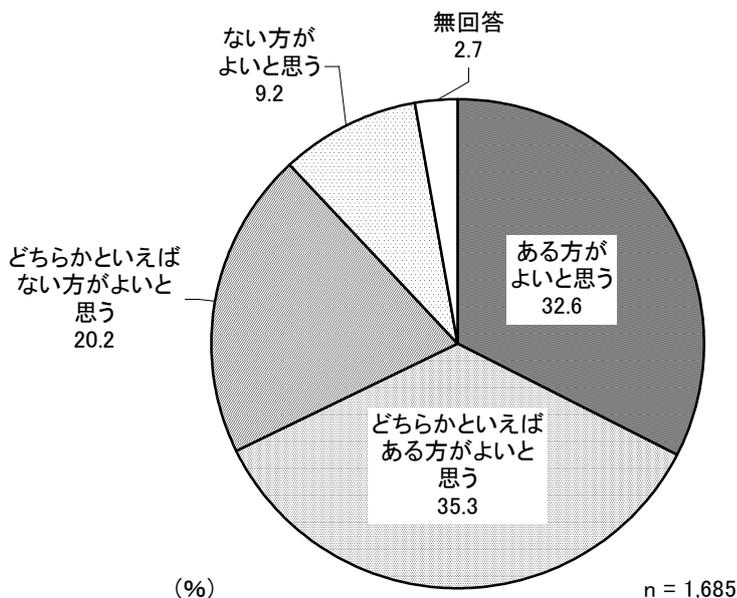
居住地域別にみると、「知っている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で5割台半ば（54.7%）と高くなっている。一方、「知らない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で3割近く（27.7%）と高くなっている。（図6-5-4）

6-6 小学校の学校選択制の必要性

◇《ある方がよいと思う》が7割近く

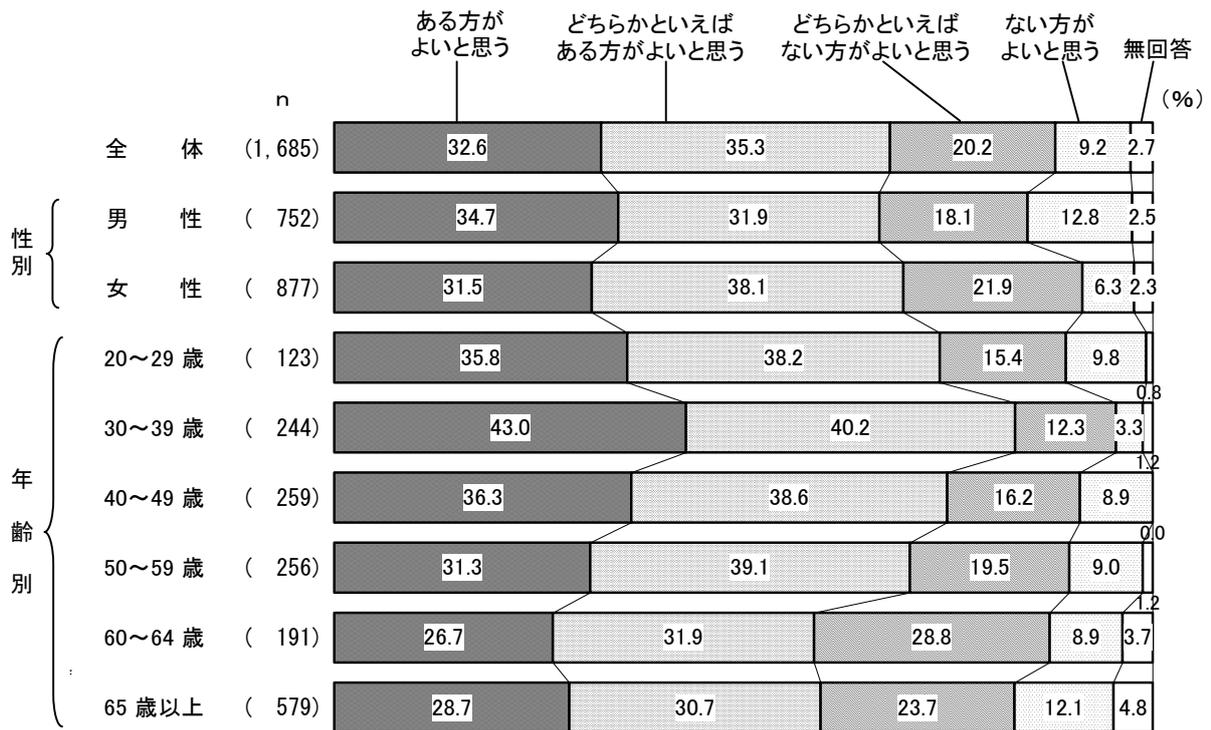
問15 あなたは、小学校に入学する際、学校選択制で小学校を選ぶことができる機会があることについてどう思いますか。あてはまるものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

図6-6-1



小学校の学校選択制の必要性について聞いたところ、「どちらかといえばある方がよいと思う」が3割台半ば（35.3%）と最も高く、これに「ある方がよいと思う」（32.6%）を合わせた《ある方がよいと思う》は7割近く（67.9%）となっている。一方、「どちらかといえばない方がよいと思う」（20.2%）と「ない方がよいと思う」（9.2%）を合わせた《ない方がよいと思う》は3割弱（29.4%）となっている。（図6-6-1）

図6-6-2 小学校の学校選択制の必要性—性別・年齢別

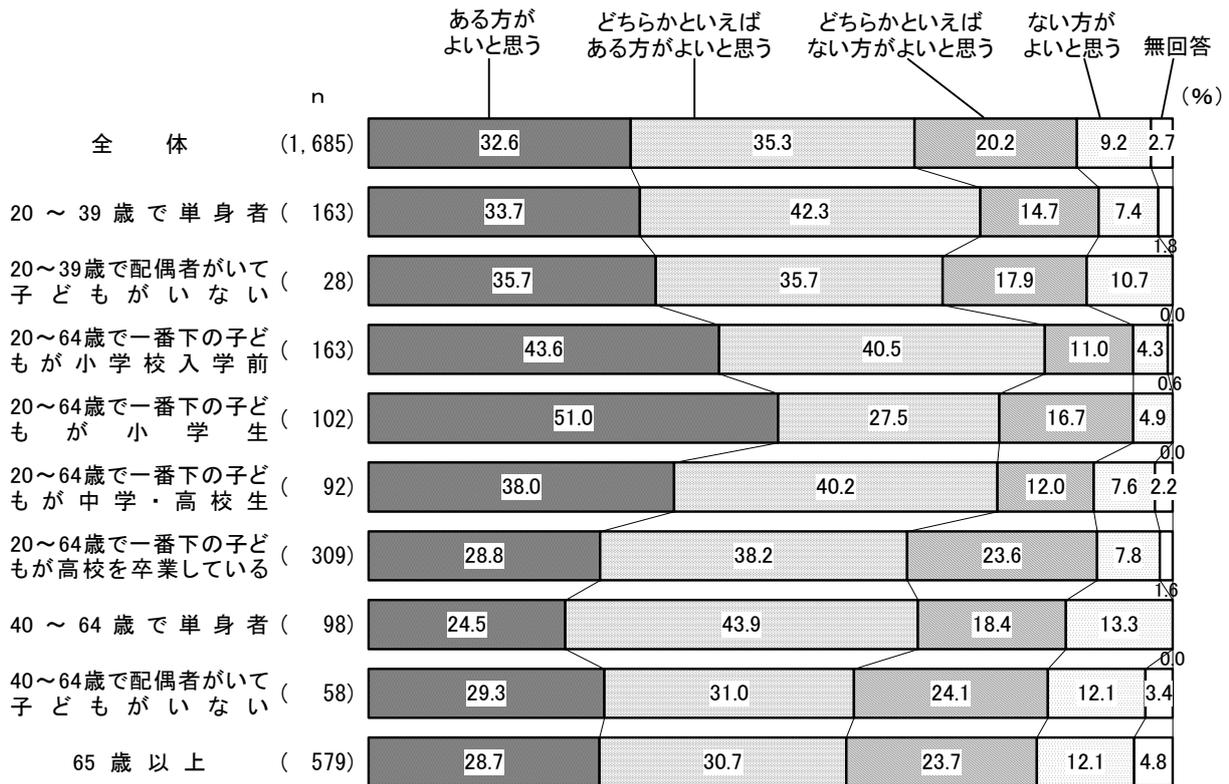


性別にみると、《ある方がよいと思う》は女性が3.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《ある方がよいと思う》は30~39歳で8割強（83.2%）と高くなっている。一方、《ない方がよいと思う》は60~64歳で4割近く（37.7%）と高くなっている。

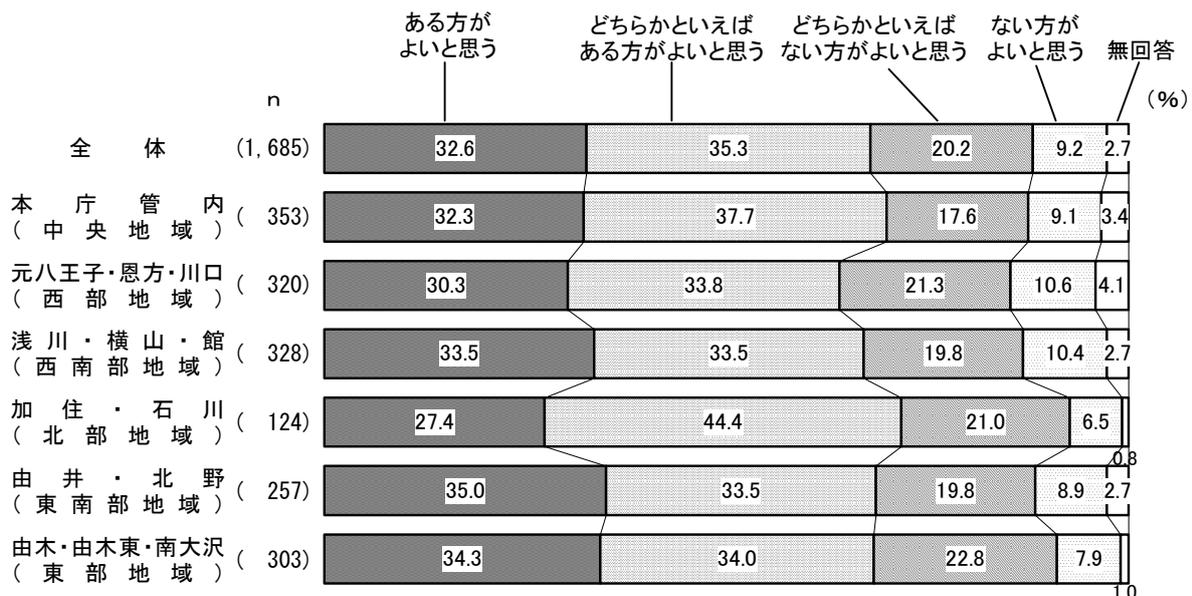
(図6-6-2)

図6-6-3 小学校の学校選択制の必要性－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、《ある方がよいと思う》は“20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前”で8割台半ば（84.1%）と高くなっている。一方、《ない方がよいと思う》は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で4割近く（36.2%）と高くなっている。（図6-6-3）

図6-6-4 小学校の学校選択制の必要性－居住地地域別



居住地地域別にみると、《ある方がよいと思う》は加住・石川（北部地域）で7割強（71.8%）と高くなっている。一方、《ない方がよいと思う》は元八王子・恩方・川口（西部地域）で3割強（31.9%）と高くなっている。（図6-6-4）

6-7 小学校の学校選択制が必要な理由

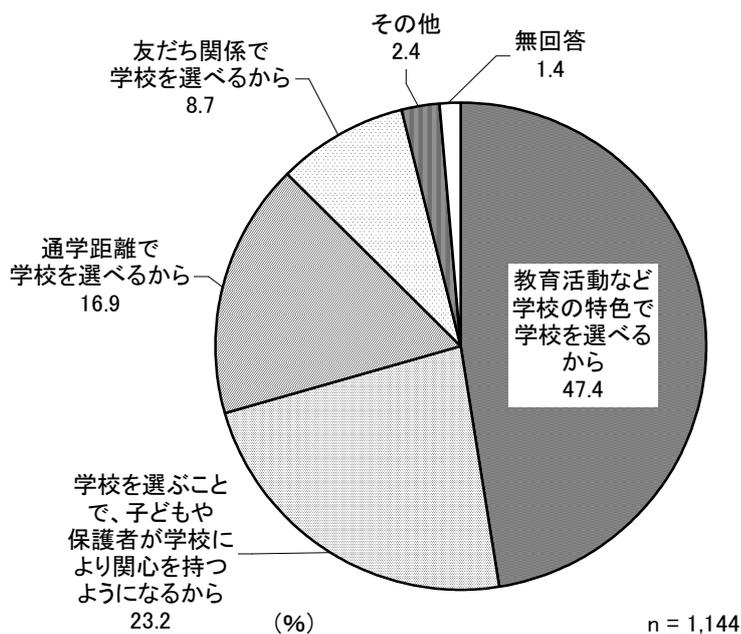
◇「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」が5割近く

(問15で、「ある方がよいと思う」または「どちらかといえばある方がよいと思う」とお答えの方に)

問15-1 その理由はどれですか。あなたの考えに最も近いものを選び○をつけて下さい。

(○は1つだけ)

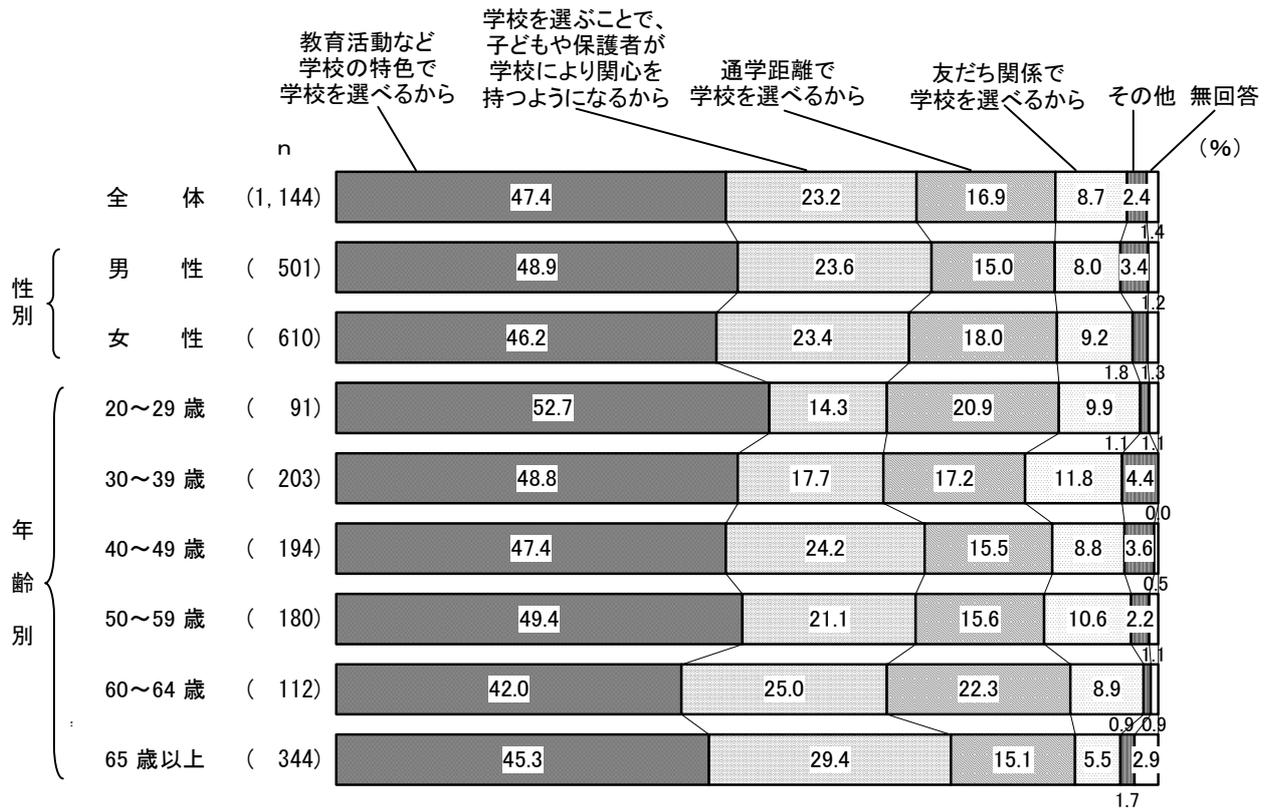
図6-7-1



小学校の学校選択制の必要性で「ある方がよいと思う」、「どちらかといえばある方がよいと思う」と答えた人(1,144人)に小学校の学校選択制が必要な理由を聞いたところ、「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」が5割近く(47.4%)と最も高く、次いで「学校を選ぶことで、子どもや保護者が学校により関心を持つようになるから」(23.2%)、「通学距離で学校を選べるから」(16.9%)、「友だち関係で学校を選べるから」(8.7%)と続いている。

(図6-7-1)

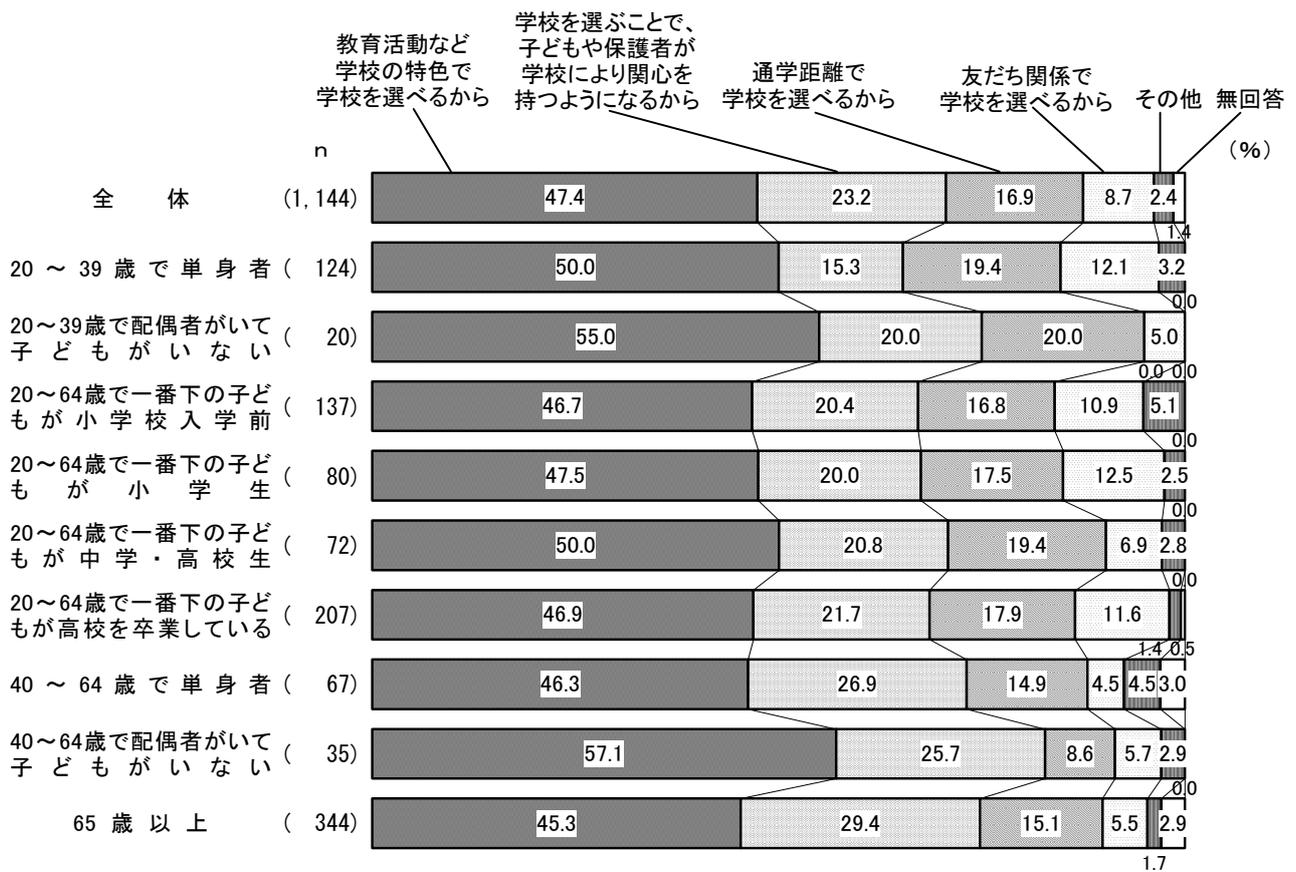
図6-7-2 小学校の学校選択制が必要な理由—性別・年齢別



性別にみると、「通学距離で学校を選べるから」は女性が3.0ポイント高くなっている。一方、「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」は男性が2.7ポイント高くなっている。

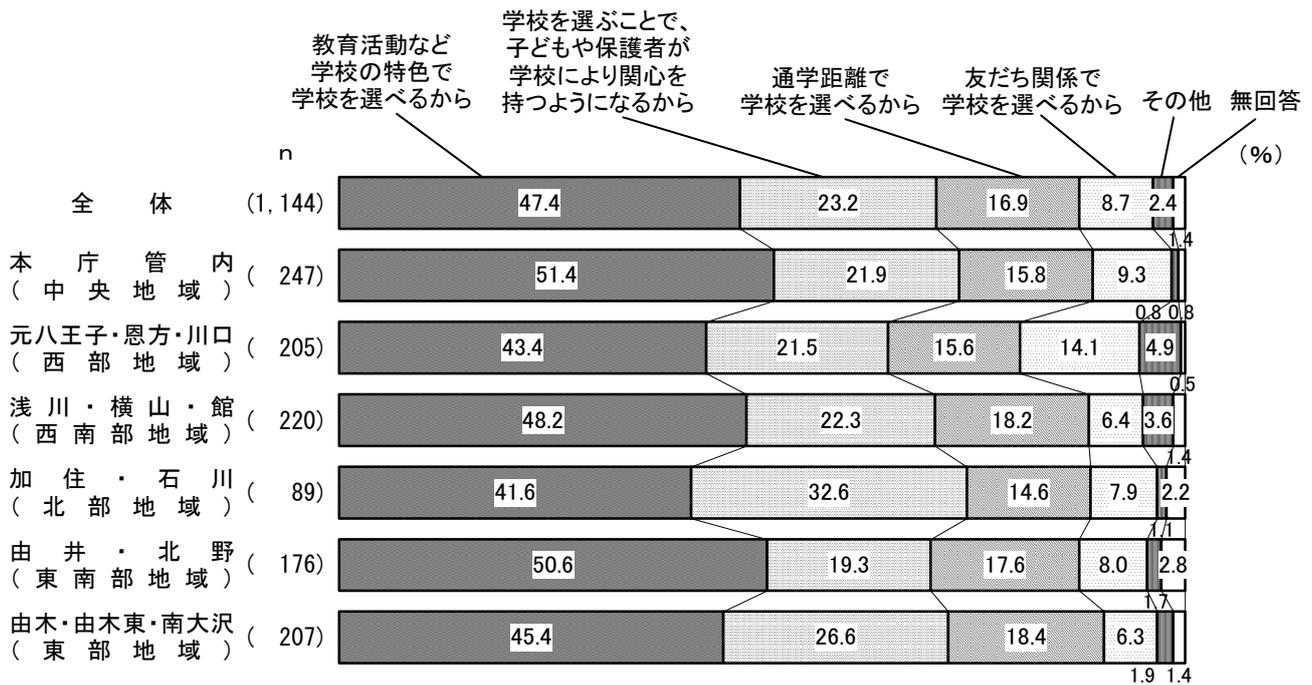
年齢別にみると、「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」は20~29歳で5割強(52.7%)と高くなっている。また、「学校を選ぶことで、子どもや保護者が学校により関心を持つようになるから」は65歳以上で3割弱(29.4%)と高く、「通学距離で学校を選べるから」は60~64歳で2割強(22.3%)と高くなっている。(図6-7-2)

図6-7-3 小学校の学校選択制が必要な理由—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で6割近く（57.1%）と高くなっている。また、「学校を選ぶことで、子どもや保護者が学校により関心を持つようになるから」は“65歳以上”で3割弱（29.4%）と高くなっている。（図6-7-3）

図6-7-4 小学校の学校選択制が必要な理由—居住地域別



居住地域別にみると、「学校を選ぶことで、子どもや保護者が学校により関心を持つようになるから」は加住・石川（北部地域）で3割強（32.6%）と高くなっている。（図6-7-4）

6-8 小学校の学校選択制が必要でない理由

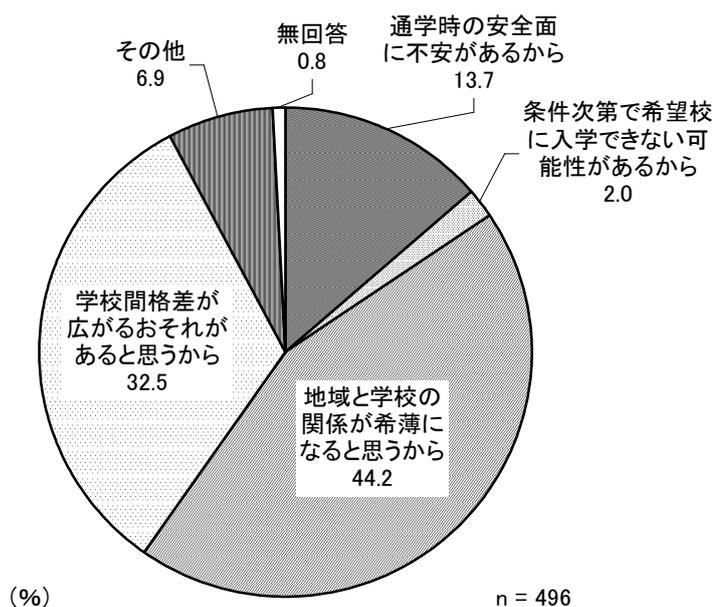
◇「地域と学校の関係が希薄になると思うから」が4割台半ば

(問15で、「どちらかといえばない方がよいと思う」または「ない方がよいと思う」とお答えの方に)

問15-2 その理由はどれですか。あなたの考えに最も近いものを選び○をつけて下さい。

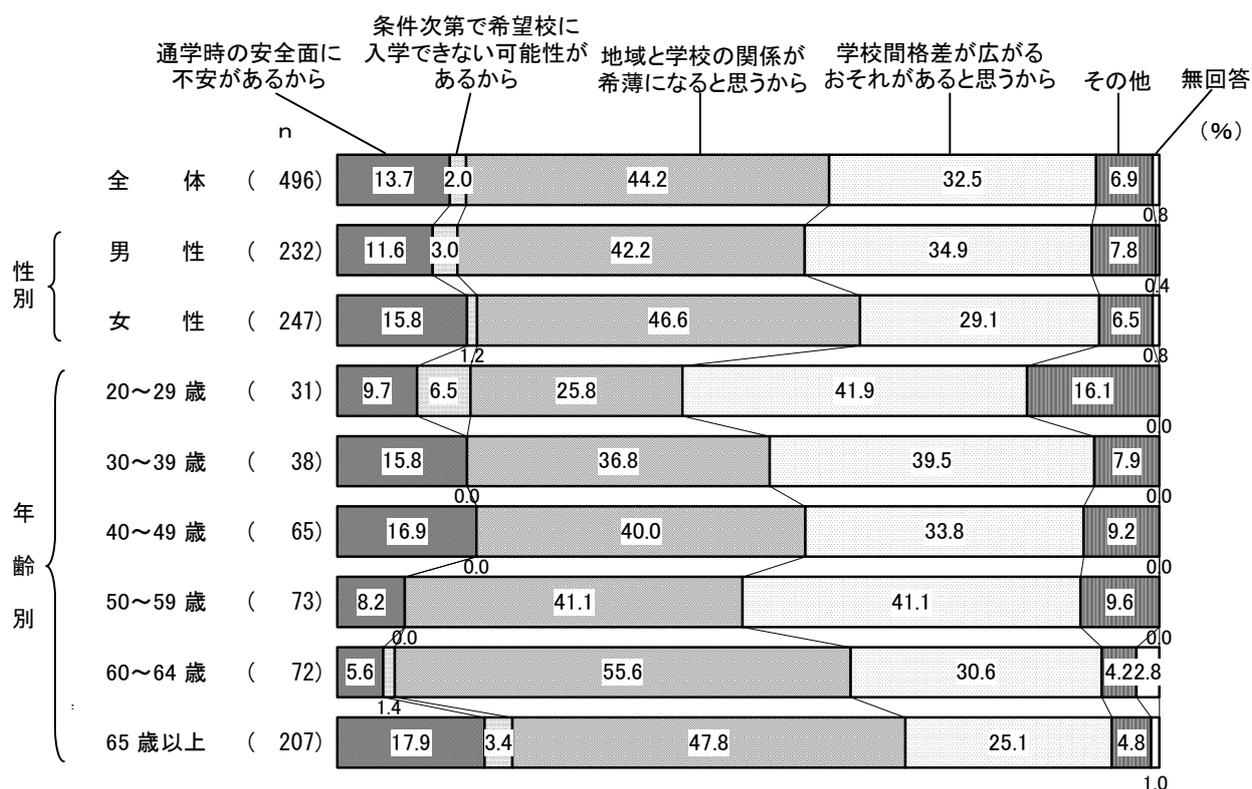
(○は1つだけ)

図6-8-1



小学校の学校選択制の必要性で「ない方がよいと思う」、「どちらかといえばない方がよいと思う」と答えた人(496人)に小学校の学校選択制が必要でない理由を聞いたところ、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」が4割台半ば(44.2%)と最も高く、次いで「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」(32.5%)、「通学時の安全面に不安があるから」(13.7%)、「条件次第で希望校に入学できない可能性があるから」(2.0%)と続いている。(図6-8-1)

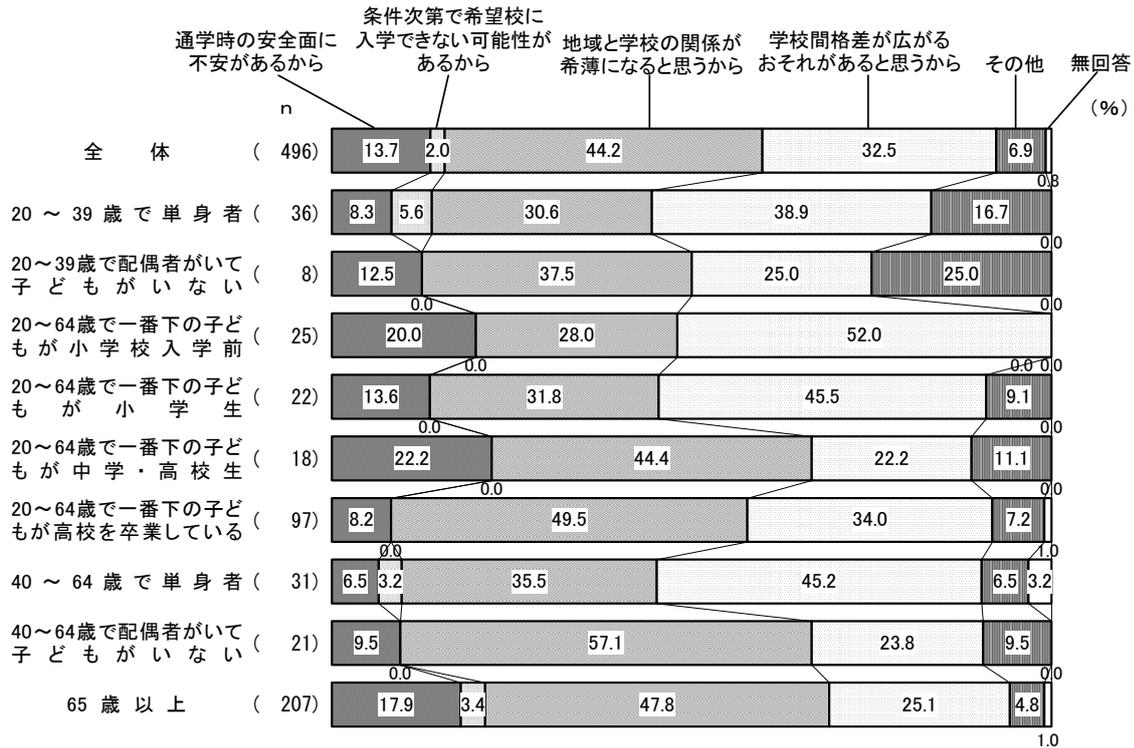
図6-8-2 小学校の学校選択制が必要でない理由—性別・年齢別



性別にみると、「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」は男性が5.8ポイント高くなっている。一方、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」は女性が4.4ポイント高くなっている。

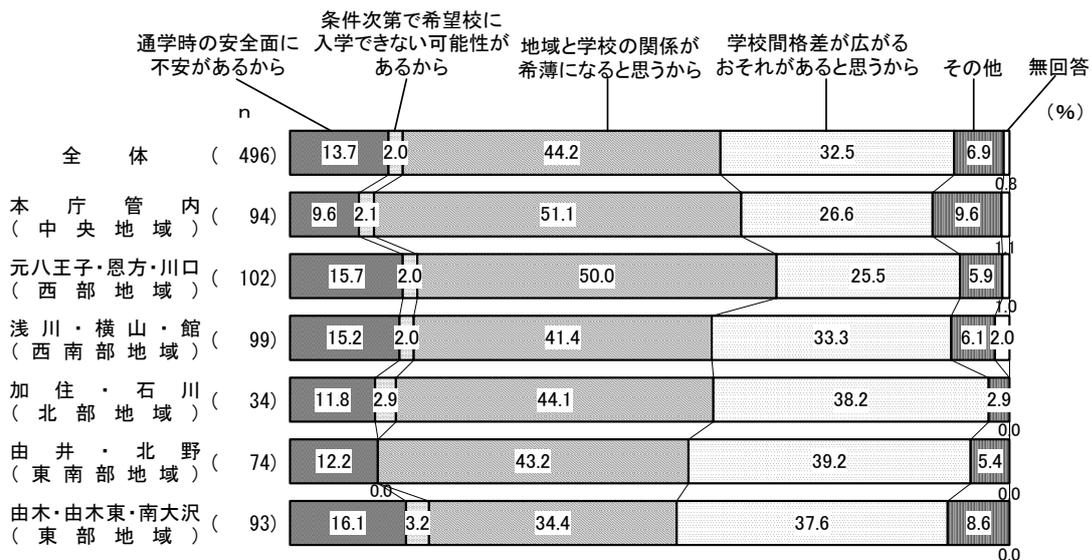
年齢別にみると、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」は60~64歳で5割台半ば（55.6%）と高くなっている。また、「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」は20~29歳（41.9%）と50~59歳（41.1%）で4割強と高くなっている。（図6-8-2）

図6-8-3 小学校の学校選択制が必要でない理由－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で6割近く（57.1%）と最も高く、次いで“20～64歳で一番下の子どもが高校を卒業している”（49.5%）、“65歳以上”（47.8%）と続いている。また、「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」は“20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前”で5割強（52.0%）と高くなっている。（図6-8-3）

図6-8-4 小学校の学校選択制が必要でない理由－居住地域別



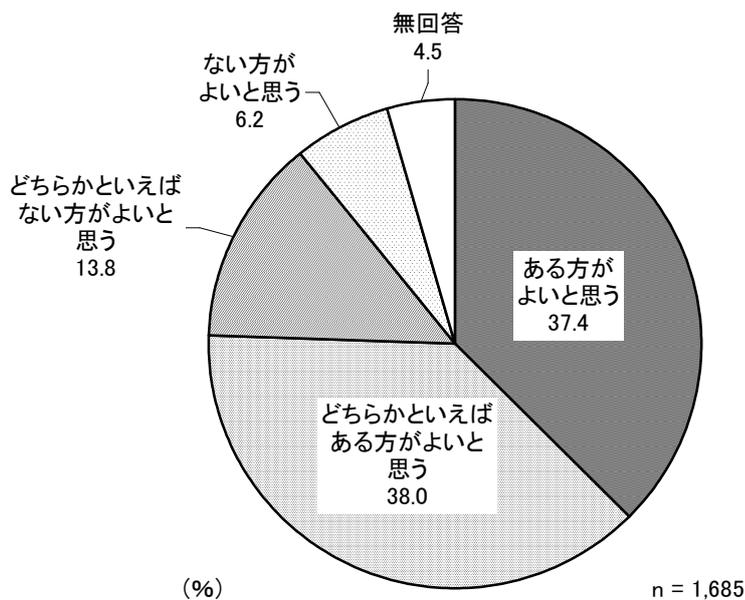
居住地域別にみると、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」は本庁管内（中央地域）で5割強（51.1%）、元八王子・恩方・川口（西部地域）で5割（50.0%）と高くなっている。（図6-8-4）

6-9 中学校の学校選択制の必要性

◇《ある方がよいと思う》が7割台半ば

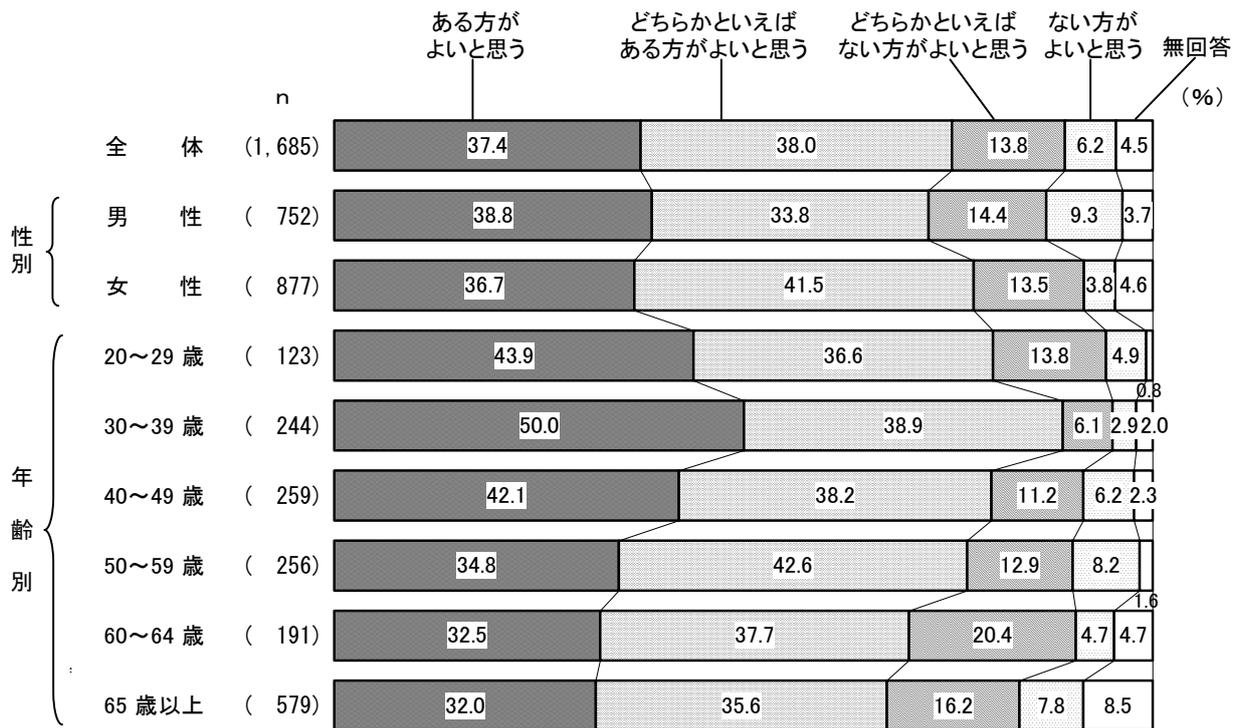
問16 あなたは、中学校に入学する際、学校選択制で中学校を選ぶことができる機会があることについてどう思いますか。あてはまるものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

図6-9-1



中学校の学校選択制の必要性について聞いたところ、「どちらかといえばある方がよいと思う」が4割近く（38.0%）と最も高く、これに「ある方がよいと思う」（37.4%）を合わせた《ある方がよいと思う》は7割台半ば（75.4%）となっている。一方、「どちらかといえばない方がよいと思う」（13.8%）と「ない方がよいと思う」（6.2%）を合わせた《ない方がよいと思う》は2割（20.0%）となっている。（図6-9-1）

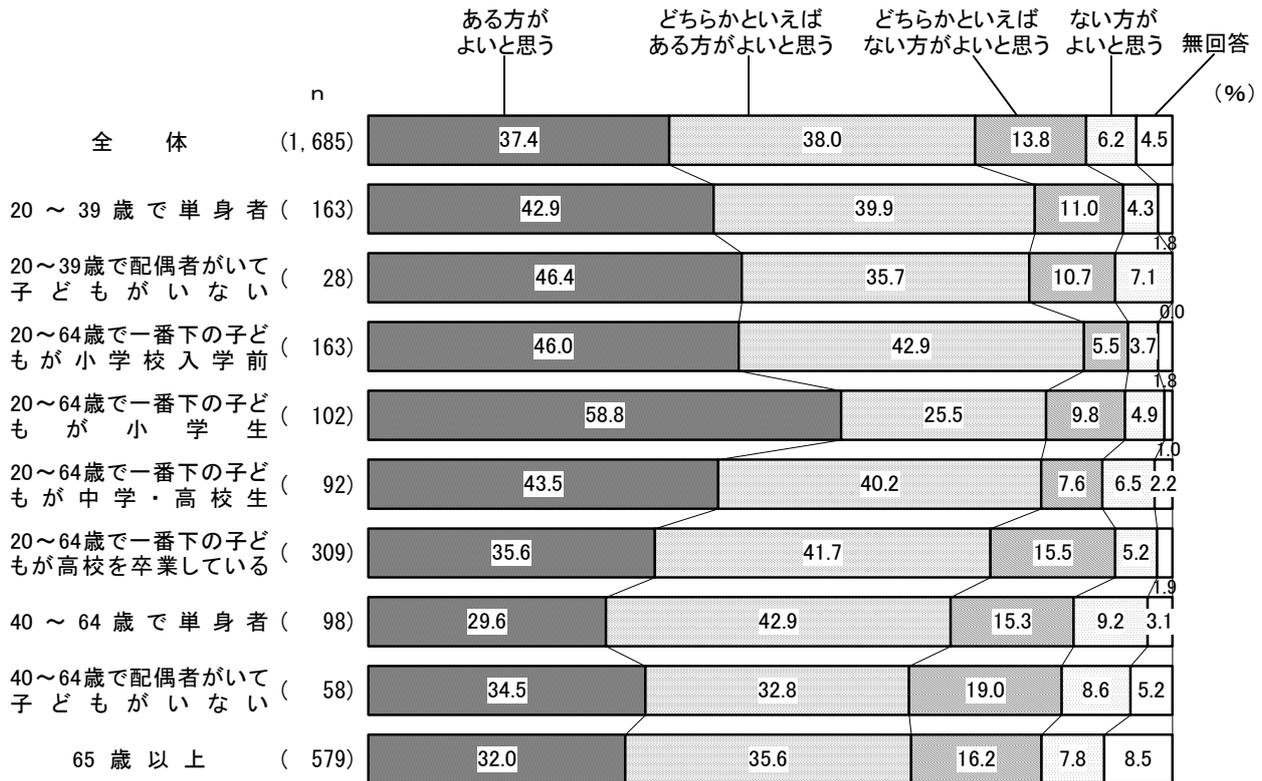
図6-9-2 中学校の学校選択制の必要性—性別・年齢別



性別にみると、《ある方がよいと思う》は女性が5.6ポイント高くなっている。

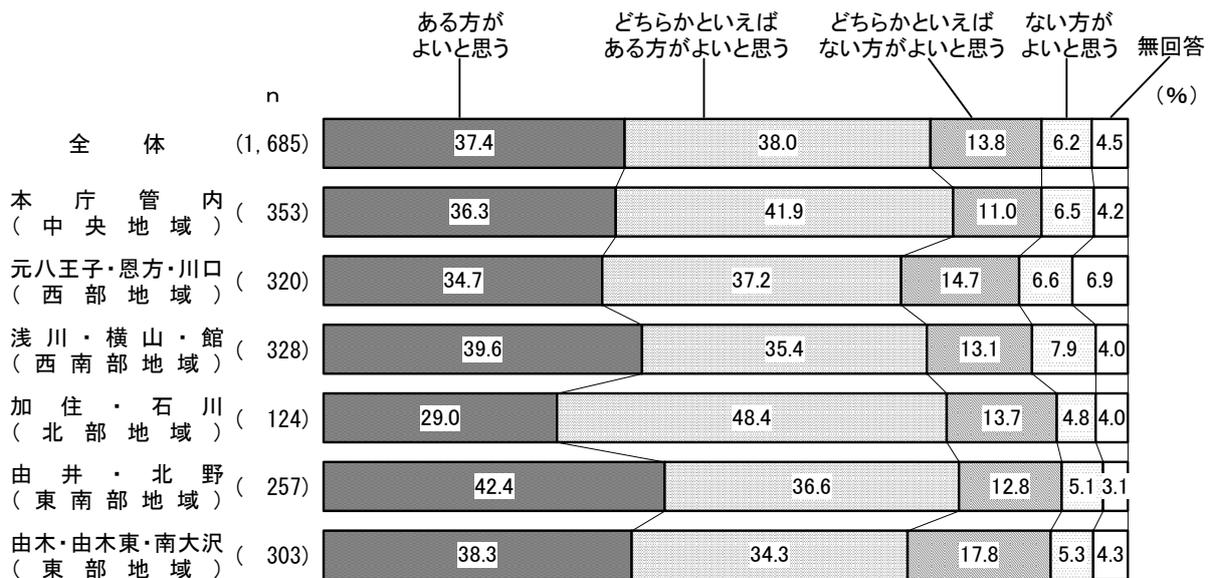
年齢別にみると、《ある方がよいと思う》は30~39歳で9割近く（88.9%）と高くなっている。一方、《ない方がよいと思う》は60~64歳（25.1%）と65歳以上（24.0%）で2割台半ばと高くなっている。（図6-9-2）

図6-9-3 中学校の学校選択制の必要性－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「ある方がよいと思う」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で6割近く（58.8%）と高くなっている。一方、「ない方がよいと思う」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で3割近く（27.6%）と高くなっている。（図6-9-3）

図6-9-4 中学校の学校選択制の必要性－居住地地域別



居住地地域別にみると、「ある方がよいと思う」は由井・北野（東南部地域）で4割強（42.4%）と高くなっている。（図6-9-4）

6-10 中学校の学校選択制が必要な理由

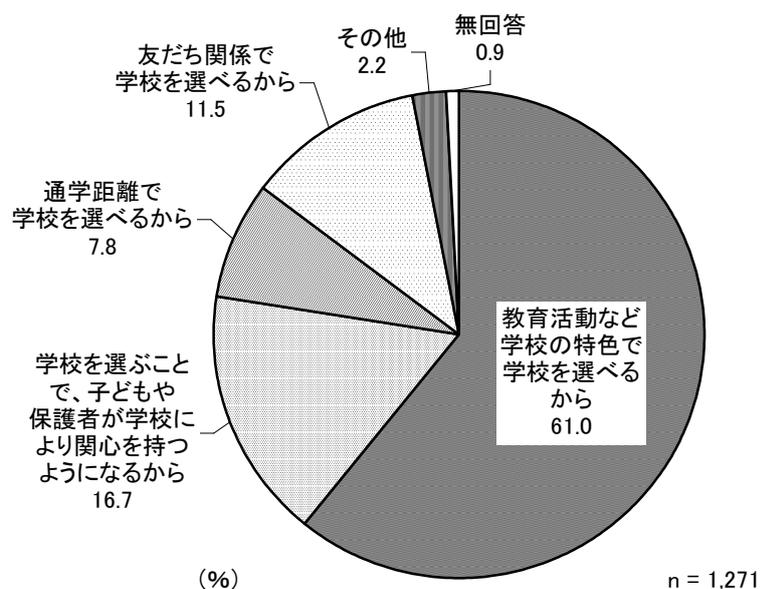
◇「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」が6割強

(問16で、「ある方がよいと思う」または「どちらかといえばある方がよいと思う」とお答えの方に)

問16-1 その理由はどれですか。あなたの考えに最も近いものを選び○をつけて下さい。

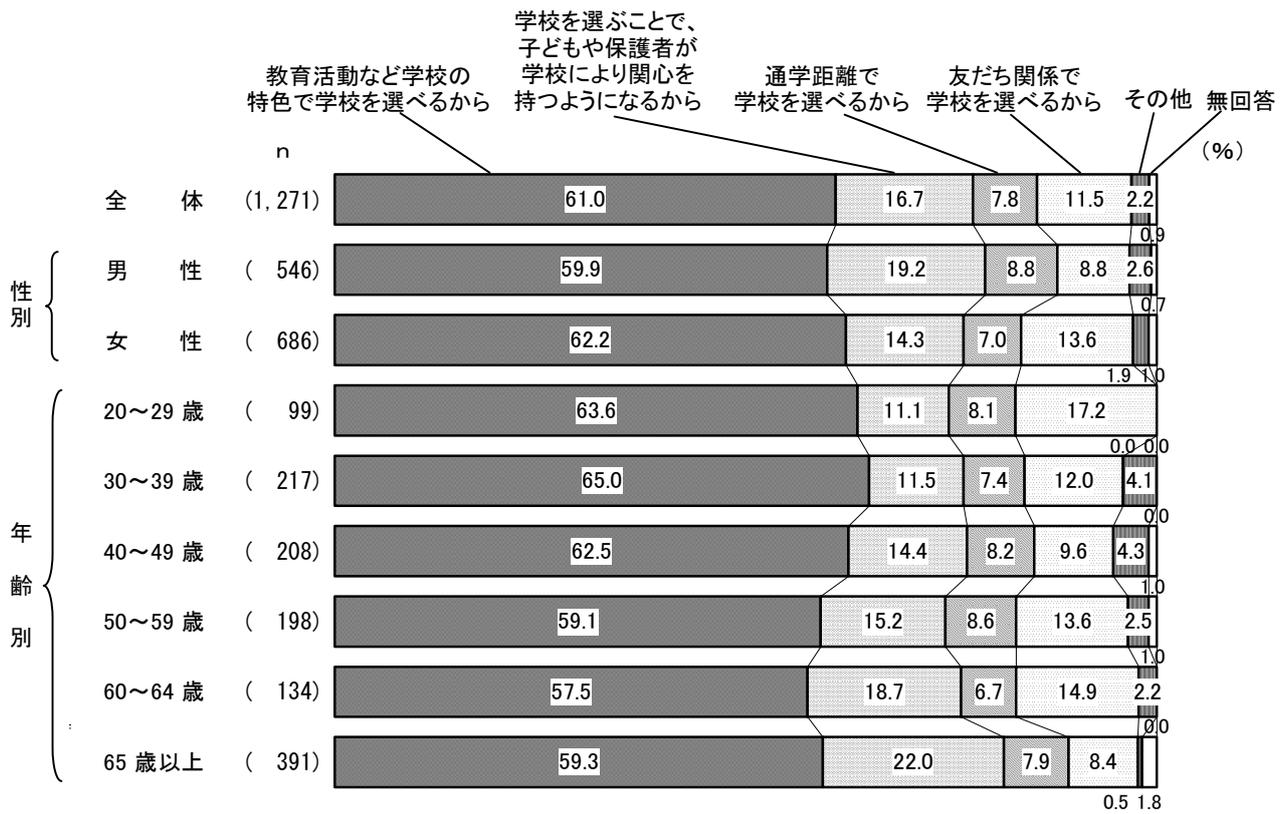
(○は1つだけ)

図6-10-1



中学校の学校選択制の必要性で「ある方がよいと思う」、「どちらかといえばある方がよいと思う」と答えた人(1,271人)に中学校の学校選択制が必要な理由を聞いたところ、「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」が6割強(61.0%)と最も高く、次いで「学校を選ぶことで、子どもや保護者が学校により関心を持つようになるから」(16.7%)、「友だち関係で学校を選べるから」(11.5%)、「通学距離で学校を選べるから」(7.8%)と続いている。(図6-10-1)

図6-10-2 中学校の学校選択制が必要な理由—性別・年齢別

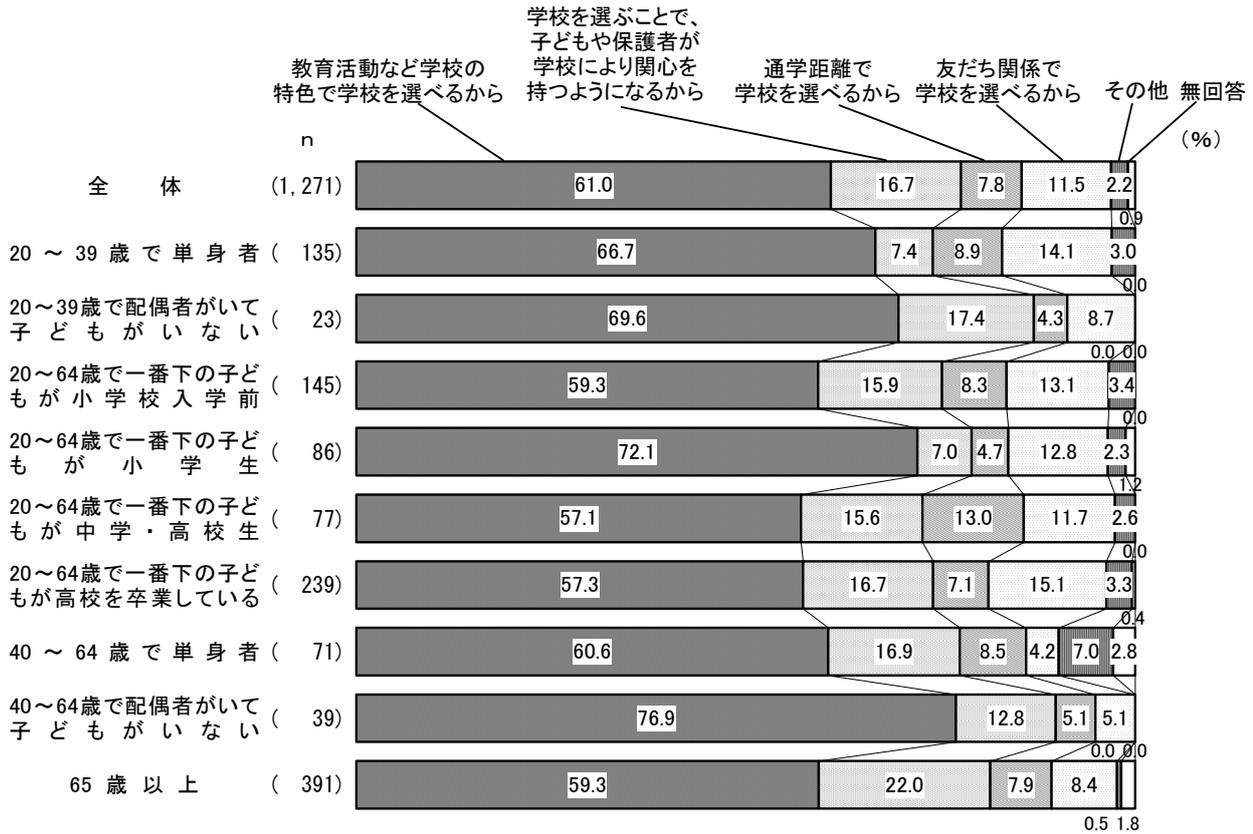


性別にみると、「学校を選ぶことで、子どもや保護者が学校により関心を持つようになるから」は男性が4.9ポイント高くなっている。一方、「友だち関係で学校を選べるから」は女性が4.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「学校を選ぶことで、子どもや保護者が学校により関心を持つようになるから」は年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で2割強（22.0%）となっている。また、「友だち関係で学校を選べるから」は20~29歳で2割近く（17.2%）となっている。

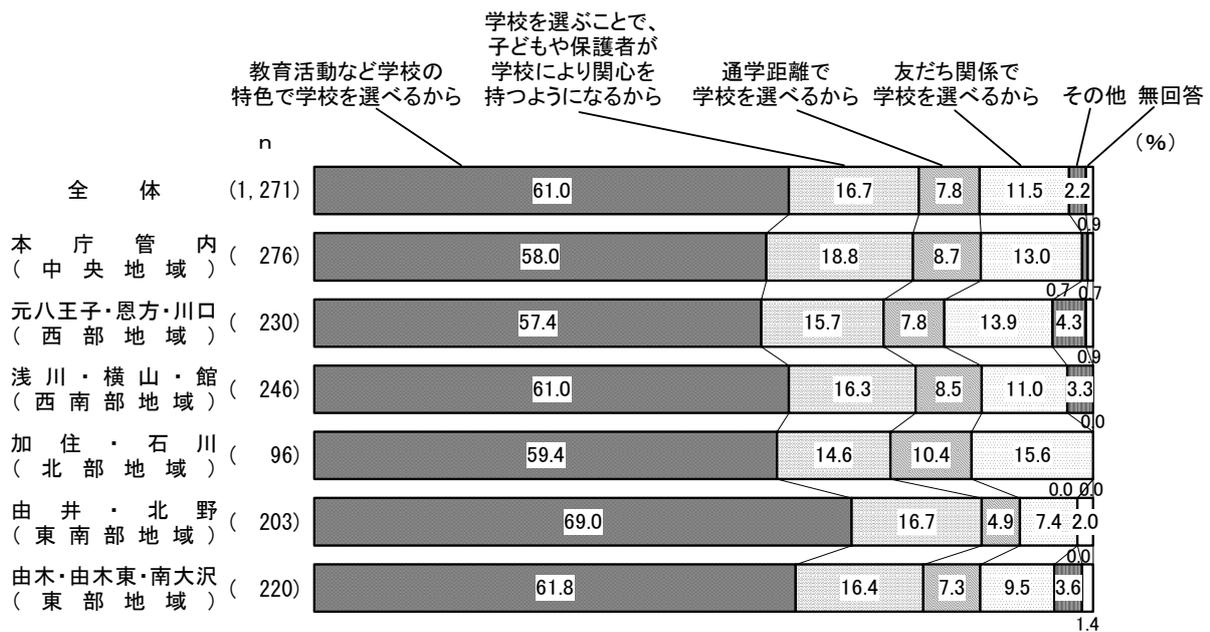
(図6-10-2)

図6-10-3 中学校の学校選択制が必要な理由－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で8割近く（76.9%）と最も高く、次いで“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で7割強（72.1%）となっている。（図6-10-3）

図6-10-4 中学校の学校選択制が必要な理由－居住地域別



居住地域別にみると、「教育活動など学校の特色で学校を選べるから」は由井・北野（東南部地域）で7割弱（69.0%）と高くなっている。（図6-10-4）

6-11 中学校の学校選択制が必要でない理由

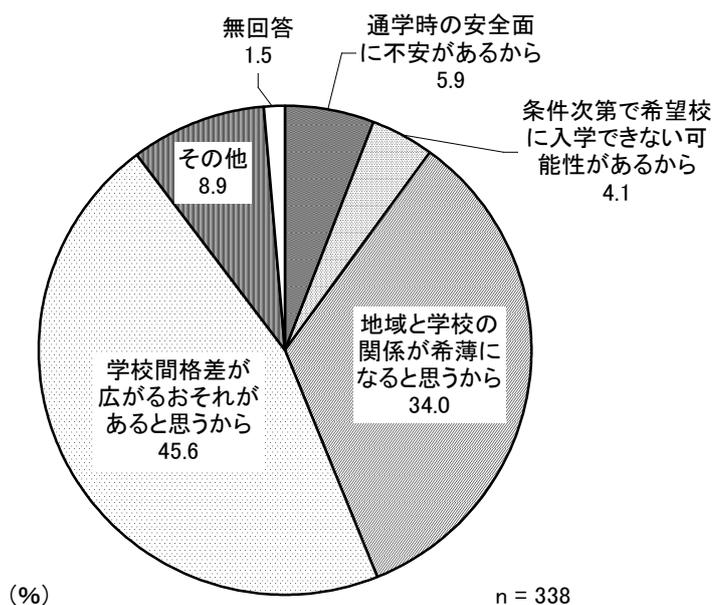
◇「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」が4割台半ば

(問16で、「どちらかといえばない方がよいと思う」または「ない方がよいと思う」とお答えの方に)

問16-2 その理由はどれですか。あなたの考えに最も近いものを選び○をつけて下さい。

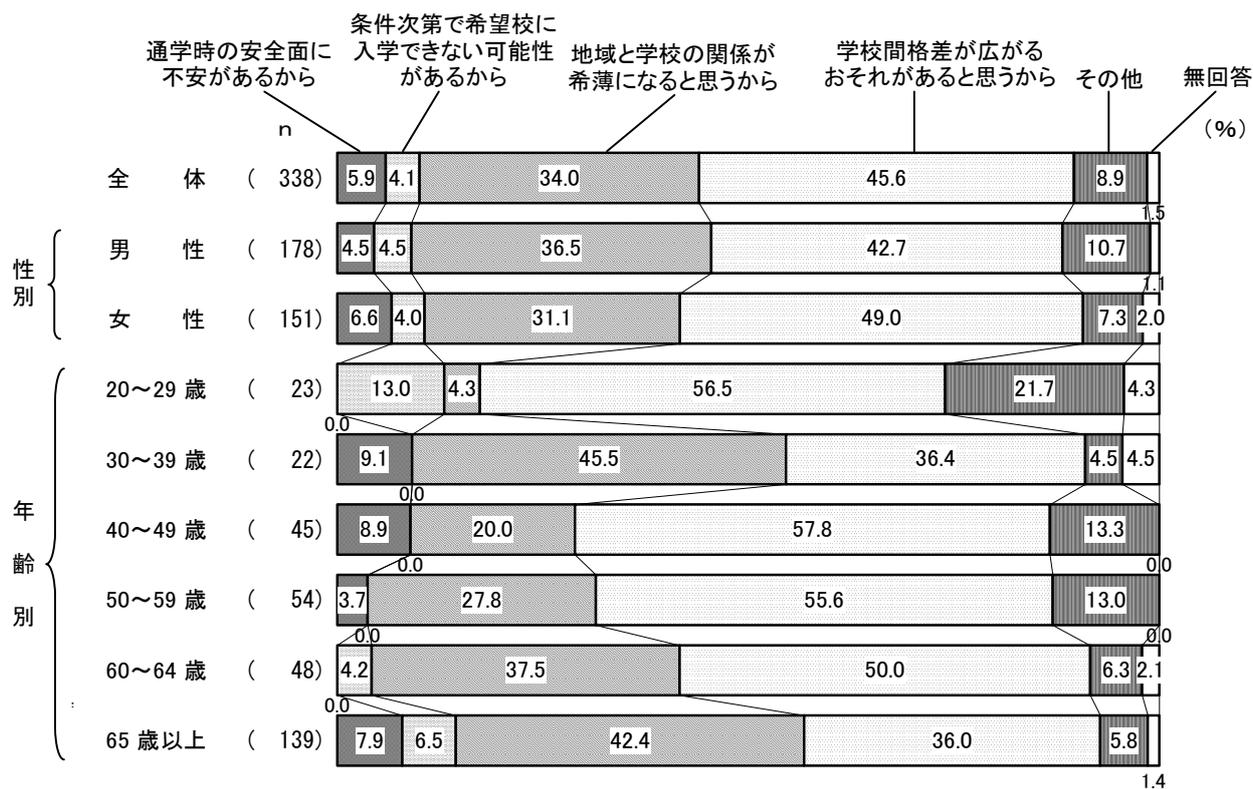
(○は1つだけ)

図6-11-1



中学校の学校選択制の必要性で「ない方がよいと思う」、「どちらかといえばない方がよいと思う」と答えた人(338人)に中学校の学校選択制が必要でない理由を聞いたところ、「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」が4割台半ば(45.6%)と最も高く、次いで「地域と学校の関係が希薄になると思うから」(34.0%)、「通学時の安全面に不安があるから」(5.9%)、「条件次第で希望校に入学できない可能性があるから」(4.1%)と続いている。(図6-11-1)

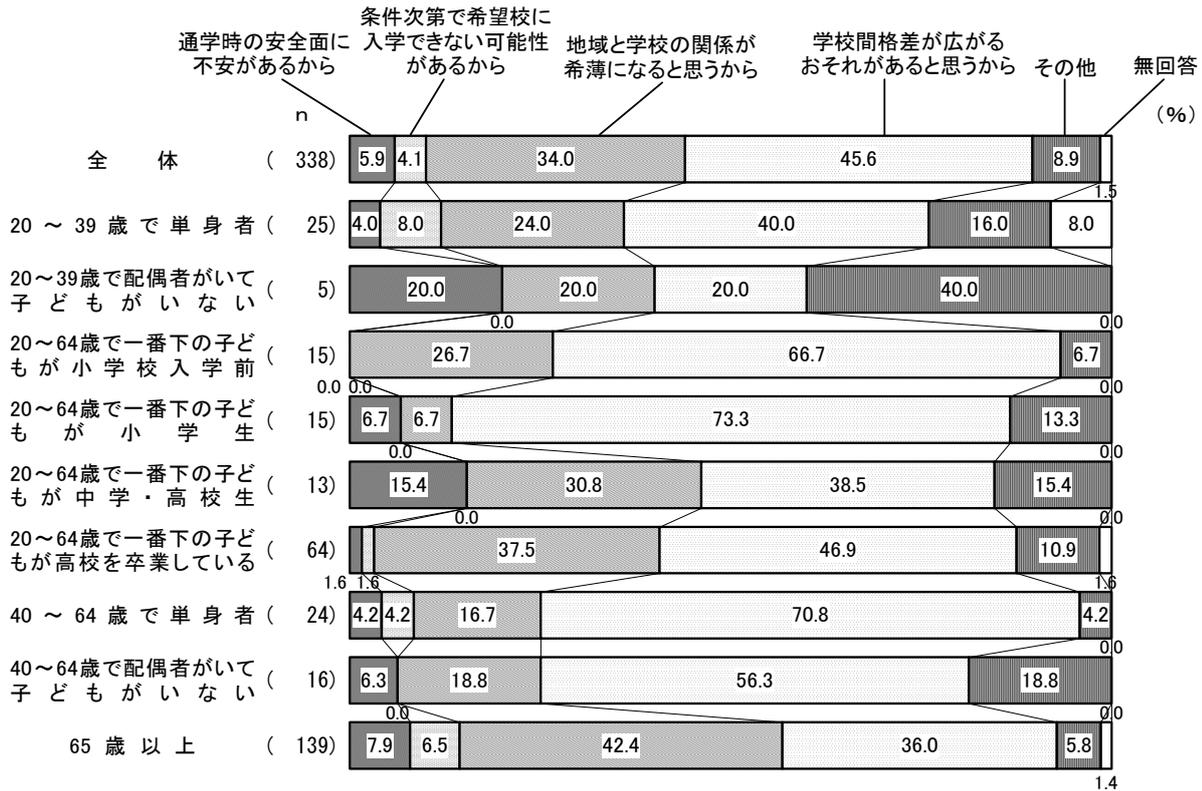
図6-11-2 中学校の学校選択制が必要でない理由—性別・年齢別



性別にみると、「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」は女性が6.3ポイント高くなっている。一方、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」は男性が5.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」は40~49歳（57.8%）と20~29歳（56.5%）で6割近くと高くなっている。また、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」は30~39歳で4割台半ば（45.5%）と高くなっている。（図6-11-2）

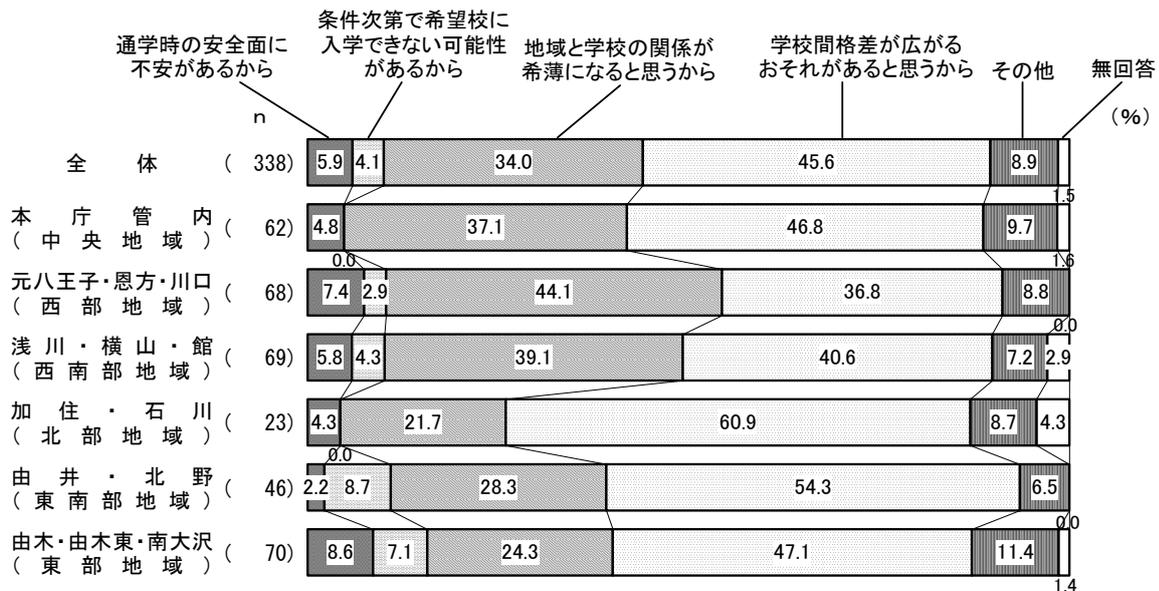
図6-11-3 中学校の学校選択制が必要でない理由－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で7割強（73.3%）と高くなっている。また、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」は“65歳以上”で4割強（42.4%）と高くなっている。

(図6-11-3)

図6-11-4 中学校の学校選択制が必要でない理由－居住地域別



居住地域別にみると、「学校間格差が広がるおそれがあると思うから」は加住・石川（北部地域）で約6割（60.9%）と高くなっている。また、「地域と学校の関係が希薄になると思うから」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で4割台半ば（44.1%）と高くなっている。

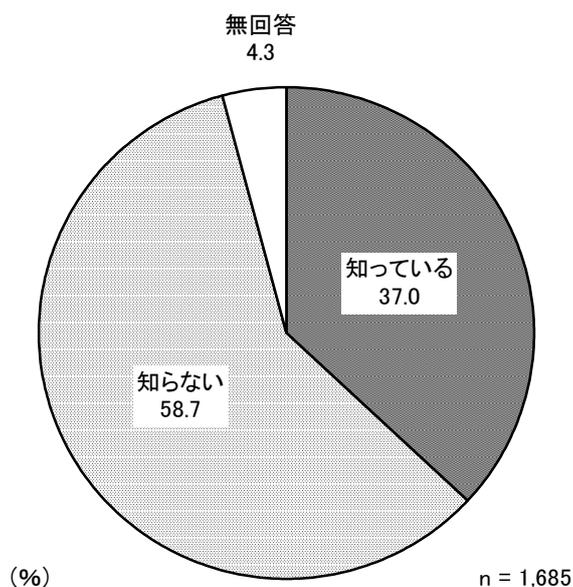
(図6-11-4)

6-12 学校・家庭・地域が協働した教育活動の周知度

◇「知らない」が6割近く

問17 市は、地域ぐるみで子どもを育てるという考え方のもと、学校の教育活動を公開し、学校・家庭・地域が協働して教育活動を進めるなど、地域に開かれ、地域とともにある学校づくりに取り組んでいます。あなたはこの取り組みについてご存知ですか。あてはまるものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

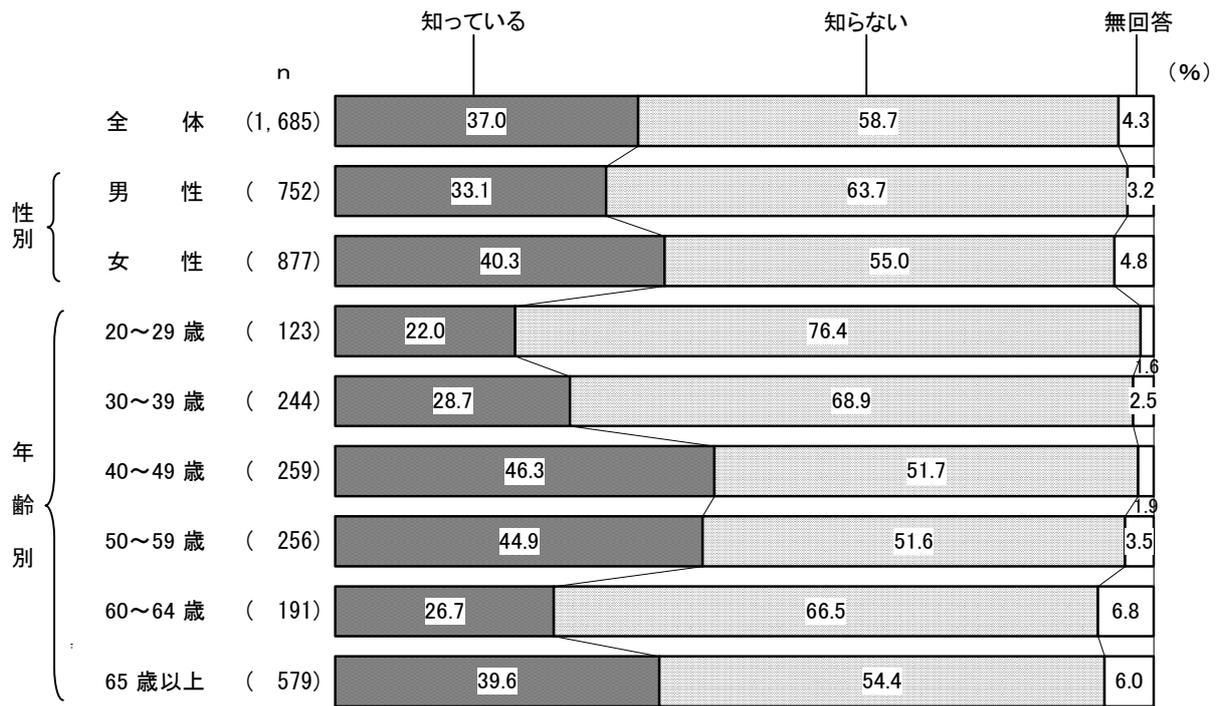
図6-12-1



学校・家庭・地域が協働した教育活動の取り組みについて知っているかを聞いたところ、「知っている」は4割近く（37.0%）、「知らない」は6割近く（58.7%）となっている。

(図6-12-1)

図6-12-2 学校・家庭・地域が協働した教育活動の周知度—性別・年齢別

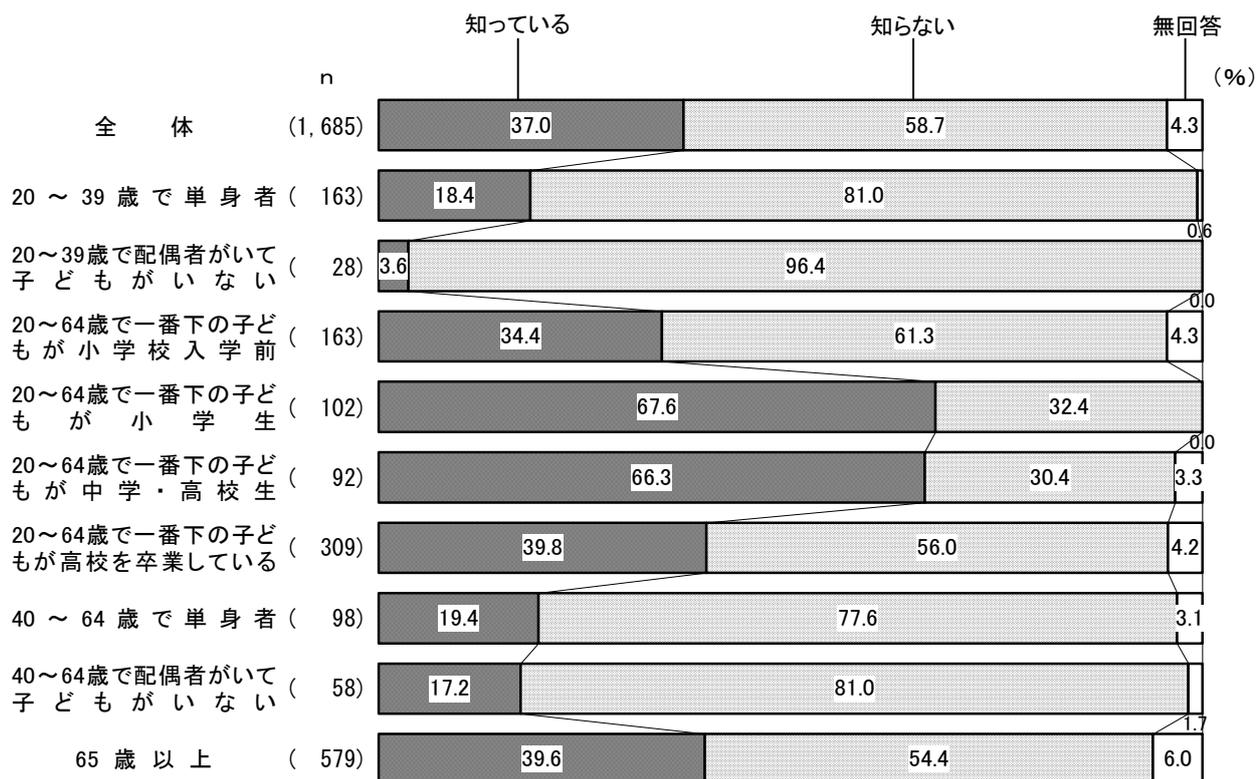


性別にみると、「知らない」は男性が8.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知らない」は20～29歳で8割近く（76.4%）と高くなっている。

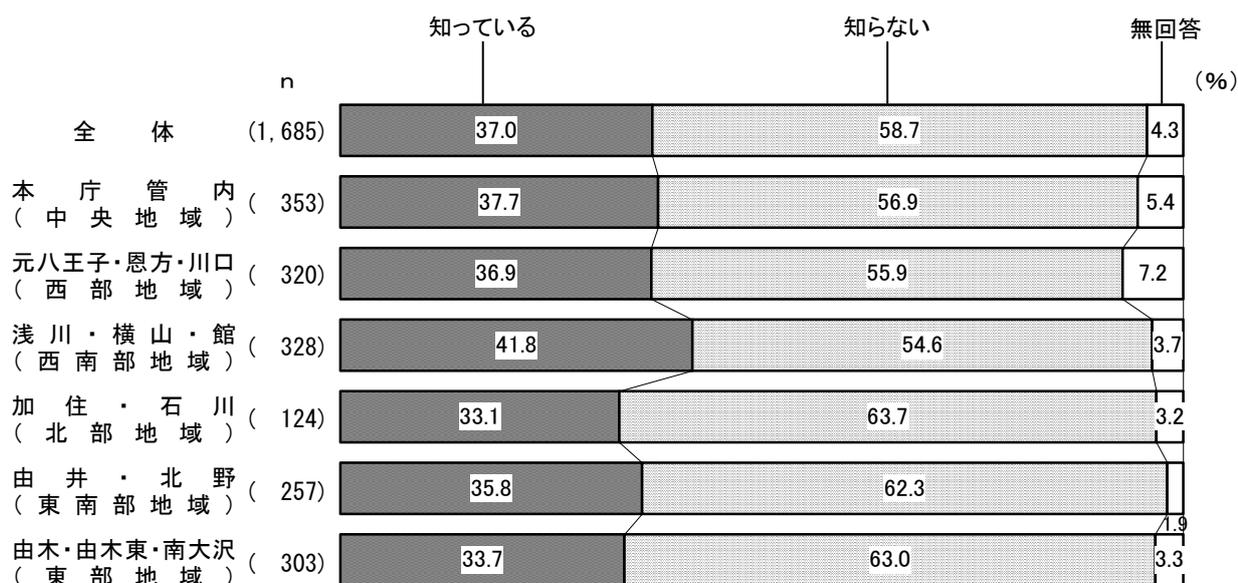
(図6-12-2)

図6-12-3 学校・家庭・地域が協働した教育活動の周知度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「知っている」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”（67.6%）と“20～64歳で一番下の子どもが中学・高校生”（66.3%）で7割近くと高くなっている。（図6-12-3）

図6-12-4 学校・家庭・地域が協働した教育活動の周知度－居住地域別



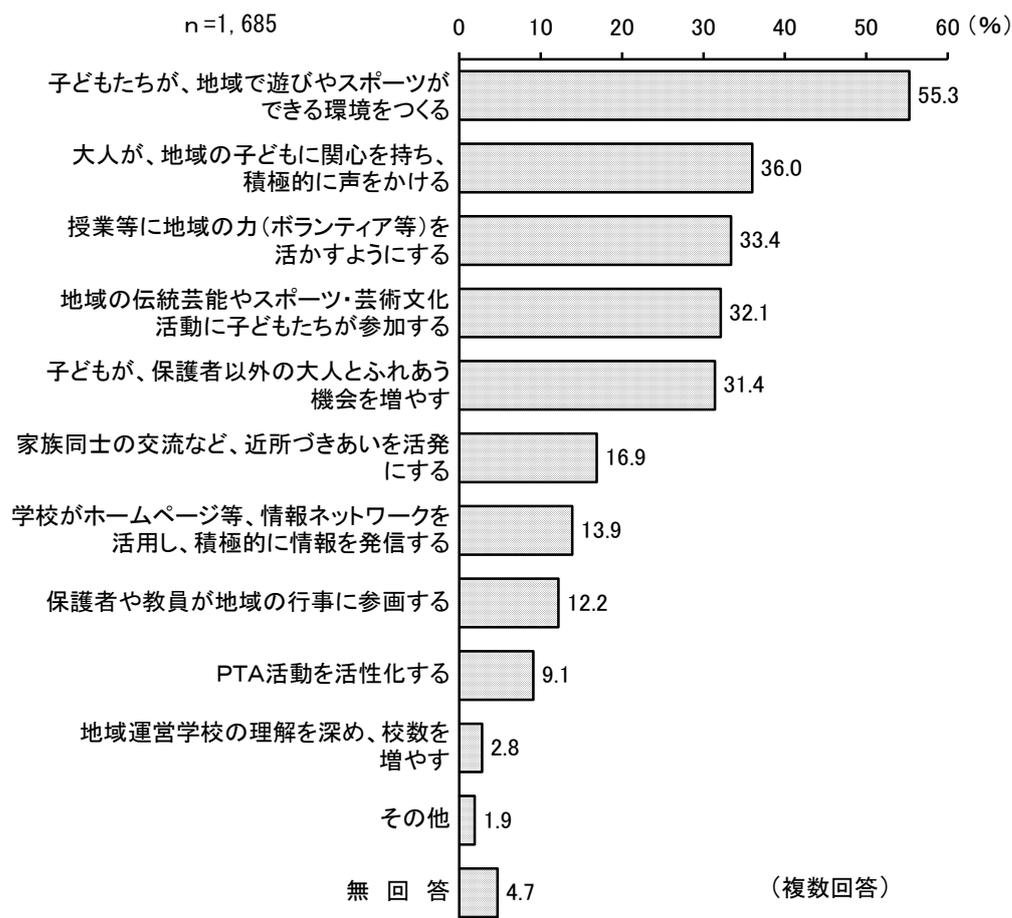
居住地域別にみると、「知っている」は浅川・横山・館（西南部地域）で4割強（41.8%）と高くなっている。（図6-12-4）

6-13 学校・家庭・地域のつながりを深める上で重要なこと

◇「子どもたちが、地域で遊びやスポーツができる環境をつくる」が5割台半ば

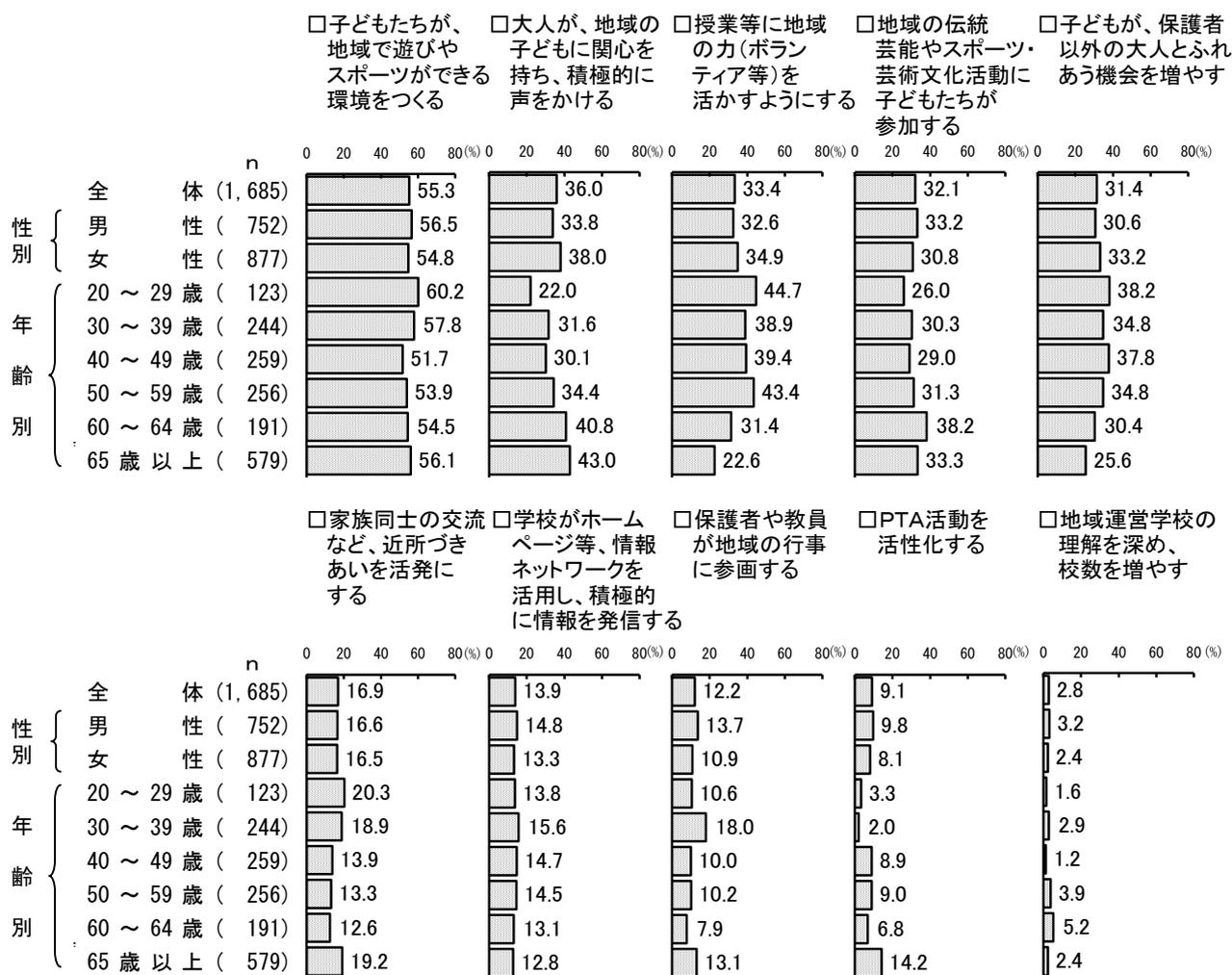
問18 学校と家庭と地域のそれぞれのつながりを深めるために、どのようなことが重要であると思いますか。あなたの考えに近いものを選び○をつけて下さい。(○は3つまで)

図6-13-1



学校・家庭・地域のつながりを深める上で重要なことを聞いたところ、「子どもたちが、地域で遊びやスポーツができる環境をつくる」が5割台半ば(55.3%)と最も高く、次いで「大人が、地域の子どもに関心を持ち、積極的に声をかける」(36.0%)、「授業等に地域のカ(ボランティア等)を活かすようにする」(33.4%)、「地域の伝統芸能やスポーツ・芸術文化活動に子どもたちが参加する」(32.1%)、「子どもが、保護者以外の大人とふれあう機会を増やす」(31.4%)と続いている。(図6-13-1)

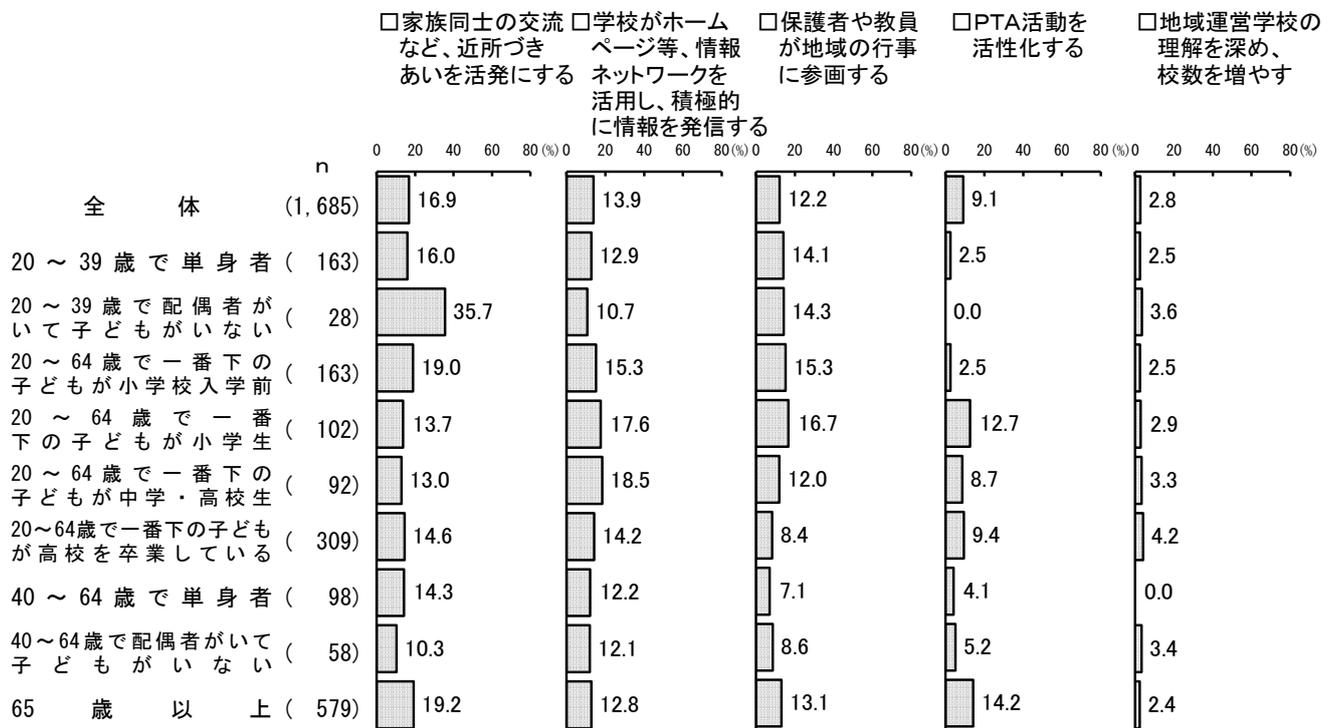
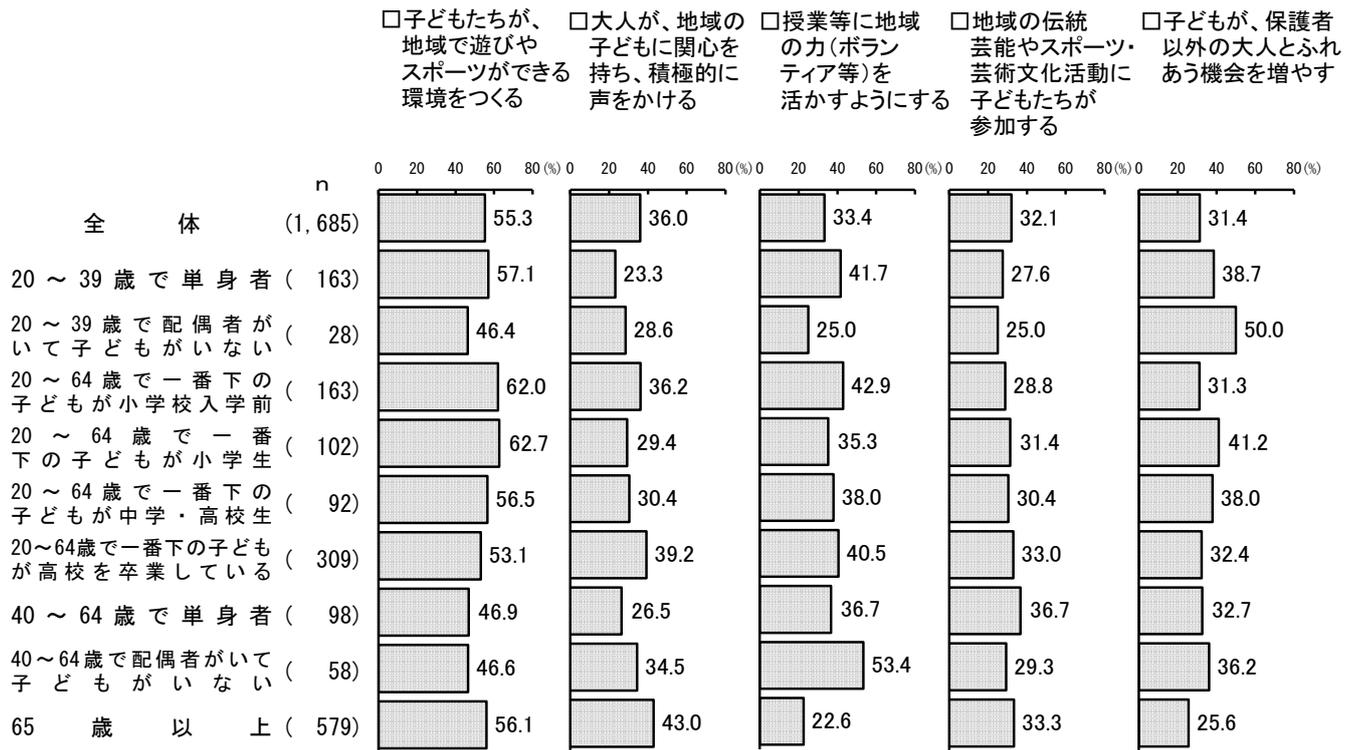
図6-13-2 学校・家庭・地域のつながりを深める上で重要なことー性別・年齢別



性別にみると、「大人が、地域の子どもに関心を持ち、積極的に声をかける」は女性が4.2ポイント高くなっている。一方、「保護者や教員が地域の行事に参画する」は男性が2.8ポイント高くなっている。

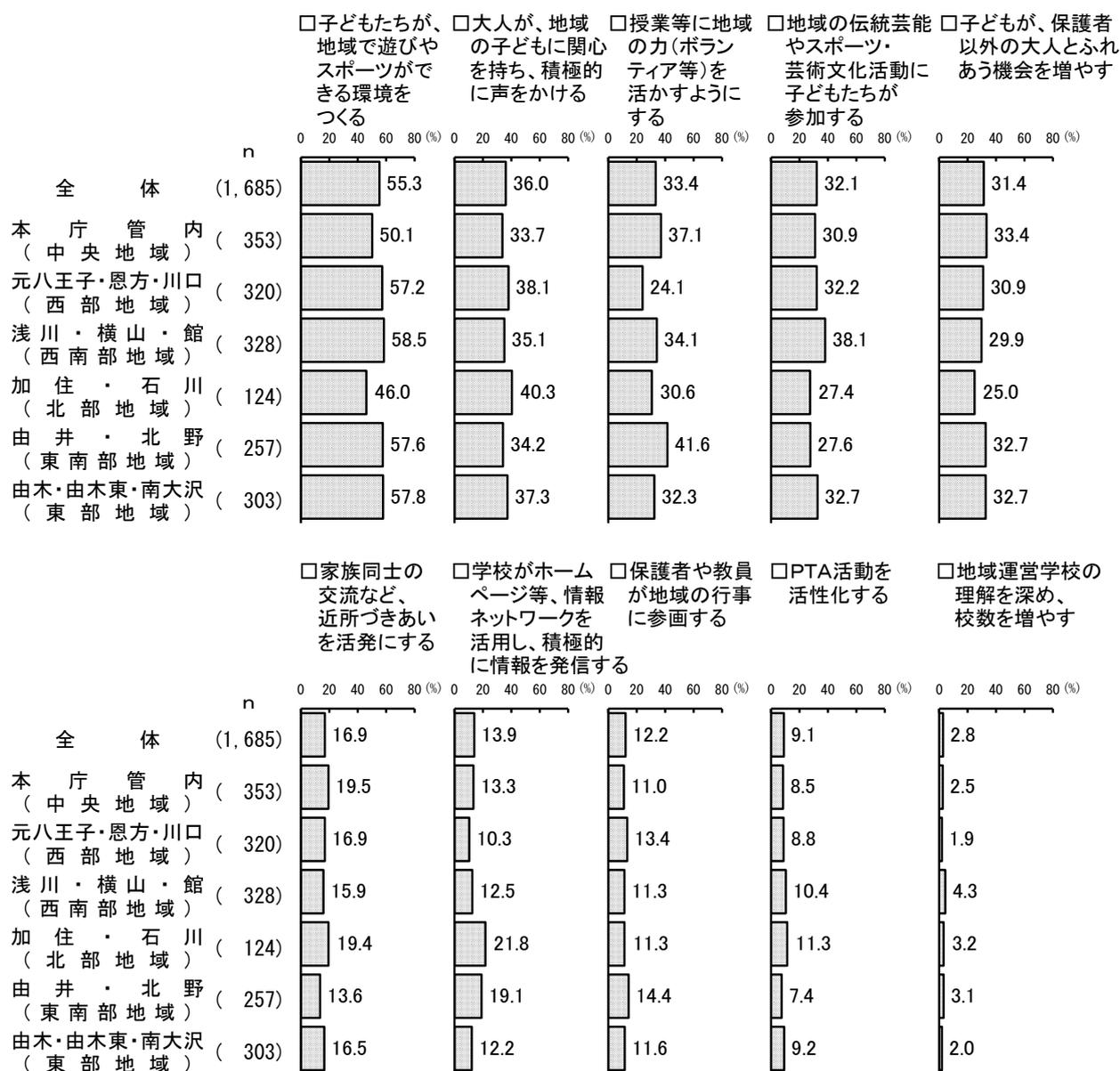
年齢別にみると、「大人が、地域の子どもに関心を持ち、積極的に声をかける」はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で4割強(43.0%)と高くなっている。また、「子どもが、保護者以外の大人とふれあう機会を増やす」はおおむね年代が下がるにつれて割合が高く、20～29歳で4割近く(38.2%)と高くなっている。(図6-13-2)

図6-13-3 学校・家庭・地域のつながりを深める上で重要なこと—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「子どもたちが、地域で遊びやスポーツができる環境をつくる」は「20～64歳で一番下の子どもが小学生」(62.7%)と「20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前」(62.0%)で6割強と高くなっている。また、「授業等に地域のカ(ボランティア等)を活かすようにする」は「40～64歳で配偶者がいて子どもがいない」で5割強(53.4%)と高くなっている。(図6-13-3)

図6-13-4 学校・家庭・地域のつながりを深める上で重要なこと－居住地域別



居住地域別にみると、「子どもたちが、地域で遊びやスポーツができる環境をつくる」はどの地域もおおむね5割台となっている。また、「地域の伝統芸能やスポーツ・芸術文化活動に子どもたちが参加する」は浅川・横山・館（西南部地域）で4割近く（38.1%）と高くなっている。

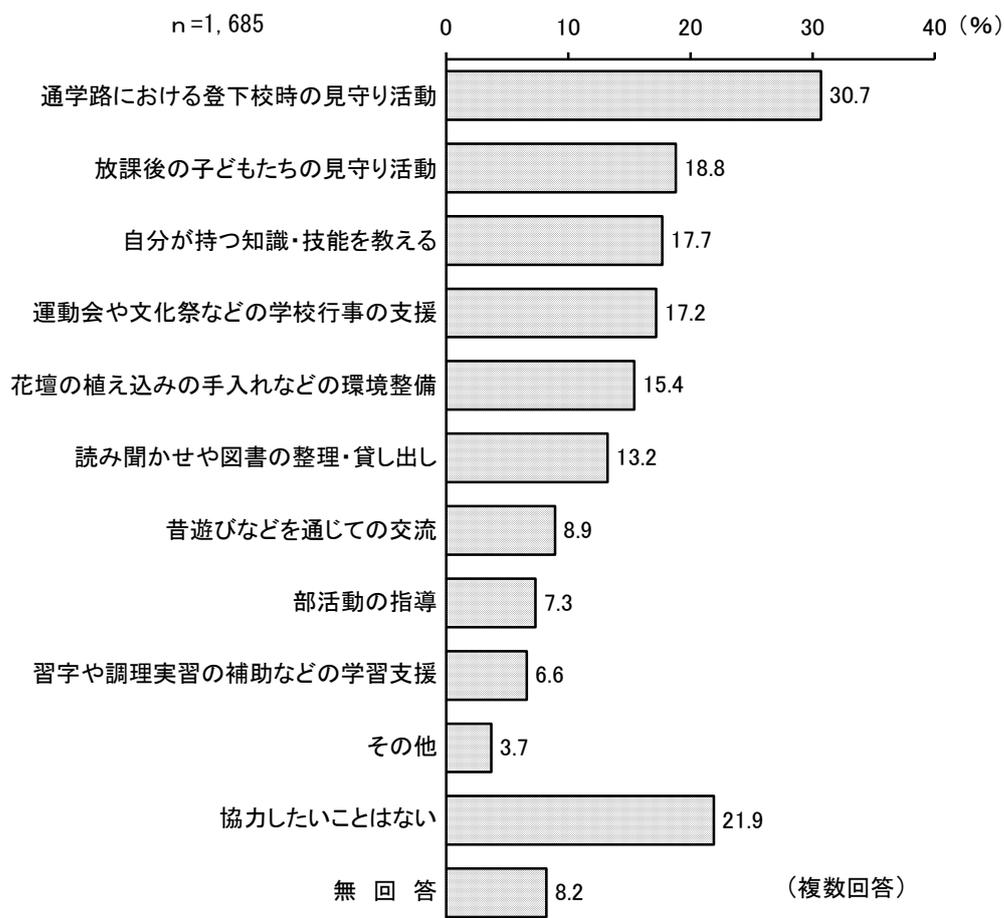
(図6-13-4)

6-14 地域の学校に協力してみたい（している）こと

◇「通学路における登下校時の見守り活動」が約3割

問19 あなたが、今後地域の学校に対して協力してみたいと思う（現在協力している）ことはどんなことですか。あてはまるものに○をつけて下さい。（○はいくつでも）

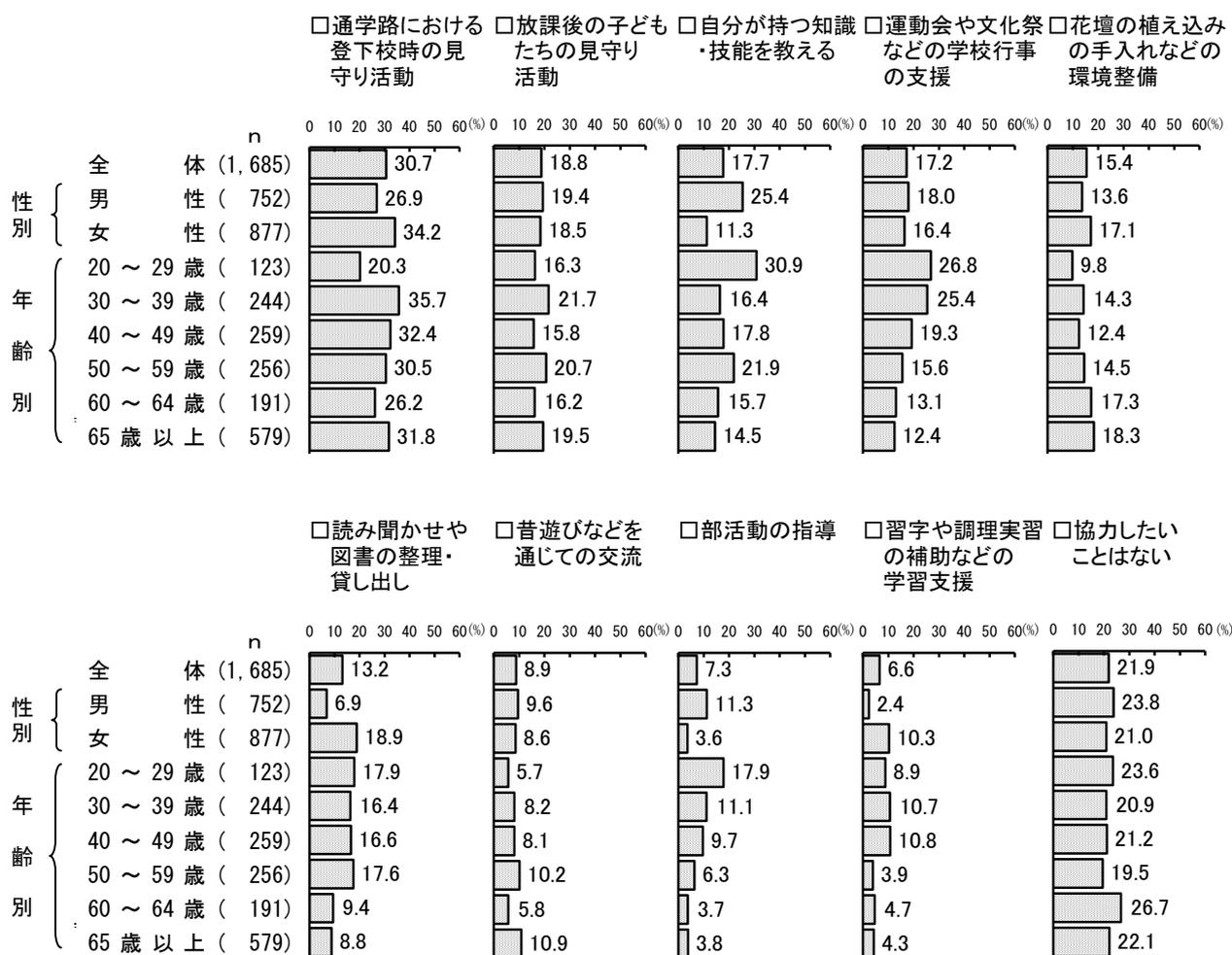
図6-14-1



地域の学校に対して協力してみたい（している）ことを聞いたところ、「通学路における登下校時の見守り活動」が約3割（30.7%）と高く、次いで「放課後の子どもたちの見守り活動」（18.8%）、「自分が持つ知識・技能を教える」（17.7%）、「運動会や文化祭などの学校行事の支援」（17.2%）、「花壇の植え込みの手入れなどの環境整備」（15.4%）と続いている。

(図6-14-1)

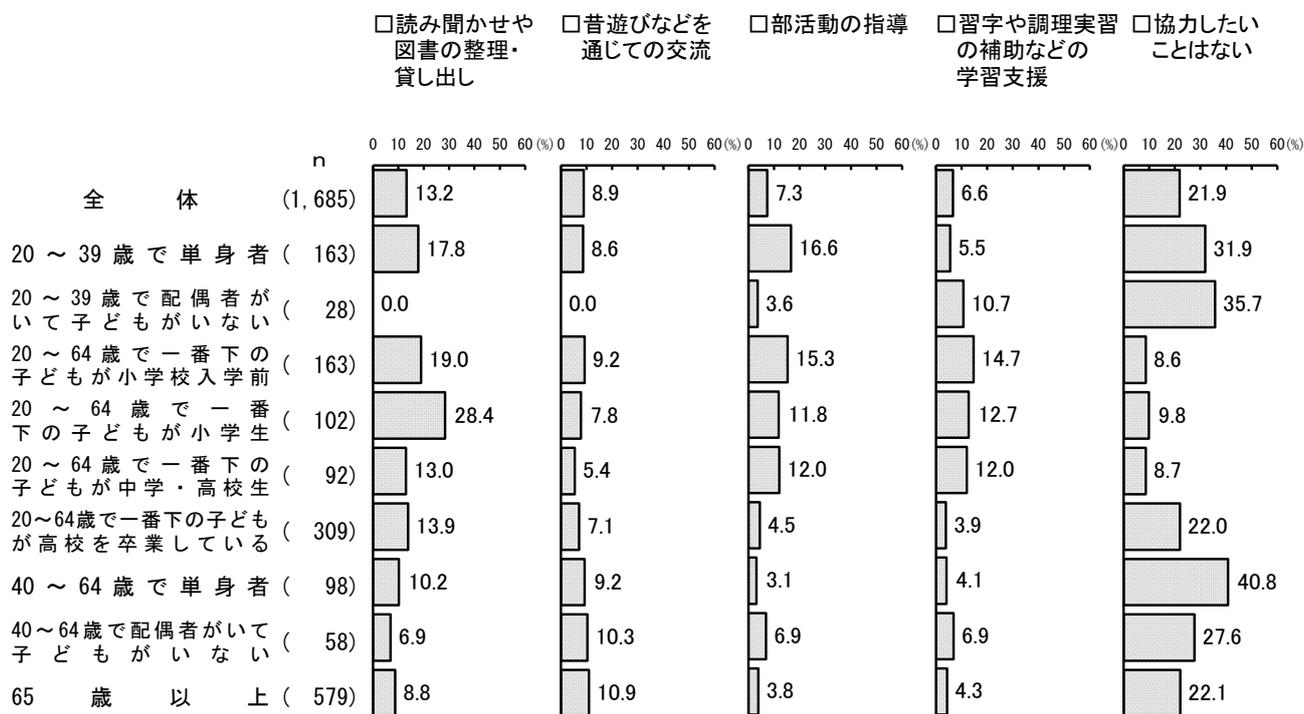
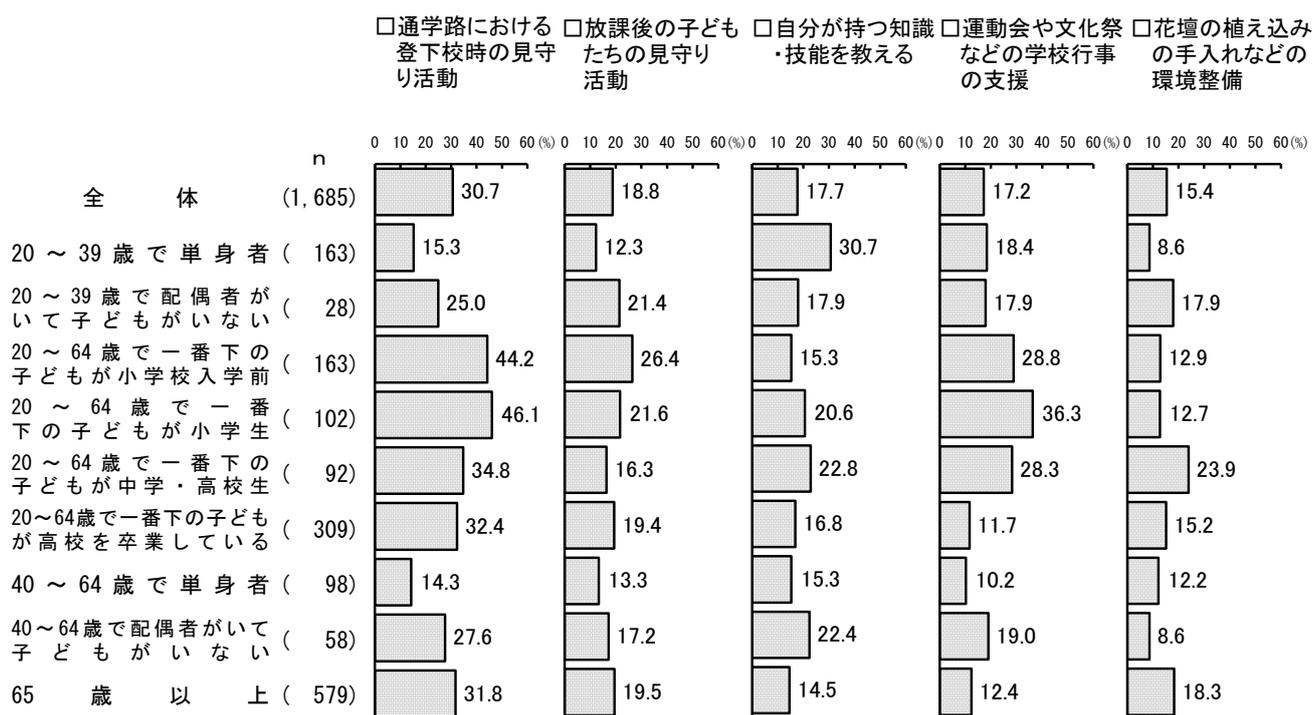
図6-14-2 地域の学校に協力してみたい(している)こと-性別・年齢別



性別にみると、「自分が持つ知識・技能を教える」は14.1ポイント、「部活動の指導」は7.7ポイント、それぞれ男性が高くなっている。一方、「読み聞かせや図書の整理・貸し出し」は12.0ポイント、「習字や調理実習の補助などの学習支援」は7.9ポイント、「通学路における登下校時の見守り活動」は7.3ポイント、それぞれ女性が高くなっている。

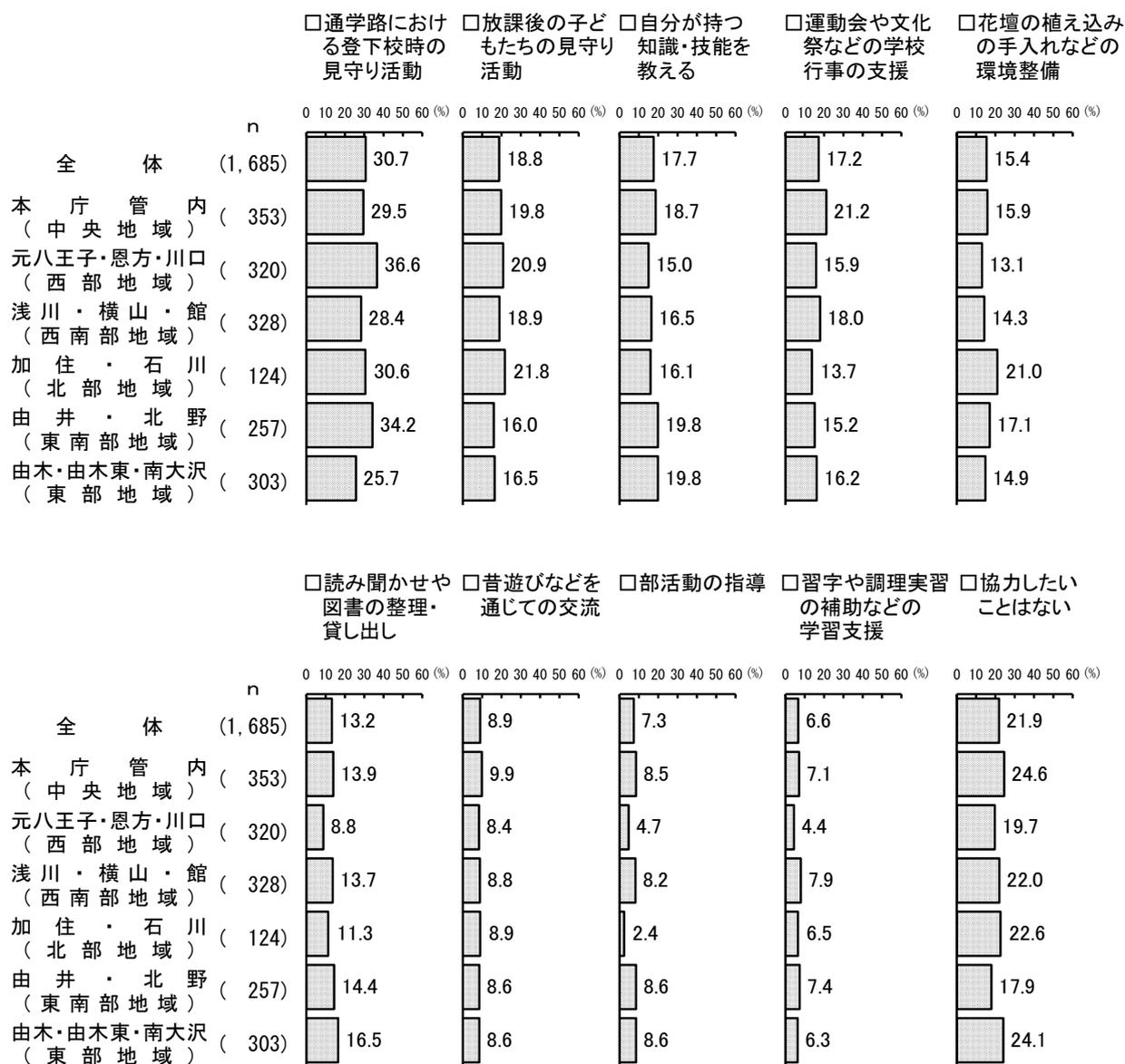
年齢別にみると、「自分が持つ知識・技能を教える」は20~29歳で約3割(30.9%)と高くなっている。また、「運動会や文化祭などの学校行事の支援」は年代が下がるにつれて割合が高く、20~29歳で3割近く(26.8%)となっている。(図6-14-2)

図6-14-3 地域の学校に協力してみたい(している)こと—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「運動会や文化祭などの学校行事の支援」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で4割近く(36.3%)と高くなっている。また、「自分が持つ知識・技能を教える」は“20～39歳で単身者”で約3割(30.7%)と高くなっている。(図6-14-3)

図6-14-4 地域の学校に協力してみたい(している)こと-居住地域別



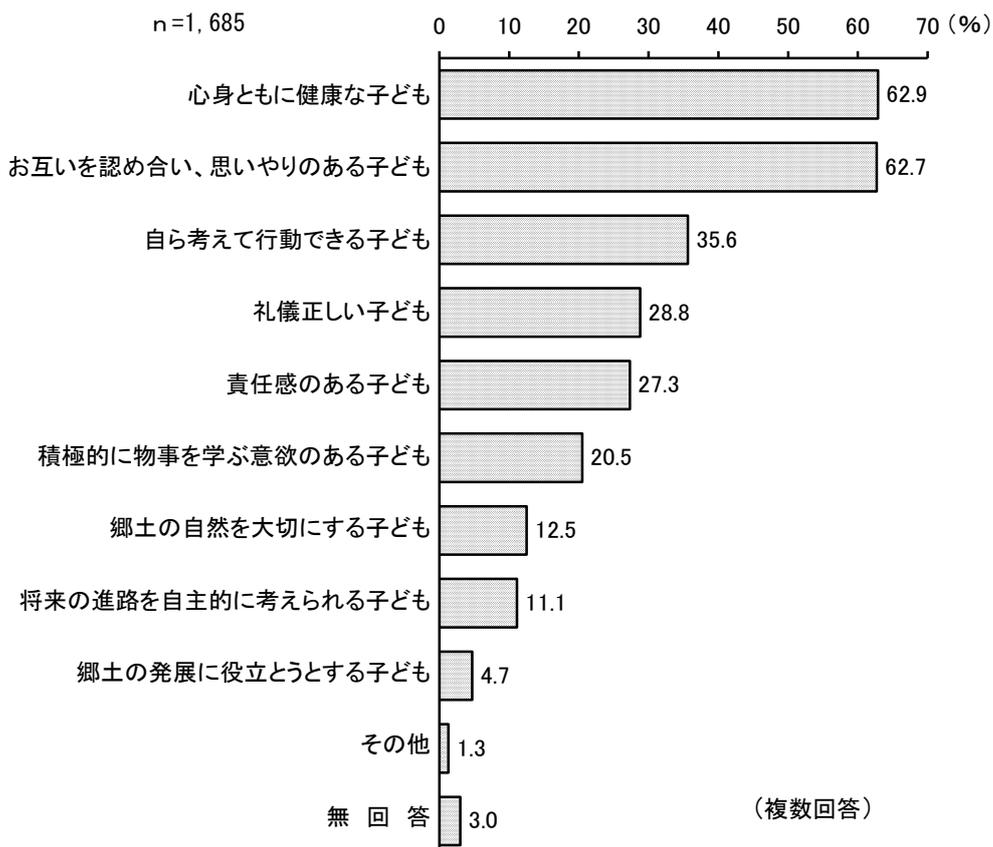
居住地域別にみると、「通学路における登下校時の見守り活動」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で4割近く（36.6%）と高くなっている。（図6-14-4）

6-15 八王子の子どもに望む育ち方

◇「心身ともに健康な子ども」、「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」が6割強

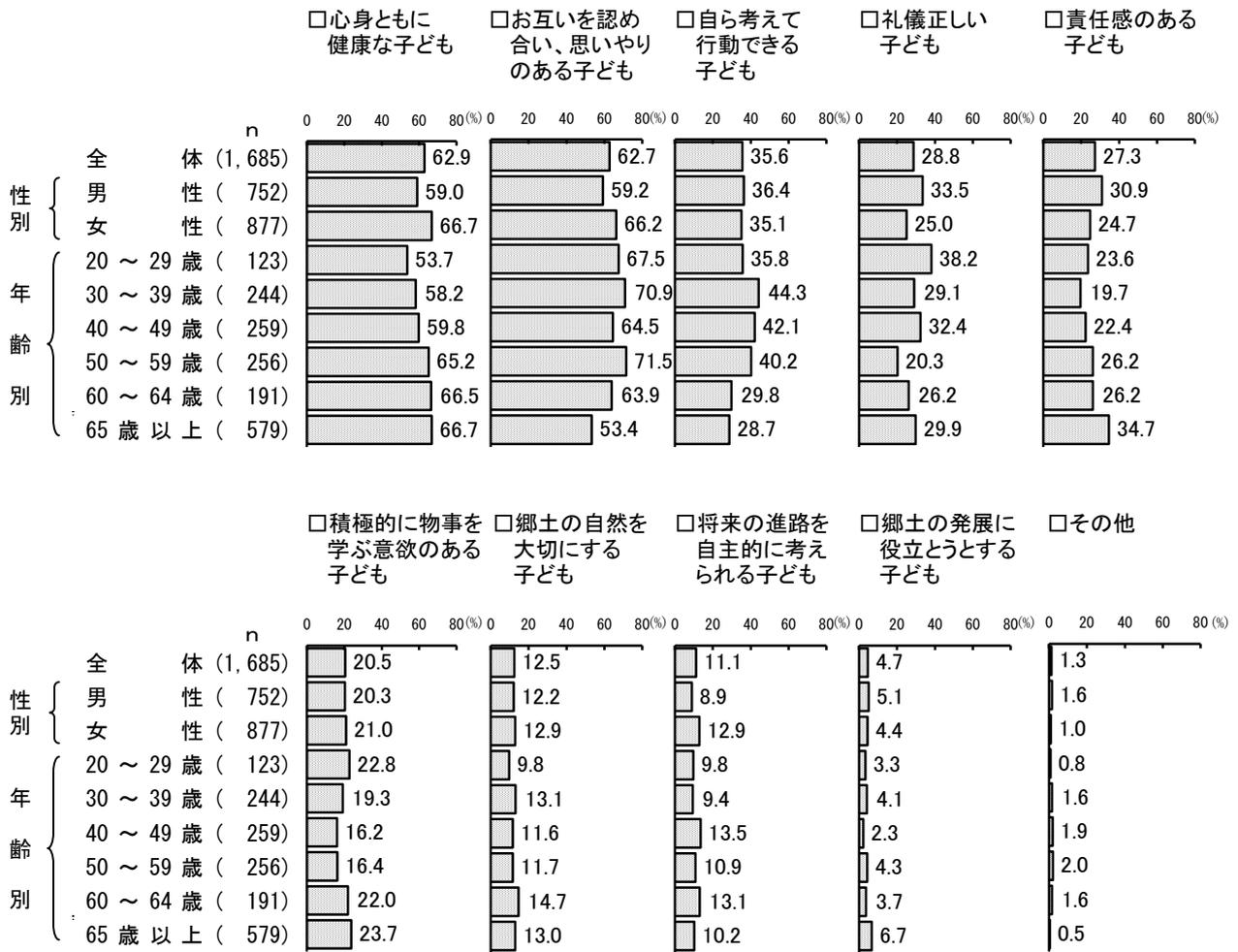
問20 あなたは八王子の子どもたちがどのような子どもに育ってほしいと思いますか。あなたの考えに近いものを選び○をつけて下さい。(○は3つまで)

図6-15-1



八王子の子どもたちがどのような子どもに育ってほしいかを聞いたところ、「心身ともに健康な子ども」が6割強(62.9%)と最も高く、次いで「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」(62.7%)、「自ら考えて行動できる子ども」(35.6%)、「礼儀正しい子ども」(28.8%)、「責任感のある子ども」(27.3%)と続いている。(図6-15-1)

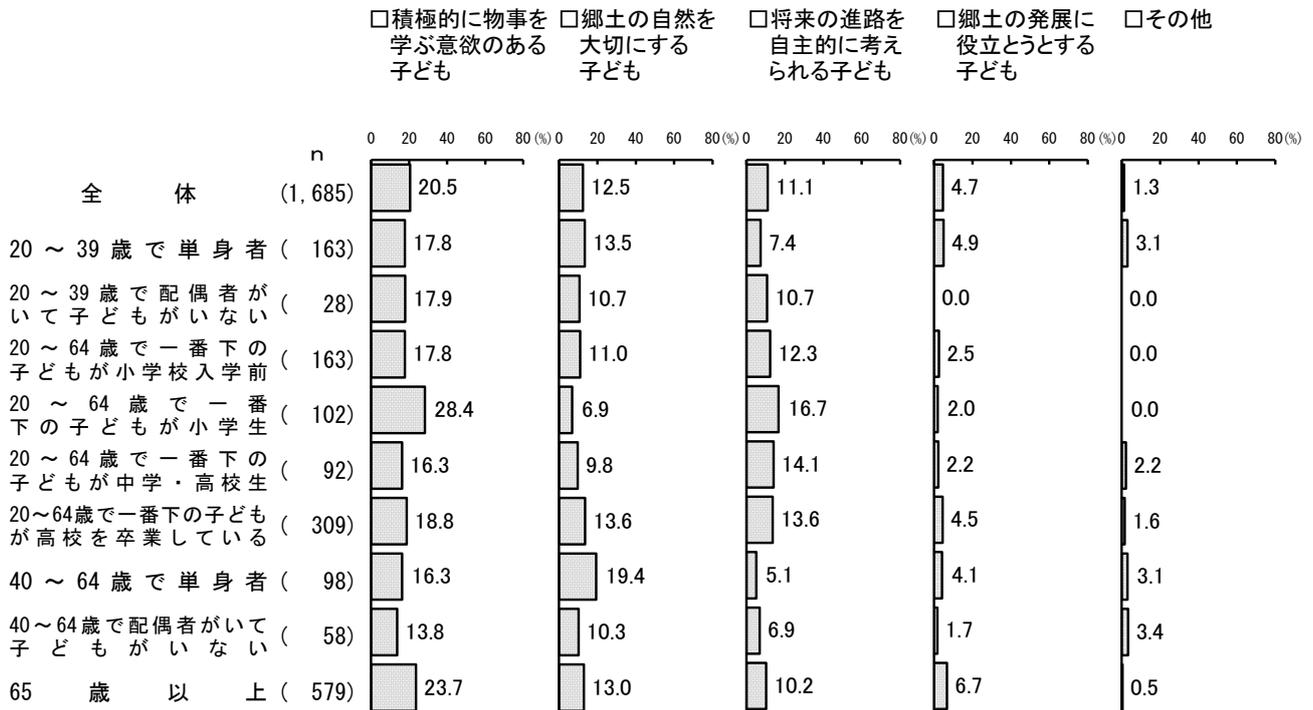
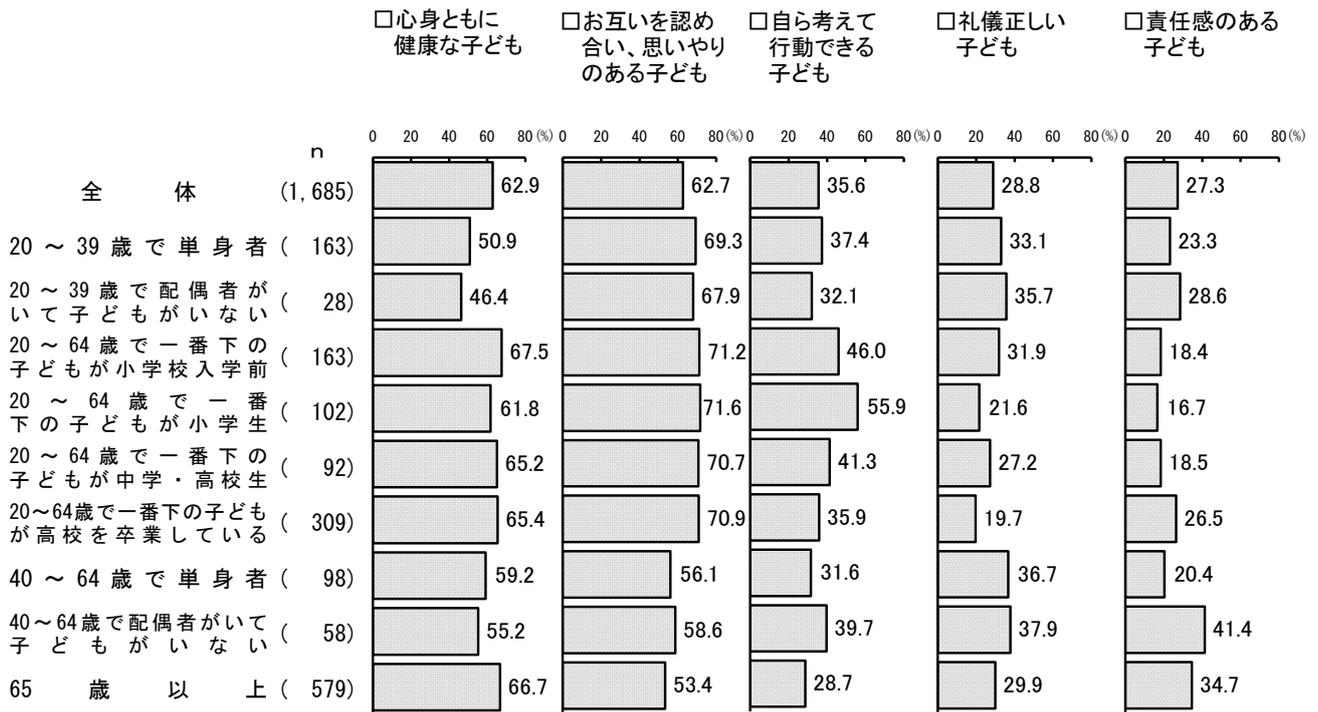
図6-15-2 八王子の子どもに望む育ち方—性別・年齢別



性別にみると、「礼儀正しい子ども」は8.5ポイント、「責任感のある子ども」は6.2ポイント、それぞれ男性が高くなっている。一方、「心身ともに健康な子ども」は7.7ポイント、「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」は7.0ポイント、それぞれ女性が高くなっている。

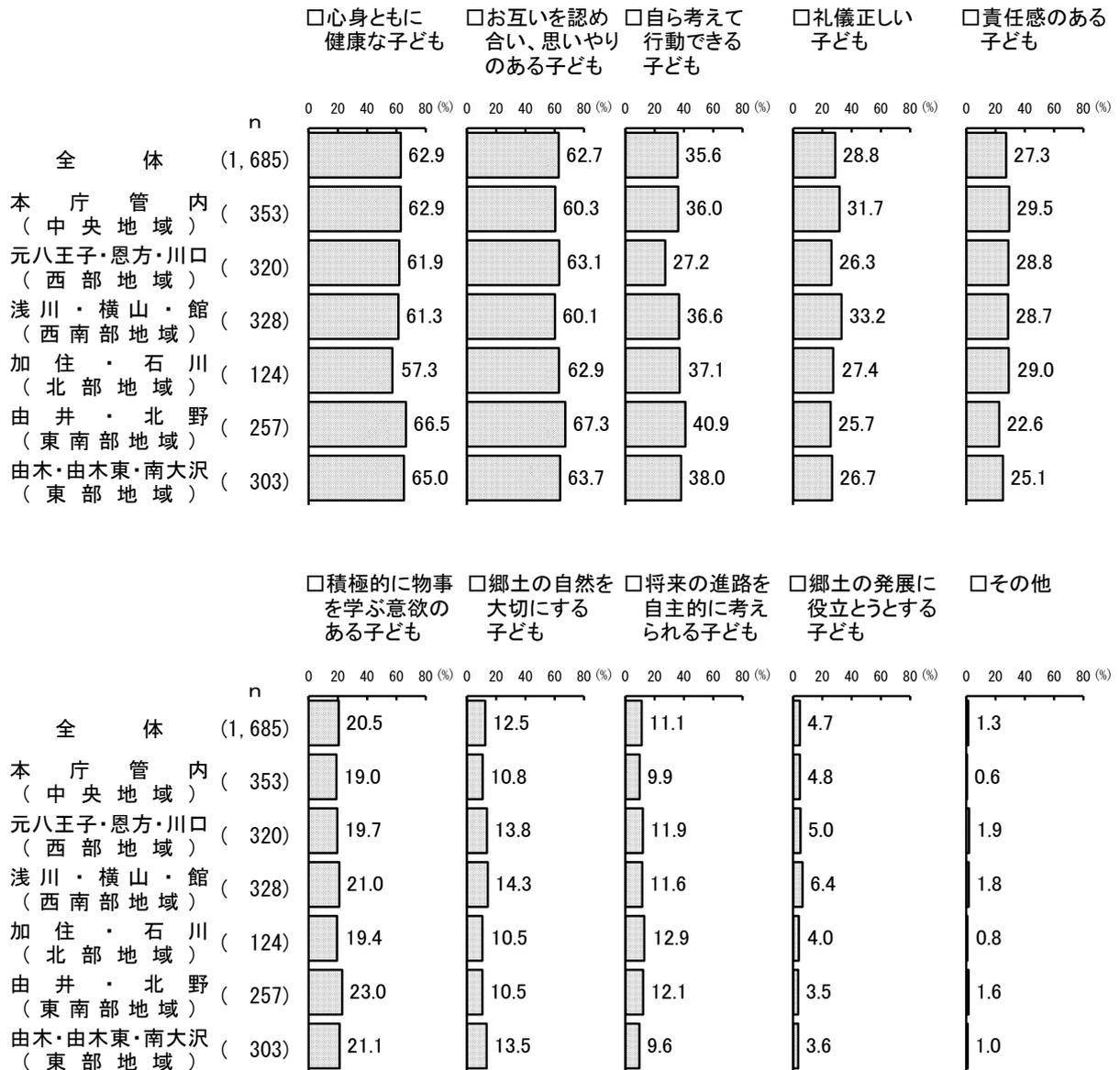
年齢別にみると、「心身ともに健康な子ども」は年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で7割近く（66.7%）と高くなっている。また、「礼儀正しい子ども」は20～29歳で4割近く（38.2%）と高くなっている。（図6-15-2）

図6-15-3 八王子の子どもに望む育ち方—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「自ら考えて行動できる子ども」は“20～64歳で一番下の子どもが小学生”で5割台半ば（55.9%）と高くなっている。また、「責任感のある子ども」は“40～64歳で配偶者がいて子どもがいない”で4割強（41.4%）と高くなっている。（図6-15-3）

図6-15-4 八王子の子どもに望む育ち方—居住地域別



居住地域別にみると、「心身ともに健康な子ども」、「お互いを認め合い、思いやりのある子ども」はどの地域もおおむね6割台となっている。(図6-15-4)

7. 生涯学習について

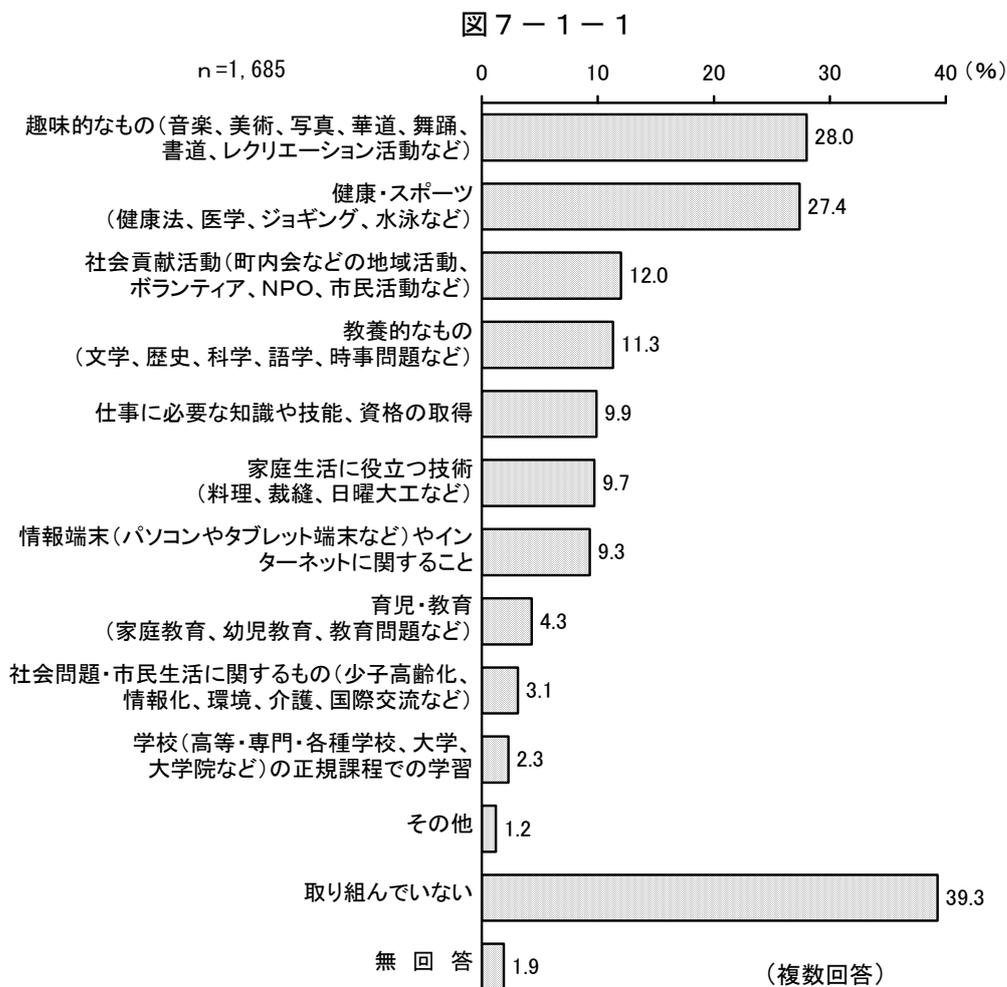
7-1 この1年間に取り組んだ生涯学習活動

◇「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」、「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」が3割近く

※「生涯学習」とは・・・

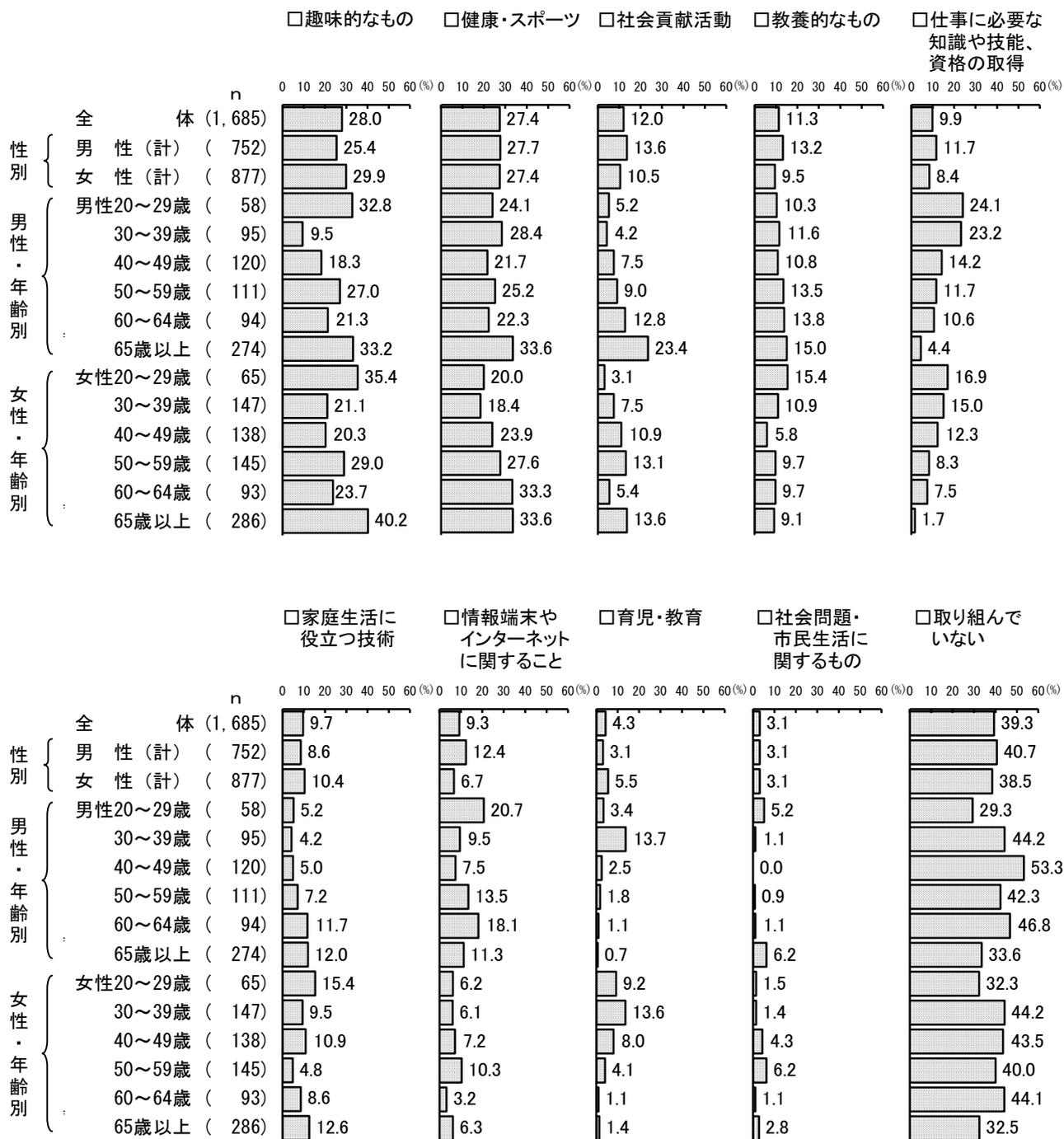
人々が、生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や生涯学習センター等における講座等の社会教育などの学習機会に限らず、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、趣味、ボランティア活動などのさまざまな学習活動のことをいいます。

問21 あなたはこの1年の間に、次のうちどのような生涯学習活動に取り組みましたか。あてはまるものに○をつけて下さい。（○はいくつでも）



この1年間に取り組んだ学習内容について聞いたところ、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」が3割近く（28.0%）と高く、次いで「健康・スポーツ（健康法、医学、ジョギング、水泳など）」（27.4%）と続いている。一方、「取り組んでいない」は4割弱（39.3%）となっている。（図7-1-1）

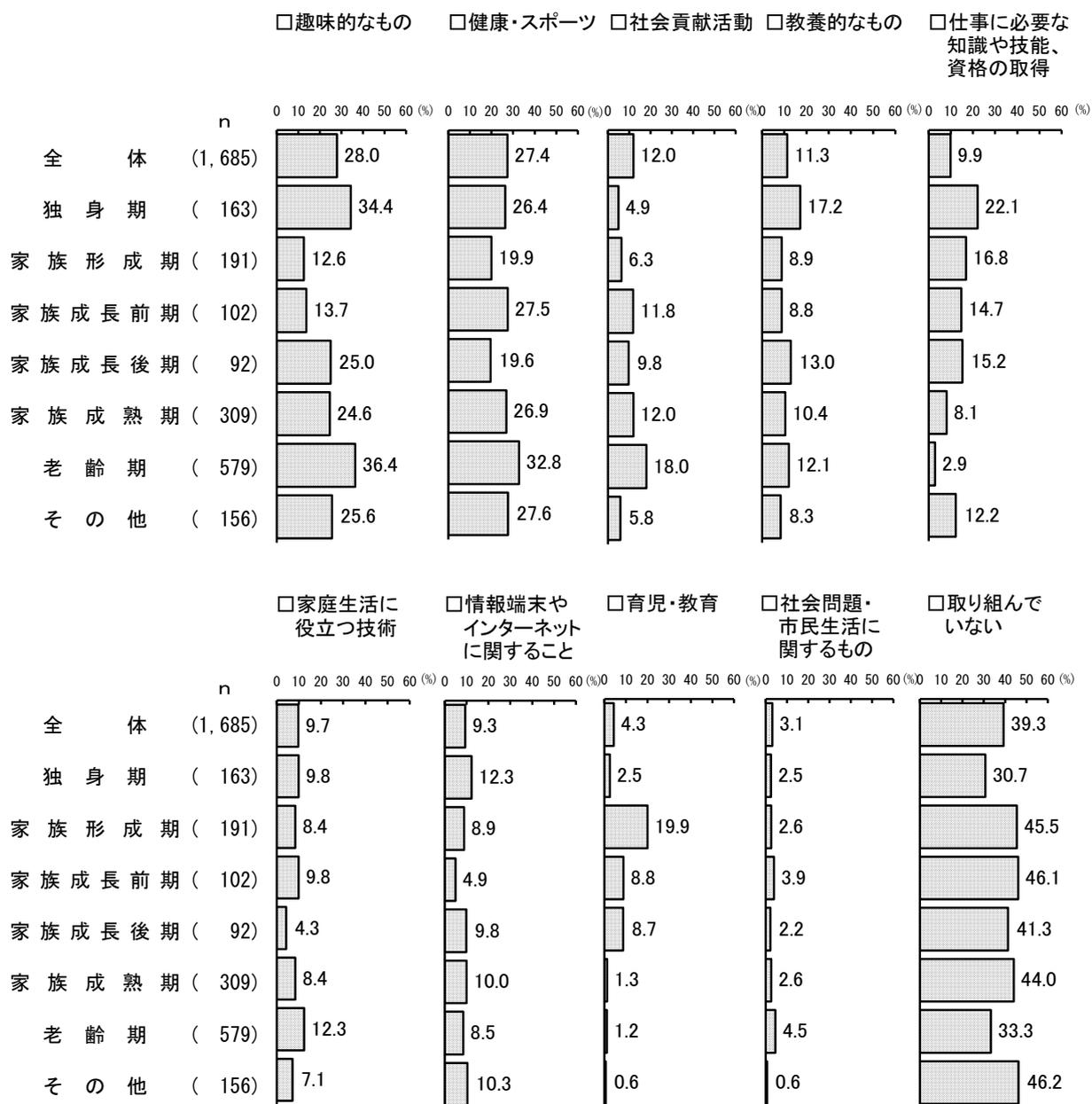
図7-1-2 この1年間に取り組んだ生涯学習活動一性・年齢別
(上位9項目+「取り組んでいない」)



性別にみると、「情報端末やインターネットに関すること」は男性が5.7ポイント高くなっている。一方、「趣味的なもの」は女性が4.5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「趣味的なもの」は女性の65歳以上で約4割(40.2%)と高くなっている。また、「社会貢献活動」は男性の65歳以上で2割強(23.4%)と高く、「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」は男女ともに年代が下がるほど割合が高くなっている。(図7-1-2)

図7-1-3 この1年間に取り組んだ生涯学習活動—ライフステージ（集約型）別
（上位9項目+「取り組んでいない」）



ライフステージ（集約型）別にみると、「趣味的なもの」は老齢期で4割近く（36.4%）と高く、独身期でも3割台半ば（34.4%）と高くなっている。また、「仕事に必要な知識や技能、資格の取得」は独身期で2割強（22.1%）と高く、「育児・教育」は家族形成期で2割弱（19.9%）と高くなっている。（図7-1-3）

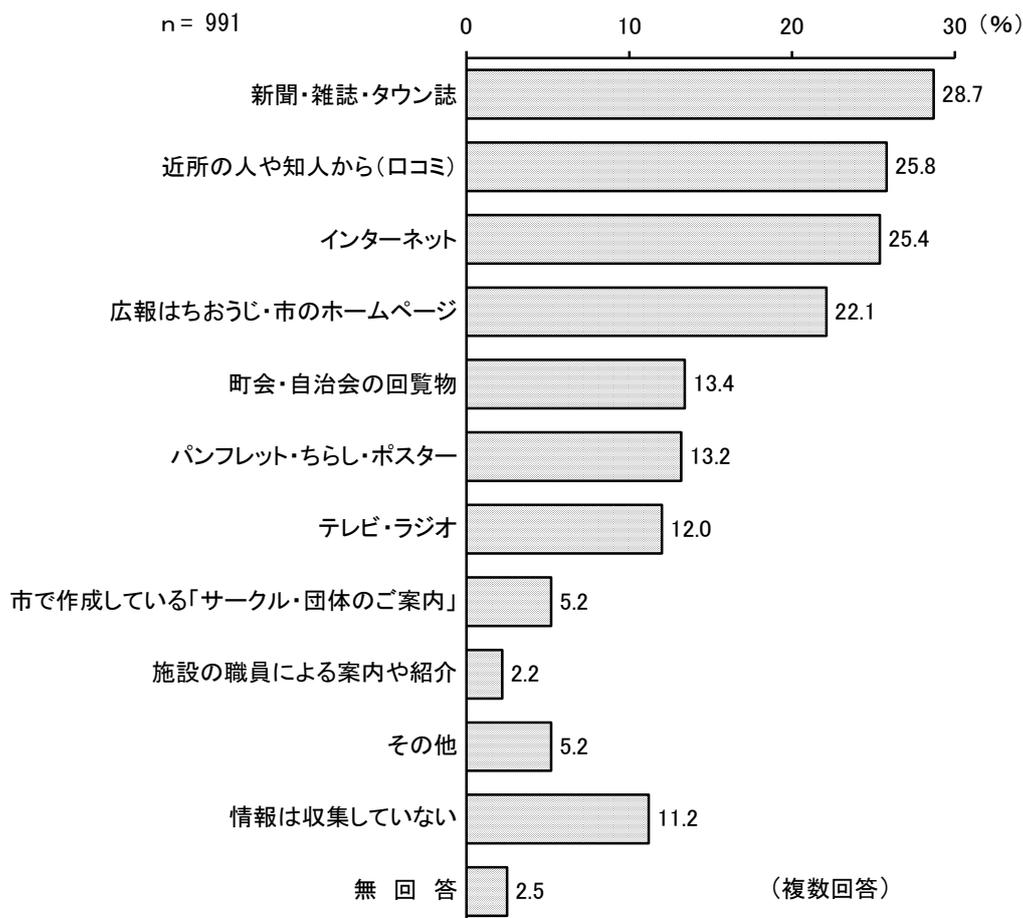
7-2 生涯学習活動の情報入手手段

◇「新聞・雑誌・タウン誌」が3割近く

(問21で、生涯学習活動に取り組んだとお答えの方に)

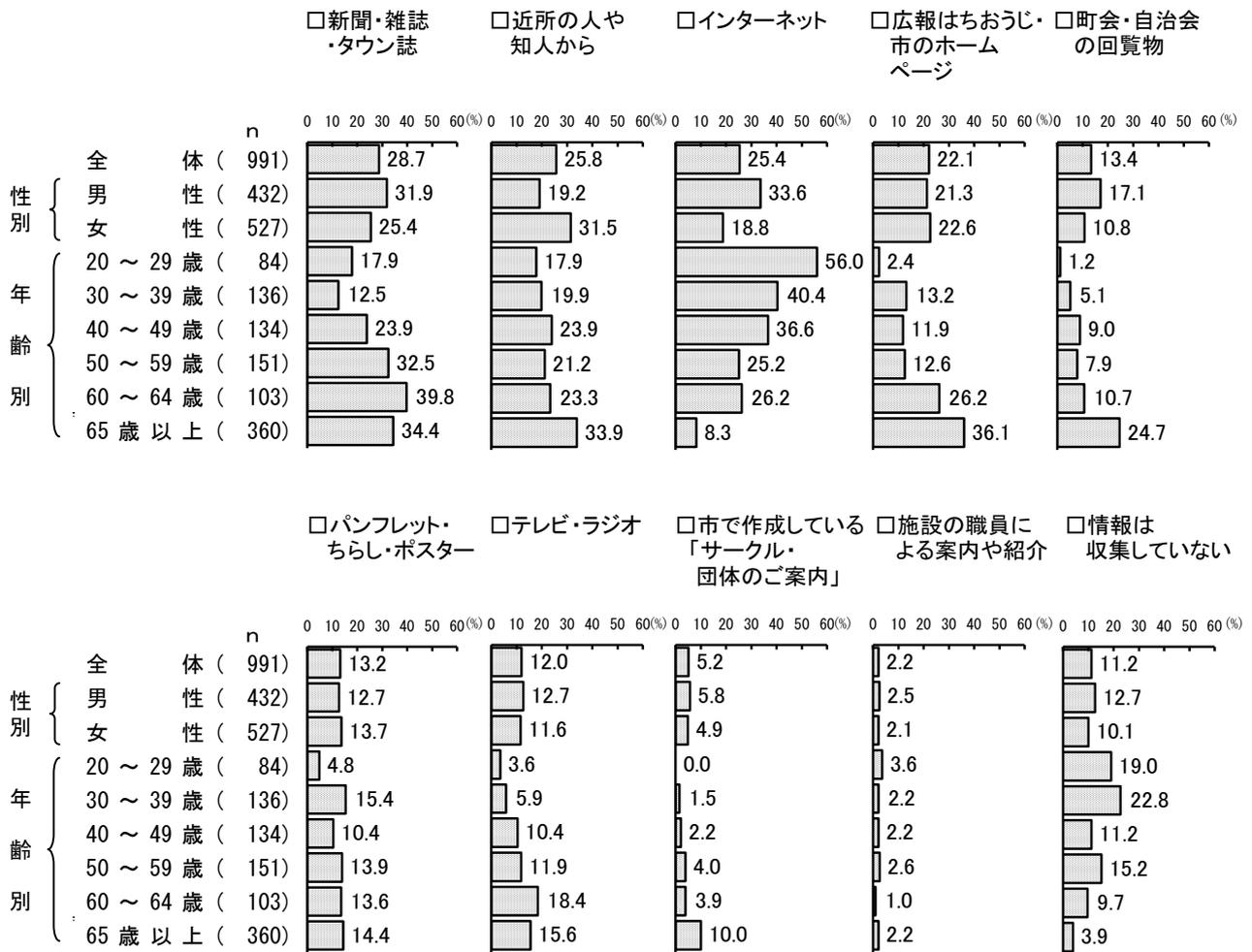
問21-1 あなたが行っている学習や活動に関する情報を何でお知りになりましたか。あてはまるものに○をつけて下さい。(○はいくつでも)

図7-2-1



この1年間に何らかの生涯学習活動に取り組んだと答えた人(991人)に、生涯学習活動の情報入手手段を聞いたところ、「新聞・雑誌・タウン誌」が3割近く(28.7%)と最も高く、次いで「近所の人や知人から(口コミ)」(25.8%)、「インターネット」(25.4%)、「広報はちおうじ・市のホームページ」(22.1%)と続いている。一方、「情報は収集していない」は1割強(11.2%)となっている。(図7-2-1)

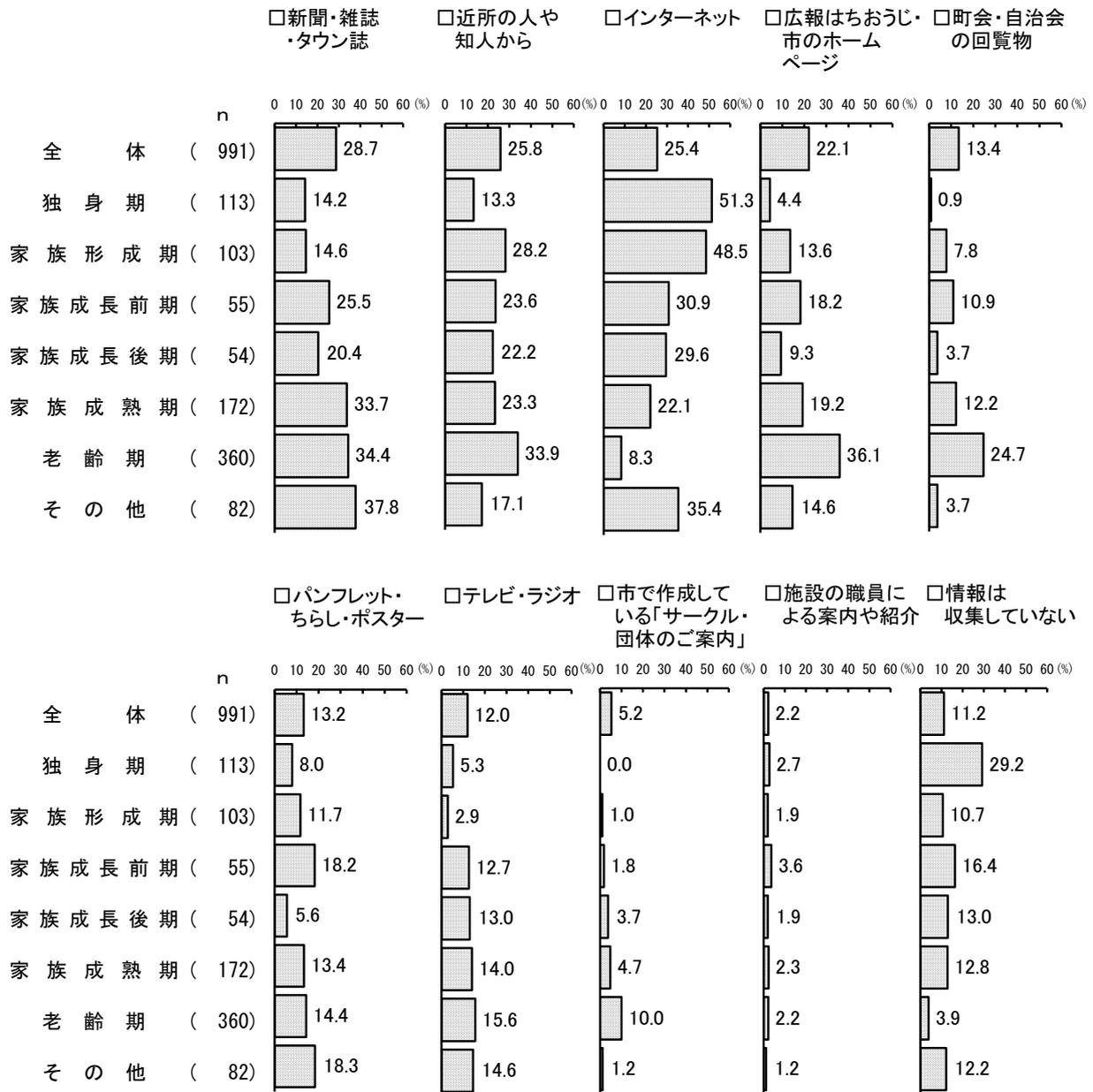
図7-2-2 生涯学習活動の情報入手手段－性別・年齢別
(上位9項目+「情報は収集していない」)



性別にみると、「インターネット」は14.8ポイント、「新聞・雑誌・タウン誌」は6.5ポイント、「町会・自治会の回覧物」は6.3ポイント、それぞれ男性が高くなっている。一方、「近所の人や知人から（口コミ）」は女性が12.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「インターネット」はおおむね年代が下がるにつれて割合が高く、特に20～29歳で6割近く（56.0%）と高くなっている。また、「広報はちおうじ・市のホームページ」はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、特に65歳以上で4割近く（36.1%）と高くなっている。（図7-2-2）

図7-2-3 生涯学習活動の情報入手手段—ライフステージ（集約型）別
（上位9項目+「情報は収集していない」）



ライフステージ（集約型）別にみると、「インターネット」は独身期で5割強（51.3%）と高く、家族形成期でも5割近く（48.5%）と高くなっている。また、「広報はちおうじ・市のホームページ」は老齢期で4割近く（36.1%）と高くなっている。（図7-2-3）

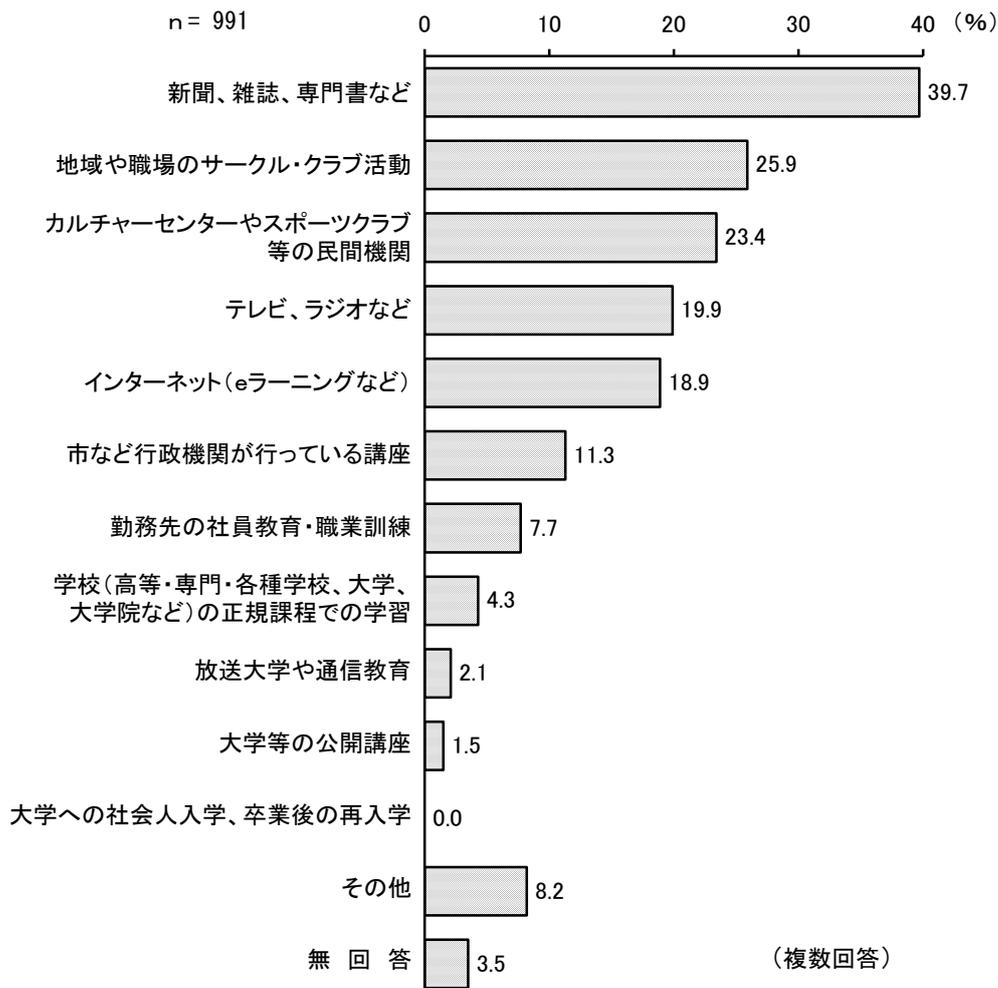
7-3 生涯学習活動に取り組む方法

◇「新聞、雑誌、専門書など」が4割弱

(問21で、生涯学習活動に取り組んだとお答えの方に)

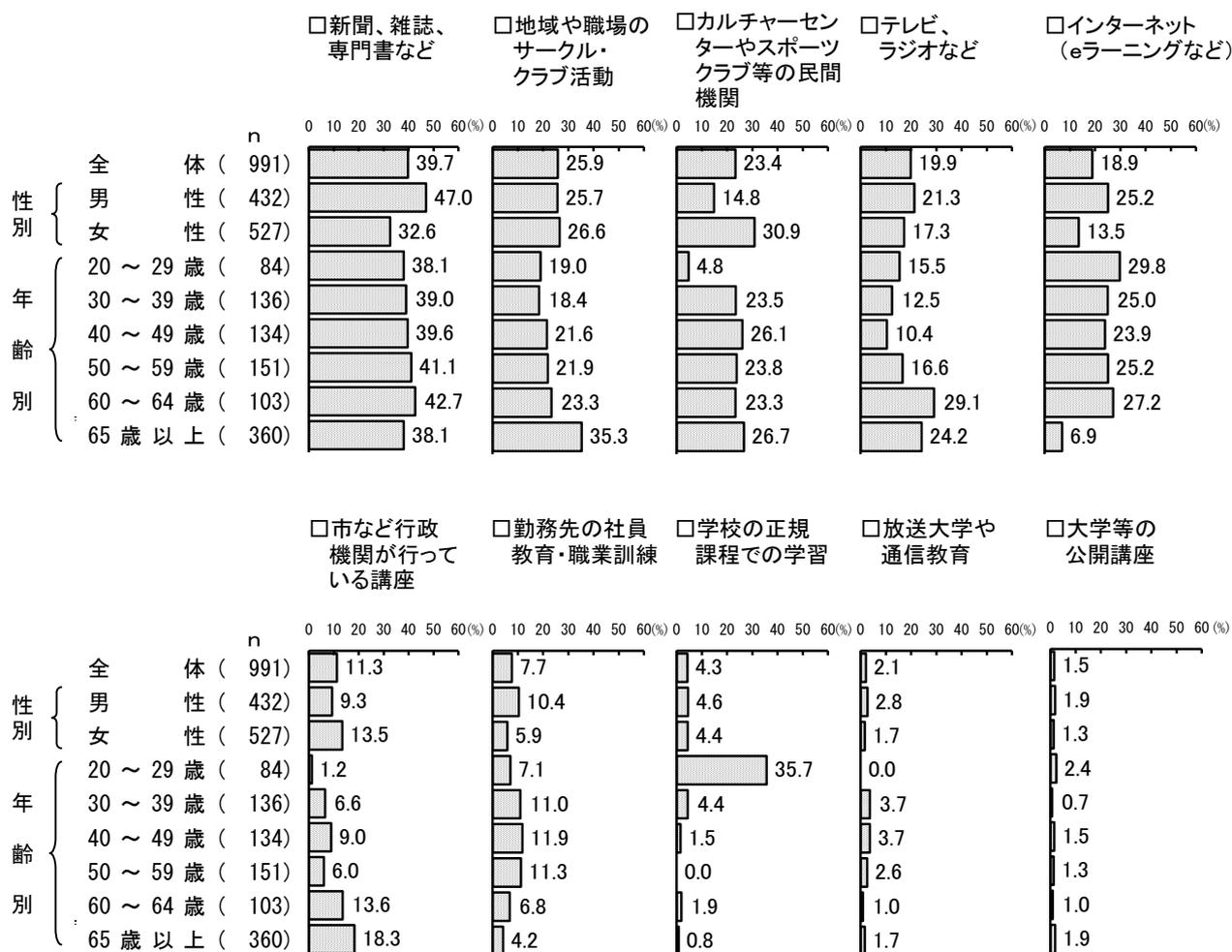
問21-2 あなたは、どのような方法で、学んだり、活動したりしていますか。あてはまるものに○をつけて下さい。(○はいくつでも)

図7-3-1



この1年間に何らかの生涯学習活動に取り組んだと答えた人(991人)に、生涯学習活動に取り組む方法を聞いたところ、「新聞、雑誌、専門書など」が4割弱(39.7%)と最も高く、次いで「地域や職場のサークル・クラブ活動」(25.9%)、「カルチャーセンターやスポーツクラブ等の民間機関」(23.4%)、「テレビ、ラジオなど」(19.9%)、「インターネット(eラーニングなど)」(18.9%)と続いている。(図7-3-1)

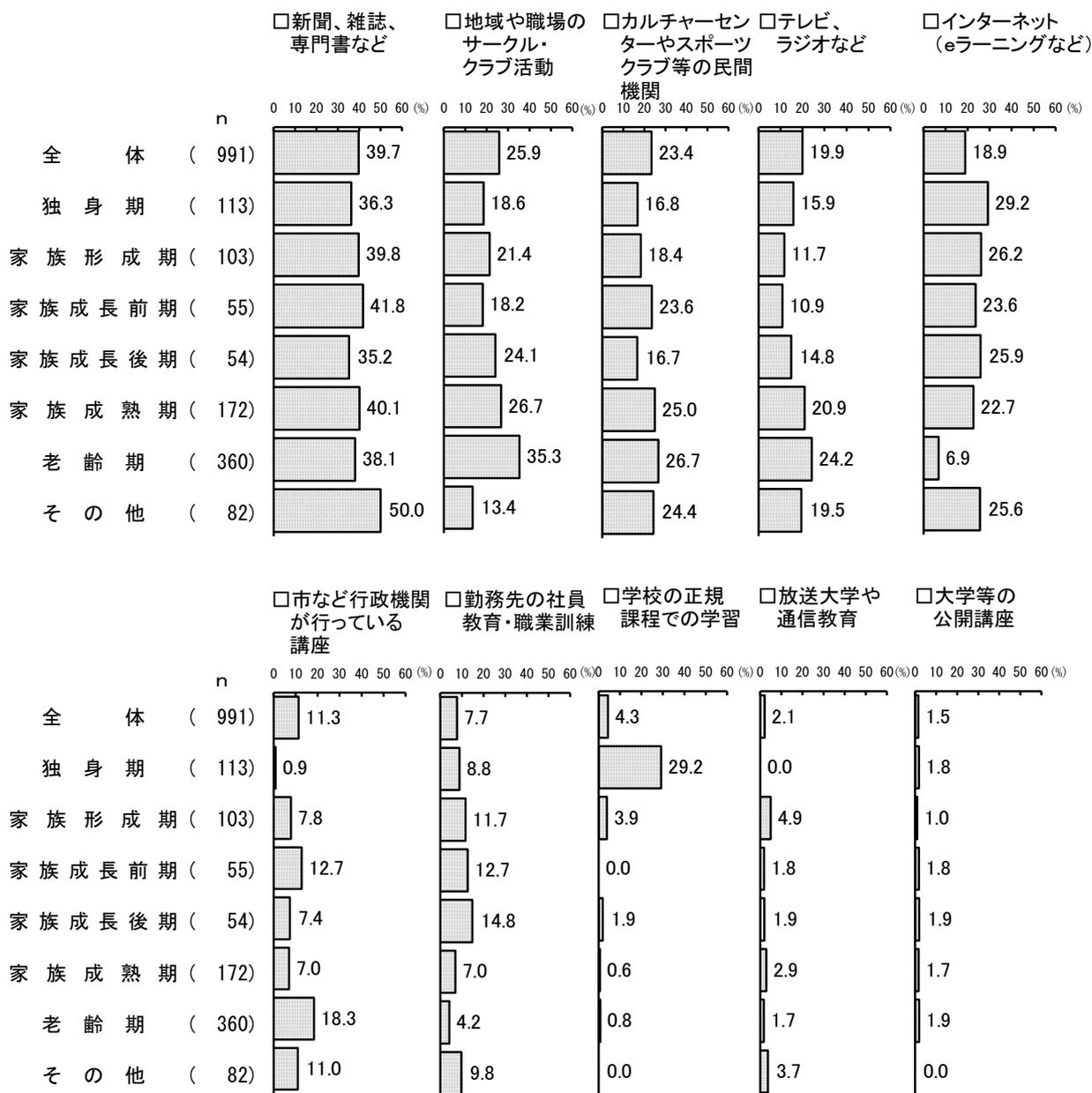
図7-3-2 生涯学習活動に取り組む方法—性別・年齢別（上位10項目）



性別にみると、「カルチャーセンターやスポーツクラブ等の民間機関」は女性が16.1ポイント高くなっている。一方、「新聞、雑誌、専門書など」は14.4ポイント、「インターネット（eラーニングなど）」は11.7ポイント、それぞれ男性が高くなっている。

年齢別にみると、「地域や職場のサークル・クラブ活動」は65歳以上で3割台半ば（35.3%）と高くなっている。また、「学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の正規課程での学習」は20～29歳で3割台半ば（35.7%）と高くなっている。（図7-3-2）

図 7-3-3 生涯学習活動に取り組む方法—ライフステージ（集約型）別（上位10項目）



ライフステージ（集約型）別にみると、「地域や職場のサークル・クラブ活動」は老齢期で3割台半ば（35.3%）と高くなっている。また、「インターネット（eラーニングなど）」は老齢期で1割近く（6.9%）と低くなっている。（図7-3-3）

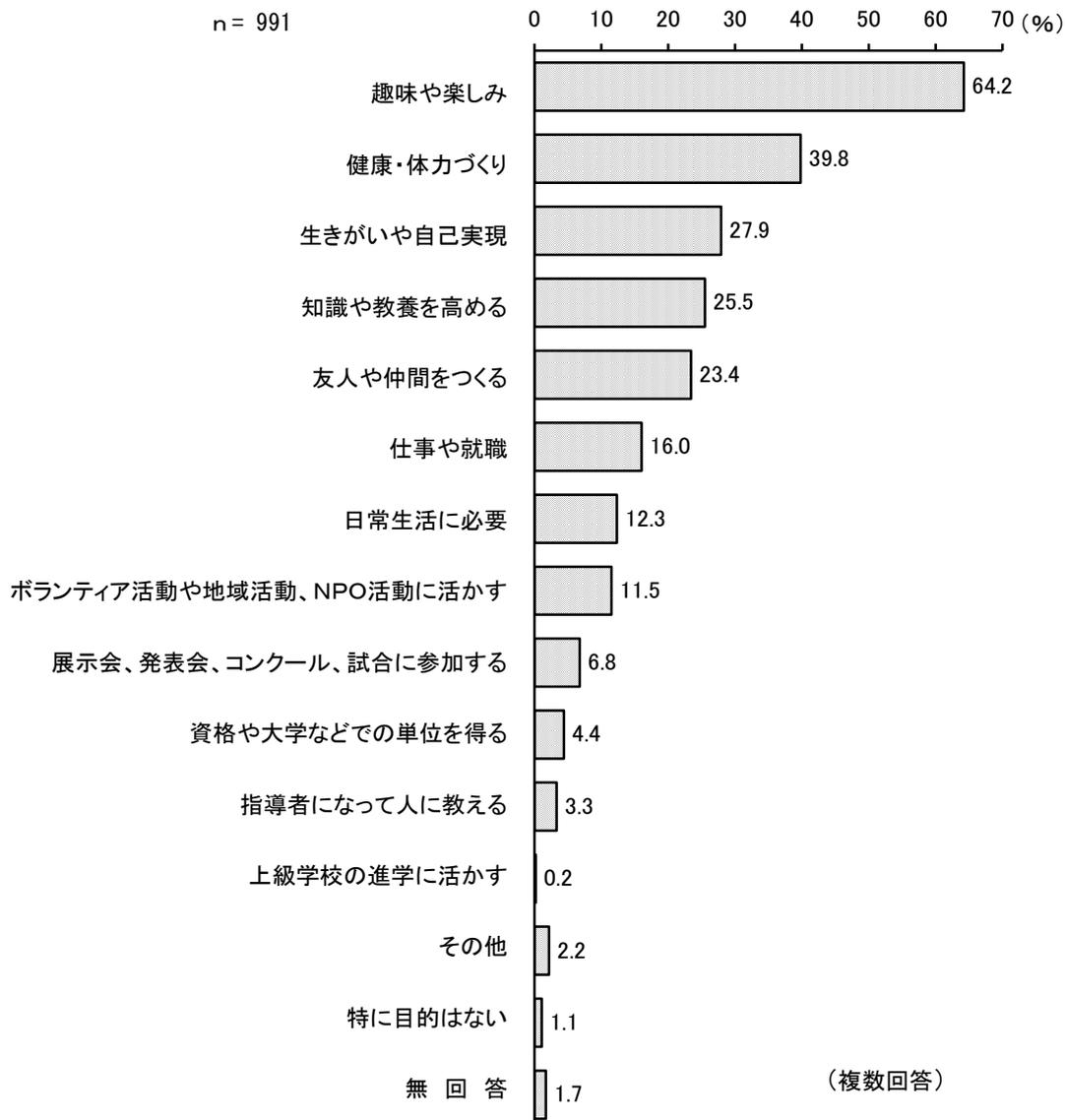
7-4 生涯学習活動に取り組む目的

◇「趣味や楽しみ」が6割台半ば

(問21で、生涯学習活動に取り組んだとお答えの方に)

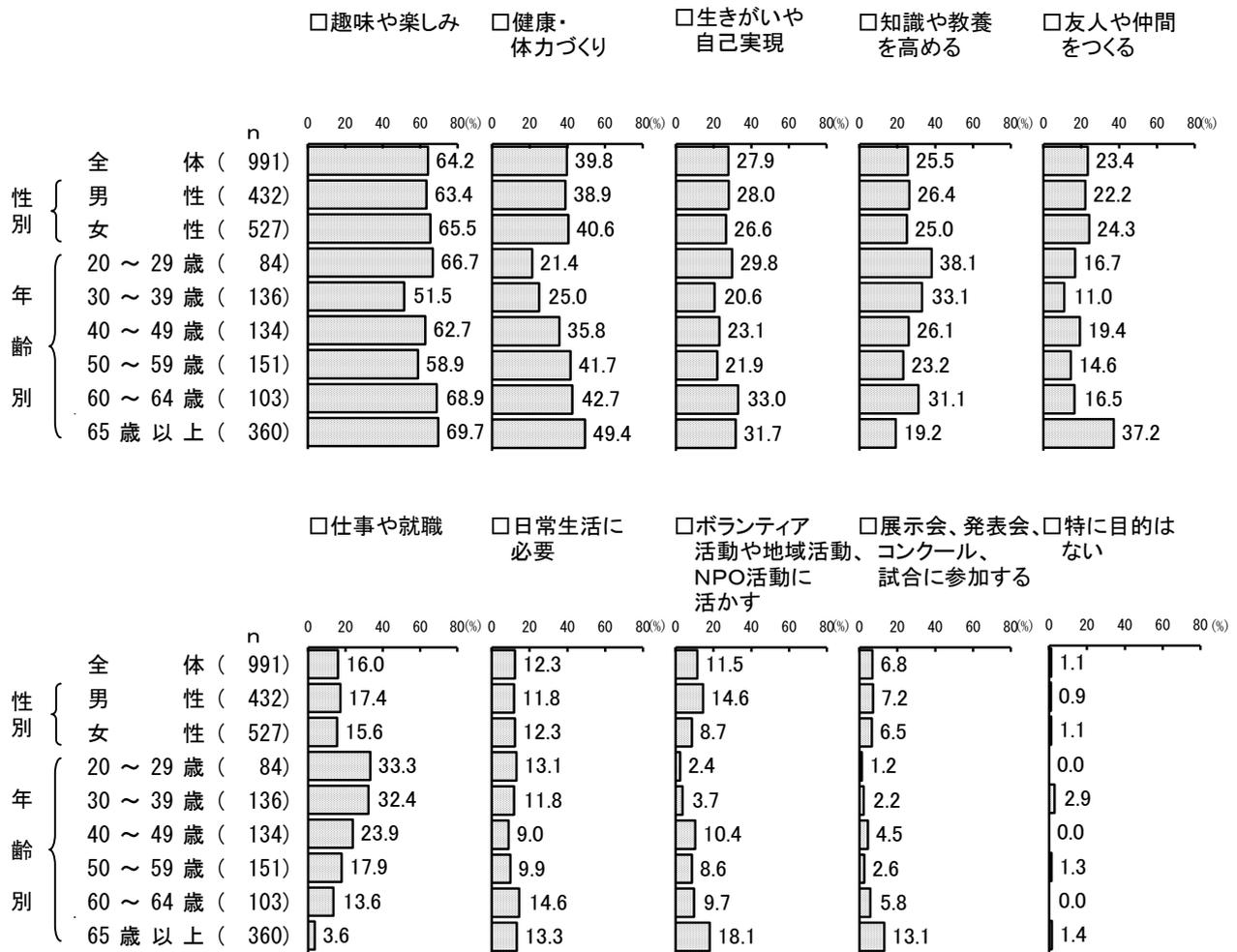
問21-3 あなたは、どのような目的で、学んだり、活動したりしていますか。あてはまるものに○をつけて下さい。(○はいくつでも)

図7-4-1



この1年間に何らかの生涯学習活動に取り組んだと答えた人(991人)に、生涯学習活動に取り組む目的を聞いたところ、「趣味や楽しみ」が6割台半ば(64.2%)と最も高く、次いで「健康・体力づくり」(39.8%)、「生きがいや自己実現」(27.9%)、「知識や教養を高める」(25.5%)、「友人や仲間をつくる」(23.4%)と続いている。(図7-4-1)

図7-4-2 生涯学習活動に取り組む目的—性別・年齢別
(上位9項目+「特に目的はない」)

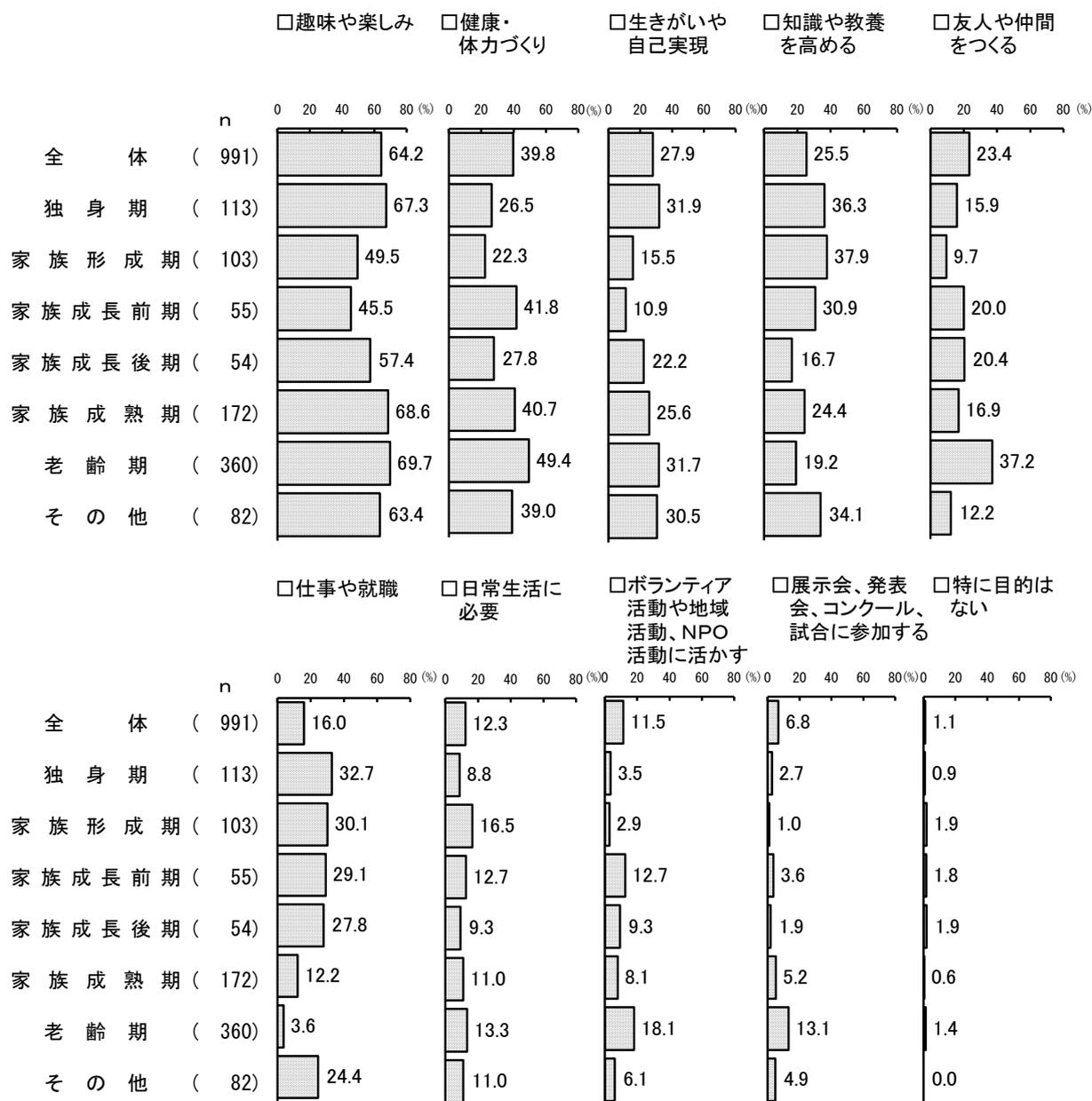


性別にみると、「ボランティア活動や地域活動、NPO活動に活かす」は男性が5.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「健康・体力づくり」は年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で5割弱（49.4%）と高くなっている。また、「友人や仲間をつくる」は65歳以上で4割近く（37.2%）と高く、「仕事や就職」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

(図7-4-2)

図7-4-3 生涯学習活動に取り組む目的—ライフステージ（集約型）別
（上位9項目+「特に目的はない」）



ライフステージ（集約型）別にみると、「健康・体づくり」は老齢期で5割弱（49.4%）と高く、「友人や仲間をつくる」でも老齢期で4割近く（37.2%）と高くなっている。

（図7-4-3）

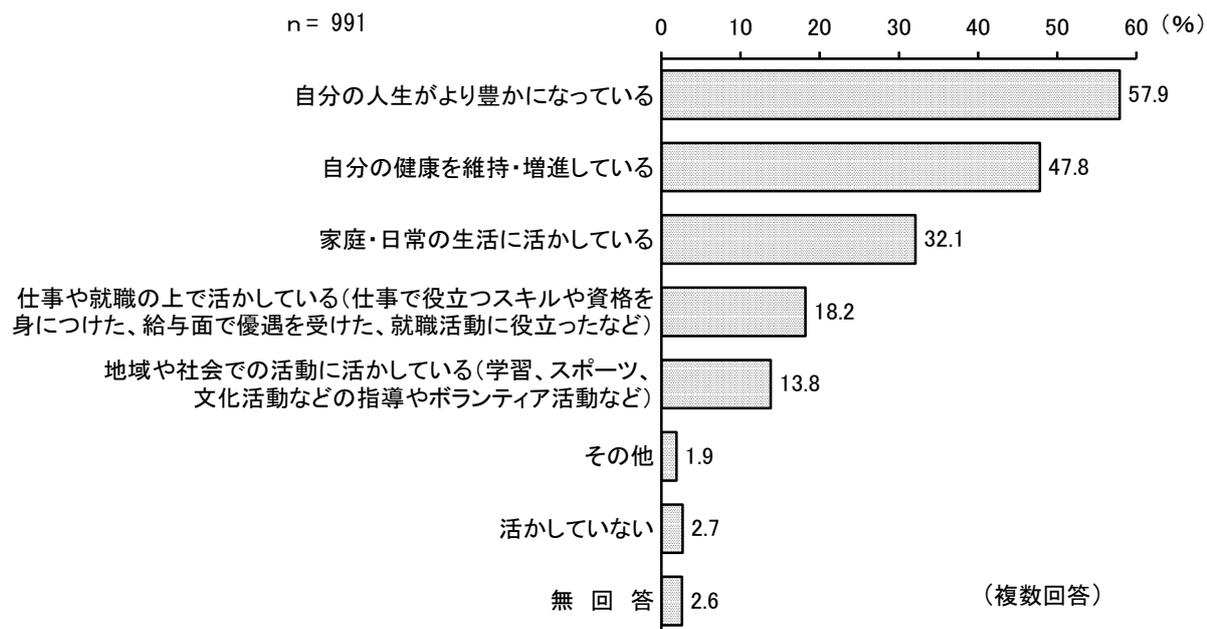
7-5 生涯学習活動で身に付けた知識、技能、経験の活かし方

◇「自分の人生がより豊かになっている」が6割近く

(問21で、生涯学習活動に取り組んだとお答えの方に)

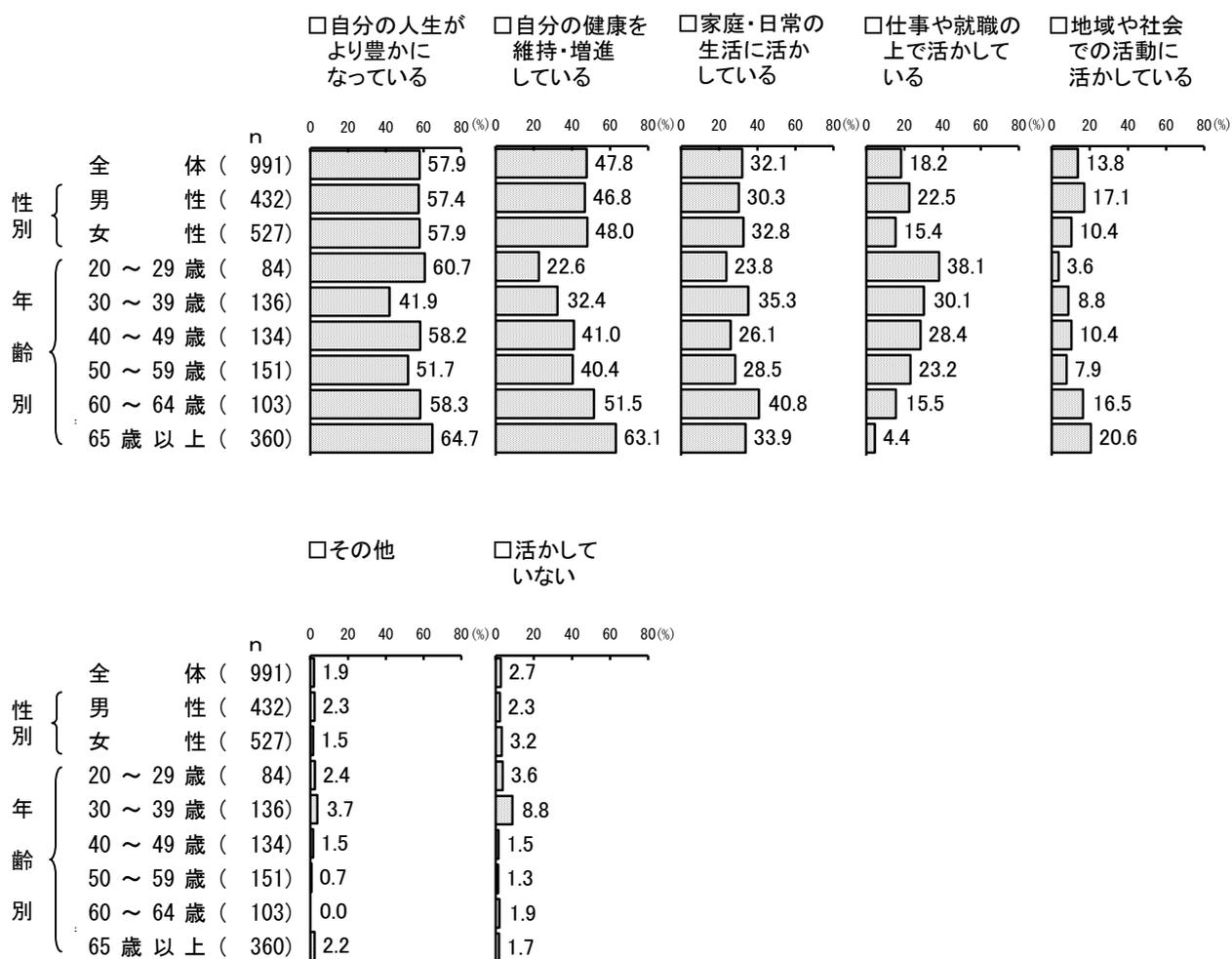
問21-4 あなたは、生涯学習を通じて身につけた知識や技能、経験をどのように活かしていますか。あてはまるものに○をつけて下さい。(○はいくつでも)

図7-5-1



この1年間に何らかの生涯学習活動に取り組んだと答えた人(991人)に、生涯学習活動で身に付けた知識、技能、経験の活かし方を聞いたところ、「自分の人生がより豊かになっている」が6割近く(57.9%)と最も高く、次いで「自分の健康を維持・増進している」(47.8%)、「家庭・日常生活に活かしている」(32.1%)、「仕事や就職の上で活かしている(仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど)」(18.2%)、「地域や社会での活動に活かしている(学習、スポーツ、文化活動などの指導やボランティア活動など)」(13.8%)と続いている。(図7-5-1)

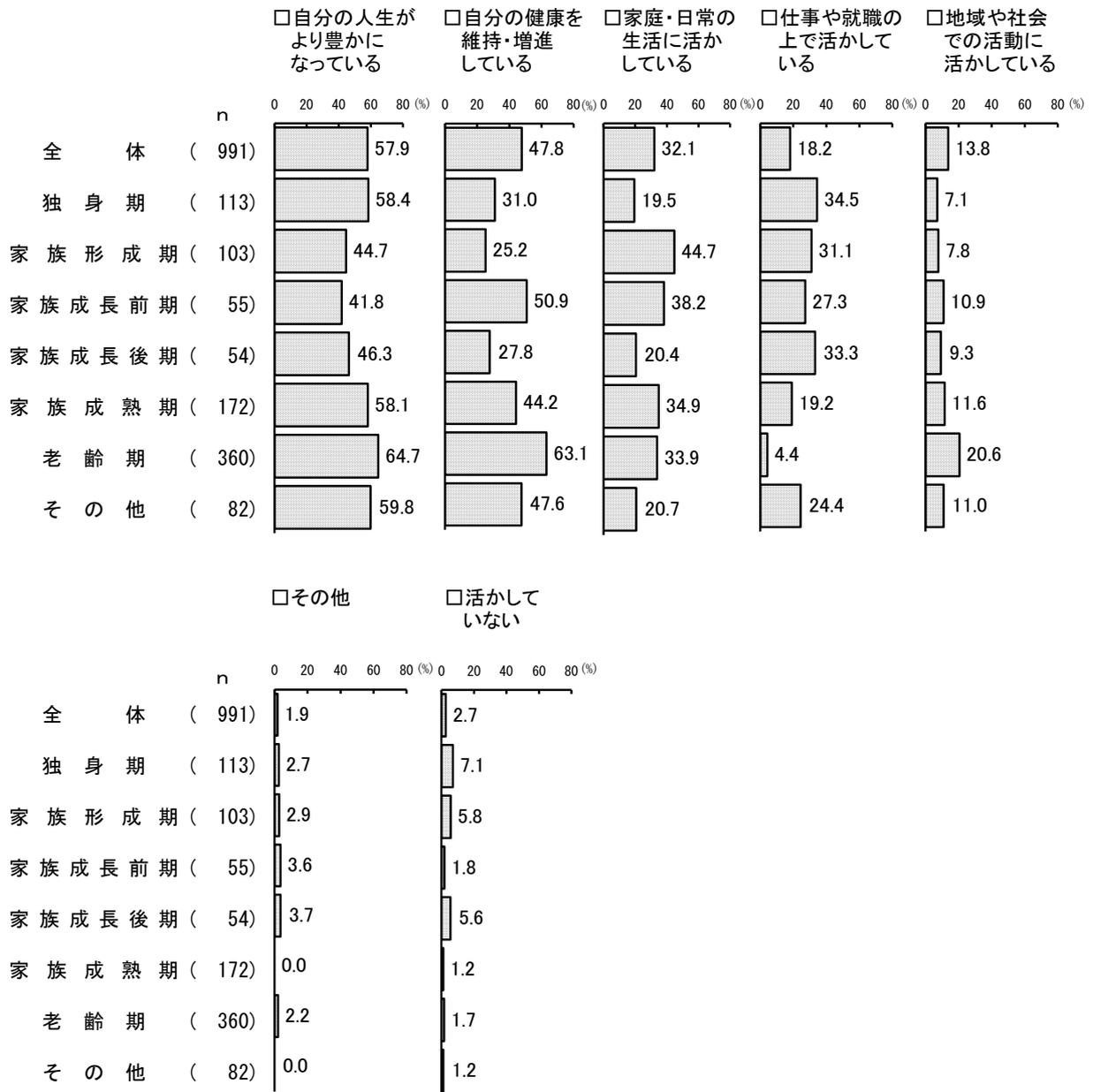
図7-5-2 生涯学習活動で身に付けた知識、技能、経験の活かし方—性別・年齢別



性別にみると、「仕事や就職の上で活かしている」は7.1ポイント、「地域や社会での活動に活かしている」は6.7ポイント、それぞれ男性が高くなっている。

年齢別にみると、「自分の健康を維持・増進している」はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、特に65歳以上で6割強（63.1%）と高くなっている。また、「仕事や就職の上で活かしている」は年代が下がるにつれて割合が高く、特に20～29歳で4割近く（38.1%）と高くなっている。（図7-5-2）

図 7-5-3 生涯学習活動で身に付けた知識、技能、経験の活かし方
—ライフステージ（集約型）別



ライフステージ（集約型）別にみると、「自分の健康を維持・増進している」は老齢期で6割強（63.1%）と高くなっている。また、「家庭・日常の生活に活かしている」は家族形成期で4割台半ば（44.7%）と高くなっている。（図7-5-3）

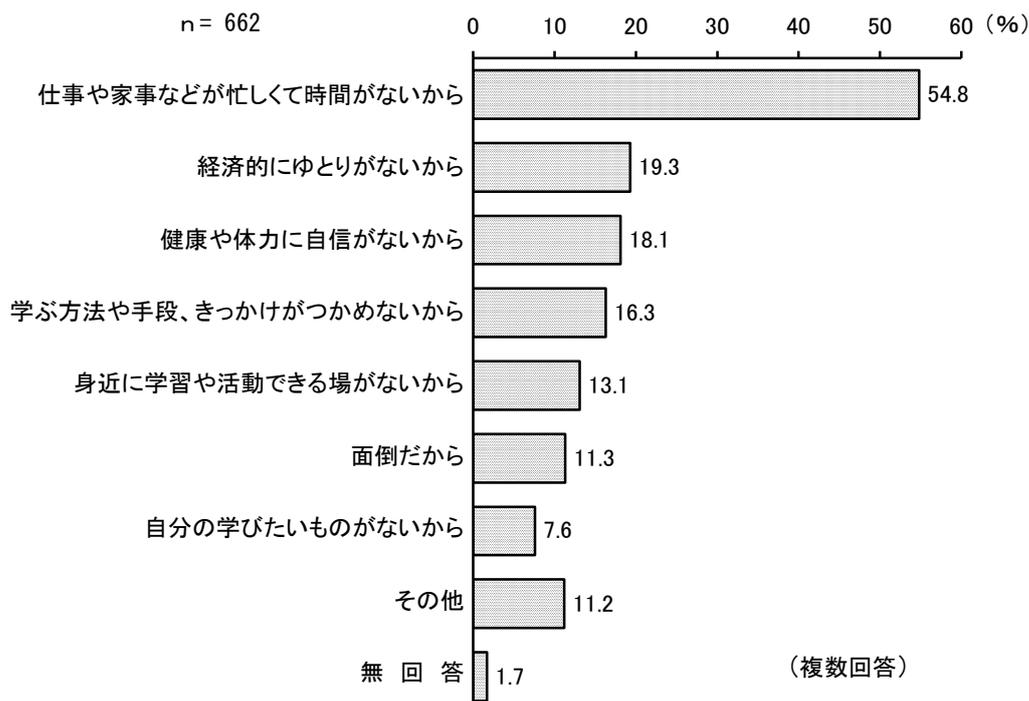
7-6 生涯学習活動に取り組んでいない理由

◇「仕事や家事などが忙しくて時間がないから」が5割台半ば

(問21で、「取り組んでいない」とお答えの方に)

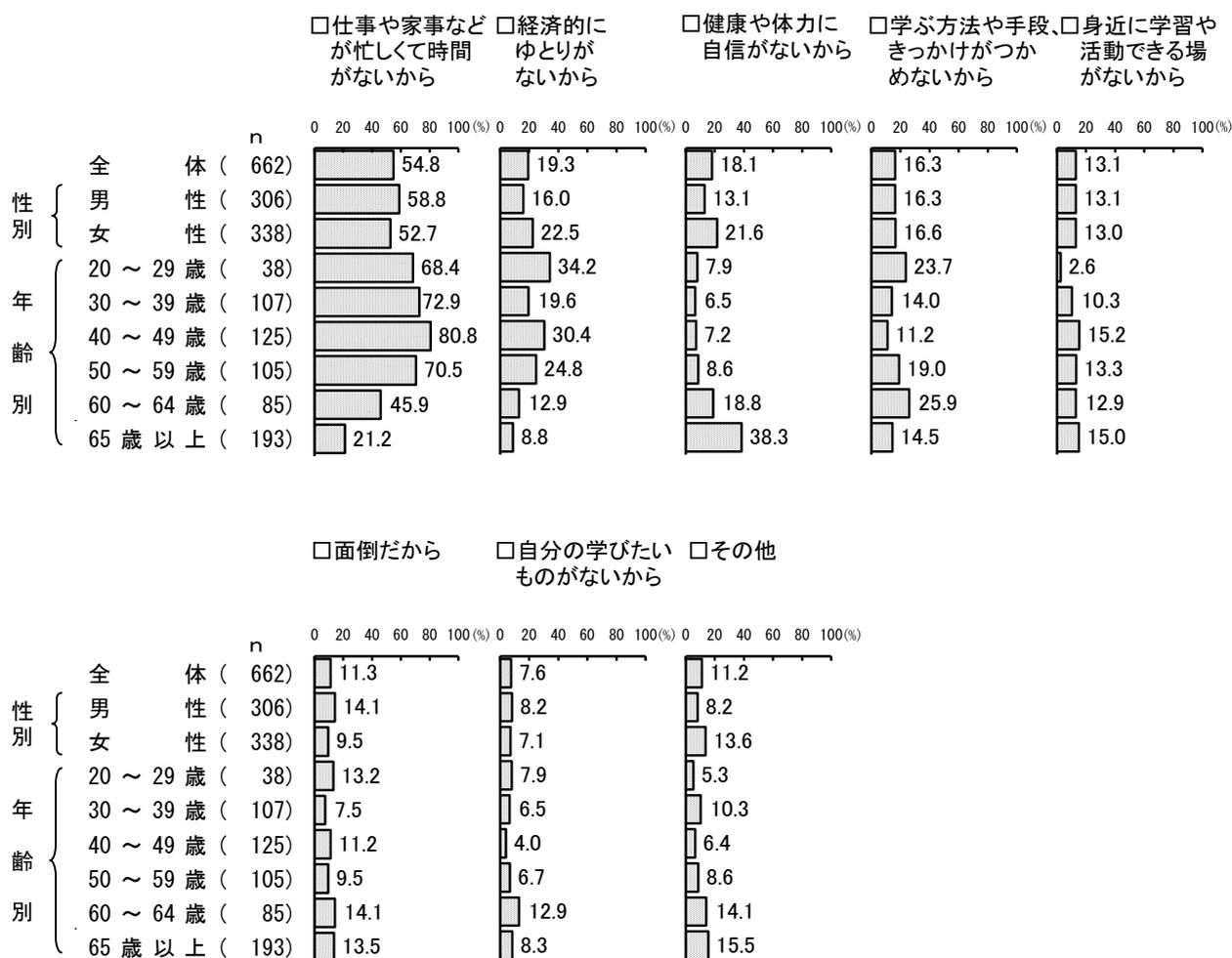
問21-5 あなたが学んだり、活動したりしていない(できない)主な理由は何ですか。あてはまるものに○をつけて下さい。(○はいくつでも)

図7-6-1



この1年間に生涯学習活動に「取り組んでいない」と答えた人(662人)に、生涯学習活動に取り組んでいない理由を聞いたところ、「仕事や家事などが忙しくて時間がないから」が5割台半ば(54.8%)と最も高く、次いで「経済的にゆとりがないから」(19.3%)、「健康や体力に自信がないから」(18.1%)、「学ぶ方法や手段、きっかけがつかめないから」(16.3%)、「身近に学習や活動できる場がないから」(13.1%)と続いている。(図7-6-1)

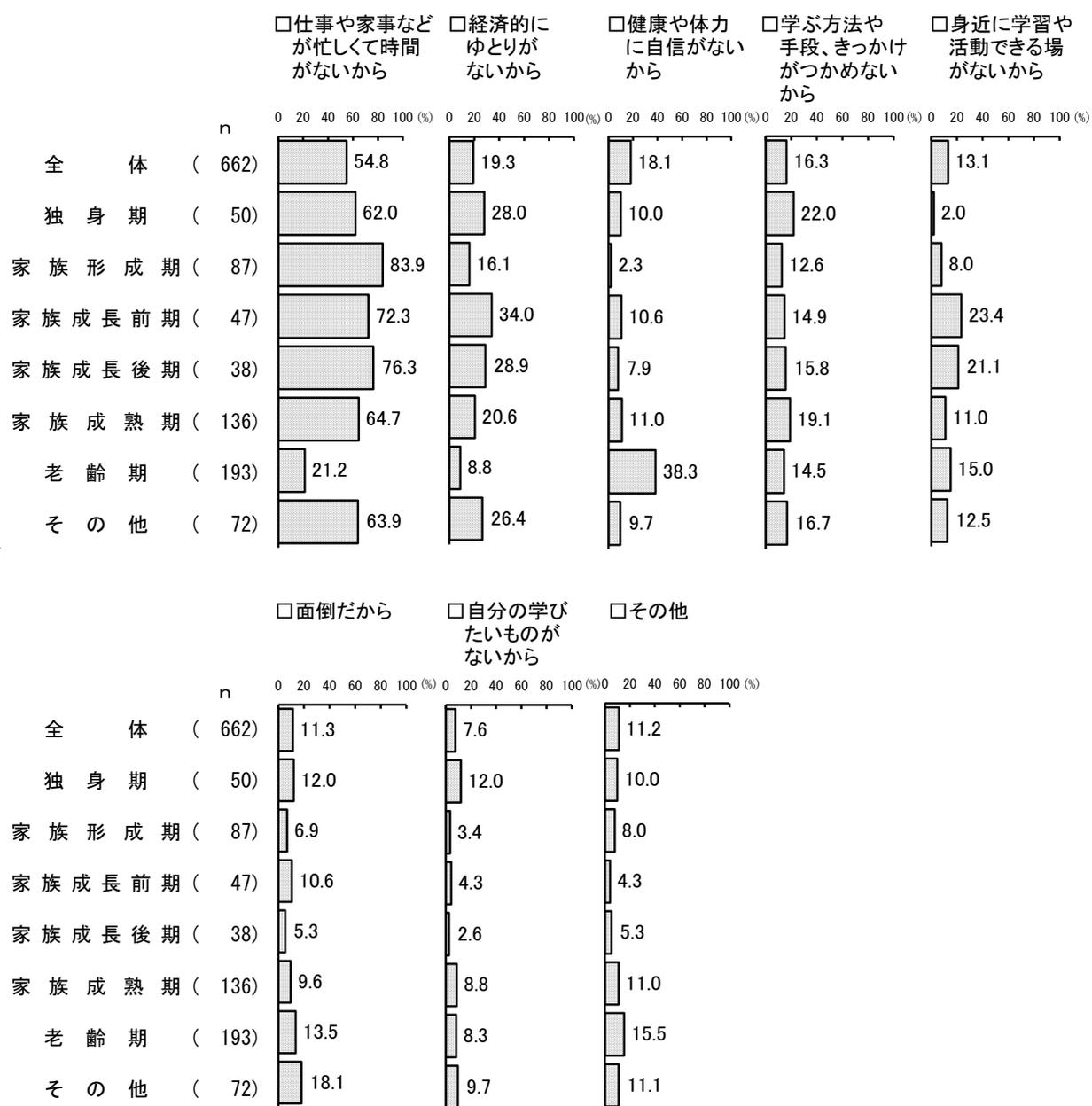
図 7-6-2 生涯学習活動に取り組んでいない理由—性別・年齢別



性別にみると、「健康や体力に自信がないから」は8.5ポイント、「経済的にゆとりがないから」は6.5ポイント、それぞれ女性が高くなっている。一方、「仕事や家事などが忙しくて時間がないから」は男性が6.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「仕事や家事などが忙しくて時間がないから」は40～49歳で約8割(80.8%)と高くなっている。また、「健康や体力に自信がないから」は65歳以上で4割近く(38.3%)と高くなっている。(図7-6-2)

図7-6-3 生涯学習活動に取り組んでいない理由—ライフステージ（集約型）別



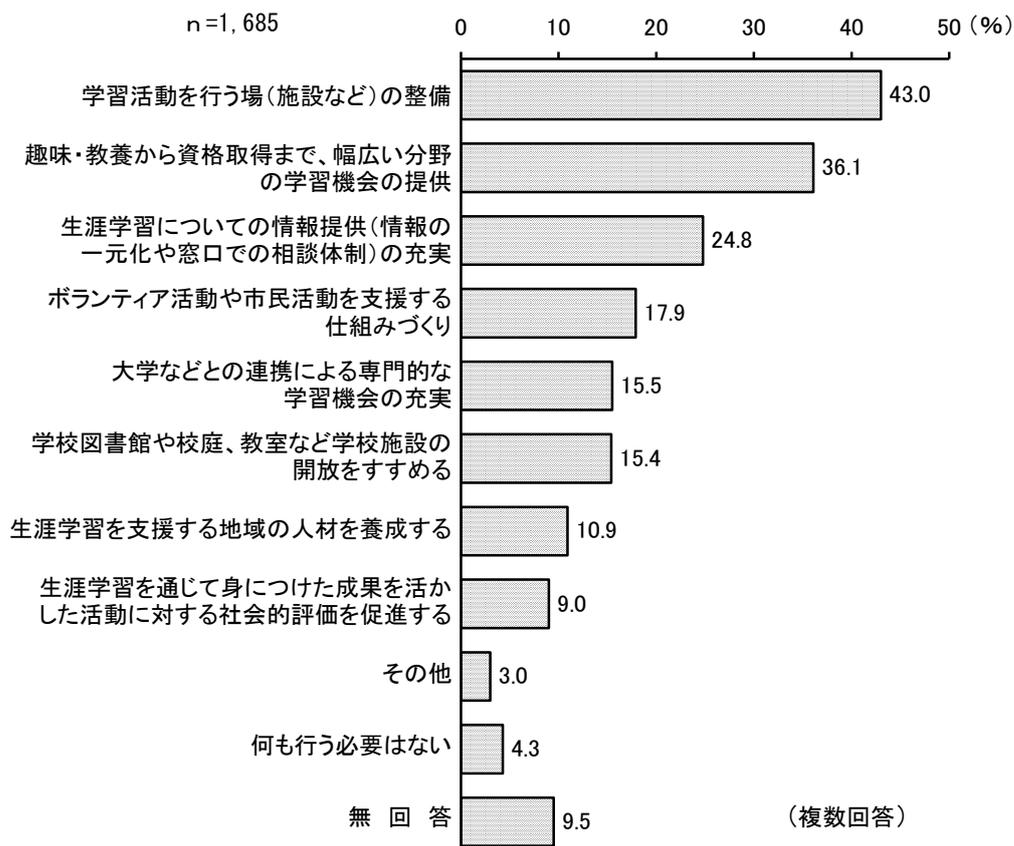
ライフステージ（集約型）別にみると、「仕事や家事などが忙しくて時間がないから」は家族形成期で8割強（83.9%）と高くなっている。また、「健康や体力に自信がないから」は老齢期で4割近く（38.3%）と高くなっている。（図7-6-3）

7-7 生涯学習活動を支援するために推進すべき施策

◇「学習活動を行う場（施設など）の整備」が4割強

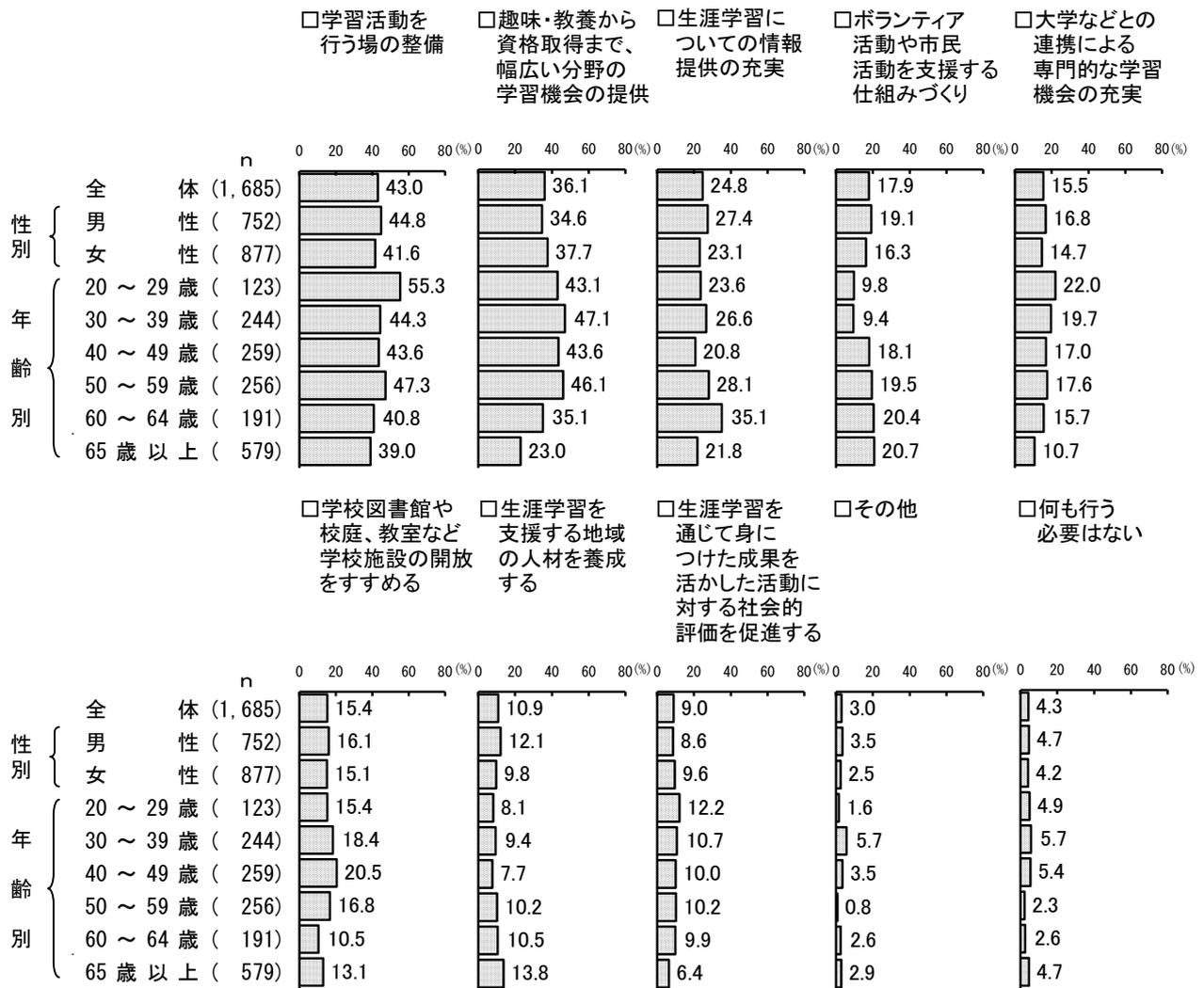
問22 今後、市が市民の生涯学習活動を支援していくにあたり、どのような施策を推進すべきだと思いますか。あなたの考えに近いものを選び○をつけて下さい。（○は3つまで）

図7-7-1



生涯学習活動を支援するために推進すべき施策を聞いたところ、「学習活動を行う場（施設など）の整備」が4割強（43.0%）と最も高く、次いで「趣味・教養から資格取得まで、幅広い分野の学習機会の提供」（36.1%）、「生涯学習についての情報提供（情報の一元化や窓口での相談体制）の充実」（24.8%）、「ボランティア活動や市民活動を支援する仕組みづくり」（17.9%）と続いている。（図7-7-1）

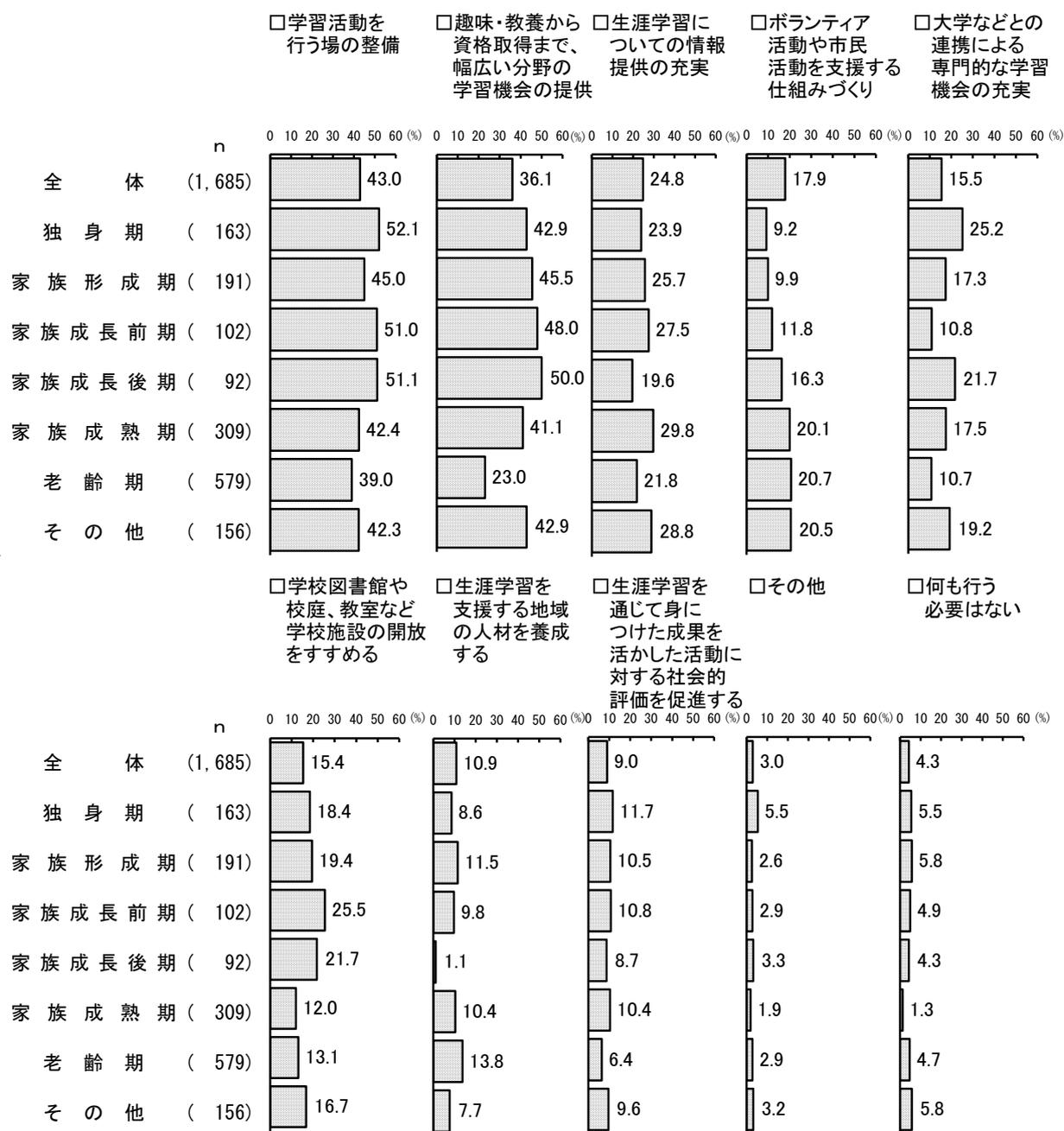
図 7-7-2 生涯学習活動を支援するために推進すべき施策—性別・年齢別



性別にみると、「生涯学習についての情報提供の充実」は男性が4.3ポイント高くなっている。一方、「趣味・教養から資格取得まで、幅広い分野の学習機会の提供」は女性が3.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「学習活動を行う場の整備」は20～29歳で5割台半ば（55.3%）と高くなっている。また、「生涯学習についての情報提供の充実」は60～64歳で3割台半ば（35.1%）と高くなっている。（図7-7-2）

図7-7-3 生涯学習活動を支援するために推進すべき施策—ライフステージ（集約型）別



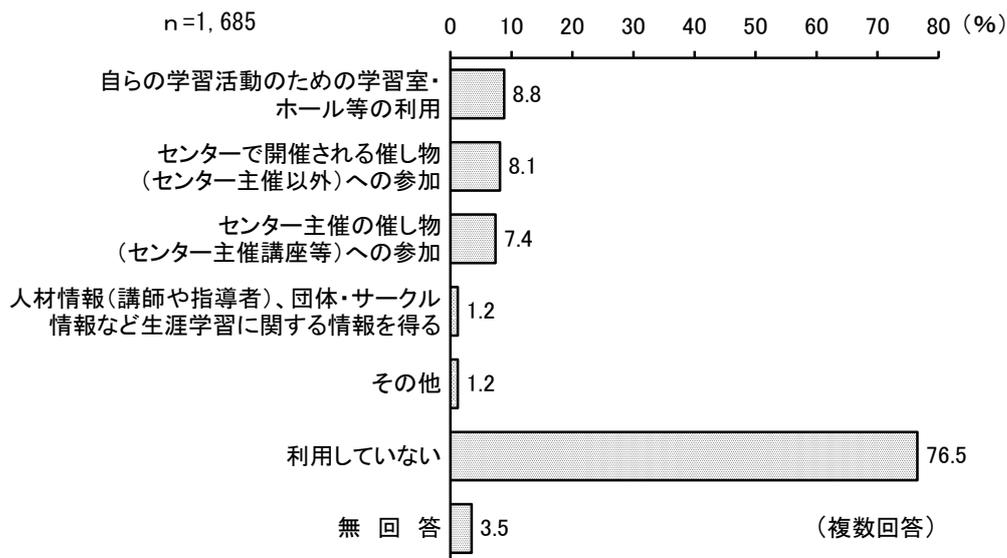
ライフステージ（集約型）別にみると、「学習活動を行う場の整備」は独身期（52.1%）、家族成長後期（51.1%）、家族成長前期（51.0%）で5割台と高くなっている。また、「学校図書館や校庭、教室など学校施設の開放をすすめる」は家族成長前期で2割台半ば（25.5%）と高く、「大学などとの連携による専門的な学習機会の充実」は独身期で2割台半ば（25.2%）と高くなっている。（図7-7-3）

7-8 生涯学習センターの利用目的

◇「利用していない」が8割近く

問23 市は市民の生涯学習活動の拠点として、生涯学習センター（クリエイトホール）、同センター川口分館、南大沢分館を開設しています。あなたは過去1年の間に生涯学習センターをどのように利用しましたか。あてはまるものに○をつけて下さい。（○はいくつでも）

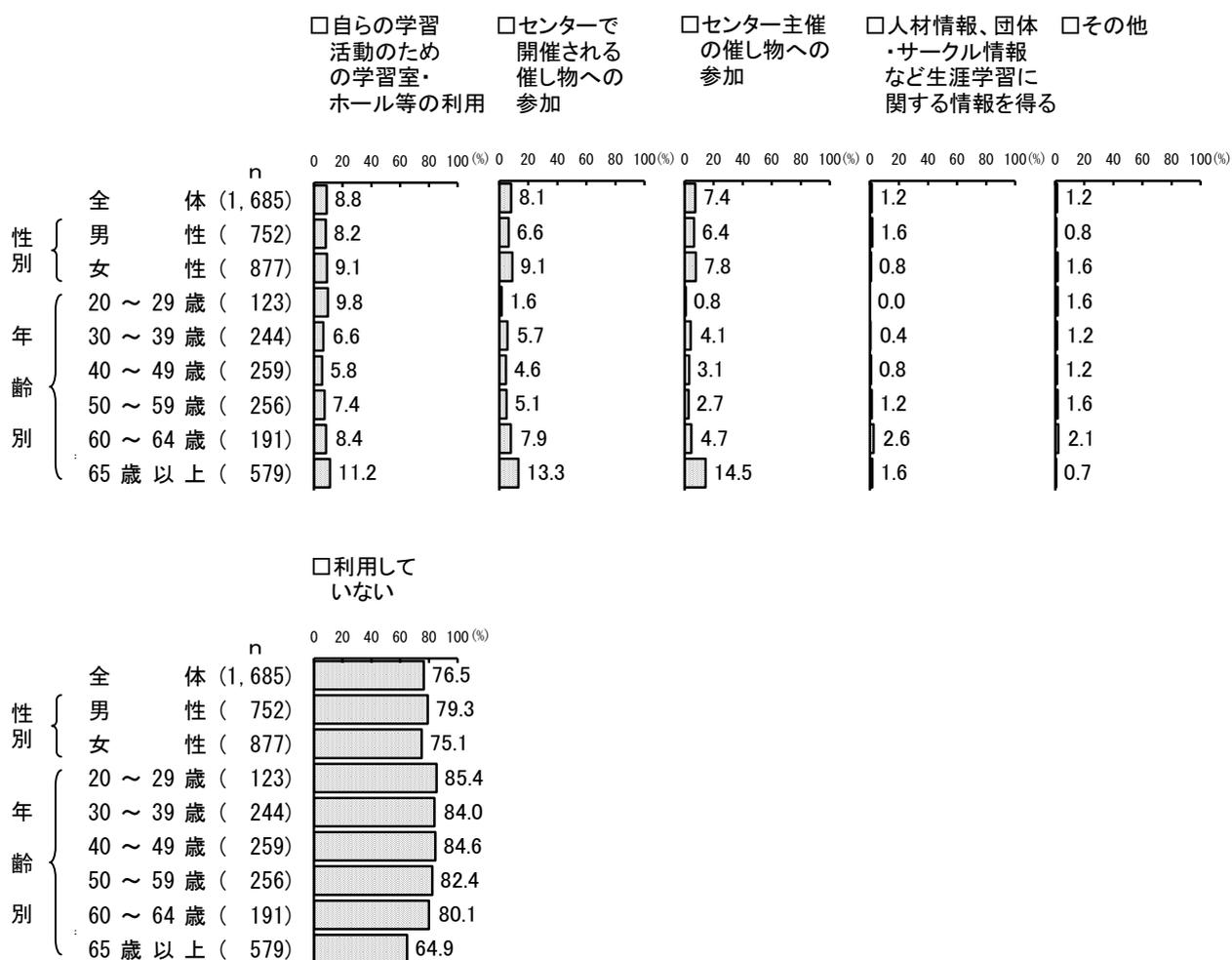
図7-8-1



生涯学習センターの利用目的を聞いたところ、「自らの学習活動のための学習室・ホール等の利用」(8.8%)、「センターで開催される催し物（センター主催以外）への参加」(8.1%)、「センター主催の催し物（センター主催講座等）への参加」(7.4%)、「人材情報（講師や指導者）、団体・サークル情報など生涯学習に関する情報を得る」(1.2%)と続いているが、いずれも1割未満となっている。一方、「利用していない」は8割近く（76.5%）となっている。

(図7-8-1)

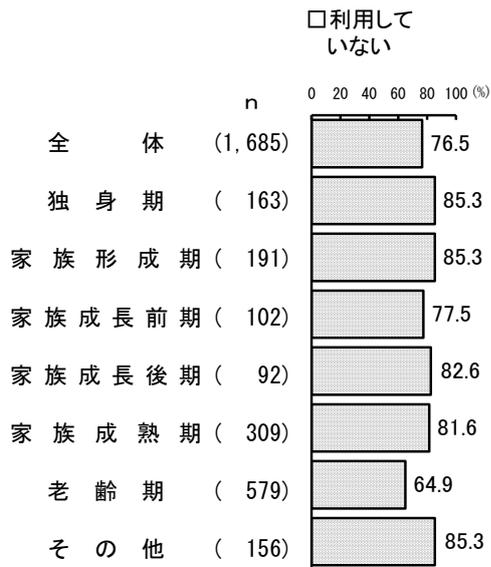
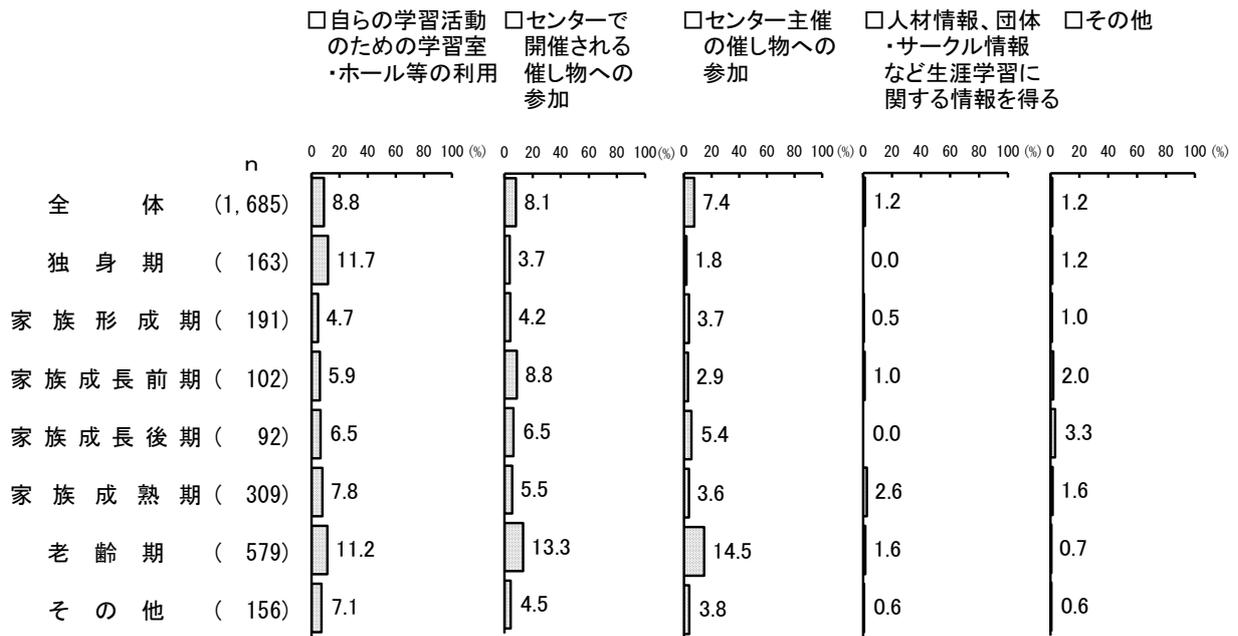
図7-8-2 生涯学習センターの利用目的—性別・年齢別



性別にみると、「センターで開催される催し物への参加」は女性が2.5ポイント高くなっている。一方、「利用していない」は男性が4.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「センター主催の催し物への参加」は65歳以上で1割台半ば（14.5%）となっている。また、「利用していない」はおおむね年代が下がるにつれて割合が高くなっており、65歳以上を除くすべての年代で8割台となっている。（図7-8-2）

図7-8-3 生涯学習センターの利用目的—ライフステージ（集約型）別



ライフステージ（集約型）別にみると、「センター主催の催し物への参加」は老齢期で1割台半ば（14.5%）となっている。（図7-8-3）

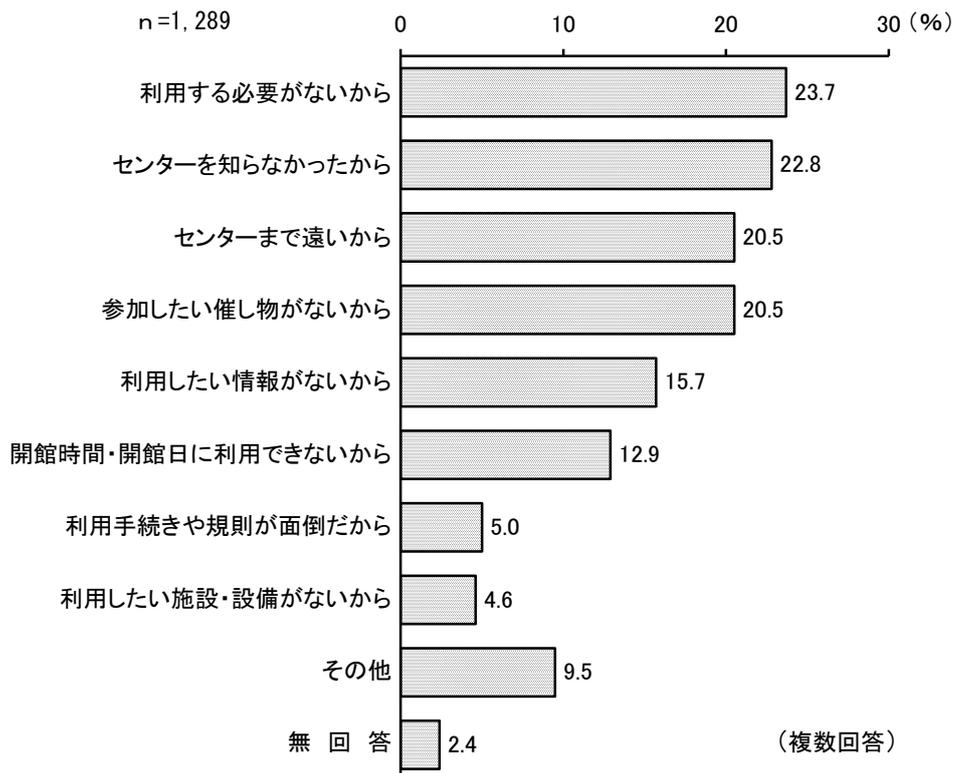
7-9 生涯学習センターを利用しない理由

◇「利用する必要がないから」が2割強

(問23で、「利用していない」とお答えの方に)

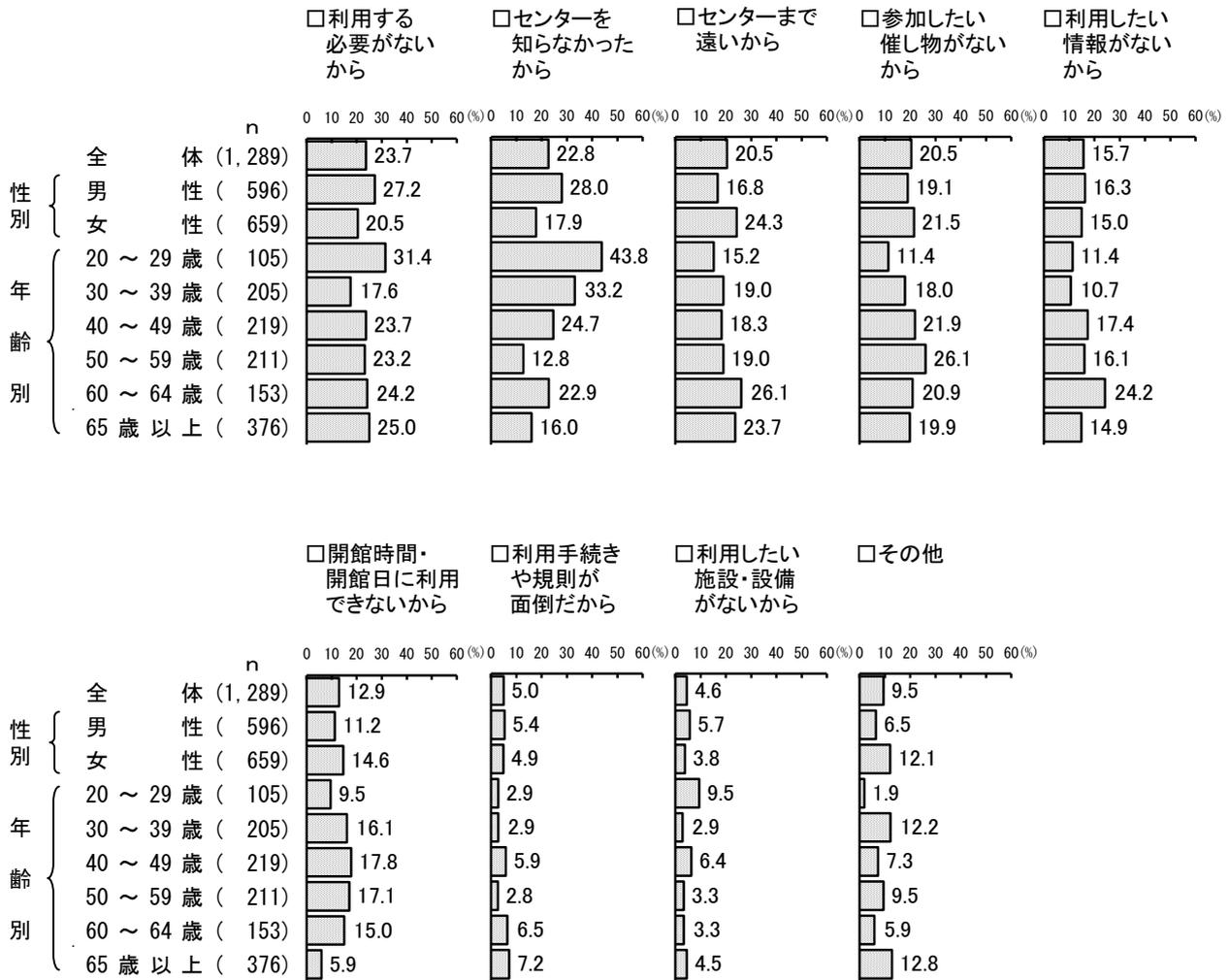
問23-1 生涯学習センターを利用しない理由は何ですか。あてはまるものに○をつけて下さい。(○はいくつでも)

図7-9-1



生涯学習センターの利用目的で、「利用していない」と答えた人(1,289人)に生涯学習センターを利用しない理由を聞いたところ、「利用する必要がないから」が2割強(23.7%)と最も高く、次いで「センターを知らなかったから」(22.8%)、「センターまで遠いから」(20.5%)、「参加したい催し物がないから」(20.5%)、「利用したい情報がないから」(15.7%)、「開館時間・開館日に利用できないから」(12.9%)と続いている。(図7-9-1)

図7-9-2 生涯学習センターを利用しない理由—性別・年齢別

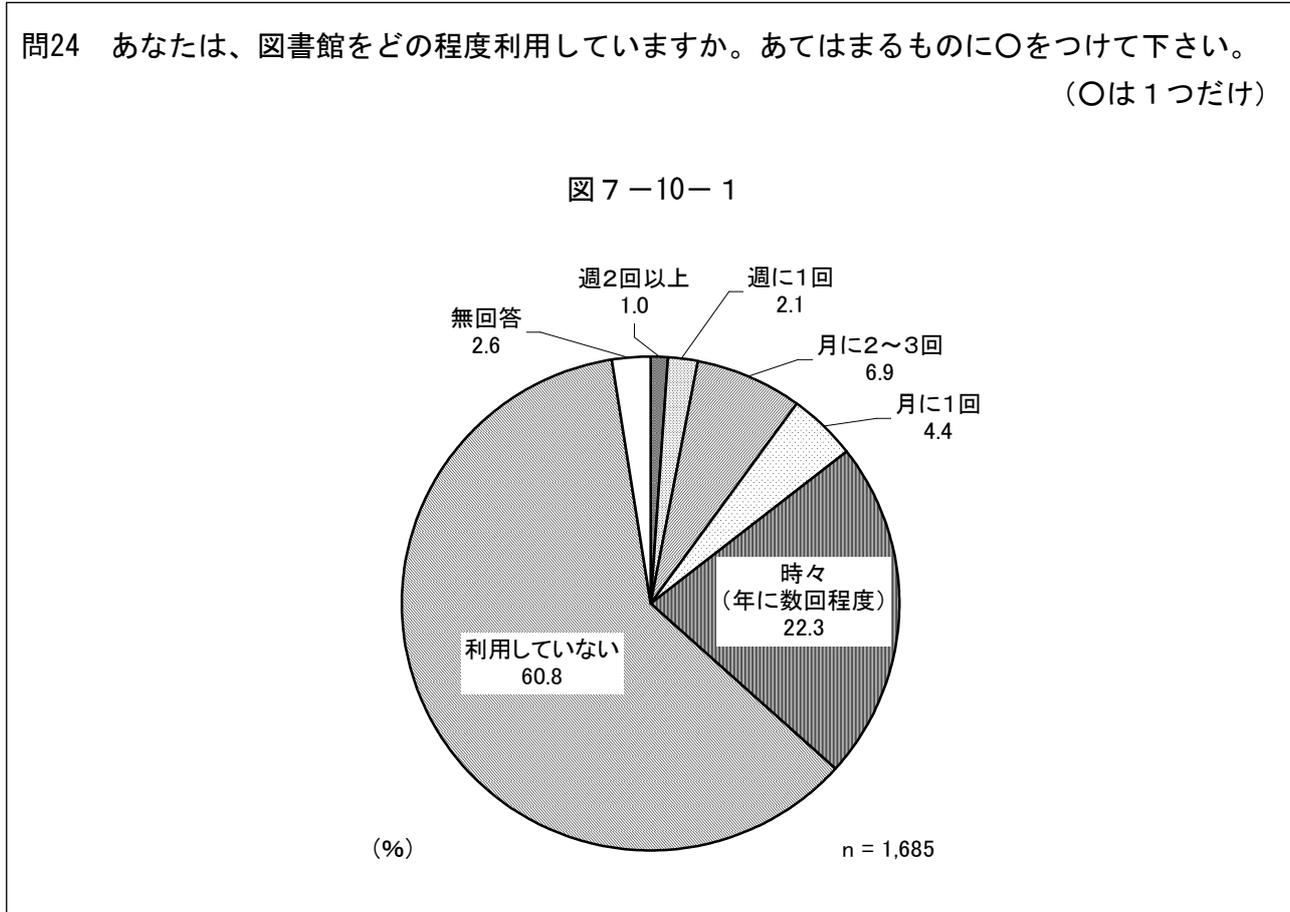


性別にみると、「センターを知らなかったから」は10.1ポイント、「利用する必要がないから」は6.7ポイント、それぞれ男性が高くなっている。一方、「センターまで遠いから」は女性が7.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「センターを知らなかったから」はおおむね年代が下がるにつれて割合が高く、特に20～29歳で4割強（43.8%）と高くなっている。また、「利用する必要がないから」は20～29歳で3割強（31.4%）と高く、「利用したい情報がないから」は60～64歳で2割台半ば（24.2%）と高くなっている。（図7-9-2）

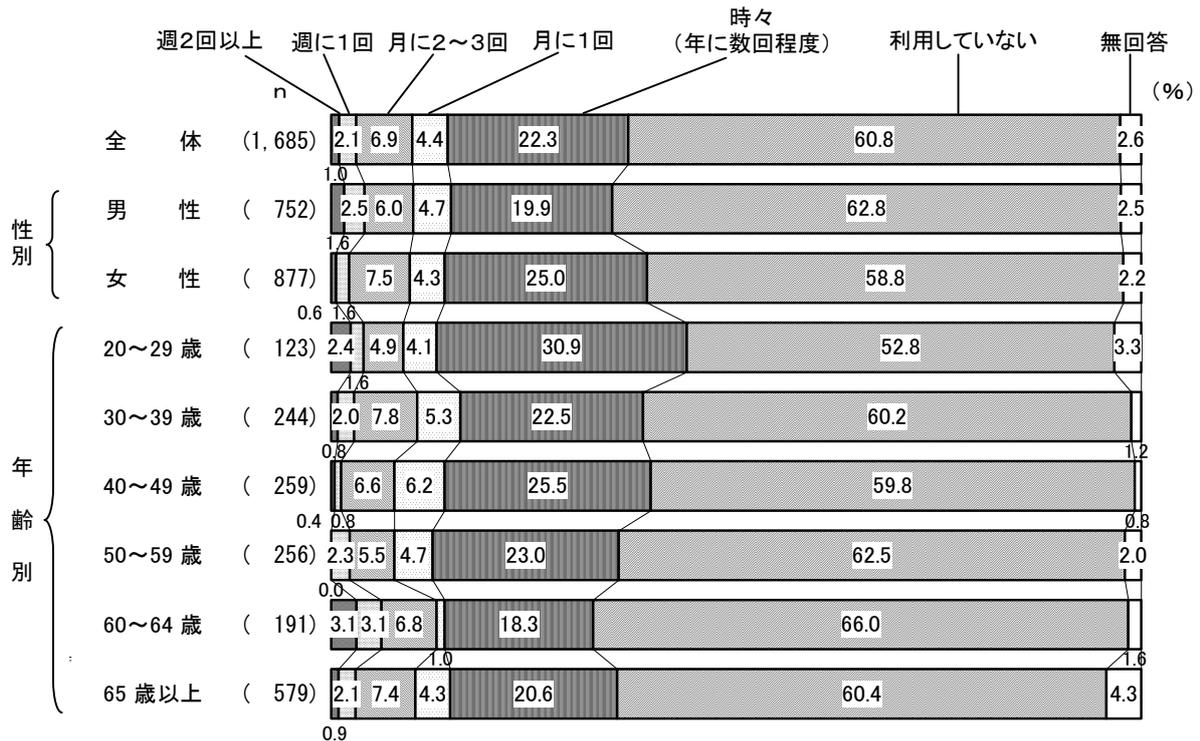
7-10 図書館の利用頻度

◇「利用していない」が約6割



図書館をどの程度利用しているかを聞いたところ、「週2回以上」(1.0%)、「週に1回」(2.1%)、「月に2~3回」(6.9%)、「月に1回」(4.4%)を合わせた《月に1回以上》が1割台半ば(14.4%)となっている。また、「時々(年に数回程度)」は2割強(22.3%)、「利用していない」は約6割(60.8%)となっている。(図7-10-1)

図 7-10-2 図書館の利用頻度—性別・年齢別

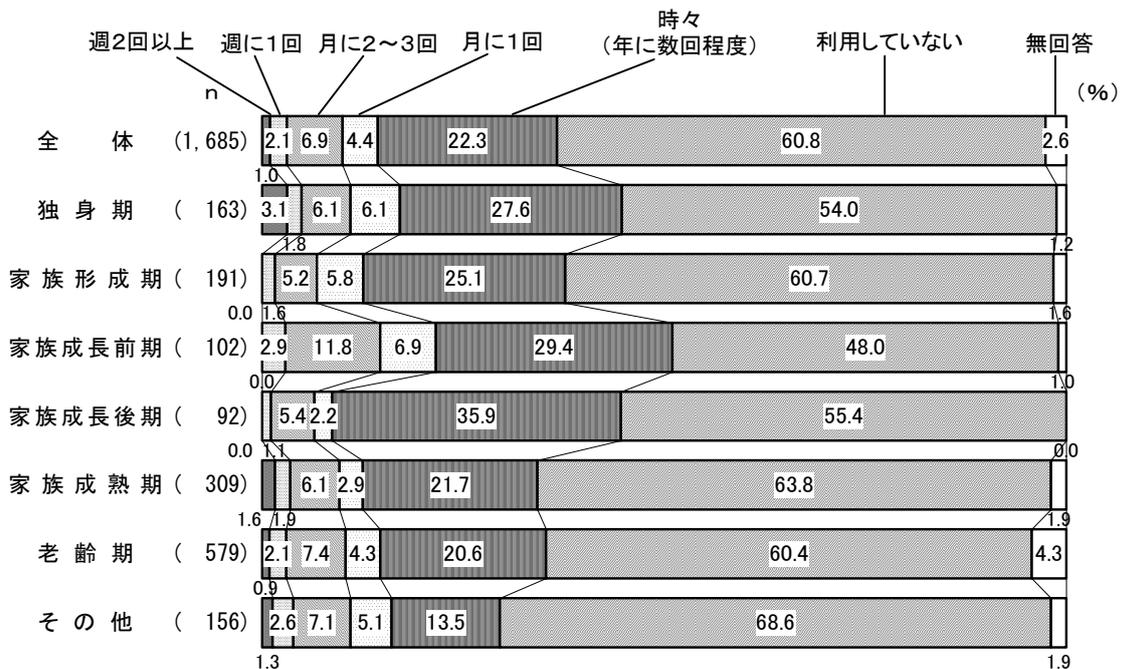


性別にみると、「利用していない」は男性が4.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「利用していない」は60~64歳で7割近く（66.0%）と高くなっている。

(図 7-10-2)

図 7-10-3 図書館の利用頻度—ライフステージ（集約型）別



ライフステージ（集約型）別にみると、「月に1回以上」は家族成長前期で2割強（21.6%）と高くなっている。(図 7-10-3)

7-11 図書館を利用しない理由

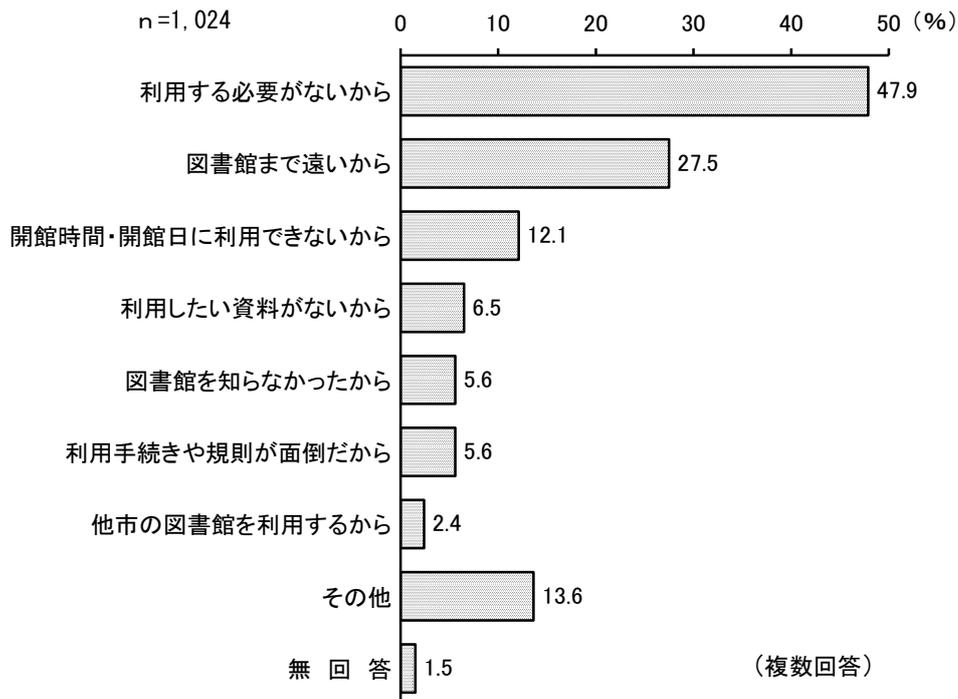
◇「利用する必要がないから」が5割近く

(問24で、「利用していない」とお答えの方に)

問24-1 図書館を利用しない理由は何ですか。あてはまるものに○をつけて下さい。

(○はいくつでも)

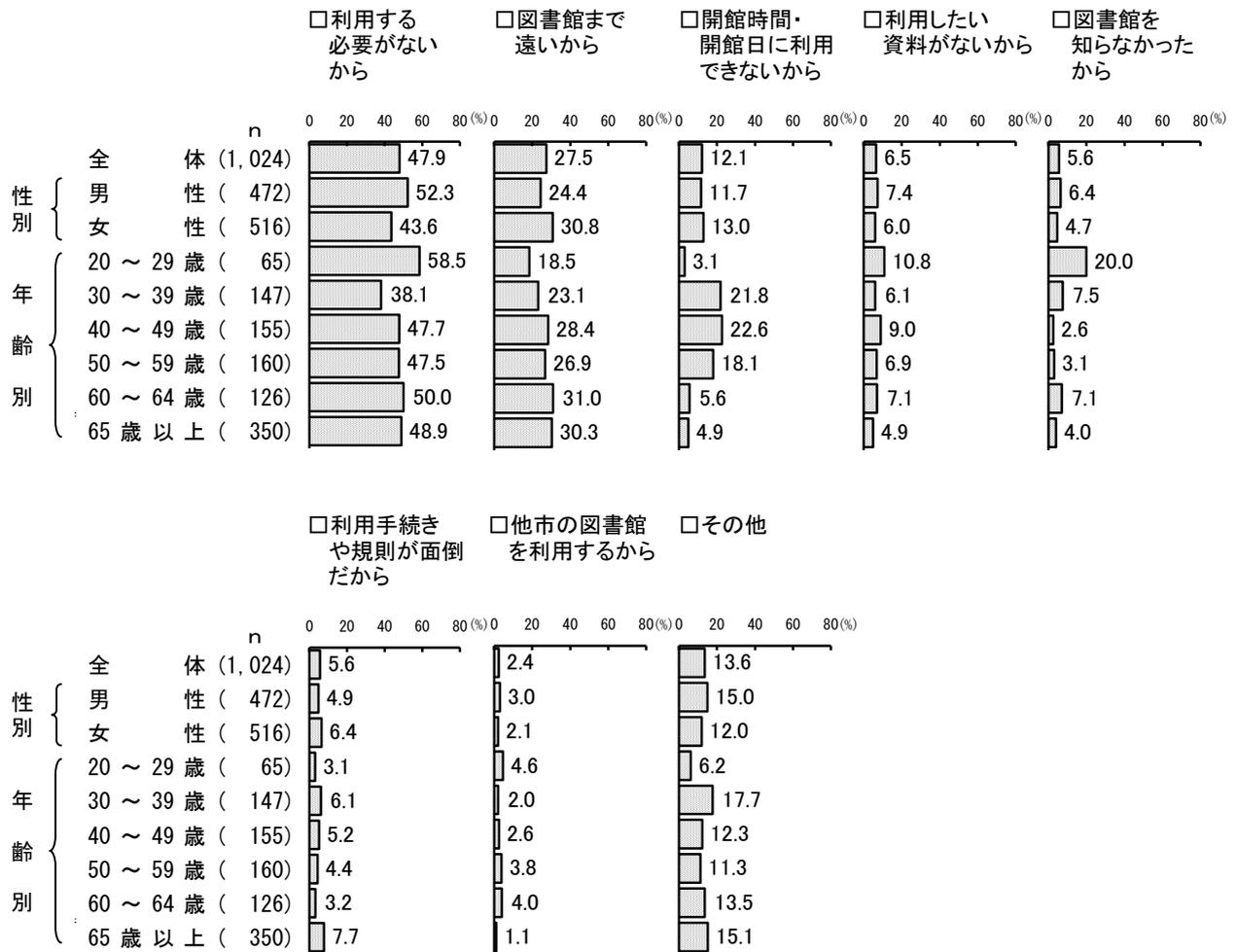
図7-11-1



図書館の利用頻度で、「利用していない」と答えた人(1,024人)に利用しない理由を聞いたところ、「利用する必要がないから」が5割近く(47.9%)と最も高く、次いで「図書館まで遠いから」(27.5%)、「開館時間・開館日に利用できないから」(12.1%)と続いている。

(図7-11-1)

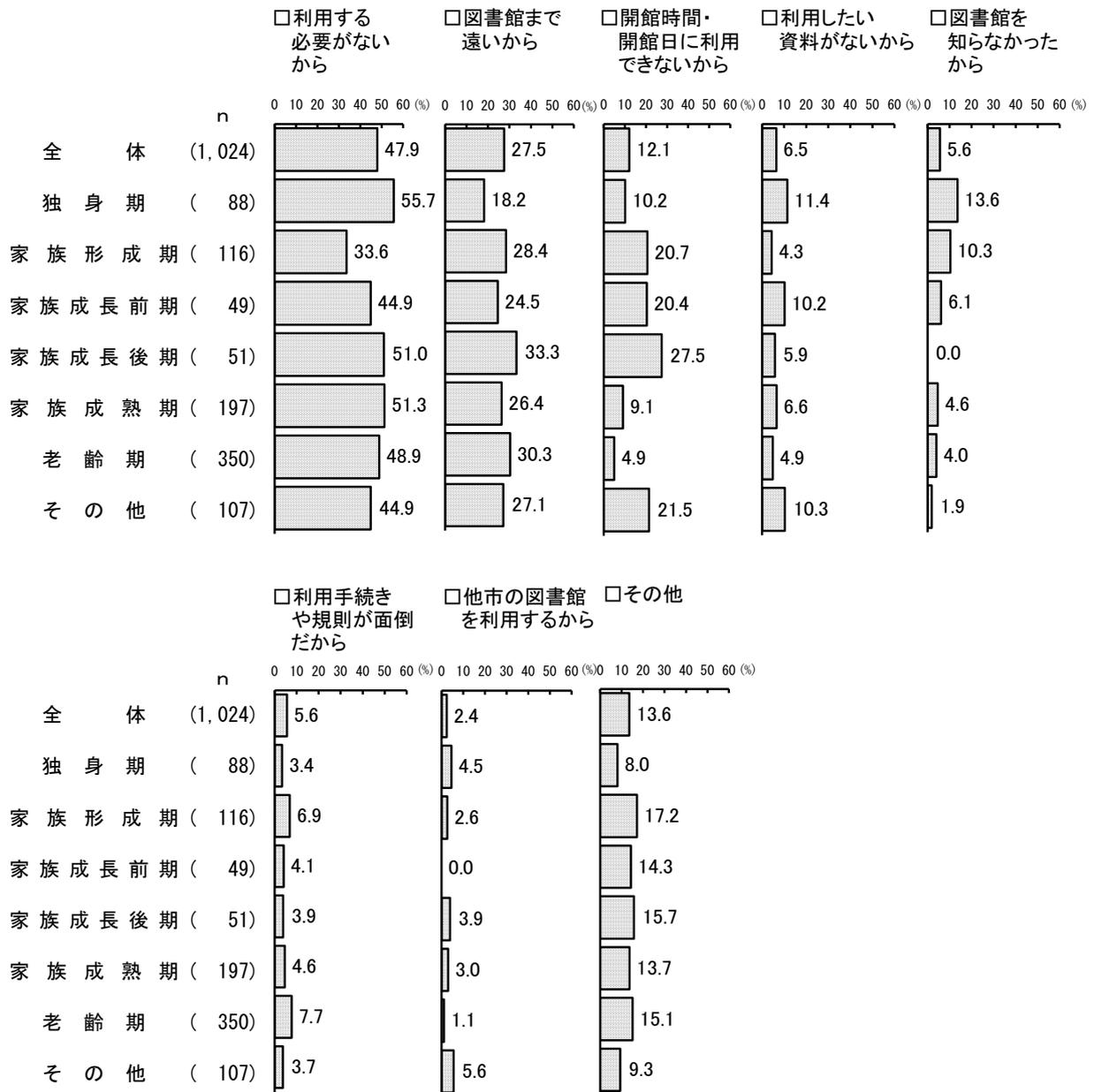
図7-11-2 図書館を利用しない理由—性別・年齢別



性別にみると、「利用する必要がないから」は男性が8.7ポイント高くなっている。一方、「図書館まで遠いから」は女性が6.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「利用する必要がないから」は20～29歳で6割近く（58.5%）と高く、「図書館を知らなかったから」でも2割（20.0%）と高くなっている。また、「開館時間・開館日に利用できないから」は30歳から59歳の年代で2割前後と高くなっている。（図7-11-2）

図7-11-3 図書館を利用しない理由－ライフステージ（集約型）別



ライフステージ（集約型）別にみると、「利用する必要がないから」は独身期で5割台半ば（55.7%）と高くなっている。また、「図書館まで遠いから」は家族成長後期で3割強（33.3%）と高く、「開館時間・開館日に利用できないから」でも家族成長後期で3割近く（27.5%）と高くなっている。（図7-11-3）

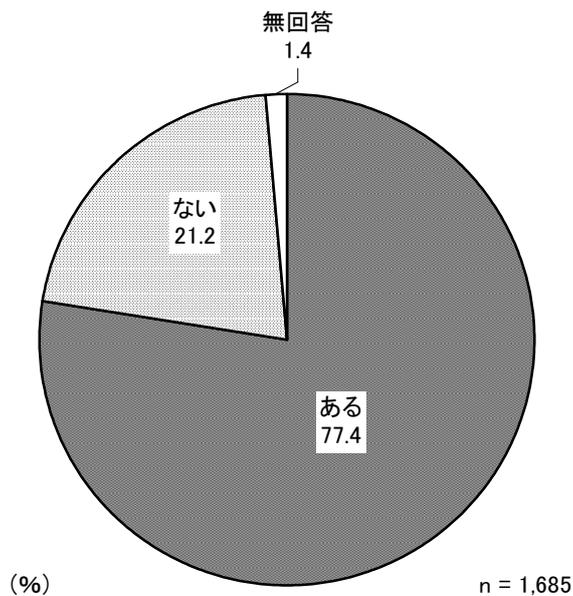
8. 「八王子ビジョン2022」の施策指標の目標値に対する達成度

8-1 市の窓口利用の有無

◇ 「ある」が8割近く

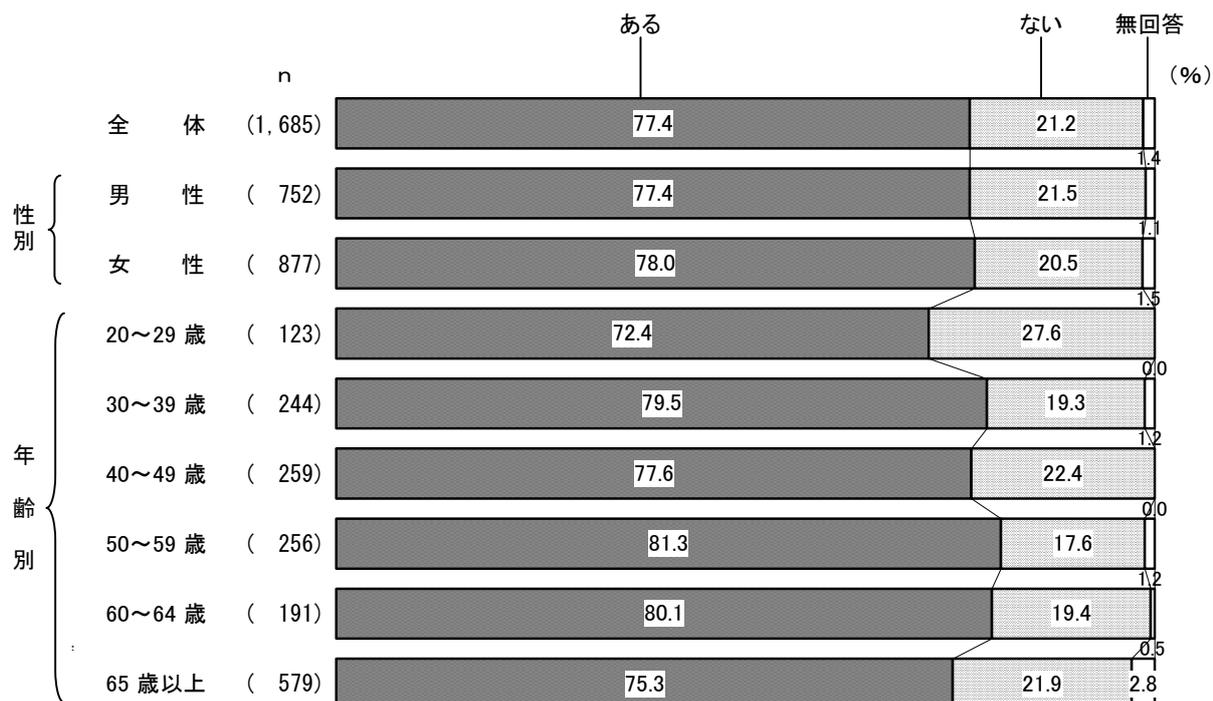
問25 あなたは、この1年間に市役所、事務所、図書館、体育館、保健所、保健センターなど市の窓口を利用したことはありますか。(○は1つだけ)

図8-1-1



市の窓口を利用したことがあるかを聞いたところ、「ある」が8割近く(77.4%)、「ない」が2割強(21.2%)となっている。(図8-1-1)

図 8 - 1 - 2 市の窓口利用の有無－性別・年齢別

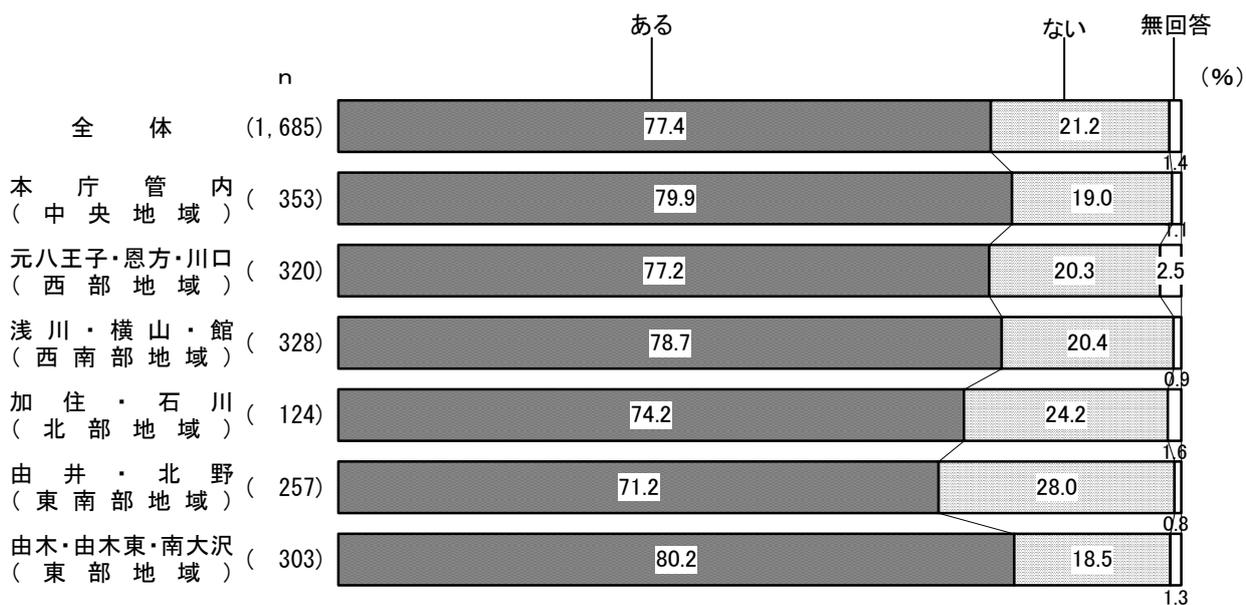


性別にみると、大きな差はない。

年齢別にみると、「ない」は20～29歳で3割近く（27.6%）と高くなっている。

(図 8 - 1 - 2)

図 8 - 1 - 3 市の窓口利用の有無－居住地域別



居住地域別にみると、「ない」は由井・北野（東南部地域）で3割近く（28.0%）と高くなっている。(図 8 - 1 - 3)

8-2 市の窓口サービスの満足度

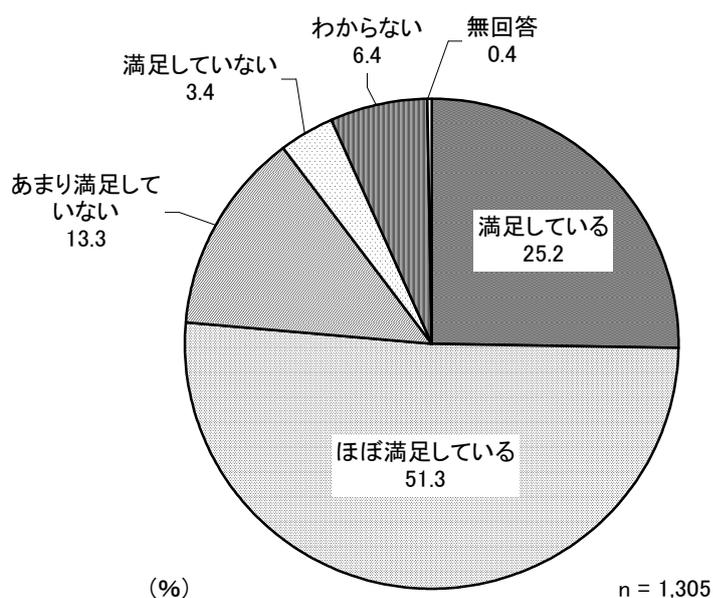
◇《満足している》が8割近く

(問25で、「ある」とお答えの方に)

問25-1 あなたは、市の窓口サービス（接客度や提供内容、処理時間など）に満足していますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。

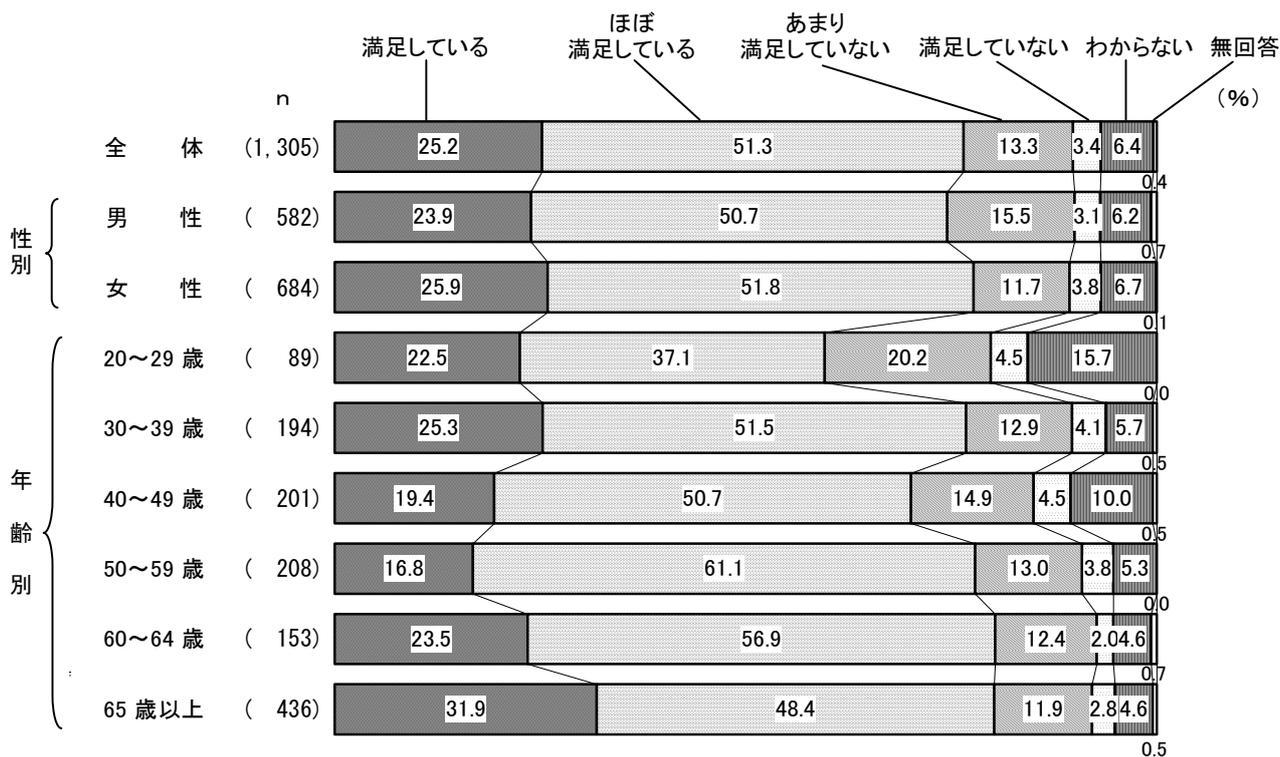
(○は1つだけ)

図8-2-1



市の窓口利用の有無で、市の窓口を利用したことが「ある」と答えた人（1,305人）に窓口サービスの満足度を聞いたところ、「ほぼ満足している」が5割強（51.3%）と最も高く、これに「満足している」（25.2%）を合わせた《満足している》は8割近く（76.5%）となっている。一方、「あまり満足していない」（13.3%）と「満足していない」（3.4%）を合わせた《満足していない》は2割近く（16.7%）となっている。（図8-2-1）

図 8-2-2 市の窓口サービスの満足度—性別・年齢別

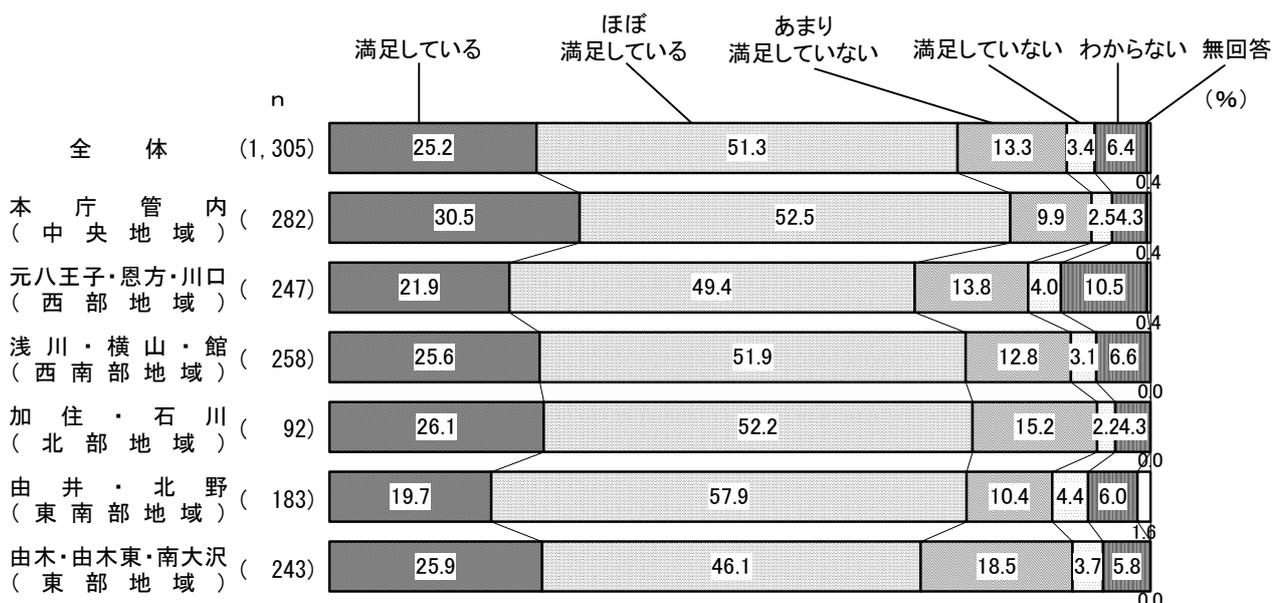


性別にみると、「満足している」は女性が3.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「満足していない」は20~29歳で2割台半ば（24.7%）と高くなっている。

(図 8-2-2)

図 8-2-3 市の窓口サービスの満足度—居住地域別



居住地域別にみると、「満足している」は本庁管内（中央地域）で8割強（83.0%）と高くなっている。(図 8-2-3)

8-3 市の情報の分かりやすさ

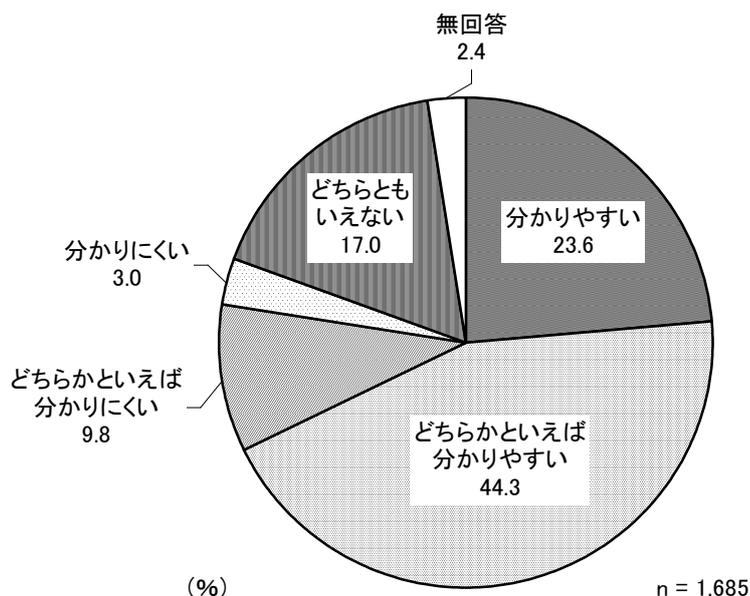
◇ 《分かりやすい》が7割近く

問26 市政情報や市からのお知らせなどの内容は分かりやすいですか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

※市政情報や市からのお知らせとは・・・

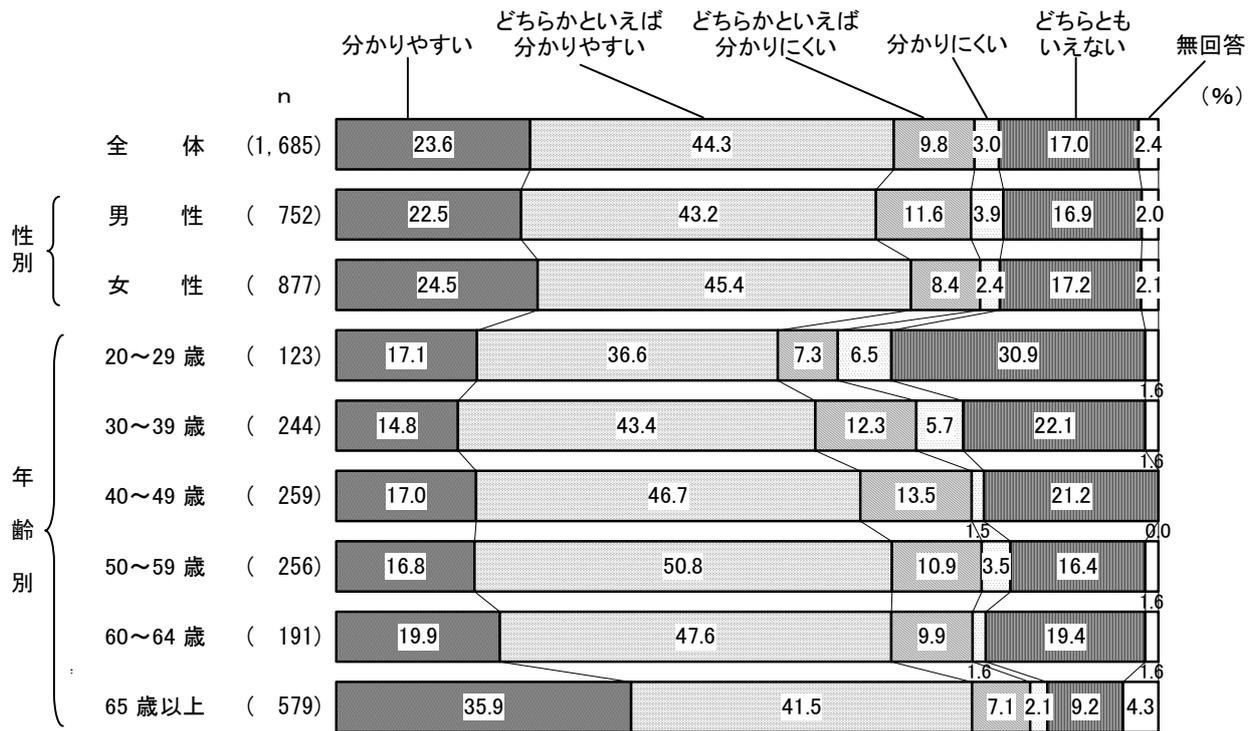
- 広報はちおうじ
- 市ホームページ
- 犯罪・防災情報のメール配信
- ケーブルテレビで放映する番組・ニュース
- 各種手続きなどの個別通知 など

図8-3-1



市政情報や市からのお知らせなどの内容は分かりやすいかを聞いたところ、「どちらかといえば分かりやすい」が4割台半ば(44.3%)と最も高く、これに「分かりやすい」(23.6%)を合わせた《分かりやすい》は7割近く(67.9%)となっている。一方、「どちらかといえば分かりにくい」(9.8%)と「分かりにくい」(3.0%)を合わせた《分かりにくい》は1割強(12.8%)となっている。(図8-3-1)

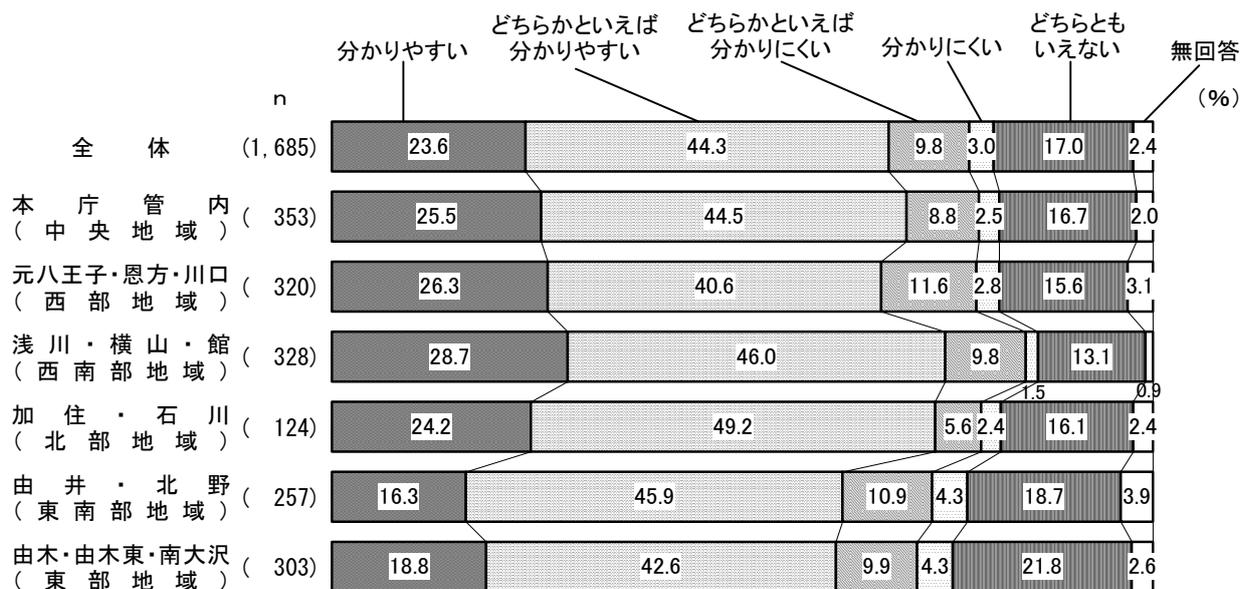
図8-3-2 市の情報の分かりやすさ—性別・年齢別



性別にみると、《分かりにくい》は男性が4.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《分かりやすい》はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、特に65歳以上で8割近く（77.4%）と高くなっている。（図8-3-2）

図8-3-3 市の情報の分かりやすさ—居住地域別



居住地域別にみると、《分かりやすい》は浅川・横山・館（西南部地域）で7割台半ば（74.7%）と高くなっている。（図8-3-3）

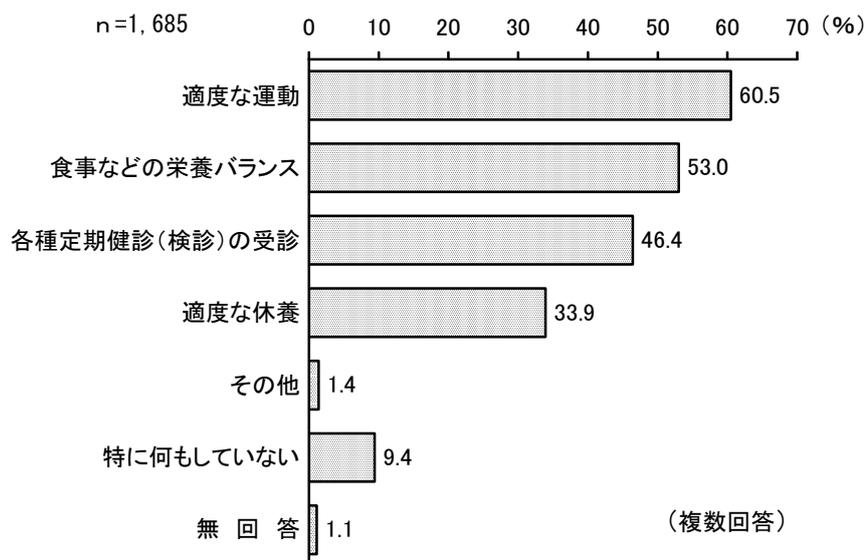
8-4 健康のために心がけていること

◇「適度な運動」が約6割

問27 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけていることはどれですか。

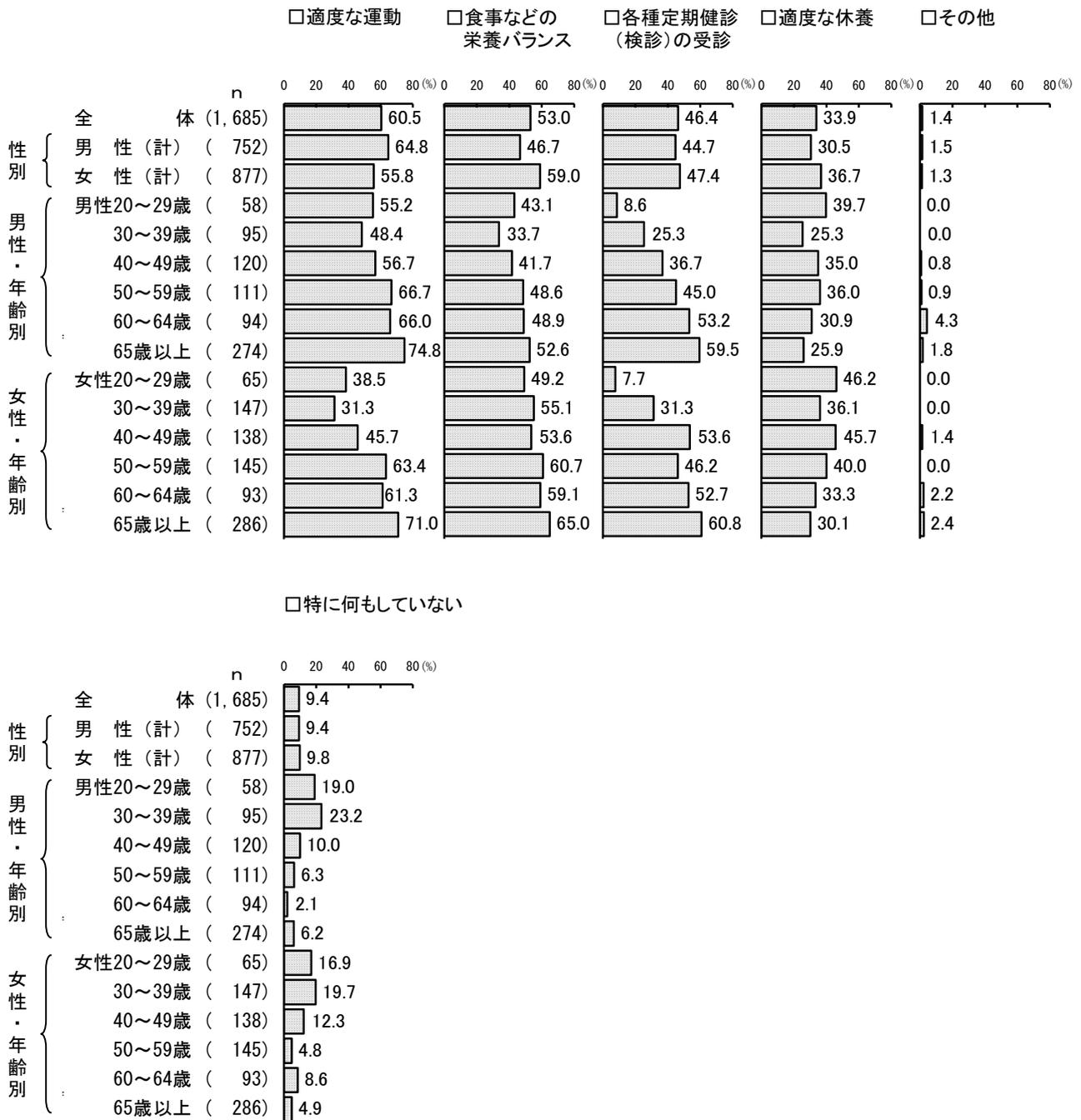
(○はいくつでも)

図8-4-1



健康の維持・増進のために心がけていることを聞いたところ、「適度な運動」が約6割(60.5%)と最も高く、次いで「食事などの栄養バランス」(53.0%)、「各種定期健診(検診)の受診」(46.4%)、「適度な休養」(33.9%)と続いている。(図8-4-1)

図8-4-2 健康のために心がけていることー性・年齢別



性別にみると、「食事などの栄養バランス」は女性が12.3ポイント高くなっている。一方、「適度な運動」は男性が9.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「適度な運動」は男女ともに65歳以上で7割台と高くなっている。また、「各種定期健診(検診)の受診」は男女ともにおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で6割前後と高くなっている。(図8-4-2)

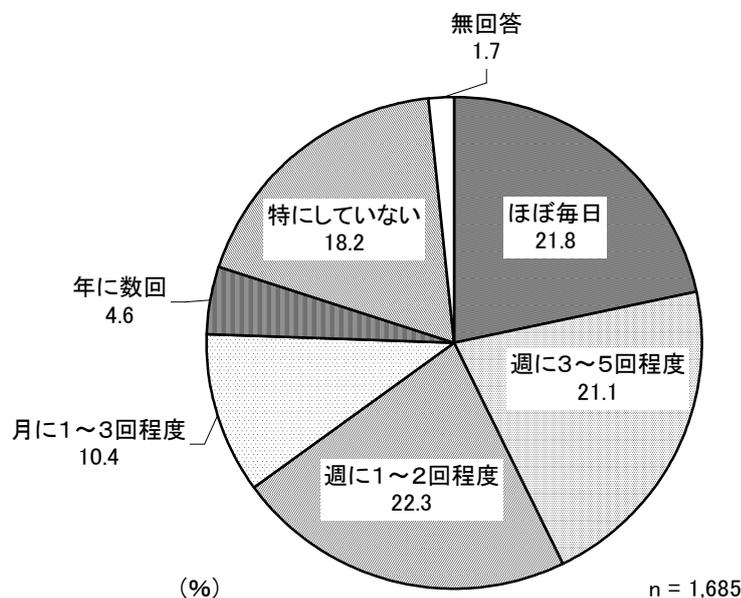
8-5 この1年間の運動頻度

◇ 《週1回以上》が6割台半ば

問28 あなたは、この1年間にどれくらいの頻度で運動をしましたか。複数の運動を行っている場合は、その合計数をお答えください。(〇は1つだけ)

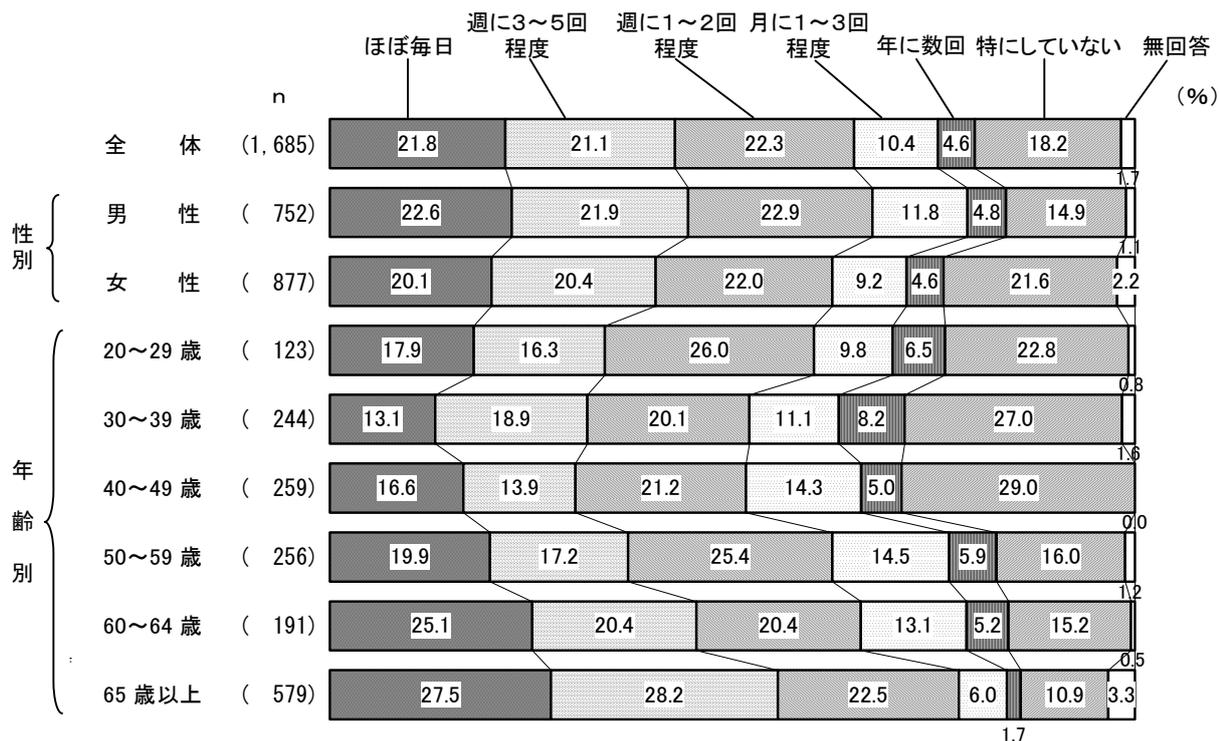
※運動には、野外活動(登山やハイキングなど)や通勤時の自転車・徒歩、散歩(散策、ペットの散歩を含む)などで1日合計30分以上行うものも含めます。

図8-5-1



この1年間にどれくらいの頻度で運動をしたかを聞いたところ、「週に1~2回程度」(22.3%)、「ほぼ毎日」(21.8%)、「週に3~5回程度」(21.1%)の割合に大きな差はなく、これらを合わせた《週1回以上》は6割台半ば(65.2%)となっている。また、「月に1~3回程度」は約1割(10.4%)、「年に数回」は1割未満(4.6%)、「特にしていない」は2割近く(18.2%)となっている。(図8-5-1)

図 8-5-2 この1年間の運動頻度－性別・年齢別

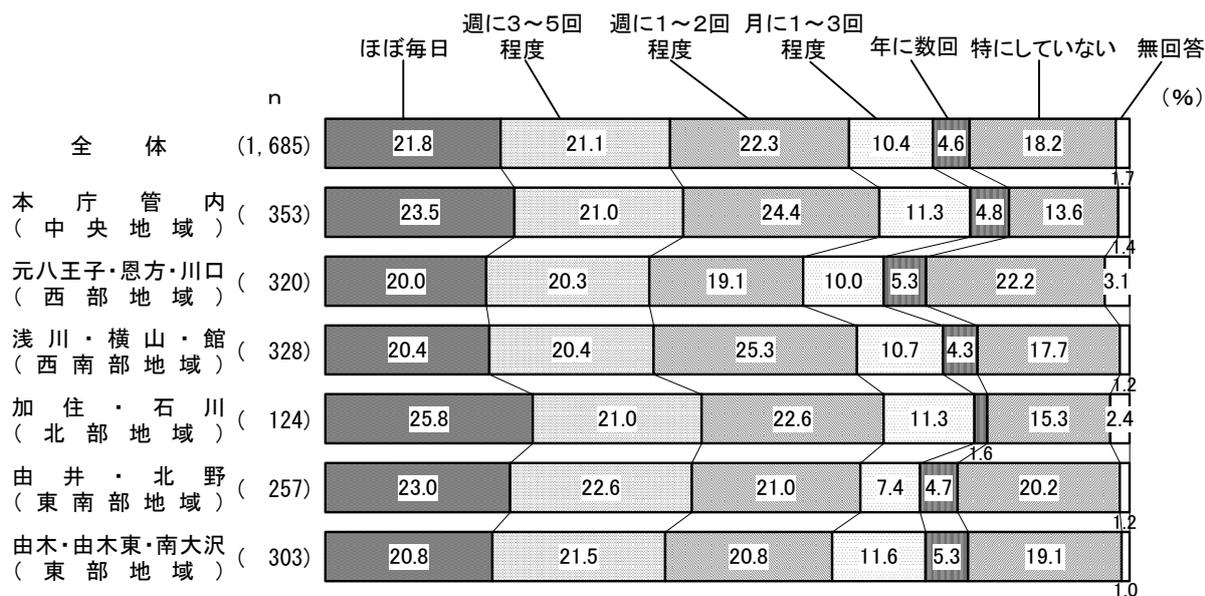


性別にみると、《週1回以上》は男性が4.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《週1回以上》は65歳以上で8割近く（78.2%）と高くなっている。

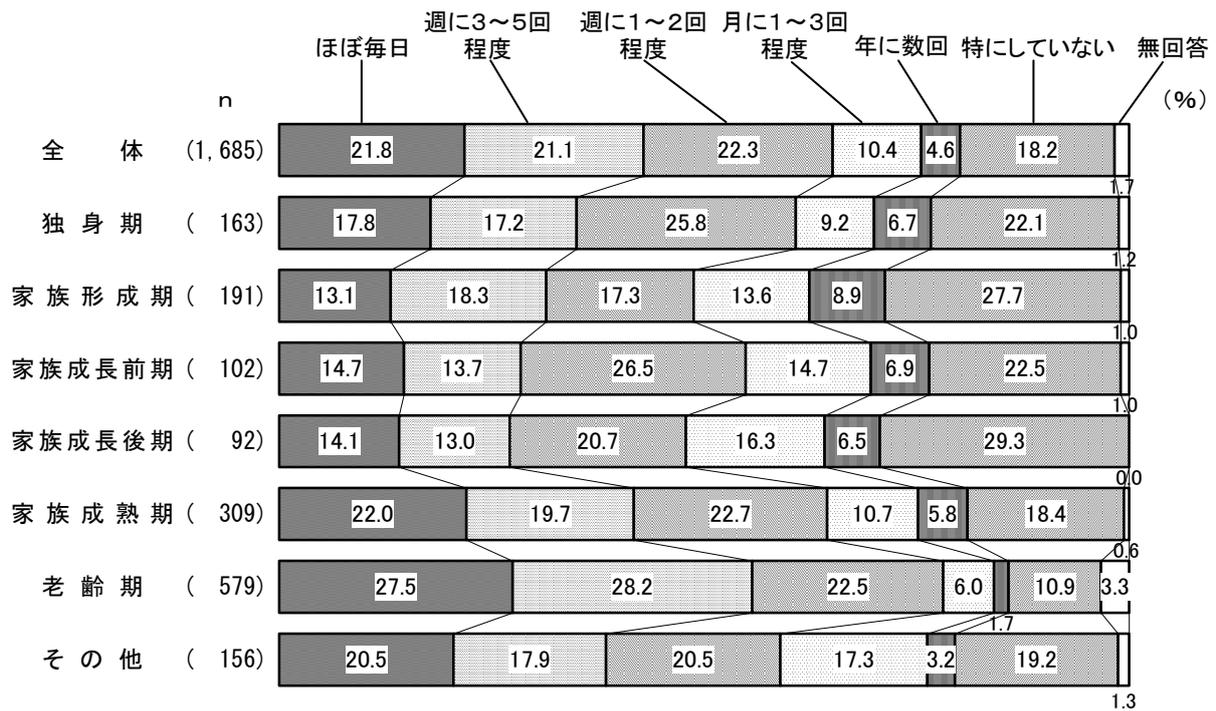
(図 8-5-2)

図 8-5-3 この1年間の運動頻度－居住地域別



居住地域別にみると、《週1回以上》は加住・石川（北部地域）で7割弱（69.4%）と高くなっている。(図 8-5-3)

図 8-5-4 この1年間の運動頻度—ライフステージ（集約型）別



ライフステージ（集約型）別にみると、《週1回以上》は老齢期で8割近く（78.2%）と高くなっている。一方、「特にしていない」は家族成長後期で3割弱（29.3%）と高くなっている。

（図 8-5-4）

8-6 かかりつけの医療機関の有無

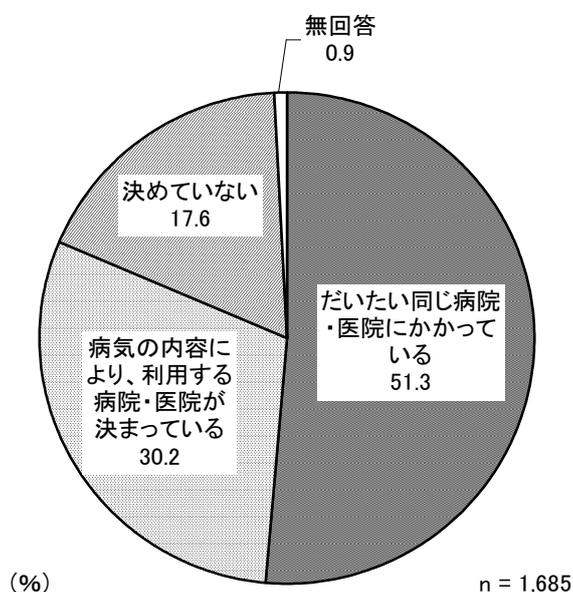
◇《かかりつけの医療機関を決めている》が8割強

問29 あなたは、かかりつけの医療機関を決めていますか。(○は1つだけ)

※「かかりつけの医療機関」とは・・・

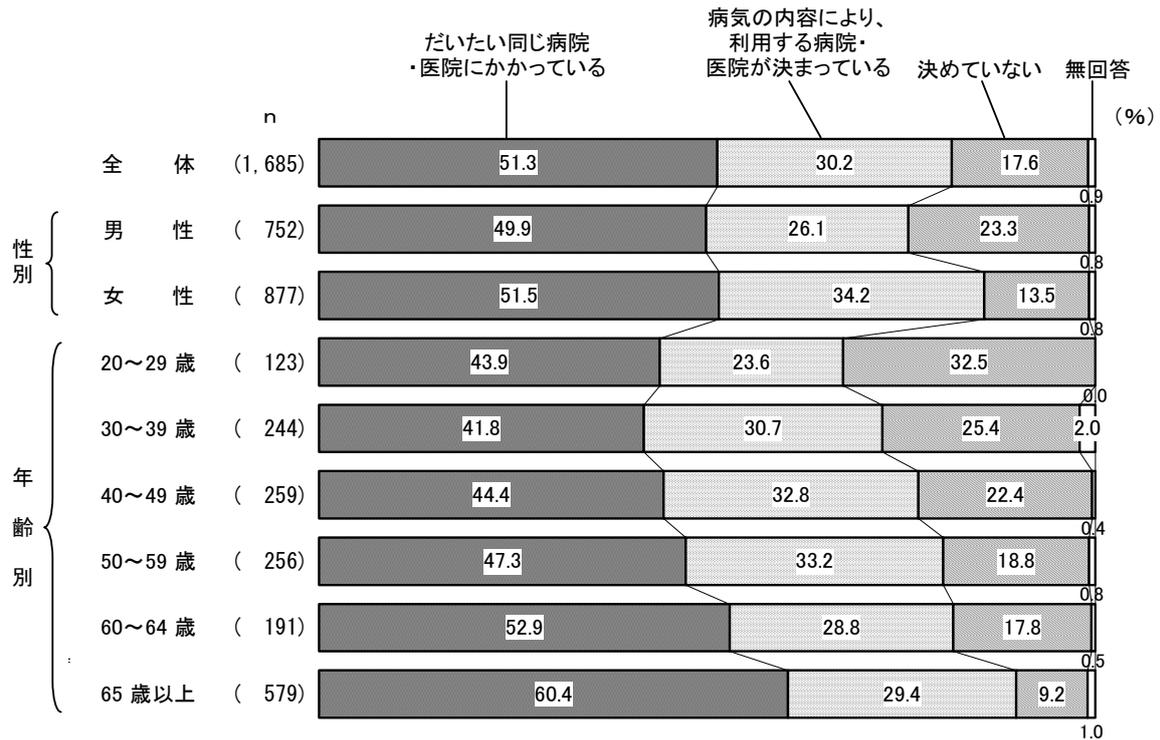
日常的な診療や健康管理等を行ってくれる身近な医療機関のことで、ふだんの健康管理、病気の初期治療のほか、大病院での検査や治療が必要かどうかの判断、紹介などをしてくれます。

図8-6-1



かかりつけの医療機関を決めているかを聞いたところ、「だいたい同じ病院・医院にかかっている」(51.3%)、「病气の内容により、利用する病院・医院が決まっている」(30.2%)を合わせた《かかりつけの医療機関を決めている》は8割強(81.5%)となっている。一方、「決めていない」は2割近く(17.6%)となっている。(図8-6-1)

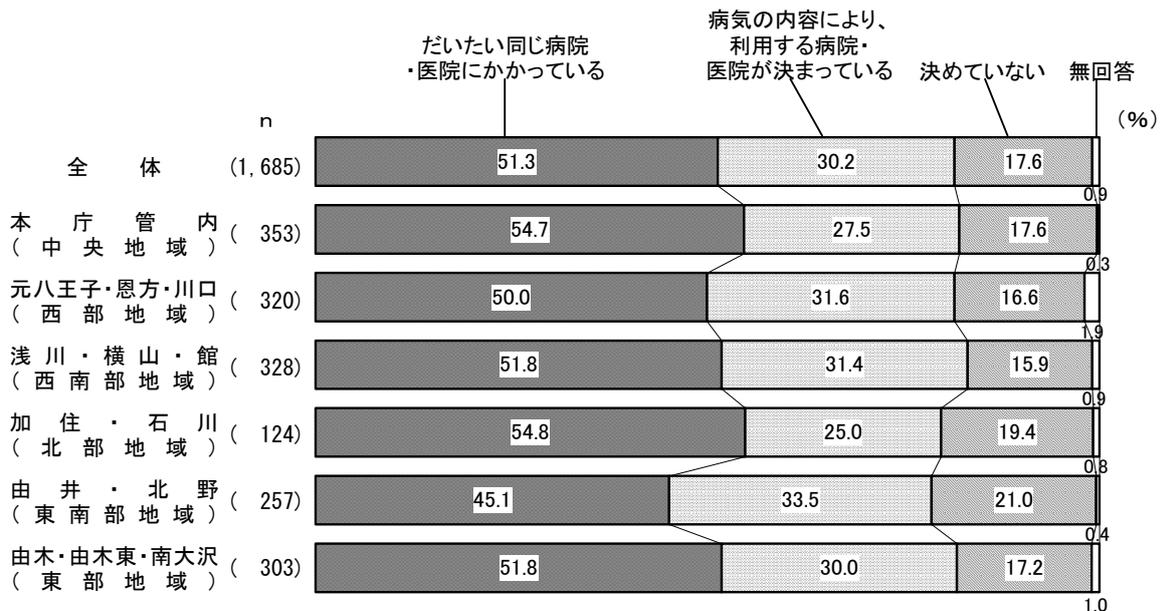
図8-6-2 かかりつけの医療機関の有無－性別・年齢別



性別にみると、「決めていない」は男性が9.8ポイント高くなっている。一方、「病気の内容により、利用する病院・医院が決まっている」は女性が8.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「決めていない」は年代が下がるにつれて割合が高く、特に20～29歳で3割強（32.5%）と高くなっている。（図8-6-2）

図8-6-3 かかりつけの医療機関の有無－居住地域別



居住地域別にみると、「決めていない」は由井・北野（東南部地域）で2割強（21.0%）と高くなっている。（図8-6-3）

8-7 食料・飲料水の備蓄の有無

- ◇【食料】を「備蓄している」が6割近く
- 【飲料水】を「備蓄している」が6割台半ば

問30 あなたの家庭では、災害により電気、水道、ガス等といったライフラインが停止したことを想定して食料、飲料水を備蓄していますか。(○は1つだけ)

図8-7-1 【食料】

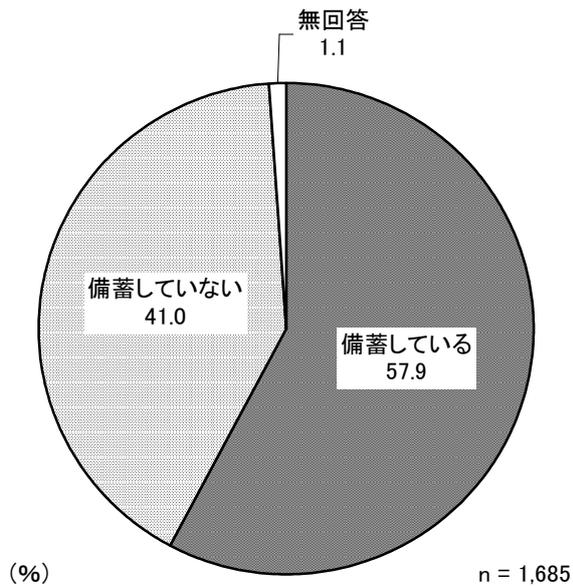
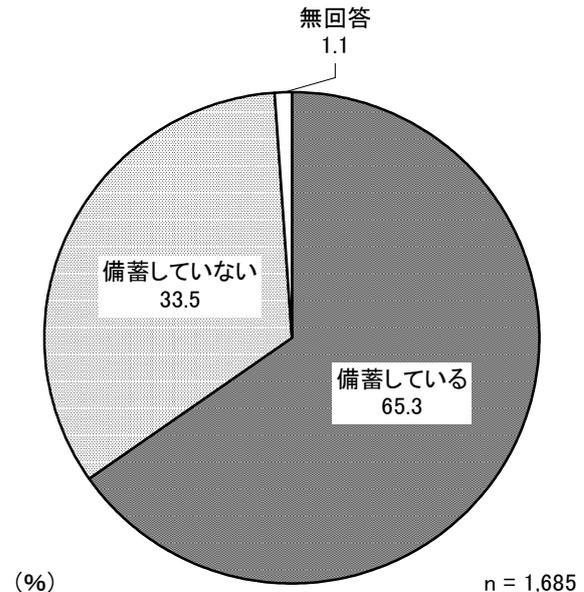


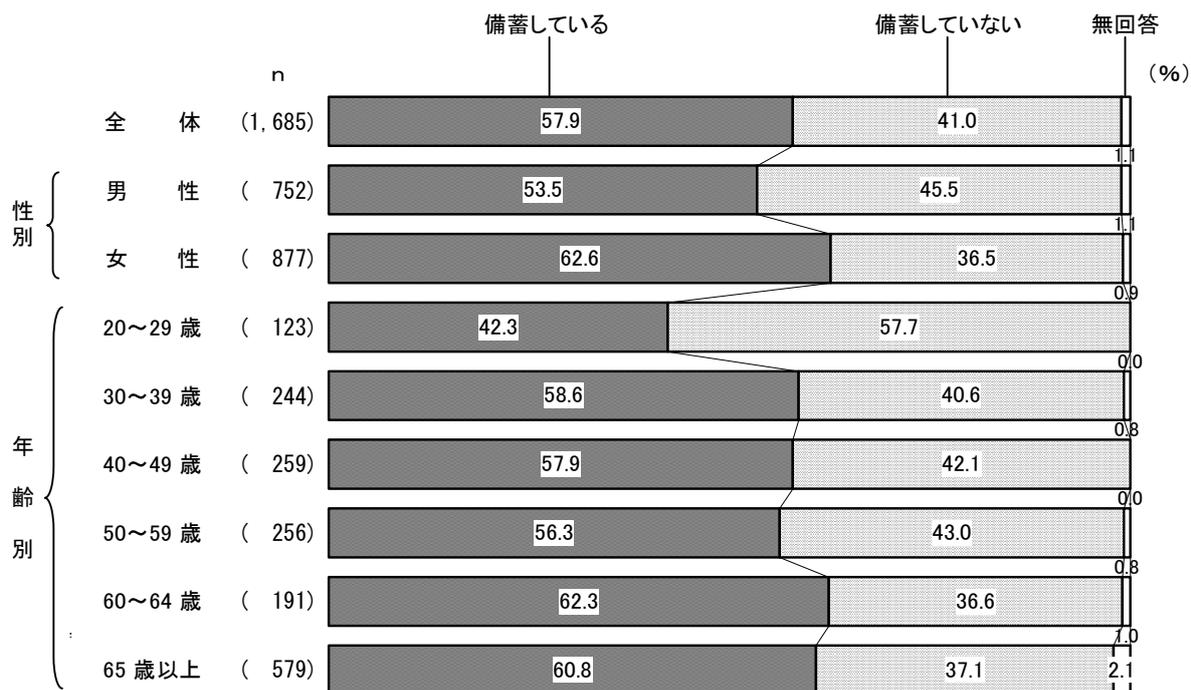
図8-7-2 【飲料水】



食料を備蓄しているかを聞いたところ、「備蓄している」は6割近く (57.9%)、「備蓄していない」は4割強 (41.0%) となっている。(図8-7-1)

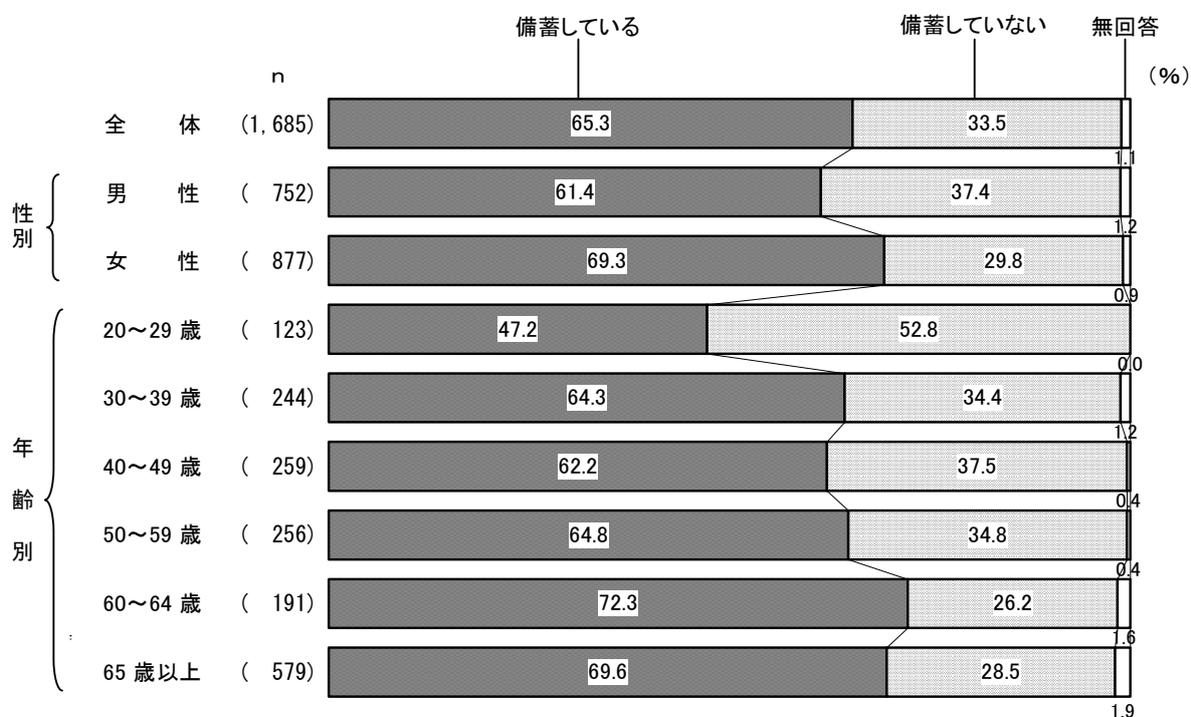
飲料水を備蓄しているかを聞いたところ、「備蓄している」は6割台半ば (65.3%)、「備蓄していない」は3割強 (33.5%) となっている。(図8-7-2)

図 8-7-3 食料・飲料水の備蓄の有無—性別・年齢別 【食料】



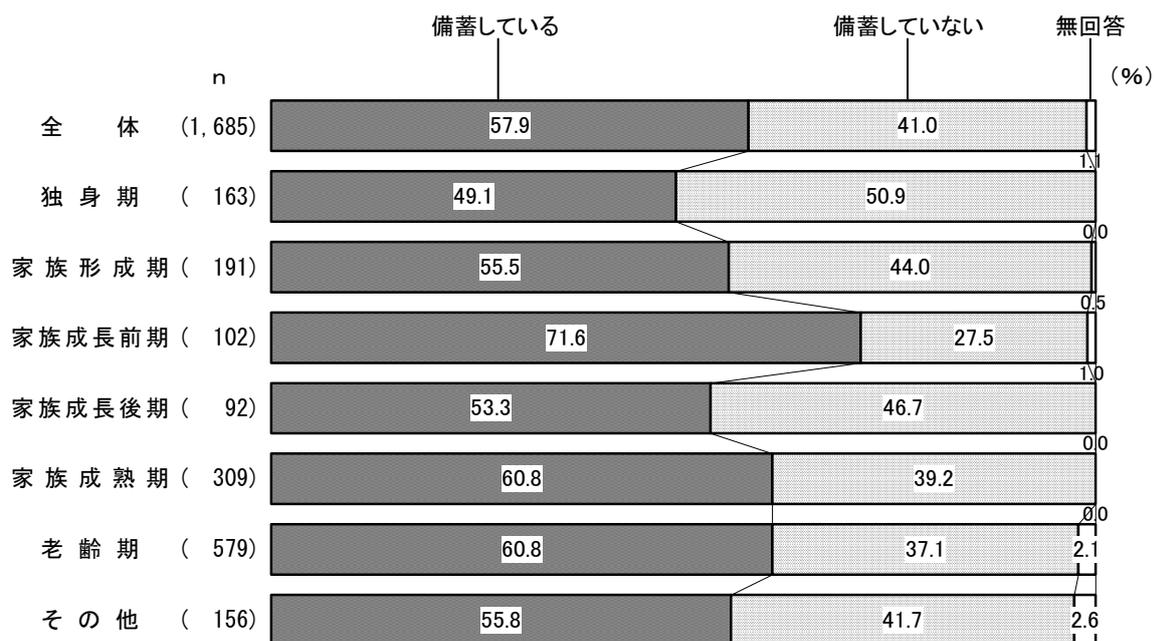
性別にみると、食料を「備蓄している」は女性が9.1ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「備蓄している」は60~64歳で6割強（62.3%）と高くなっている。一方、「備蓄していない」は20~29歳で6割近く（57.7%）と高くなっている。（図8-7-3）

図 8-7-4 食料・飲料水の備蓄の有無—性別・年齢別 【飲料水】



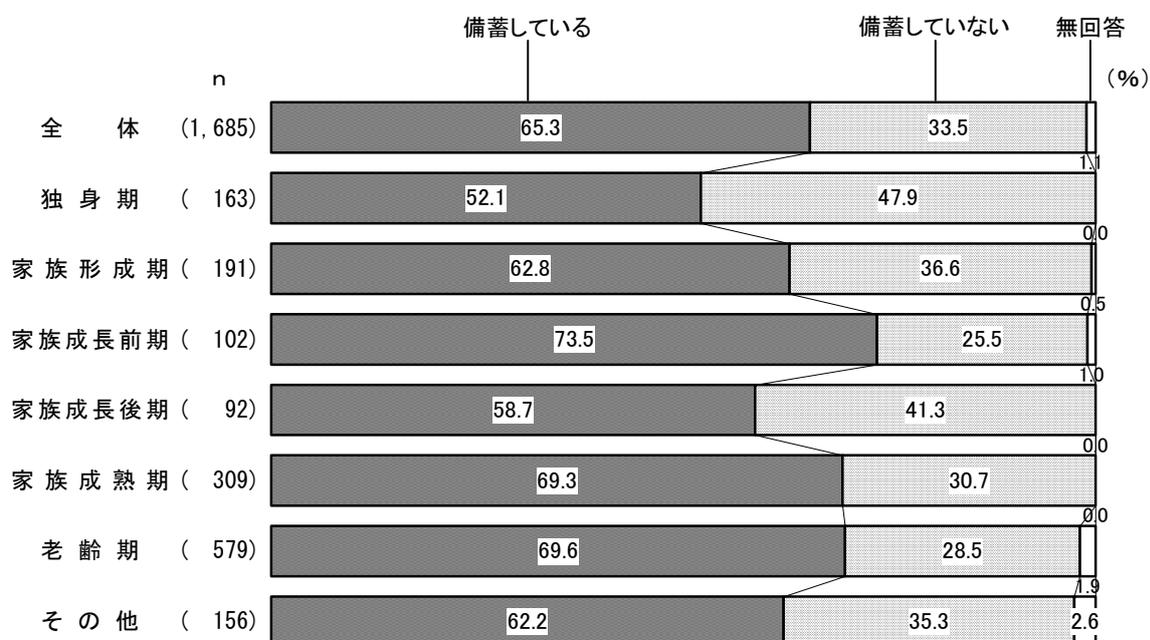
性別にみると、飲料水を「備蓄している」は女性が7.9ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「備蓄している」は60~64歳で7割強（72.3%）と高くなっている。一方、「備蓄していない」は20~29歳で5割強（52.8%）と高くなっている。（図8-7-4）

図8-7-5 食料・飲料水の備蓄の有無—ライフステージ（集約型）別 【食料】



ライフステージ（集約型）別にみると、食料を「備蓄している」は家族成長前期で7割強（71.6%）と高くなっている。一方、「備蓄していない」は独身期で約5割（50.9%）と高くなっている。（図8-7-5）

図8-7-6 食料・飲料水の備蓄の有無—ライフステージ（集約型）別 【飲料水】



ライフステージ（集約型）別にみると、飲料水を「備蓄している」は家族成長前期で7割強（73.5%）と高くなっている。一方、「備蓄していない」は独身期で5割近く（47.9%）と高くなっている。（図8-7-6）

8-8 食料・飲料水の備蓄量

- ◇【食料】「3日」が4割台半ば
【飲料水】「3日」が4割近く

(食料を「備蓄している」とお答えの方に)

問30-1 家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。(○は1つだけ)

(飲料水を「備蓄している」とお答えの方に)

問30-3 家族が何日間過ごせる分の備蓄をしていますか。(○は1つだけ)

図8-8-1 【食料】

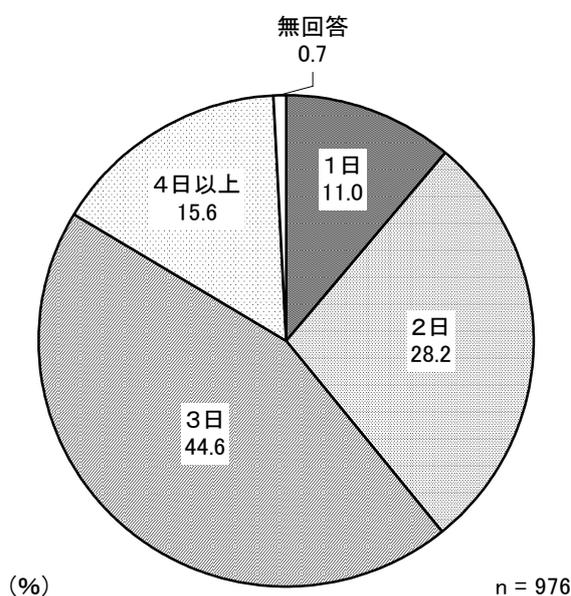
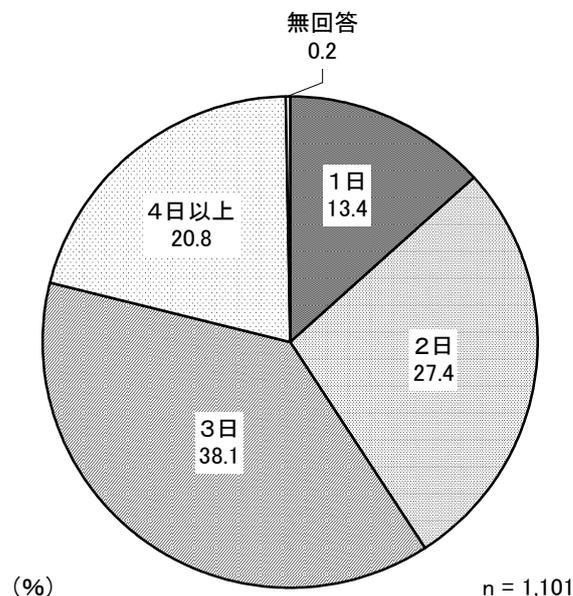


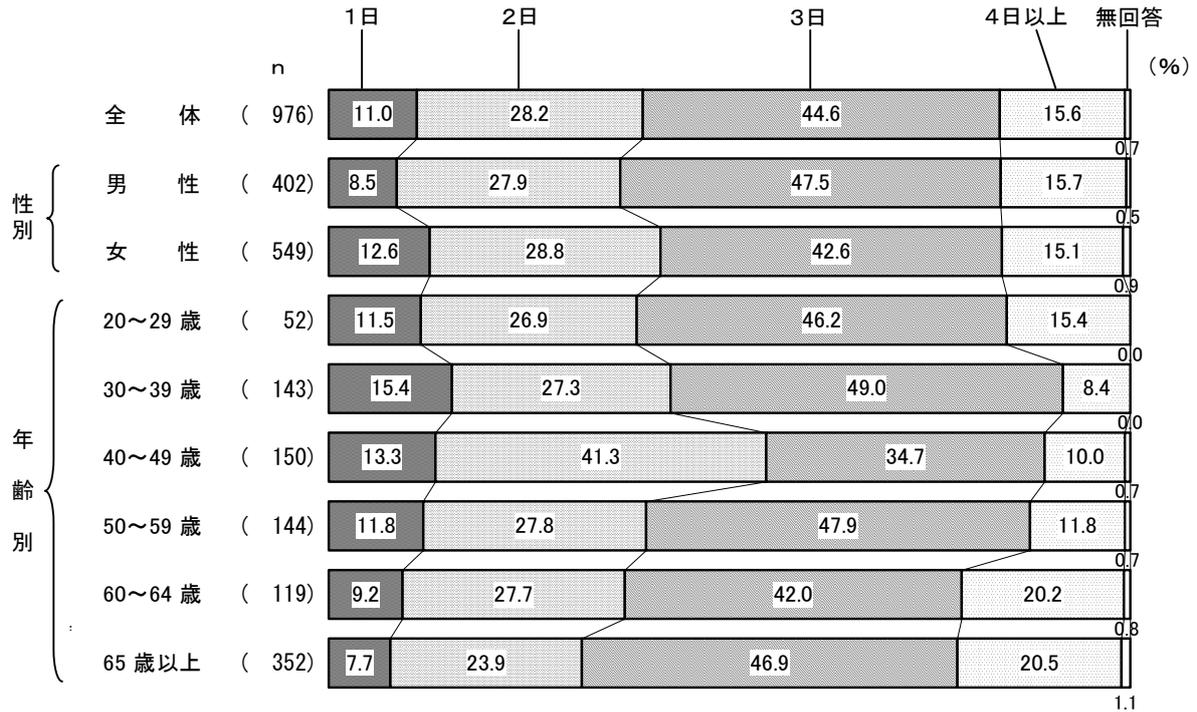
図8-8-2 【飲料水】



食料の備蓄の有無で、「備蓄している」と答えた人(976人)に、家族が何日間過ごせる分の備蓄をしているかを聞いたところ、「3日」が4割台半ば(44.6%)と最も高く、次いで「2日」(28.2%)、「4日以上」(15.6%)、「1日」(11.0%)と続いている。(図8-8-1)

飲料水の備蓄の有無で、「備蓄している」と答えた人(1,101人)に、家族が何日間過ごせる分の備蓄をしているかを聞いたところ、「3日」が4割近く(38.1%)と最も高く、次いで「2日」(27.4%)、「4日以上」(20.8%)、「1日」(13.4%)と続いている。(図8-8-2)

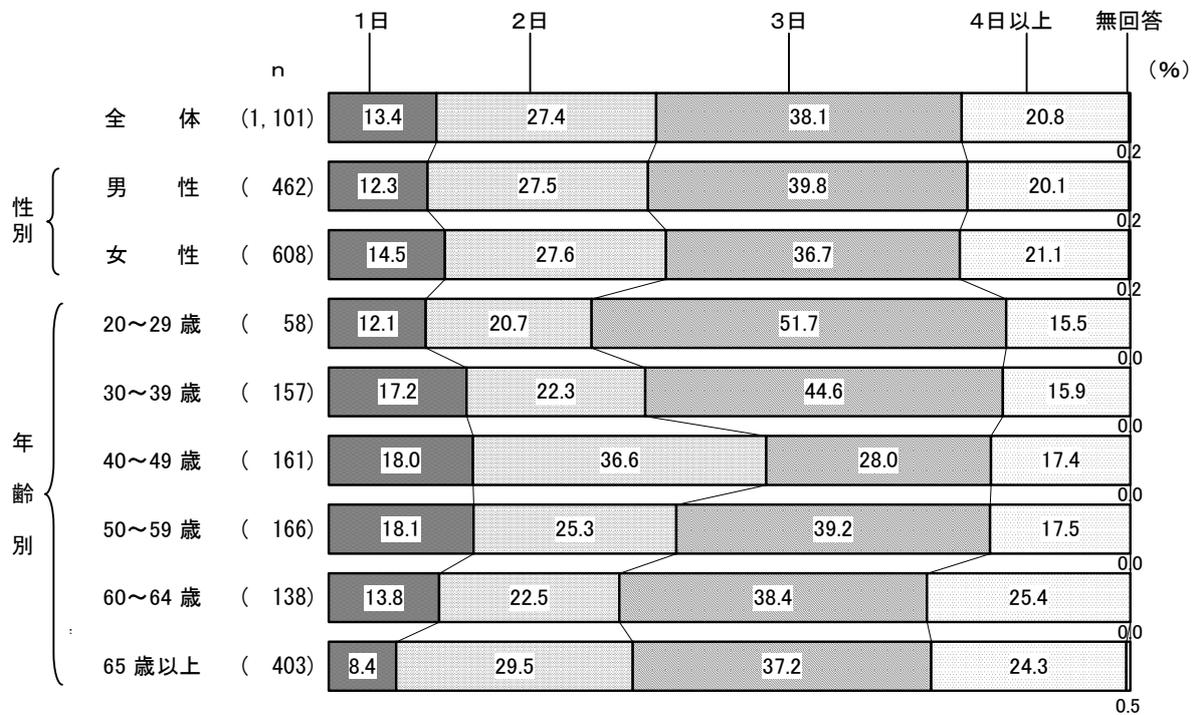
図8-8-3 食料・飲料水の備蓄量—性別・年齢別 【食料】



性別にみると、「3日」は男性が4.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「2日」は40~49歳で4割強（41.3%）と高くなっている。（図8-8-3）

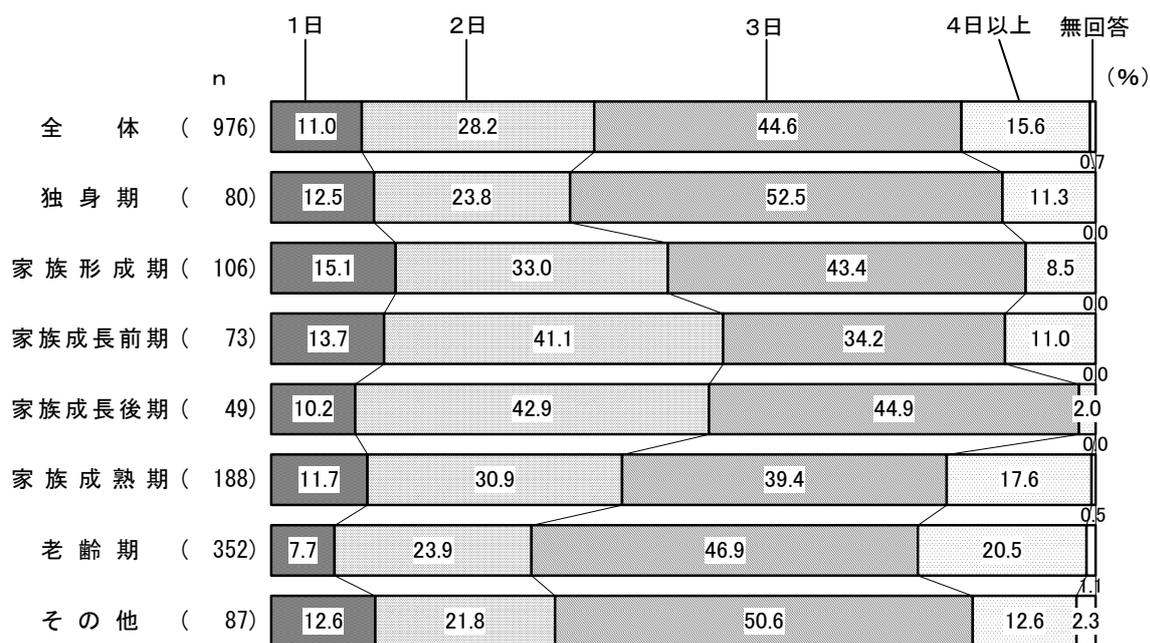
図8-8-4 食料・飲料水の備蓄量—性別・年齢別 【飲料水】



性別にみると、「3日」は男性が3.1ポイント高くなっている。

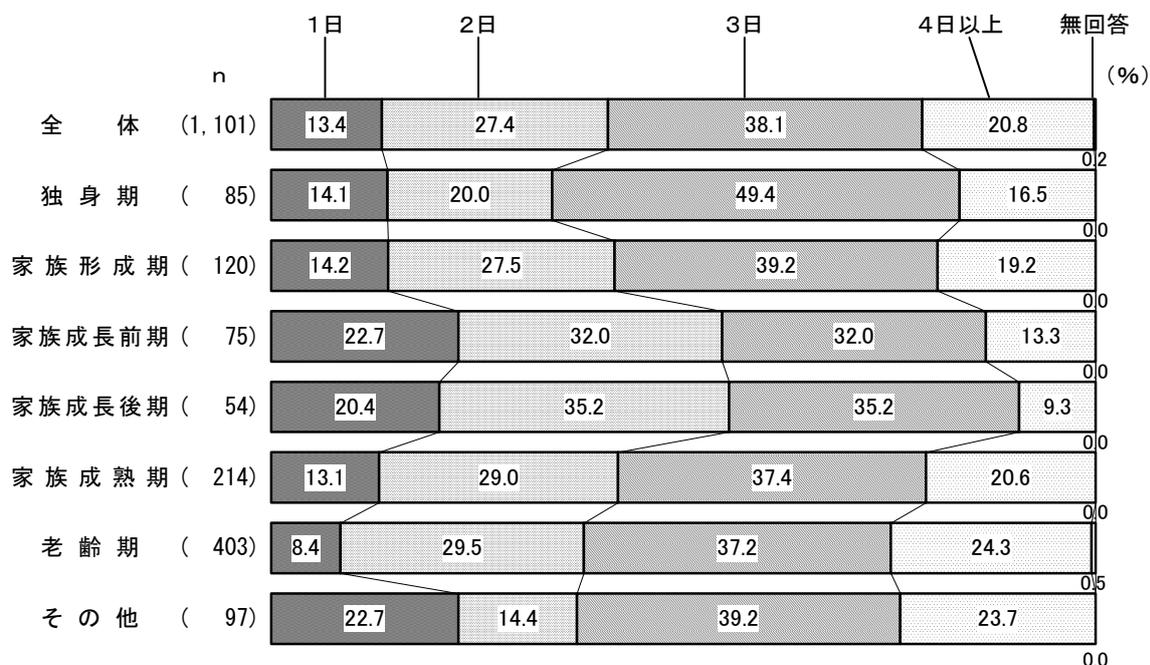
年齢別にみると、「3日」は20~29歳で5割強（51.7%）と高くなっている。（図8-8-4）

図8-8-5 食料・飲料水の備蓄量－ライフステージ（集約型）別 【食料】



ライフステージ（集約型）別にみると、「3日」は独身期で5割強（52.5%）と高くなっている。また、「2日」は家族成長後期（42.9%）と家族成長前期（41.1%）で4割強と高くなっている。（図8-8-5）

図8-8-6 食料・飲料水の備蓄量－ライフステージ（集約型）別 【飲料水】



ライフステージ（集約型）別にみると、「3日」は独身期で5割弱（49.4%）と高くなっている。また、「2日」は家族成長後期で3割台半ば（35.2%）と高くなっている。（図8-8-6）

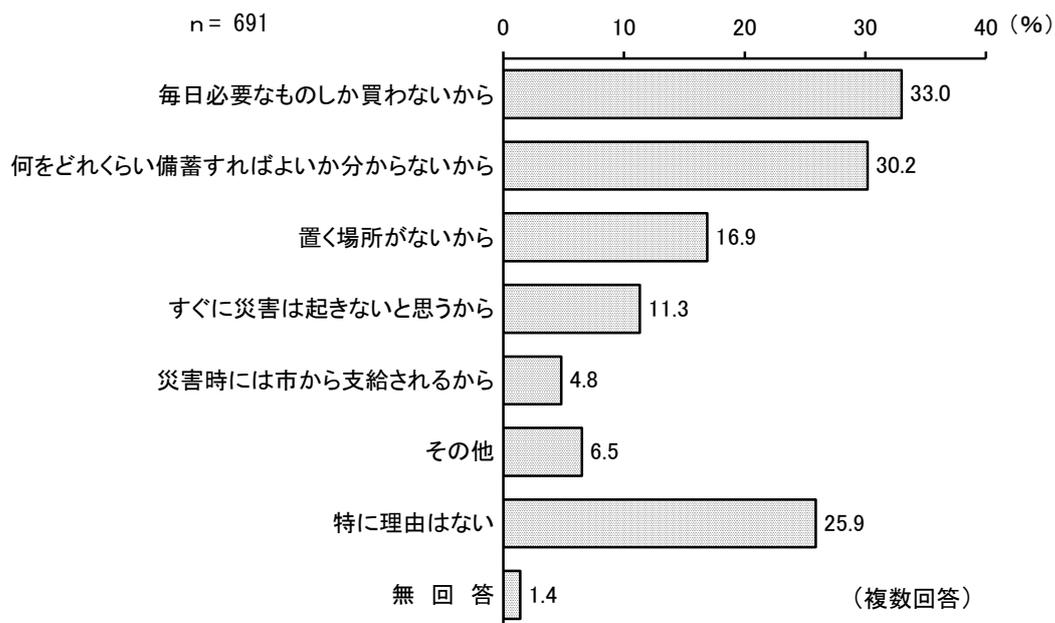
8-9 食料・飲料水を備蓄していない理由

◇【食料】「毎日必要なものしか買わないから」が3割強

(食料を「備蓄していない」とお答えの方に)

問30-2 備蓄していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図8-9-1 【食料】



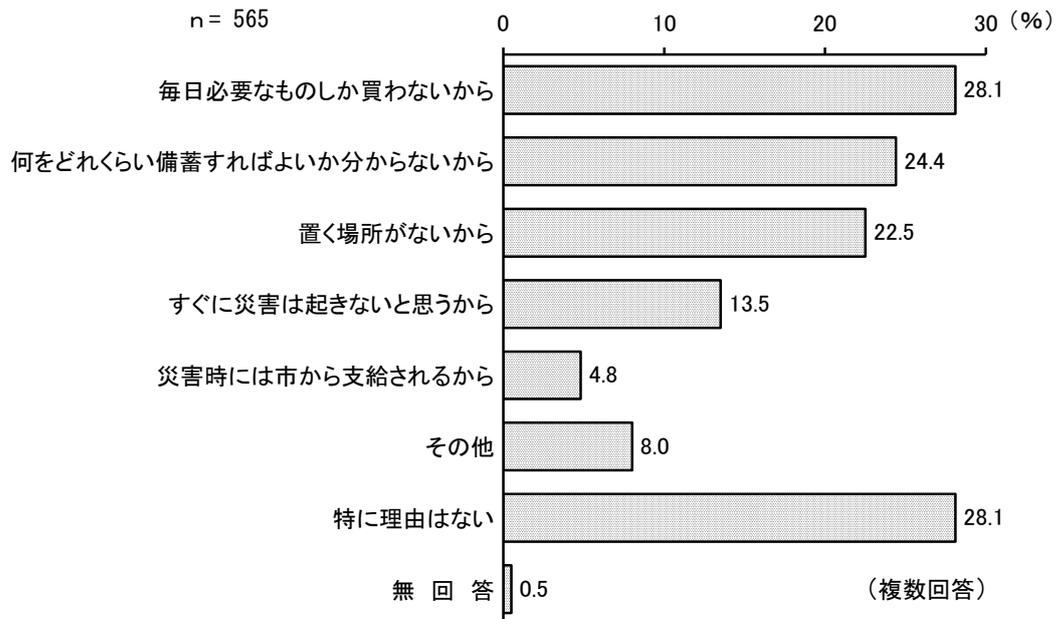
食料の備蓄の有無で、「備蓄していない」と答えた人(691人)に、備蓄していない理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」が3割強(33.0%)と高く、次いで「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」(30.2%)、「置く場所がないから」(16.9%)、「すぐに災害は起きないと思うから」(11.3%)と続いている。(図8-9-1)

◇【飲料水】「毎日必要なものしか買わないから」が3割近く

(飲料水を「備蓄していない」とお答えの方に)

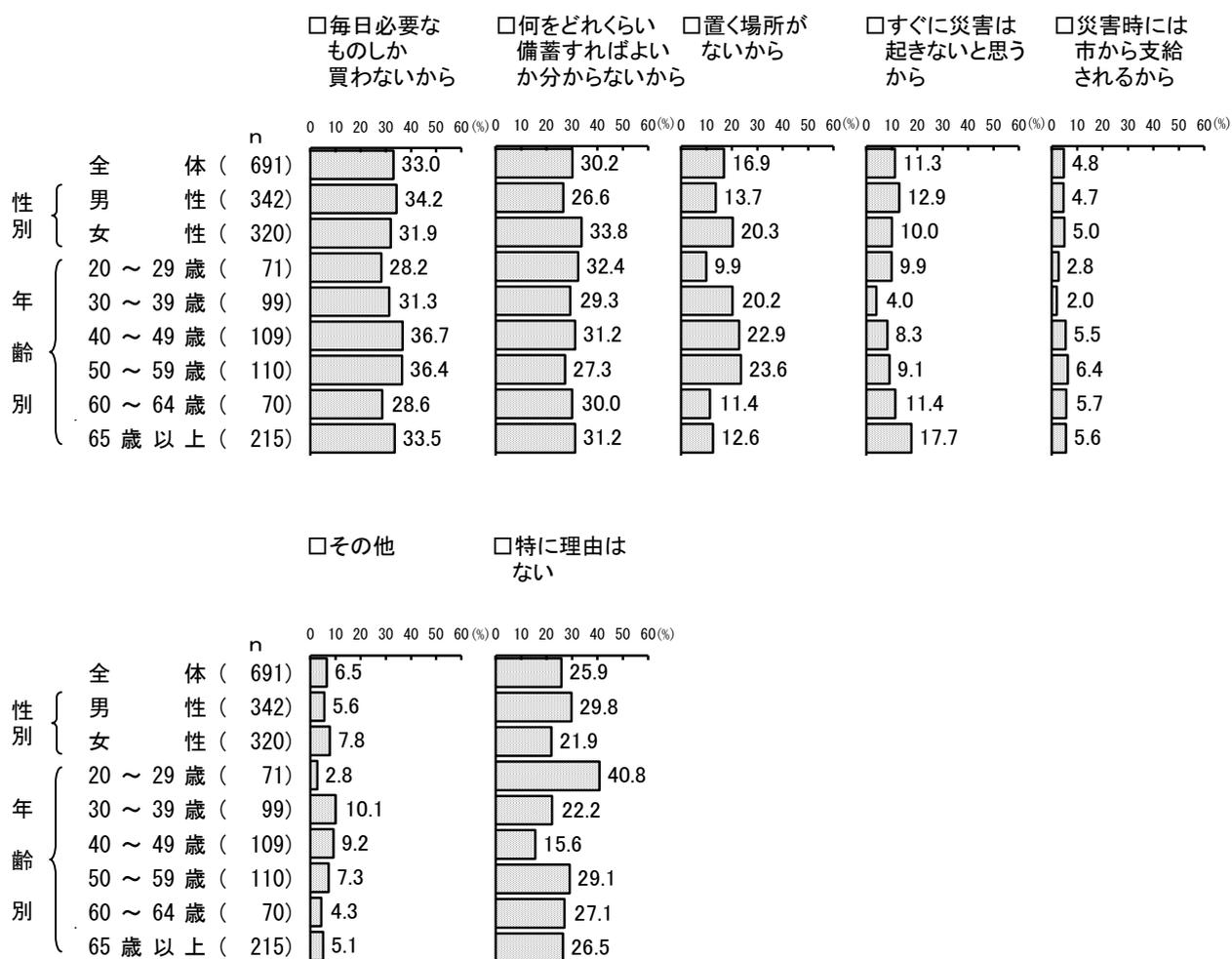
問30-4 備蓄していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図8-9-2 【飲料水】



飲料水の備蓄の有無で、「備蓄していない」と答えた人(565人)に、備蓄していない理由を聞いたところ、「毎日必要なものしか買わないから」が3割近く(28.1%)と高く、次いで「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」(24.4%)、「置く場所がないから」(22.5%)、「すぐに災害は起きないと思うから」(13.5%)と続いている。(図8-9-2)

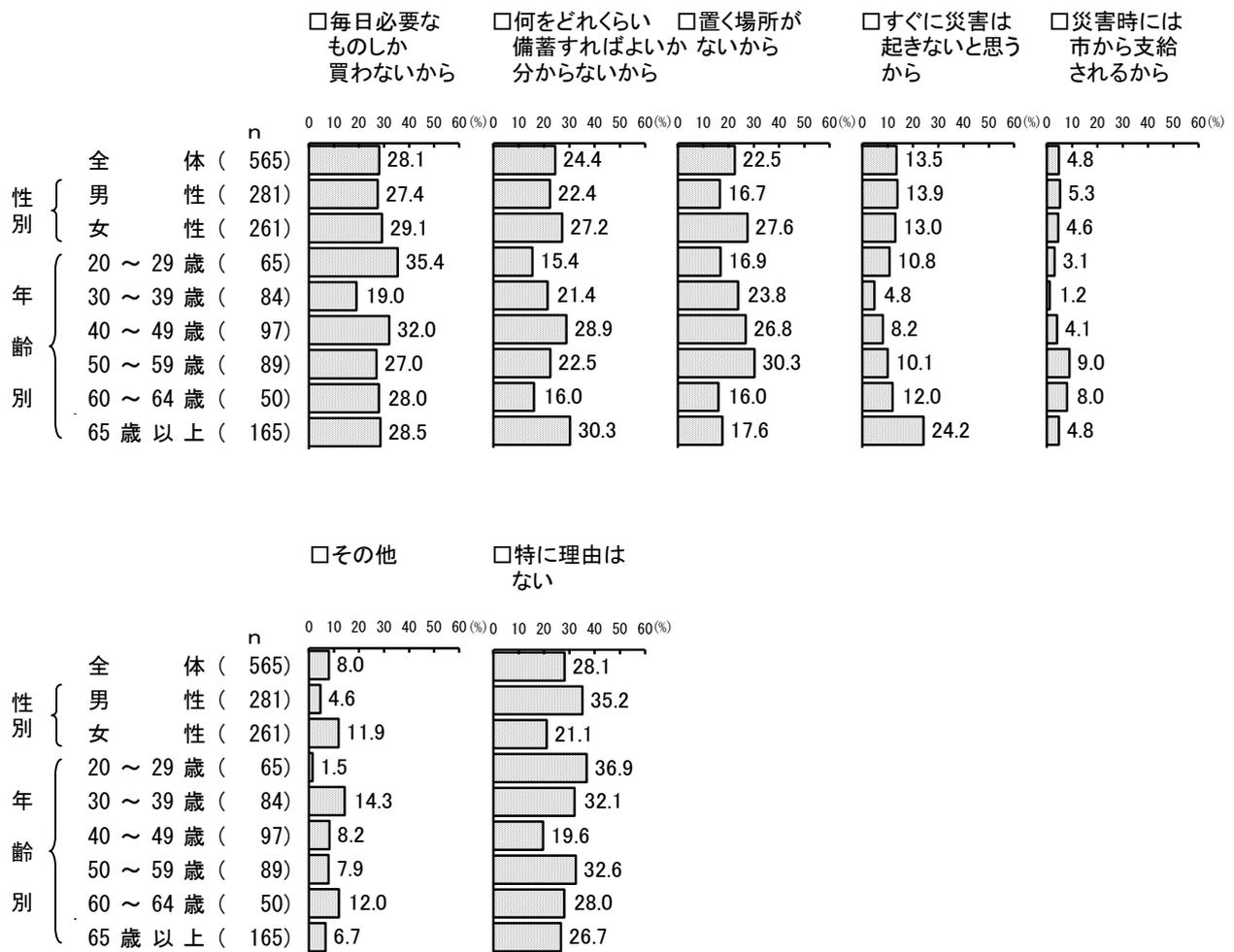
図8-9-3 食料・飲料水を備蓄していない理由—性別・年齢別 【食料】



性別にみると、「何をどれくらい備蓄すればよいか分からないから」は7.2ポイント、「置く場所がないから」は6.6ポイント、それぞれ女性が高くなっている。一方、「特に理由はない」は男性が7.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「置く場所がないから」は30～39歳（20.2%）、40～49歳（22.9%）、50～59歳（23.6%）で2割台と高くなっている。また、「特に理由はない」は20～29歳で約4割（40.8%）と高くなっている。（図8-9-3）

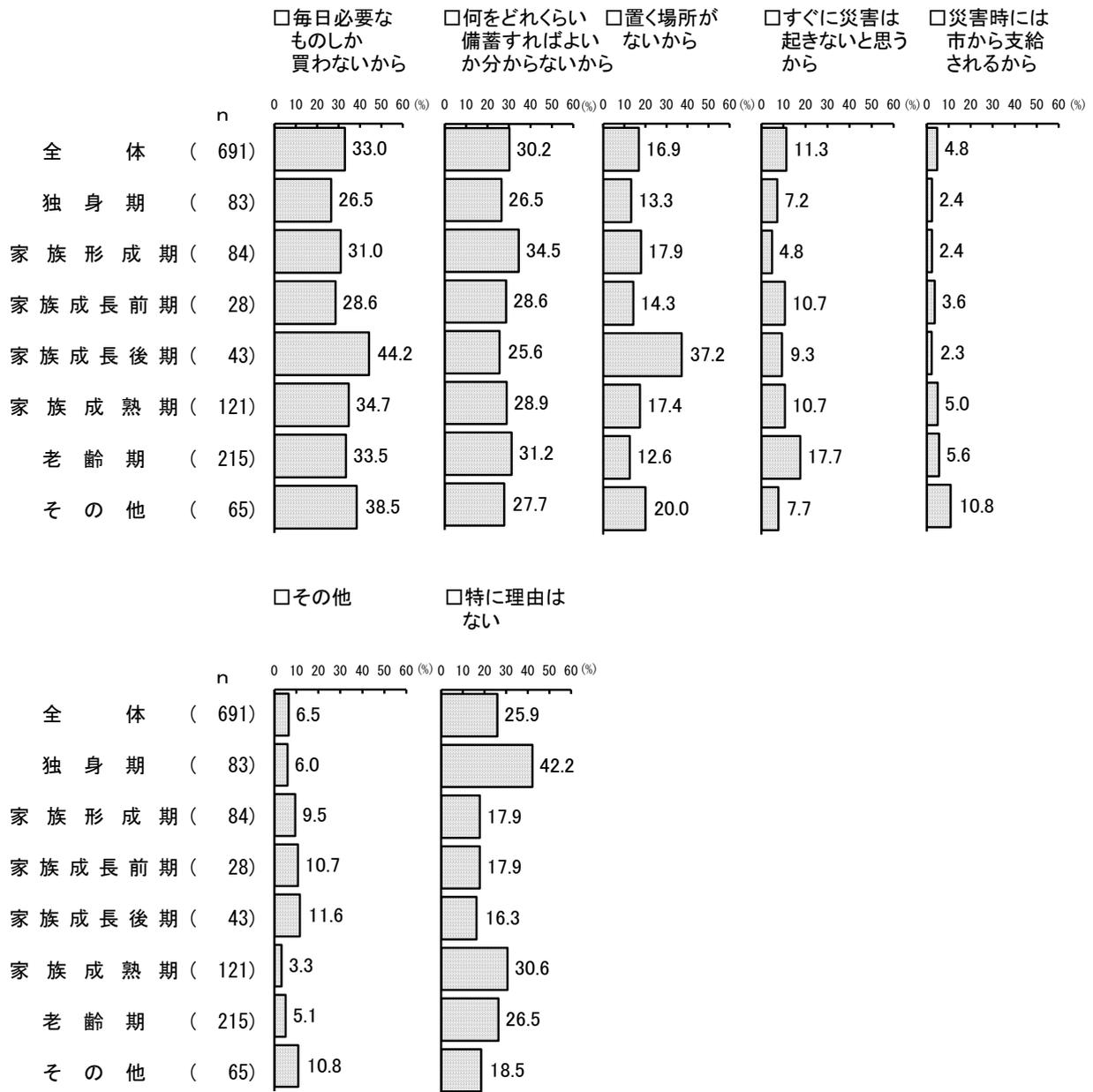
図8-9-4 食料・飲料水を備蓄していない理由—性別・年齢別 【飲料水】



性別にみると、「置く場所がないから」は女性が10.9ポイント高くなっている。一方、「特に理由はない」は男性が14.1ポイント高くなっている。

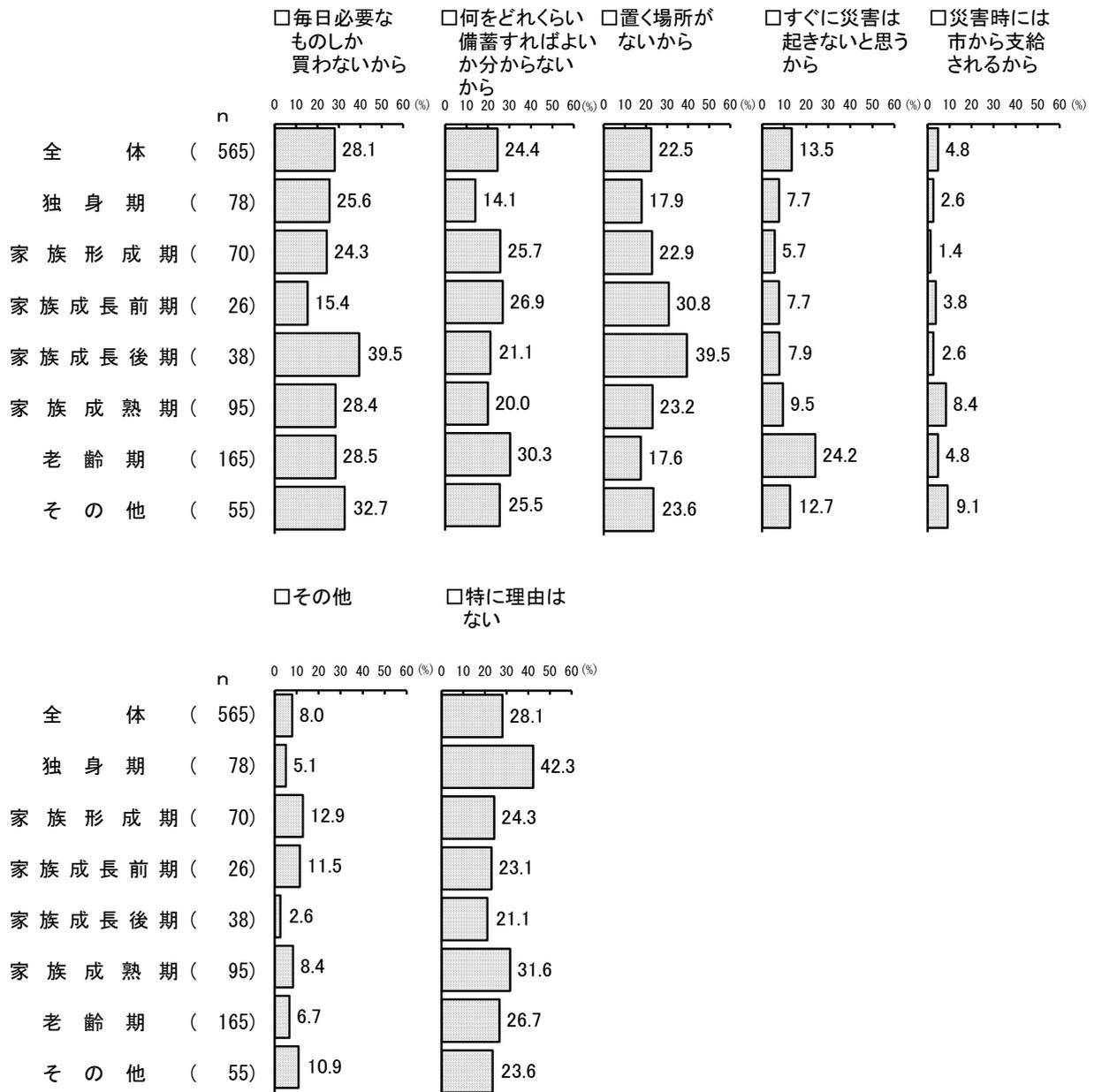
年齢別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は20～29歳で3割台半ば（35.4%）と高くなっている。また、「すぐに災害は起きないと思うから」は65歳以上で2割台半ば（24.2%）と高くなっている。（図8-9-4）

図8-9-5 食料・飲料水を備蓄していない理由—ライフステージ（集約型）別 【食料】



ライフステージ（集約型）別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は家族成長後期で4割台半ば（44.2%）と高く、「置く場所がないから」でも4割近く（37.2%）と高くなっている。（図8-9-5）

図8-9-6 食料・飲料水を備蓄していない理由—ライフステージ（集約型）別 【飲料水】



ライフステージ（集約型）別にみると、「毎日必要なものしか買わないから」は家族成長後期で4割弱（39.5%）と高く、「置く場所がないから」でも4割弱（39.5%）と高くなっている。また、「すぐに災害は起きないと思うから」は高齢期で2割台半ば（24.2%）と高くなっている。

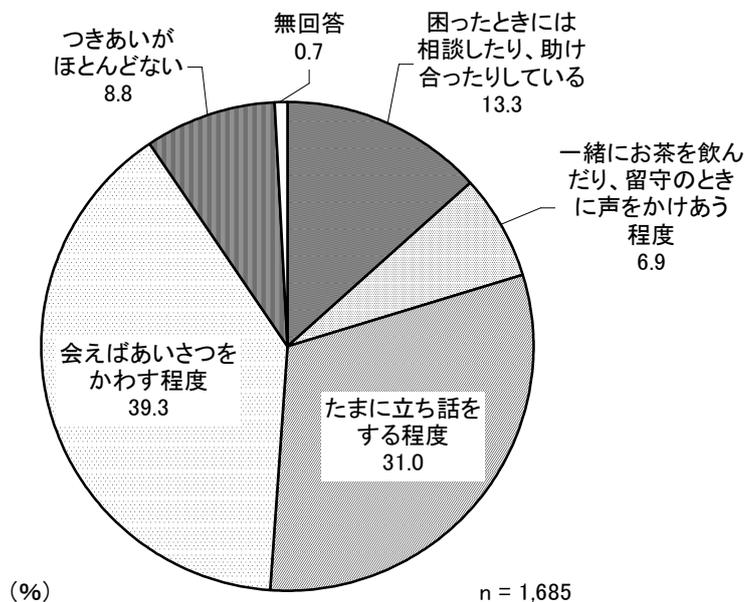
(図8-9-6)

8-10 隣近所とのつきあい方

◇「会えばあいさつをかわす程度」が4割弱

問31 あなたは、日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしていますか。(○は1つだけ)

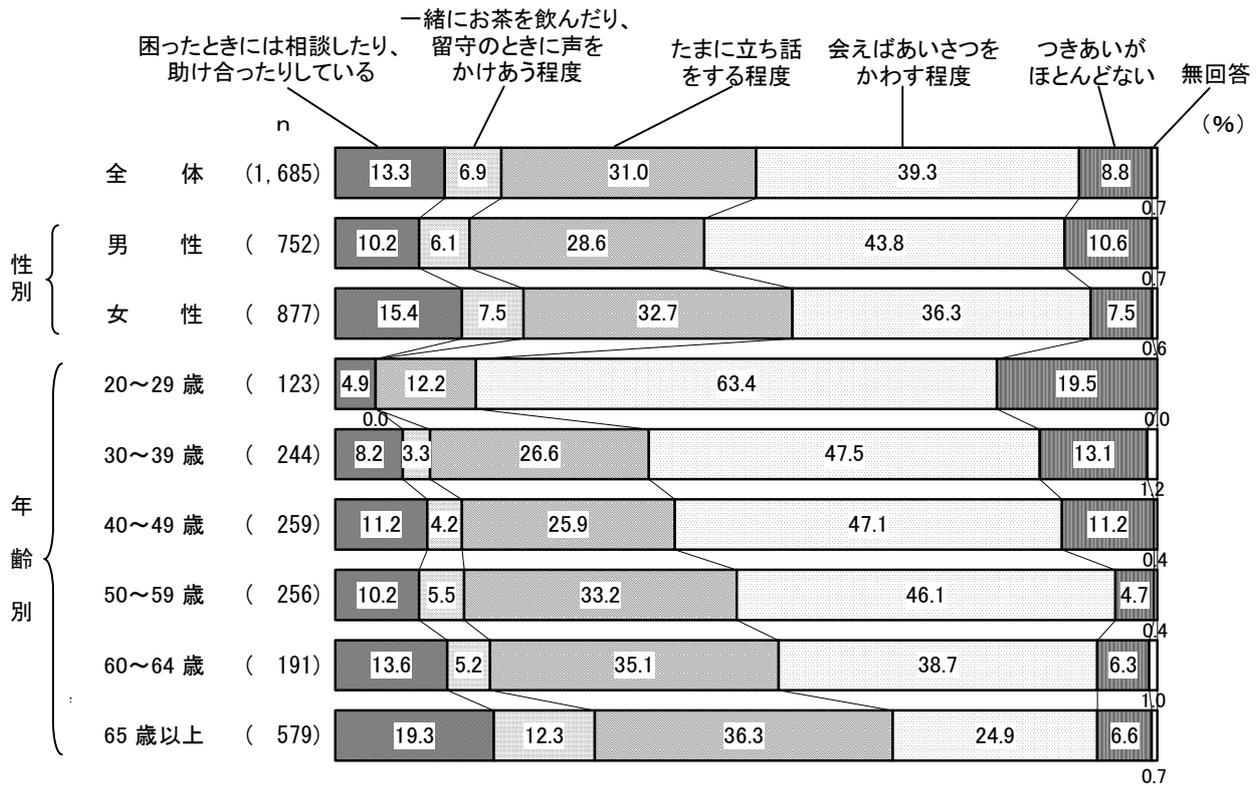
図8-10-1



日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしているかを聞いたところ、「会えばあいさつをかわす程度」が4割弱（39.3%）と最も高く、次いで「たまに立ち話をする程度」（31.0%）、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」（13.3%）、「つきあいがほとんどない」（8.8%）、「一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあう程度」（6.9%）と続いている。

(図8-10-1)

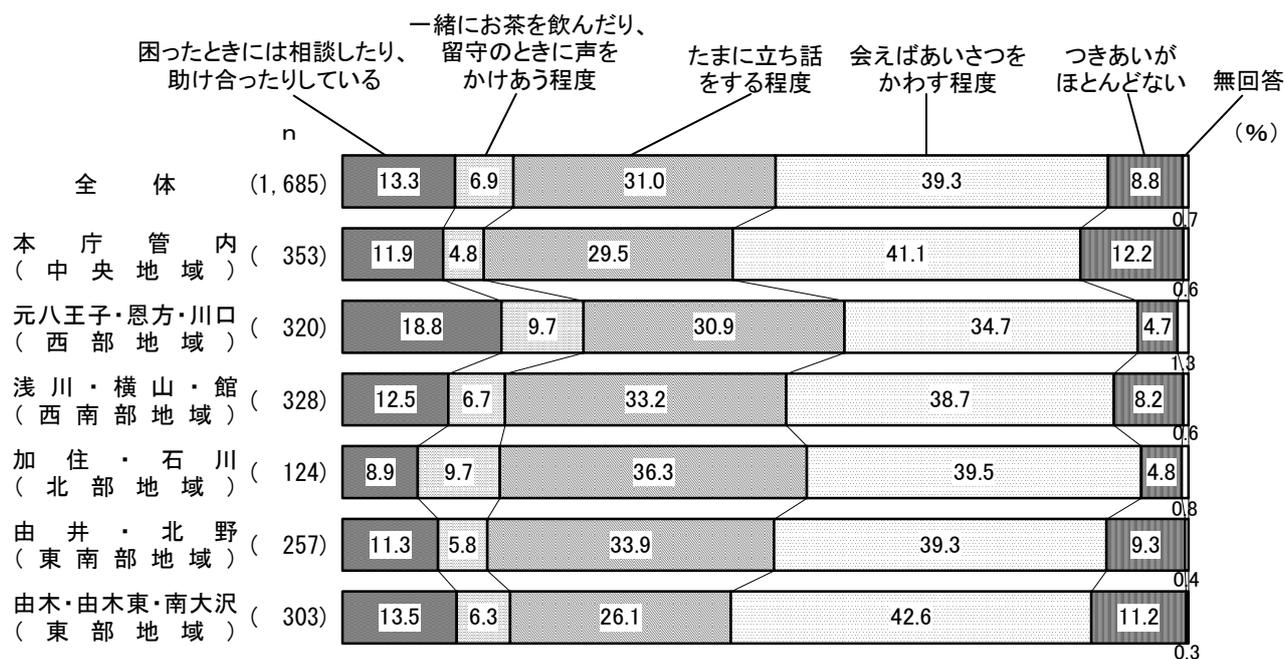
図8-10-2 隣近所とのつきあい方—性別・年齢別



性別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は男性が7.5ポイント高くなっている。一方、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は女性が5.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「会えばあいさつをかわす程度」は年代が下がるにつれて割合が高く、特に20~29歳で6割強（63.4%）と高くなっている。また、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は65歳以上で2割弱（19.3%）と高くなっている。（図8-10-2）

図8-10-3 隣近所とのつきあい方—居住地域別



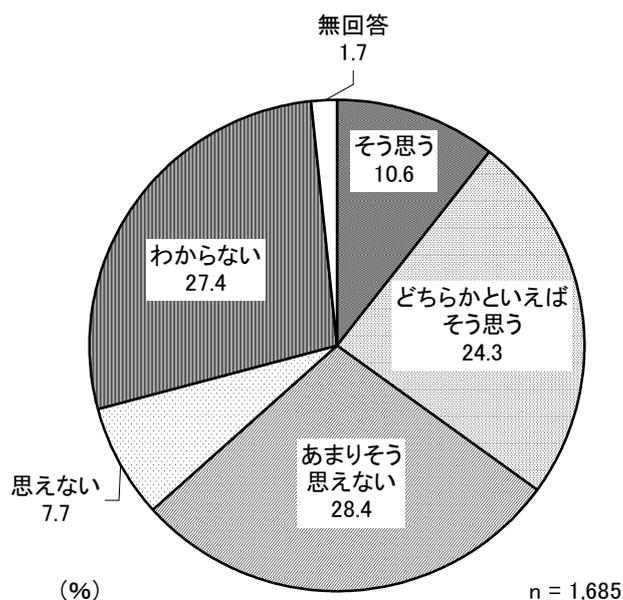
居住地域別にみると、「困ったときには相談したり、助け合ったりしている」は元八王子・恩方・川口（西部地域）で2割近く（18.8%）と高くなっている。（図8-10-3）

8-11 地域と子どもたちのかかわりあい

◇ 《そう思う》が3割台半ば

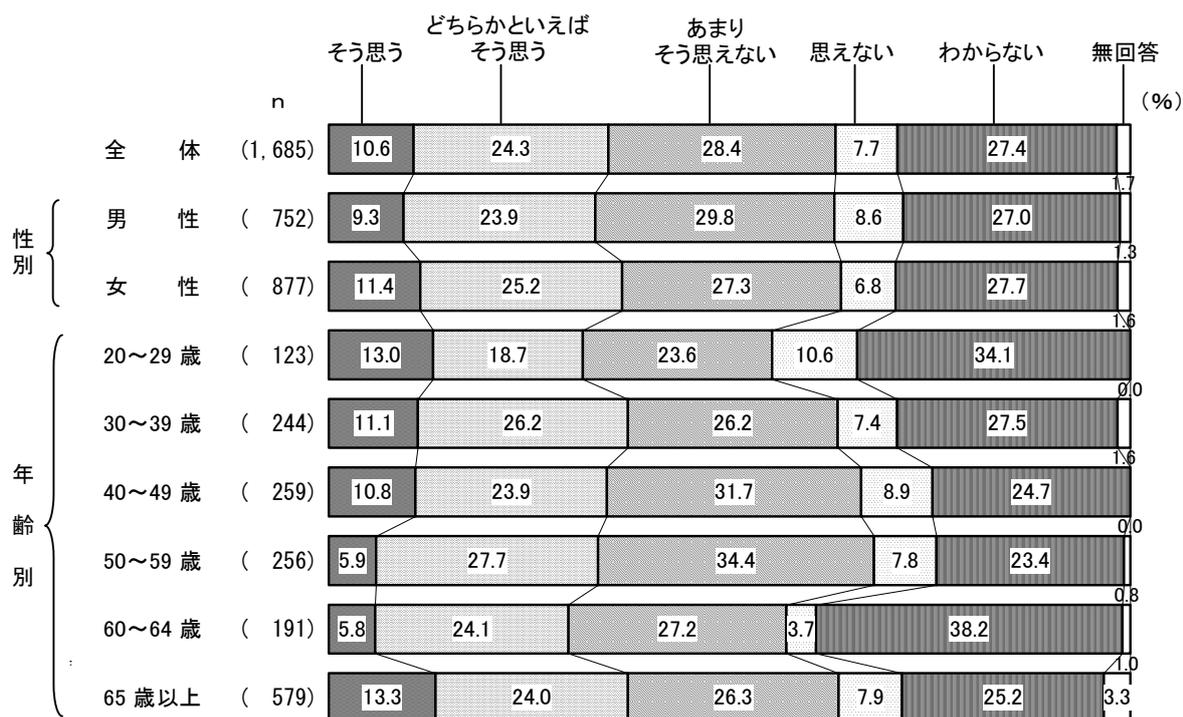
問32 あなたのお住まいの地域では、子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思いますか。(○は1つだけ)

図8-11-1



子どもたちが、家族だけでなく地域の人にも見守られ、かかわりあいながら成長していると思うかを聞いたところ、「あまりそう思えない」が3割近く（28.4%）と最も高く、これに「思えない」（7.7%）を合わせた《思えない》は4割近く（36.1%）となっている。一方、「どちらかといえばそう思う」（24.3%）と「そう思う」（10.6%）を合わせた《そう思う》は3割台半ば（34.9%）となっている。（図8-11-1）

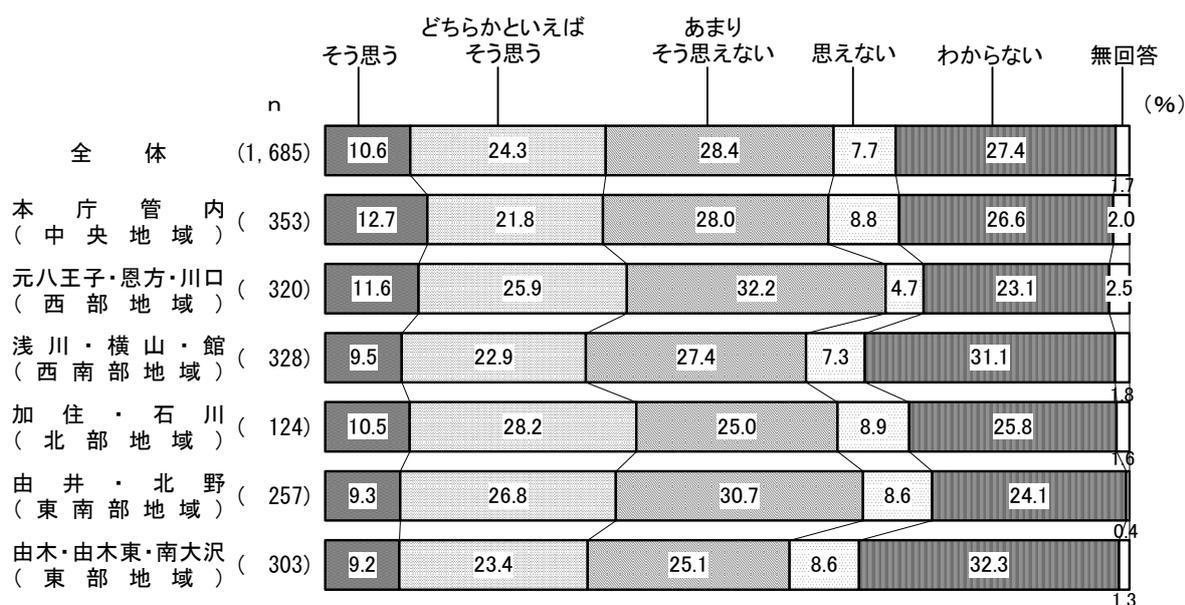
図 8-11-2 地域と子どもたちのかかわりあい—性別・年齢別



性別にみると、《思えない》は男性が4.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は30~39歳と65歳以上でともに4割近く（37.3%）と高くなっている。一方、《思えない》は50~59歳で4割強（42.2%）と高くなっている。（図8-11-2）

図 8-11-3 地域と子どもたちのかかわりあい—居住地域別



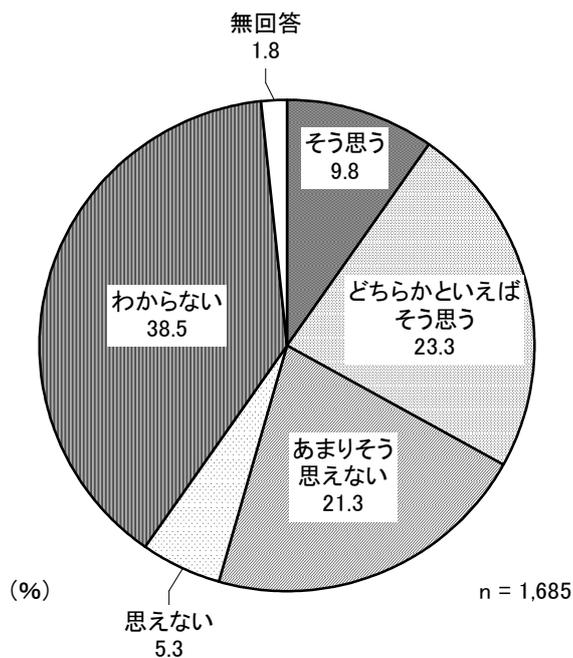
居住地域別にみると、《そう思う》は加住・石川（北部地域）で4割近く（38.7%）と高くなっている。一方、《思えない》は由井・北野（東南部地域）で4割弱（39.3%）と高くなっている。（図8-11-3）

8-12 地域と学校が協力して子どもたちを育てているか

◇ 《そう思う》が3割強

問33 あなたのお住まいの地域では、地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育てていると思いますか。(〇は1つだけ)

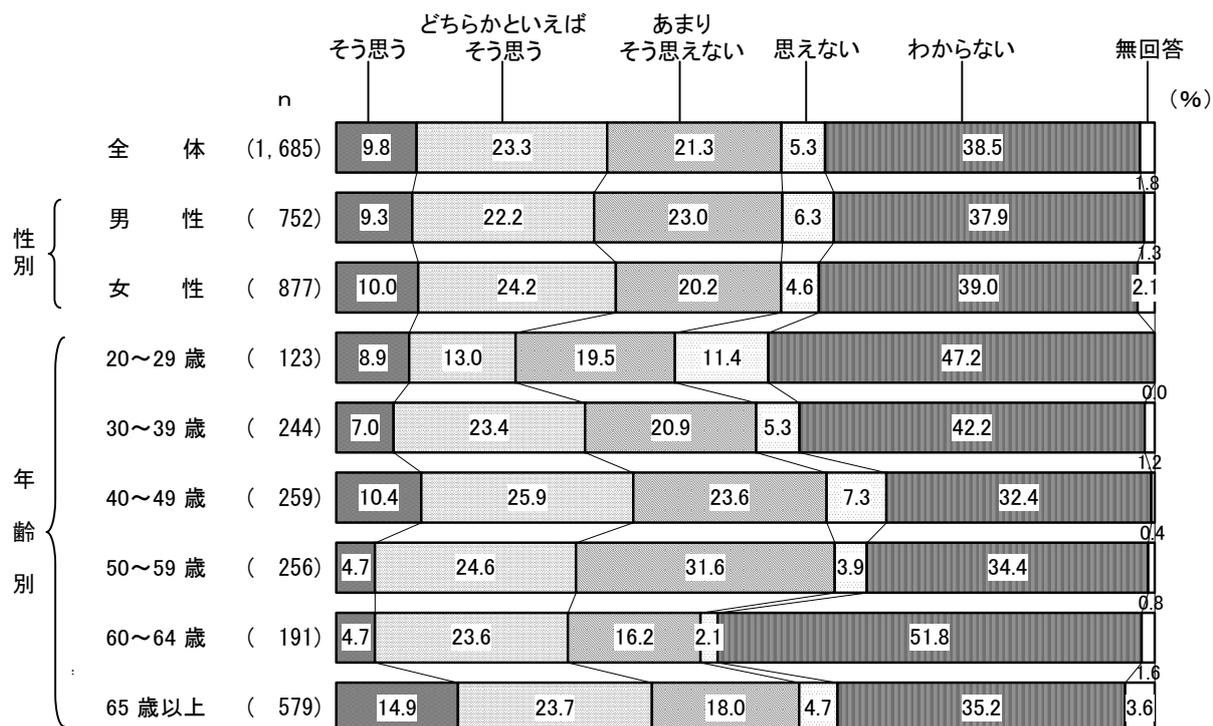
図8-12-1



地域と学校が、ともに協力し合って子どもたちを育てていると思うかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が2割強（23.3%）と高く、これに「そう思う」（9.8%）を合わせた《そう思う》は3割強（33.1%）となっている。一方、「あまりそう思えない」（21.3%）と「思えない」（5.3%）を合わせた《思えない》は3割近く（26.6%）となっている。

(図8-12-1)

図8-12-2 地域と学校が協力して子どもたちを育てているかー性別・年齢別

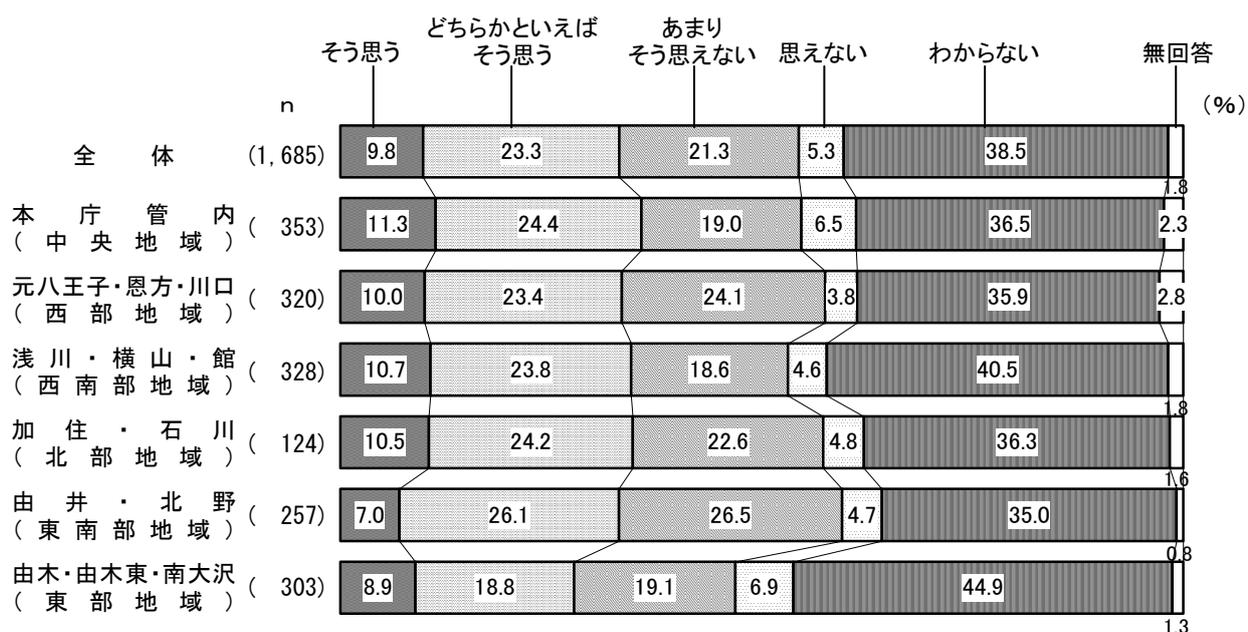


性別にみると、《思えない》は男性が4.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は65歳以上で4割近く（38.6%）と高くなっている。

(図8-12-2)

図8-12-3 地域と学校が協力して子どもたちを育てているかー居住地域別



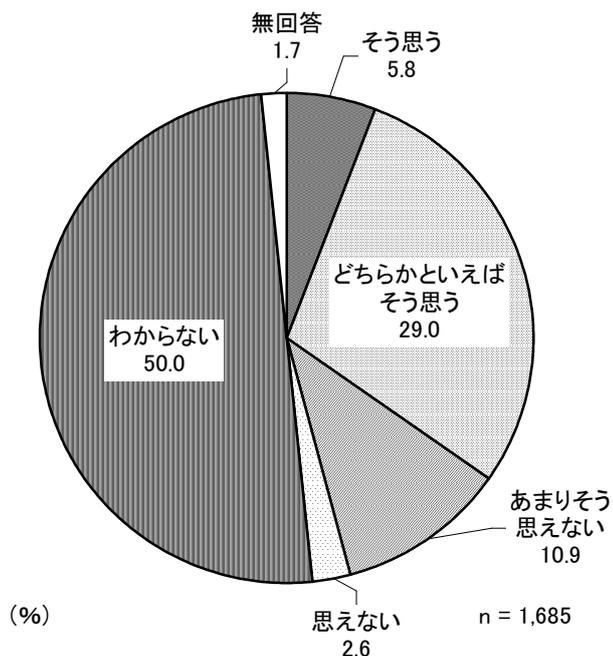
居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）を除くすべての地域で3割台となっている。(図8-12-3)

8-13 市などの支援による子育ての状況

◇ 《そう思う》が3割台半ば

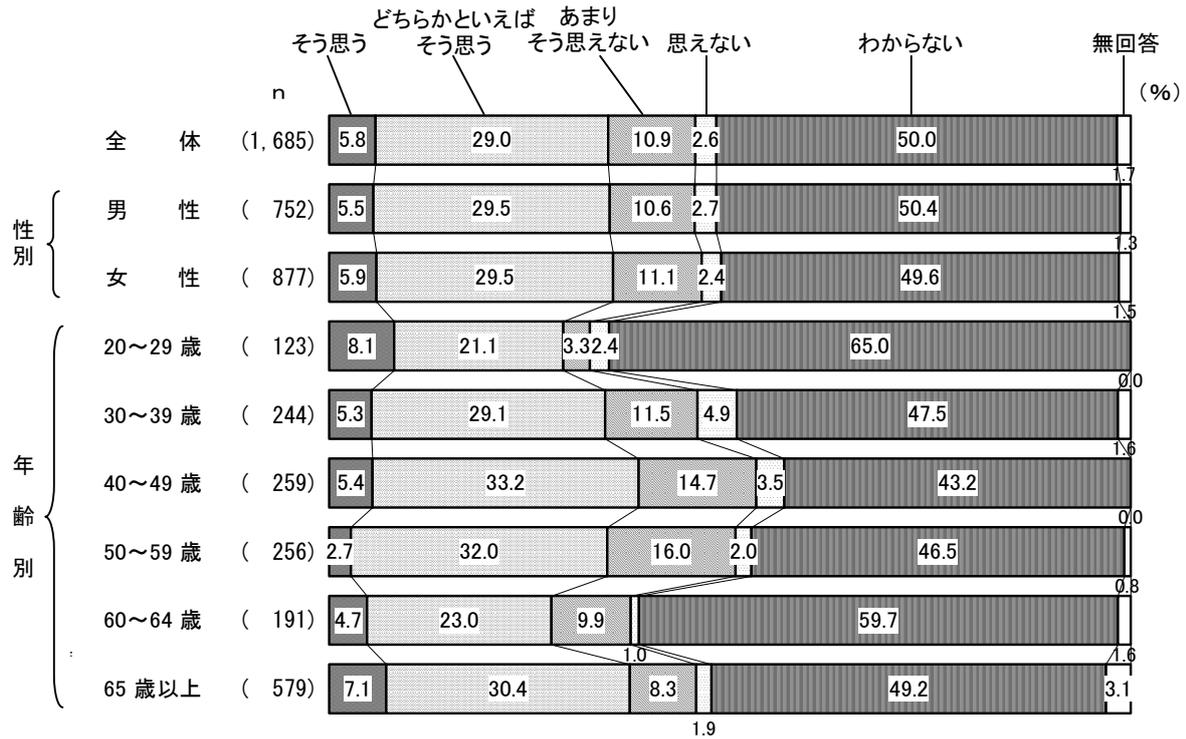
問34 あなたは、子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

図8-13-1



市などの様々な支援により、安心して子育てができていますかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が3割弱(29.0%)と高く、これに「そう思う」(5.8%)を合わせた《そう思う》は3割台半ば(34.8%)となっている。一方、「あまりそう思えない」(10.9%)と「思えない」(2.6%)を合わせた《思えない》は1割強(13.5%)となっている。(図8-13-1)

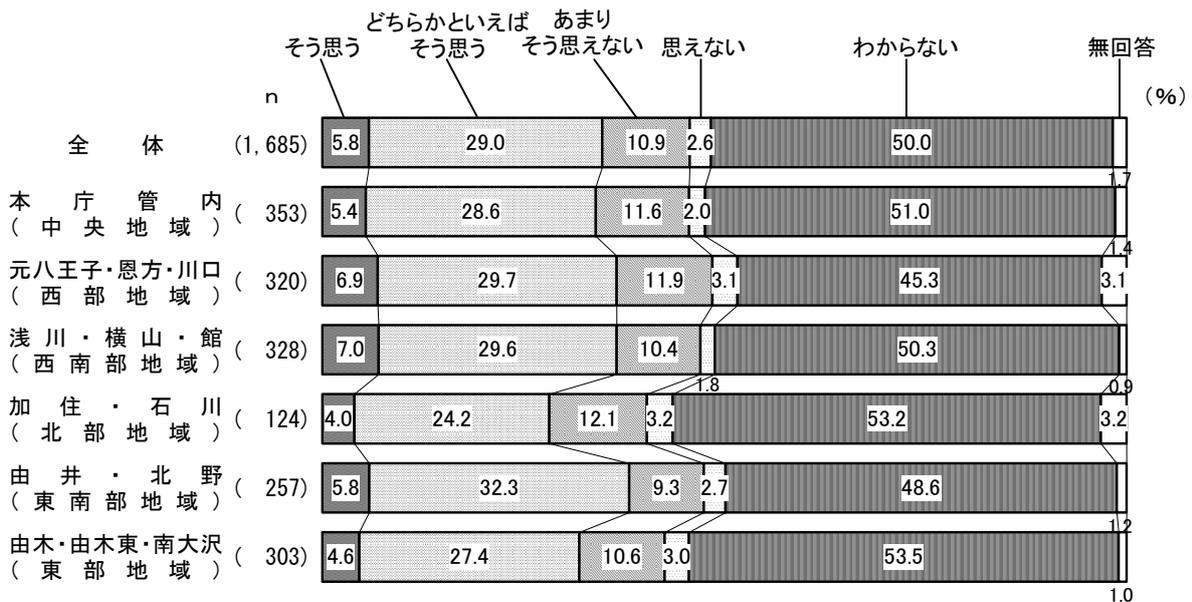
図 8-13-2 市などの支援による子育ての状況—性別・年齢別



性別にみると、大きな違いはみられない。

年齢別にみると、《そう思う》は40~49歳（38.6%）と65歳以上（37.5%）で4割近くと高くなっている。（図8-13-2）

図 8-13-3 市などの支援による子育ての状況—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は由井・北野（東南部地域）で4割近く（38.1%）と高くなっている。（図8-13-3）

8-14 市民協働の推進状況

◇《そう思う》が5割

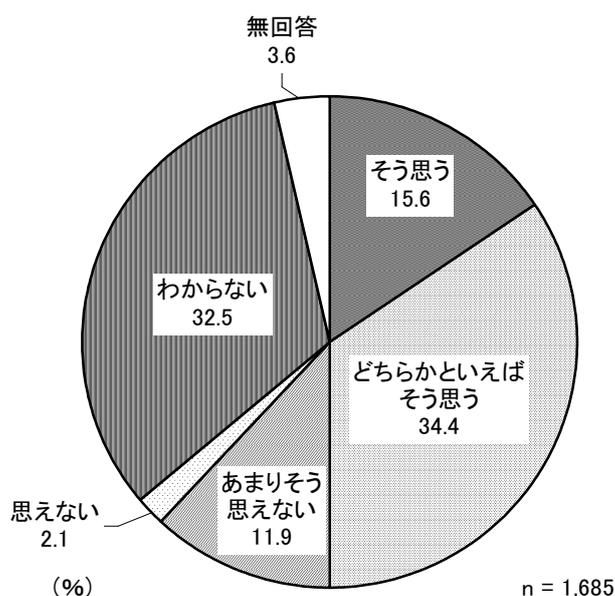
問35 あなたは、市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思いますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。

(○は1つだけ)

※市民協働の活動とは・・・

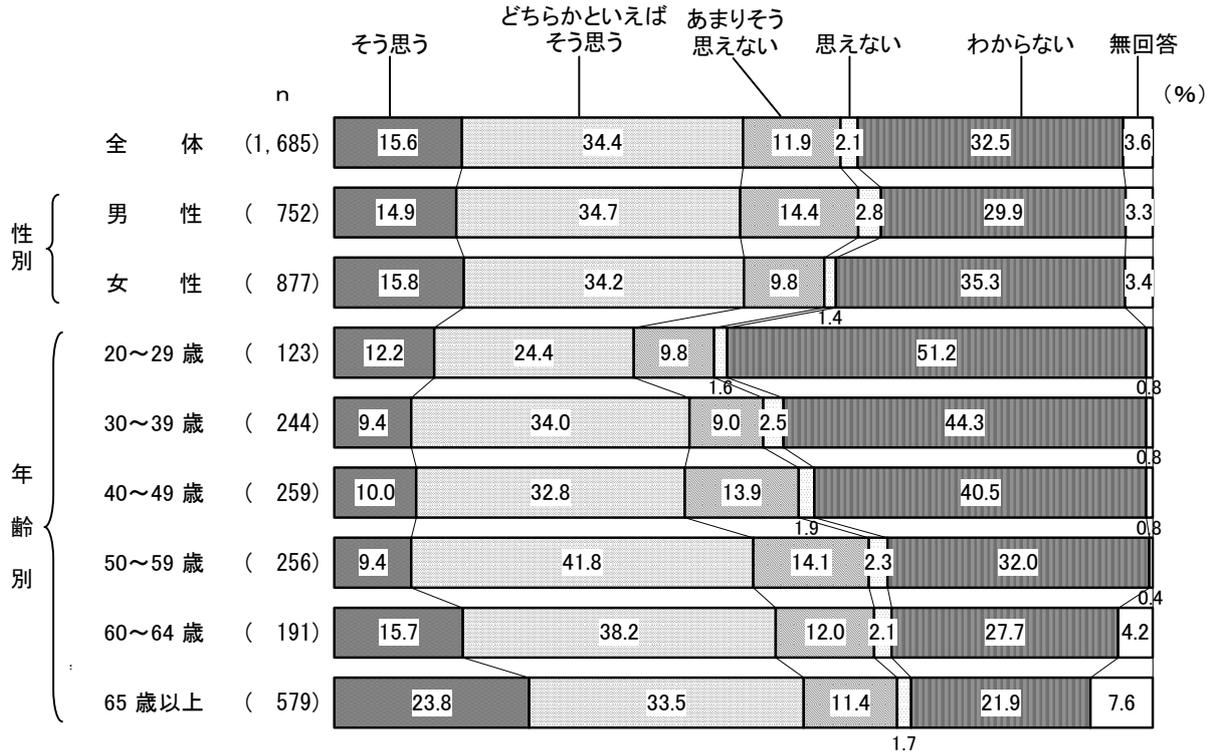
- 八王子まつり、いちょう祭りなどへの支援や協力、また環境フェスティバルなどのイベントを市民と協力して開催
- 町会等が行う防犯・防災活動や環境美化活動などに対する支援や協力
- 公園や道路の維持活動(清掃や除草などのボランティア活動)を地域の住民の方に担っていただくアドプト制度の運営
- 各種審議会や市の計画策定に際して参加いただく市民委員の公募
- 計画、条例等の作成過程におけるパブリックコメント(意見公募)の実施 など

図8-14-1



市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思うかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が3割台半ば(34.4%)と高く、これに「そう思う」(15.6%)を合わせた《そう思う》は5割(50.0%)となっている。一方、「あまりそう思えない」(11.9%)と「思えない」(2.1%)を合わせた《思えない》は1割台半ば(14.0%)となっている。(図8-14-1)

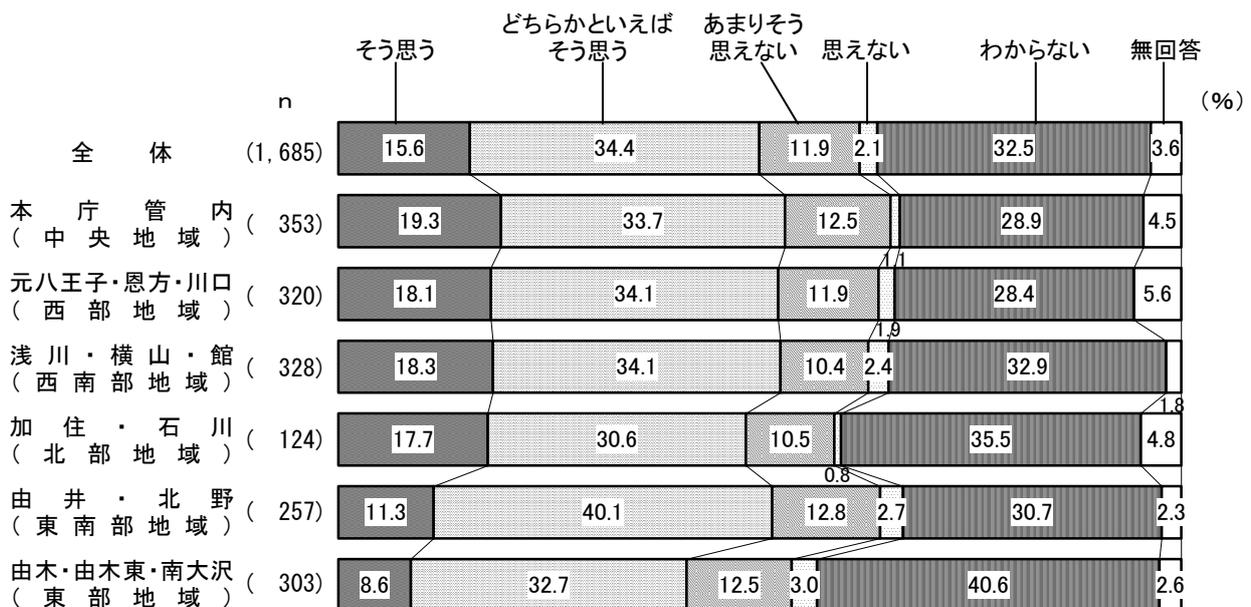
図8-14-2 市民協働の推進状況－性別・年齢別



性別にみると、「思えない」は男性が6.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で6割近く（57.3%）と高くなっている。（図8-14-2）

図8-14-3 市民協働の推進状況－居住地域別



居住地域別にみると、「そう思う」は由木・由木東・南大沢（東部地域）を除くすべての地域で5割前後となっている。（図8-14-3）

8-15 この1年間の文化活動への参加・鑑賞頻度

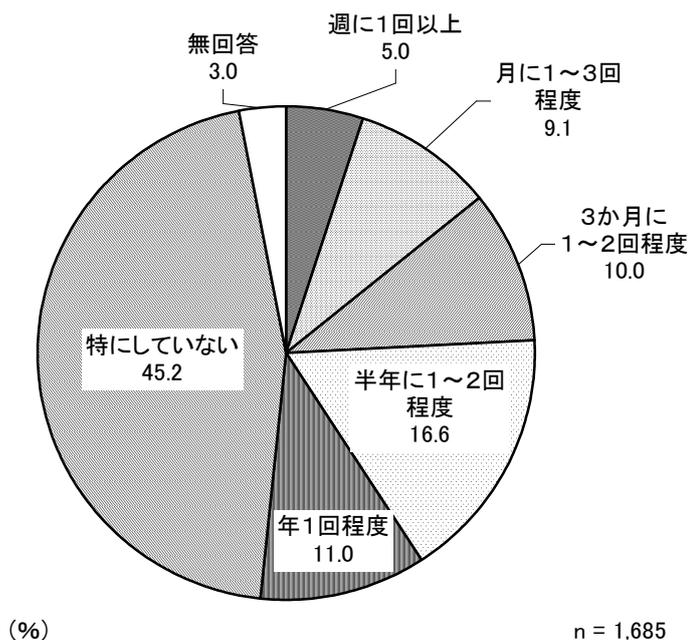
◇「半年に1～2回程度」が2割近く

問36 あなたは、この1年間にどのくらいの頻度で文化活動に参加または鑑（観）賞しましたか。（○は1つだけ）

※文化活動とは・・・

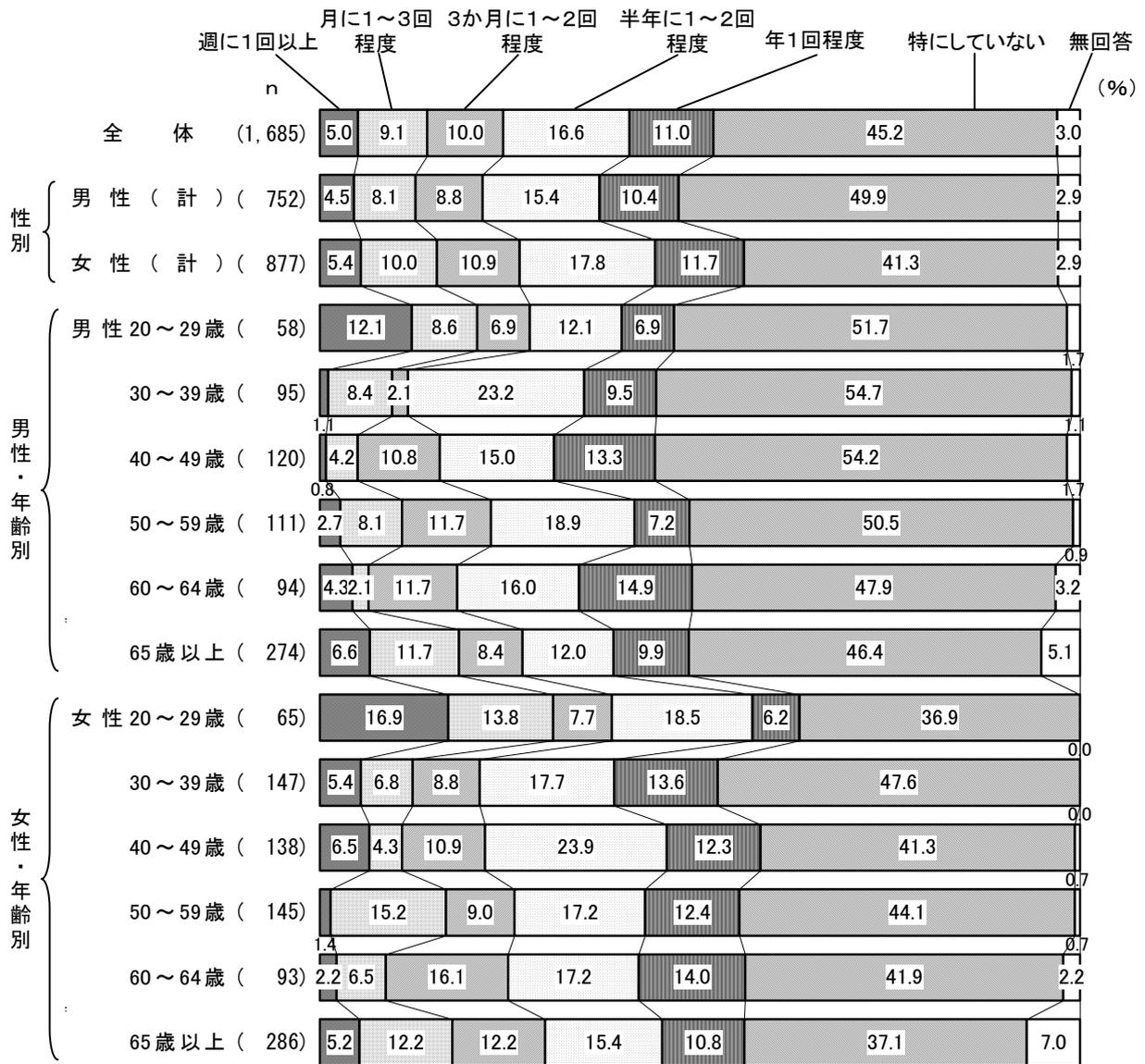
- 音楽（クラシック、ポピュラー、演歌など）
- 文学（小説、詩、俳句、短歌など）
- 美術（絵画、彫刻、工芸など）
- メディア芸術（映画、漫画、アニメーションなど）
- 写真
- 伝統芸能（歌舞伎、文楽、能楽など）
- 芸能（講談、落語、漫才など）
- 生活文化（茶道、華道、書道など）
- 演劇（ミュージカル含む）
- 国民娯楽（囲碁、将棋など）
- 舞踊（バレエ、ダンスなど）
- 文化財巡り（寺社、史跡など）などです

図 8-15-1



この1年間にどのくらいの頻度で文化活動に参加または鑑（観）賞したかを聞いたところ、文化活動に参加または鑑（観）賞した中では、「半年に1～2回程度」が2割近く（16.6%）と高く、次いで「年1回程度」（11.0%）、「3か月に1～2回程度」（10.0%）、「月に1～3回程度」（9.1%）、「週に1回以上」（5.0%）と続いている。一方、「特にしていない」は4割台半ば（45.2%）となっている。（図8-15-1）

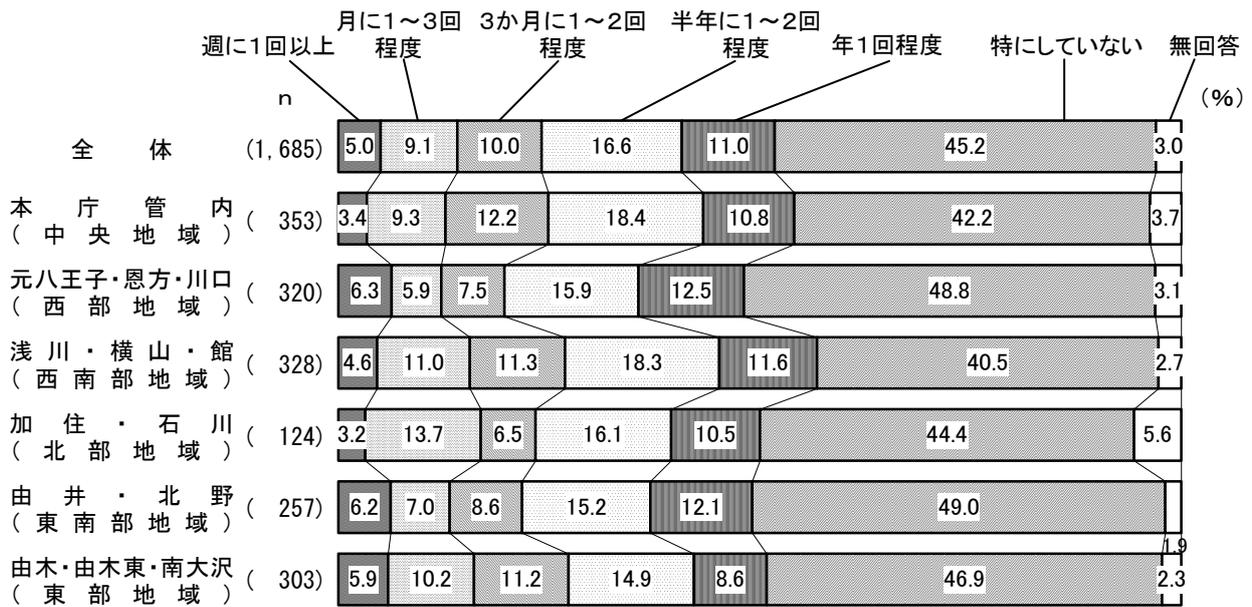
図 8-15-2 この1年間の文化活動への参加・鑑賞頻度—性・年齢別



性別にみると、「半年に1~2回程度」は女性が2.4ポイント高くなっている。一方、「特にしていない」は男性が8.6ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「週に1回以上」は男女ともに20~29歳が1割台（男性12.1%、女性16.9%）と高くなっている。（図8-15-2）

図 8-15-3 この1年間の文化活動への参加・鑑賞頻度—居住地域別



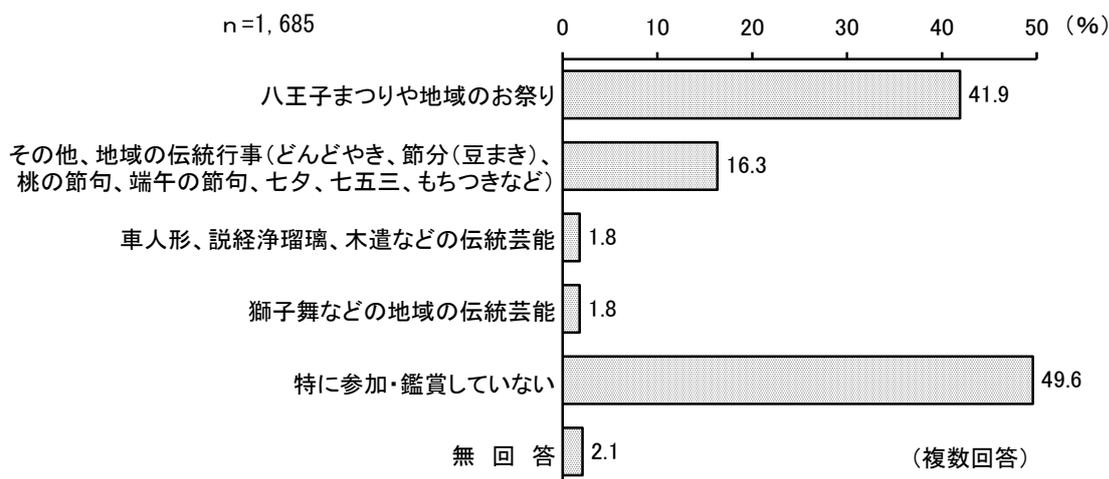
居住地域別にみると、「特にしていない」は由井・北野（東南部地域）で5割弱（49.0%）と高くなっている。（図8-15-3）

8-16 この1年間の伝統行事・伝統芸能への参加状況

◇「八王子まつりや地域のお祭り」が4割強

問37 あなたは、この1年間に次のような地域の伝統行事や伝統芸能に参加もしくは鑑賞しましたか。(〇はいくつでも)

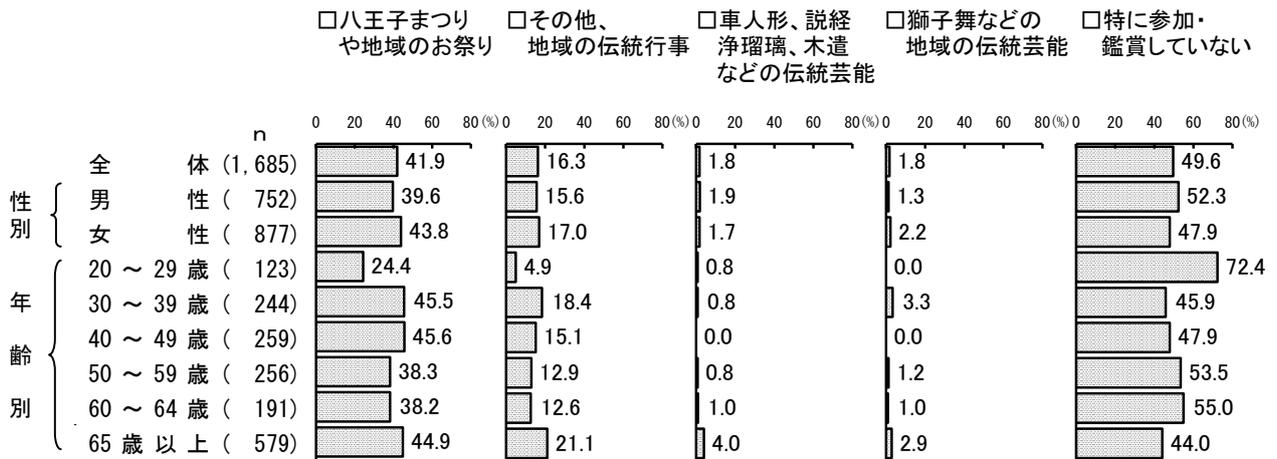
図8-16-1



この1年間に地域の伝統行事や伝統芸能に参加もしくは鑑賞したかを聞いたところ、「八王子まつりや地域のお祭り」が4割強(41.9%)と高く、次いで「その他、地域の伝統行事(どんどやき、節分(豆まき)、桃の節句、端午の節句、七夕、七五三、もちつきなど)」(16.3%)、「車人形、説経浄瑠璃、木遣などの伝統芸能」(1.8%)、「獅子舞などの地域の伝統芸能」(1.8%)と続いている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は5割弱(49.6%)となっている。

(図8-16-1)

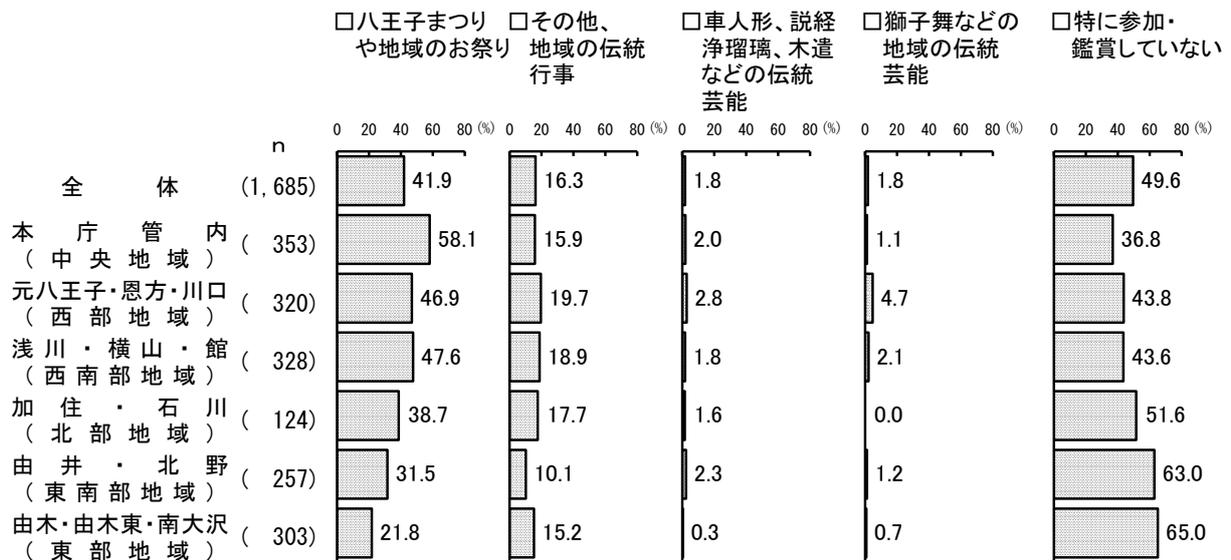
図 8-16-2 この1年間の伝統行事・伝統芸能への参加状況－性別・年齢別



性別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は女性が4.2ポイント高くなっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は男性が4.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は30～39歳（45.5%）、40～49歳（45.6%）、65歳以上（44.9%）で4割台半ばと高くなっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は20～29歳で7割強（72.4%）と高くなっている。（図8-16-2）

図 8-16-3 この1年間の伝統行事・伝統芸能への参加状況－居住地域別



年齢別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は本庁管内（中央地域）で6割近く（58.1%）と高くなっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（65.0%）で6割台半ばと高くなっている。（図8-16-3）

8-17 障害のある方への配慮

◇《心がけている》が8割強

問38 あなたは日ごろ、障害のある方に対して、理解や適切な配慮を心がけていますか。

(○は1つだけ)

※「理解や適切な配慮」とは・・・

○少しでも障害のある方の立場に立って考えられるように、障害の内容、特徴、接し方などについて理解を深める。

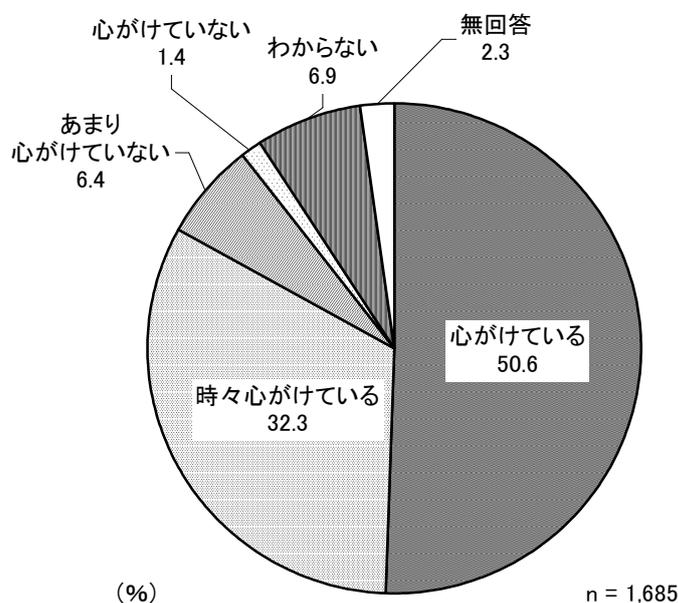
○困っている様子の方を見かけたら、声をかける。

○障害のある方と交流する機会を持つ。

○ゆっくりわかりやすく話したり、筆談など障害特性に応じたわかりやすいコミュニケーションの方法に心配りする。

○優先席、思いやり駐車スペース、点字ブロックなどは、必要としている方への妨げにならないように配慮する。(聴覚障害、難病、内部障害など、外見からは障害がわかりにくい方々もいます。) など

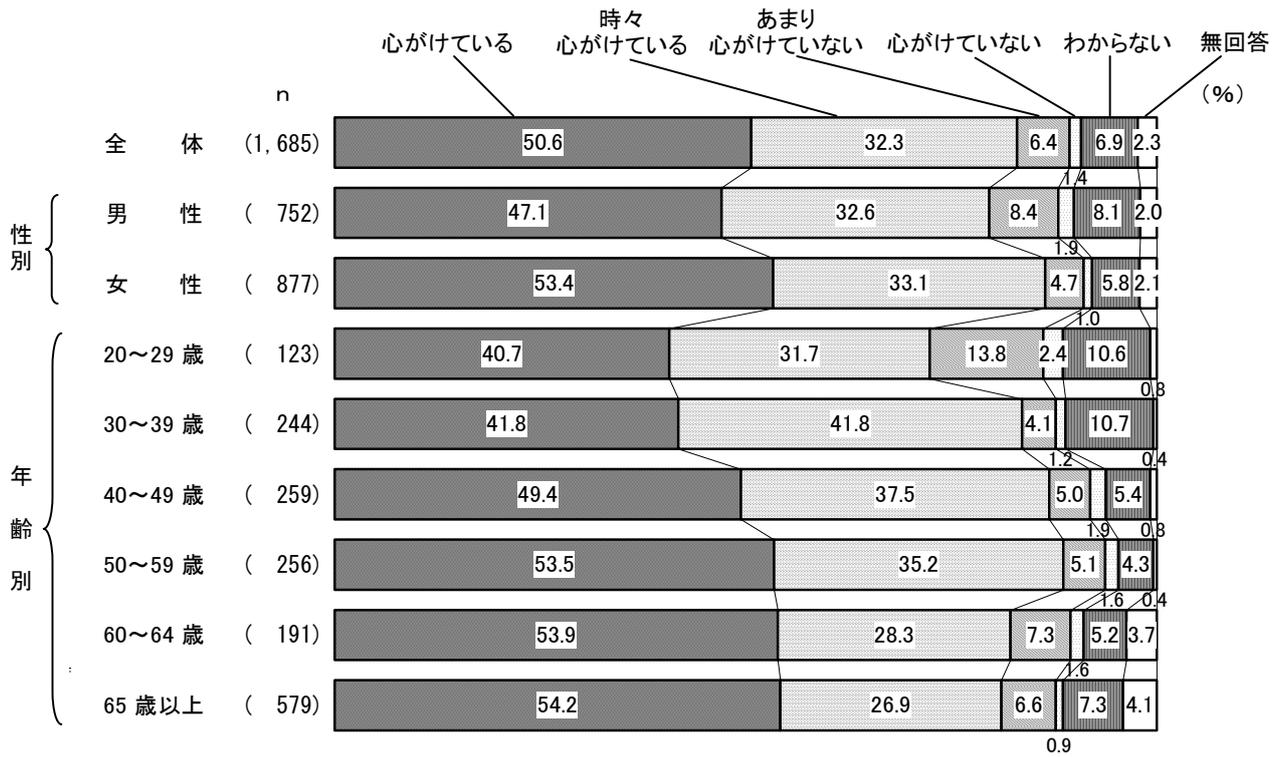
図8-17-1



障害のある方に対して、理解や適切な配慮を心がけているかを聞いたところ、「心がけている」が約5割(50.6%)と最も高く、これに「時々心がけている」(32.3%)を合わせた《心がけている》は8割強(82.9%)となっている。一方、「あまり心がけていない」(6.4%)と「心がけていない」(1.4%)を合わせた《心がけていない》は1割近く(7.8%)となっている。

(図8-17-1)

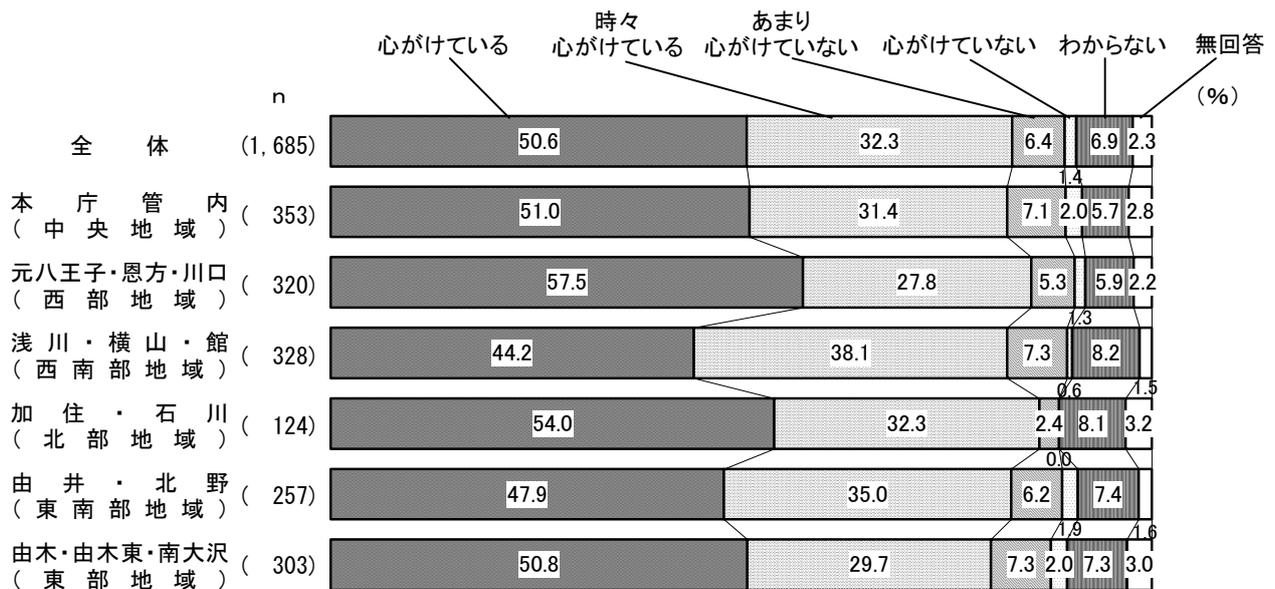
図8-17-2 障害のある方への配慮—性別・年齢別



性別にみると、《心がけている》は女性が6.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《心がけている》は50~59歳（88.7%）と40~49歳（86.9%）で9割近くと高くなっている。（図8-17-2）

図8-17-3 障害のある方への配慮—居住地域別



居住地域別にみると、《心がけている》は加住・石川（北部地域）で9割近く（86.3%）と高くなっている。（図8-17-3）

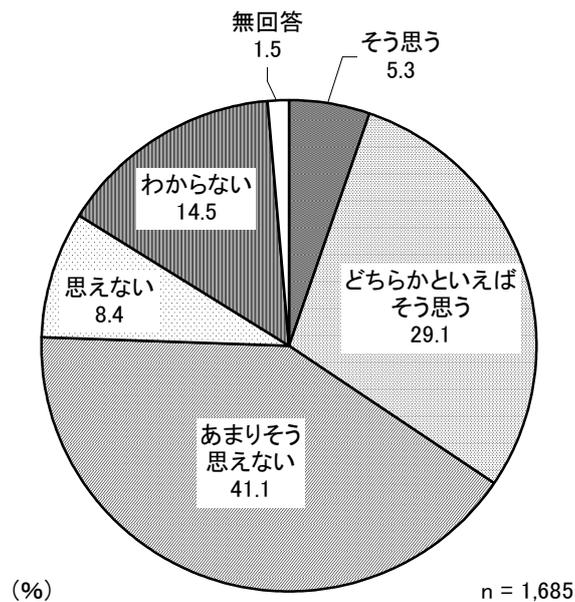
8-18 誰もが安全で快適に暮らせるまちになっていると思うか

◇《思えない》が5割弱

問39 あなたは、市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思いますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。

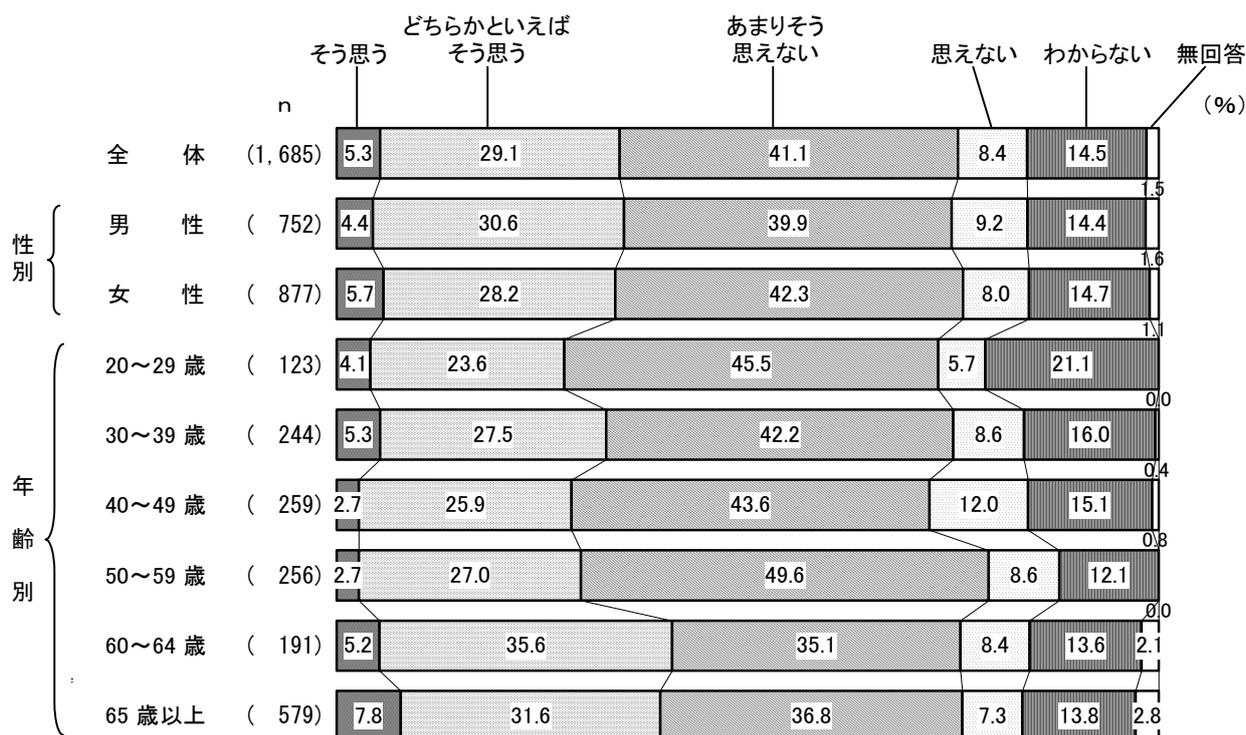
(○は1つだけ)

図8-18-1



市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思うかを聞いたところ、「あまりそう思えない」が4割強（41.1%）と最も高く、これに「思えない」（8.4%）を合わせた《思えない》は5割弱（49.5%）となっている。一方、「どちらかといえばそう思う」（29.1%）と「そう思う」（5.3%）を合わせた《そう思う》は3割台半ば（34.4%）となっている。（図8-18-1）

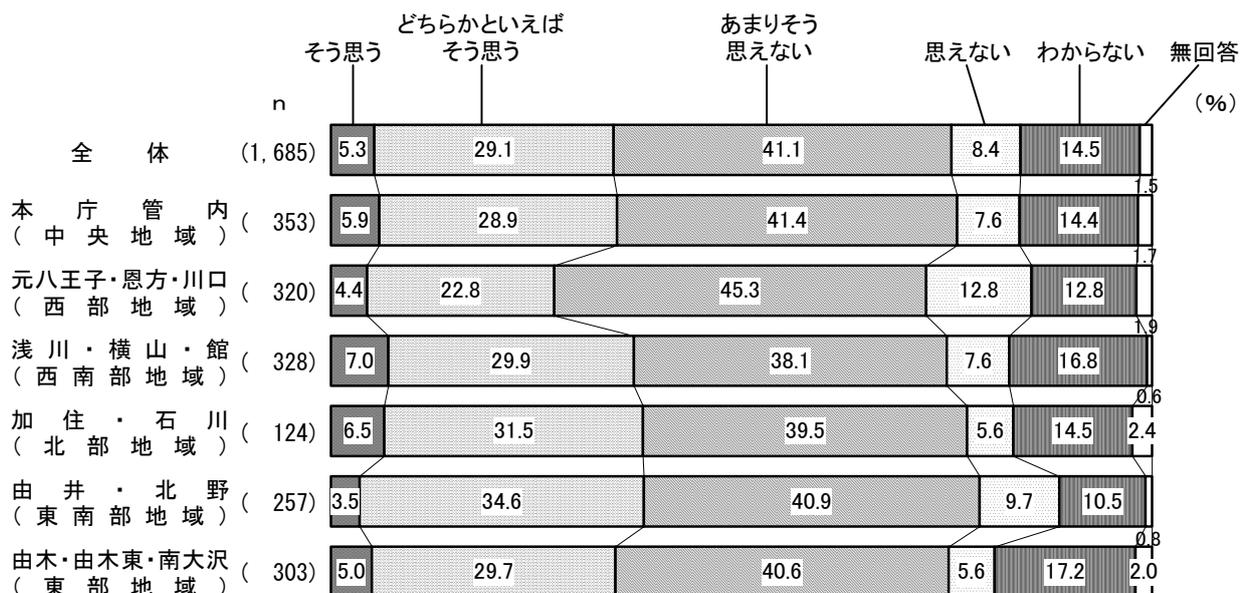
図8-18-2 誰もが安全で快適に暮らせるまちになっていると思うかー性別・年齢別



性別にみると、大きな差はない。

年齢別にみると、《そう思う》は60~64歳で約4割（40.8%）と高くなっている。一方、《思えない》は50~59歳で6割近く（58.2%）と高くなっている。（図8-18-2）

図8-18-3 誰もが安全で快適に暮らせるまちになっていると思うかー居住地域別



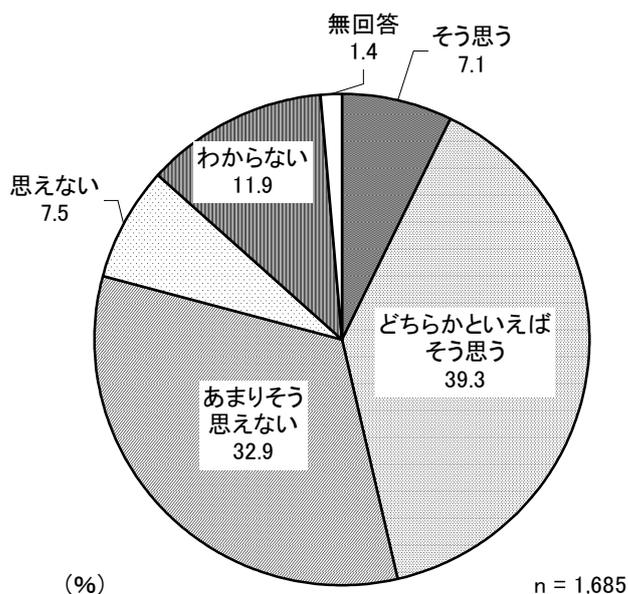
居住地域別にみると、《思えない》は元八王子・恩方・川口（西部地域）で6割近く（58.1%）と高くなっている。（図8-18-3）

8-19 市は美観が保持されたまちだと思うか

◇ 《そう思う》が5割近く

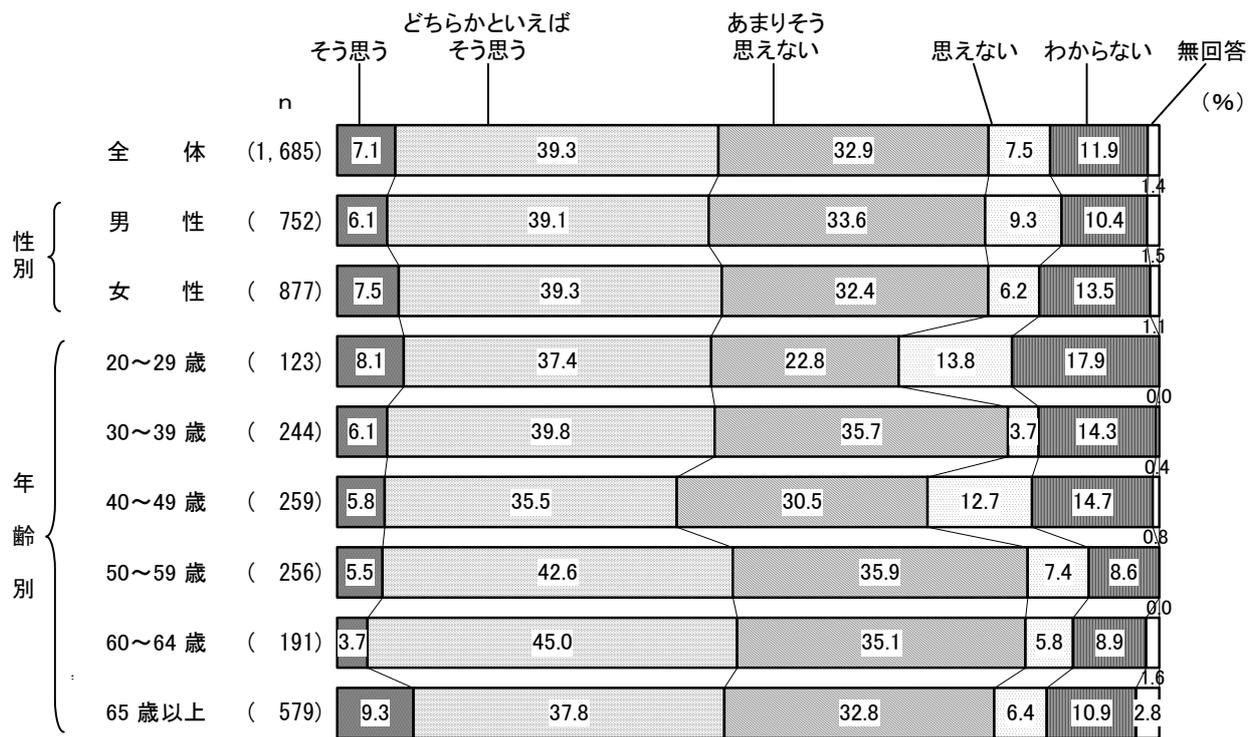
問40 本市は、都市の美観が保持されているまちであると思いますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

図8-19-1



八王子市は都市の美観が保持されているまちであると思うかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が4割弱（39.3%）で最も高く、これに「そう思う」（7.1%）を合わせた《そう思う》は5割近く（46.4%）となっている。一方、「あまりそう思えない」（32.9%）と「思えない」（7.5%）を合わせた《思えない》は約4割（40.4%）となっている。（図8-19-1）

図 8-19-2 市は美観が保持されたまちだと思うかー性別・年齢別

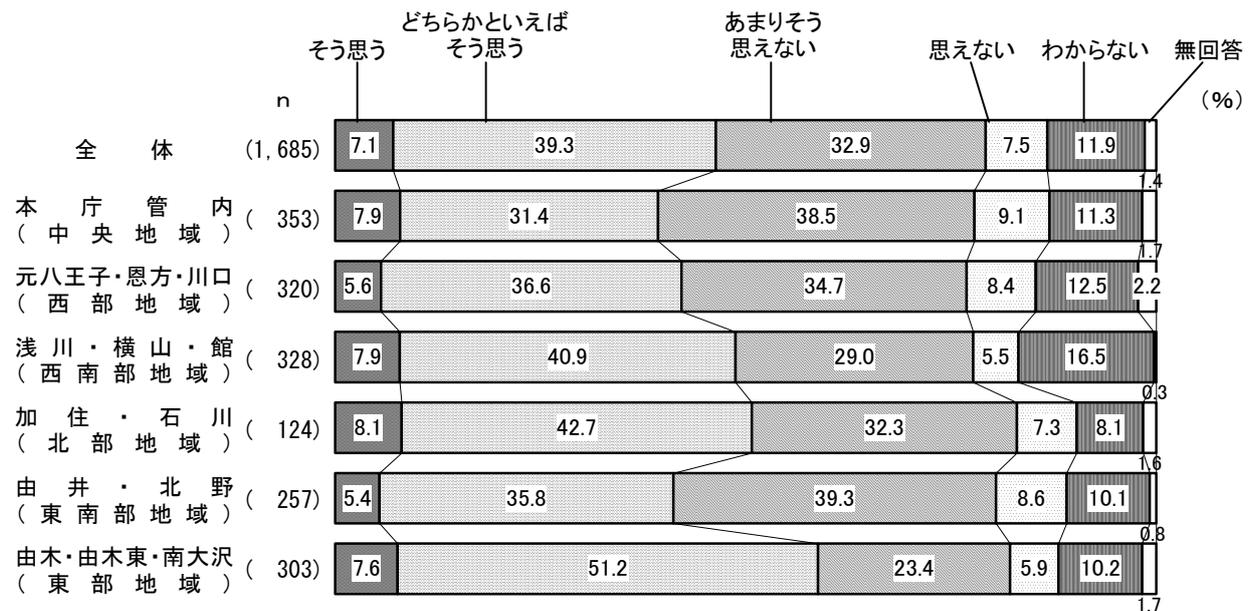


性別にみると、《思えない》は男性が4.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《思えない》は50~59歳で4割強（43.3%）と高くなっている。

(図 8-19-2)

図 8-19-3 市は美観が保持されたまちだと思うかー居住地地域別



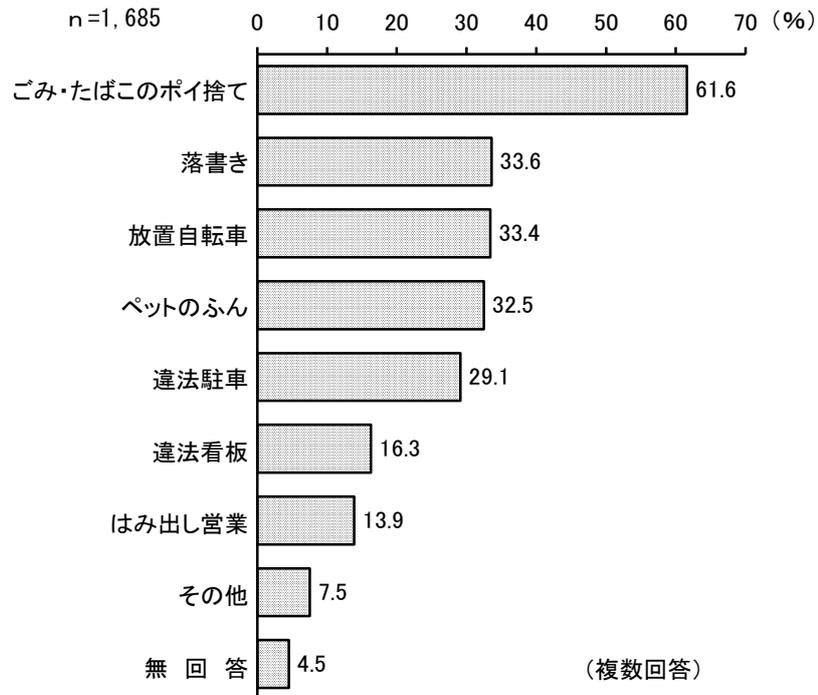
居住地地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）で6割近く（58.8%）と高くなっている。(図 8-19-3)

8-20 都市の美観が損なわれる原因

◇「ごみ・たばこのポイ捨て」が6割強

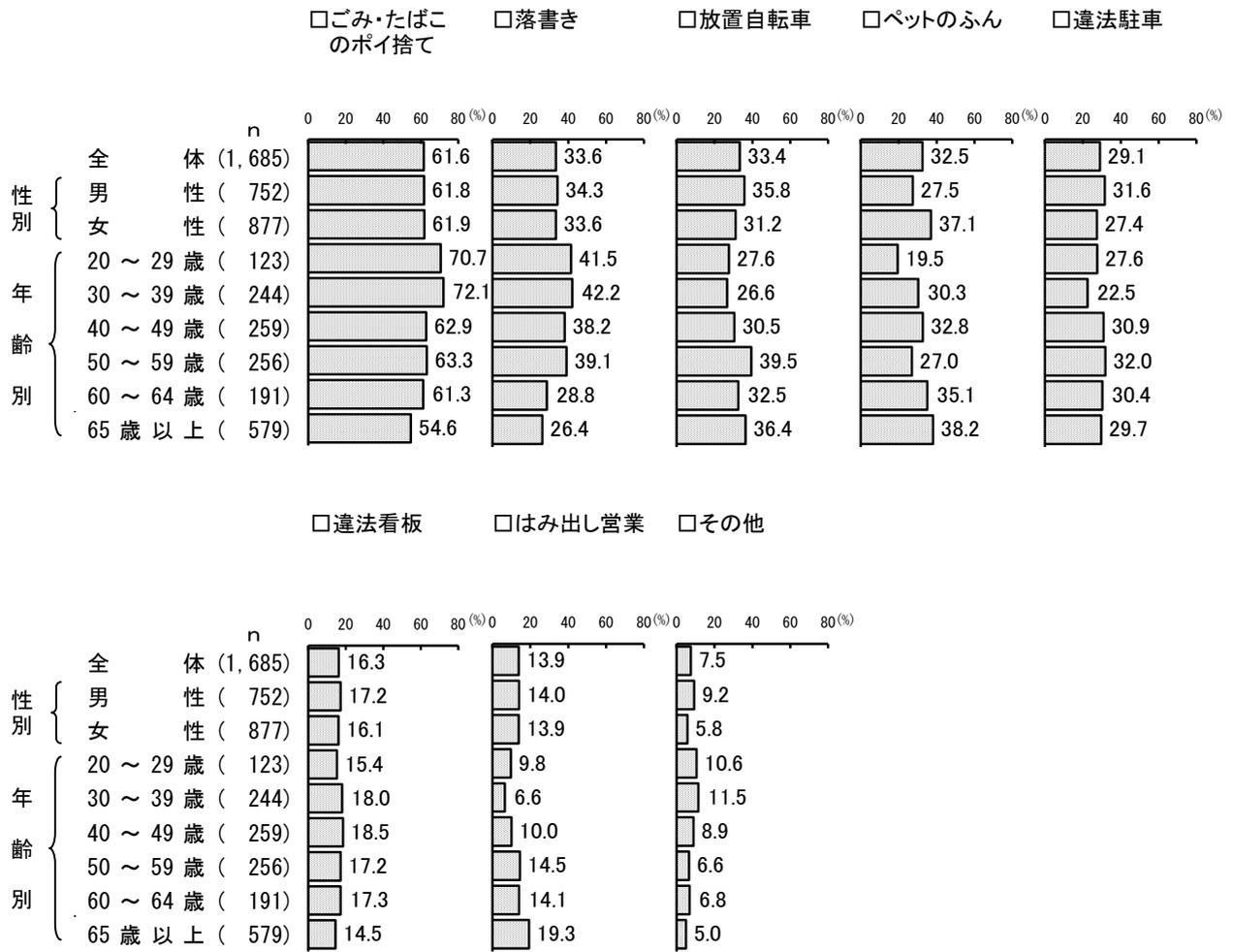
問41 都市の美観が損なわれる主な原因は、次のどれだと思いますか。(○は3つまで)

図8-20-1



都市の美観が損なわれる主な原因を聞いたところ、「ごみ・たばこのポイ捨て」が6割強(61.6%)と最も高くなっている。次いで「落書き」(33.6%)、「放置自転車」(33.4%)、「ペットのふん」(32.5%)、「違法駐車」(29.1%)と続いている。(図8-20-1)

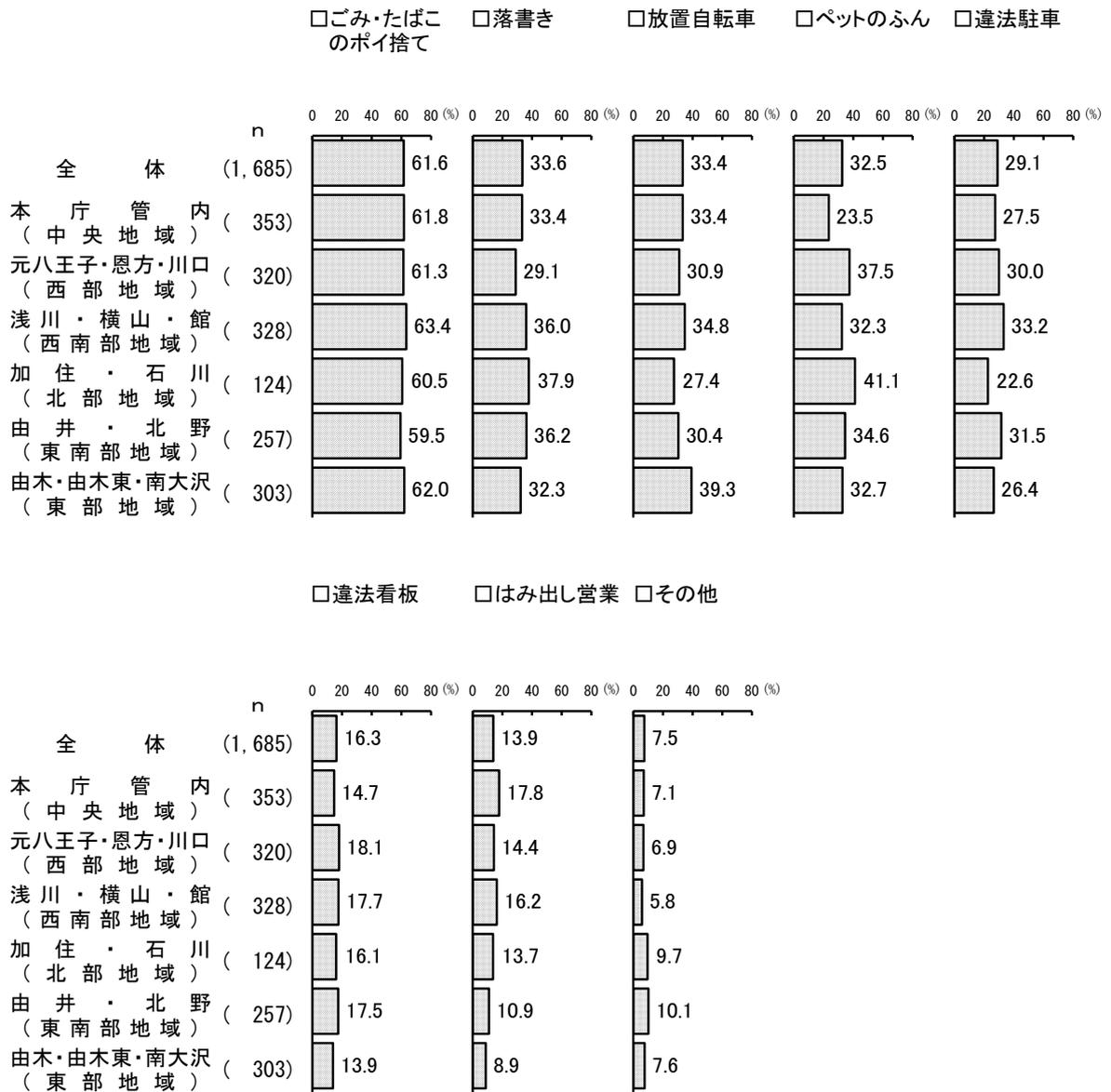
図8-20-2 都市の美観が損なわれる原因—性別・年齢別



性別にみると、「ペットのふん」は女性が9.6ポイント高くなっている。一方、「放置自転車」は男性が4.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「ごみ・たばこのポイ捨て」は30～39歳で7割強（72.1%）と高く、20～29歳でも約7割（70.7%）と高くなっている。また、「ペットのふん」は65歳以上で4割近く（38.2%）と高くなっている。（図8-20-2）

図8-20-3 都市の美観が損なわれる原因—居住地域別



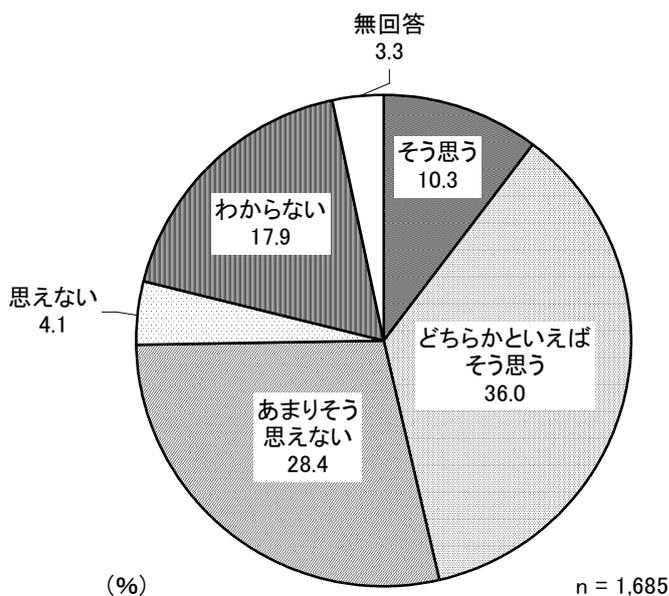
居住地域別にみると、「ペットのふん」は加住・石川（東南部地域）で4割強（41.1%）と高くなっている。また、「放置自転車」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で4割弱（39.3%）と高くなっている。（図8-20-3）

8-21 市の自然、歴史、文化が景観に活かされていると思うか

◇ 《そう思う》が5割近く

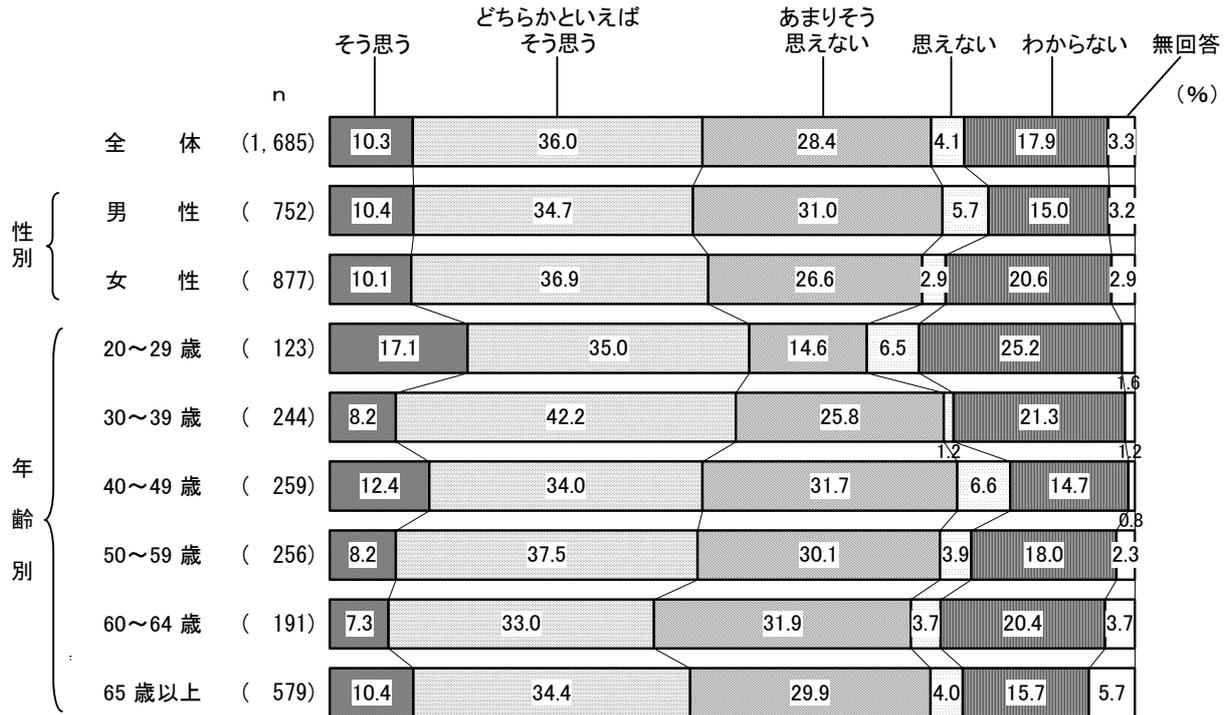
問42 あなたは、市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に活かされていると思いますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

図8-21-1



市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に活かされていると思うかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が4割近く(36.0%)と最も高く、これに「そう思う」(10.3%)を合わせた《そう思う》は5割近く(46.3%)となっている。一方、「あまりそう思えない」(28.4%)と「思えない」(4.1%)を合わせた《思えない》は3割強(32.5%)となっている。(図8-21-1)

図8-21-2 市の自然、歴史、文化が景観に活かされていると思うか—性別・年齢別

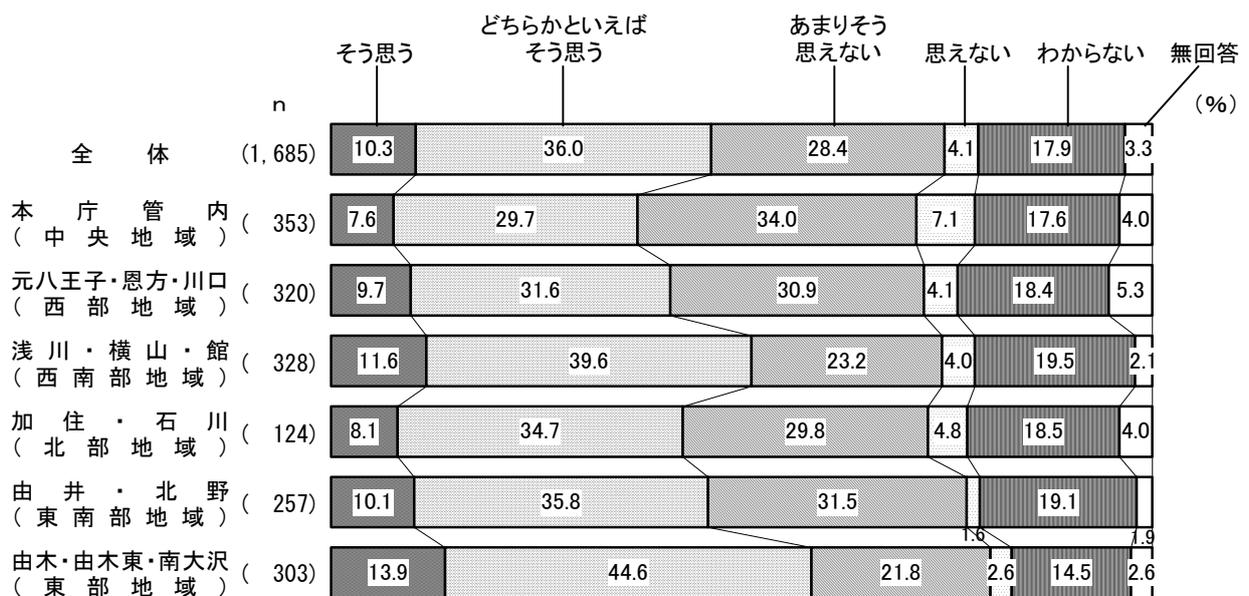


性別にみると、《思えない》は男性が7.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は20~29歳で5割強（52.1%）と高くなっている。

(図8-21-2)

図8-21-3 市の自然、歴史、文化が景観に活かされていると思うか—居住地域別



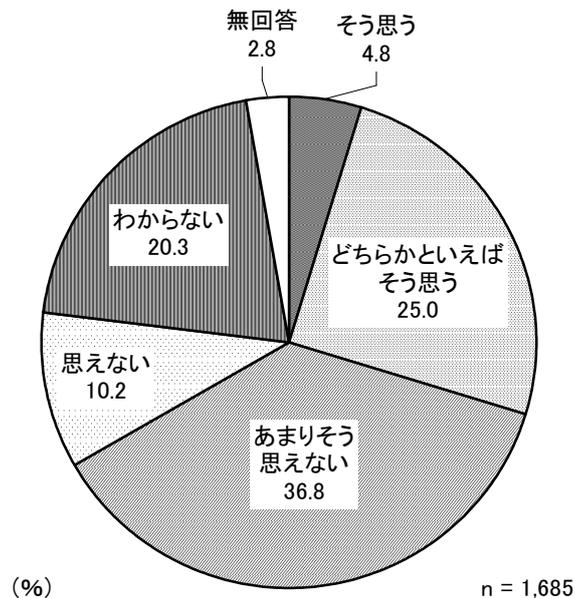
居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）で6割近く（58.5%）と高くなっている。一方、《思えない》は本庁管内（中央地域）で4割強（41.1%）と高くなっている。(図8-21-3)

8-22 市内の交通渋滞が緩和されていると思うか

◇ 《思えない》が5割近く

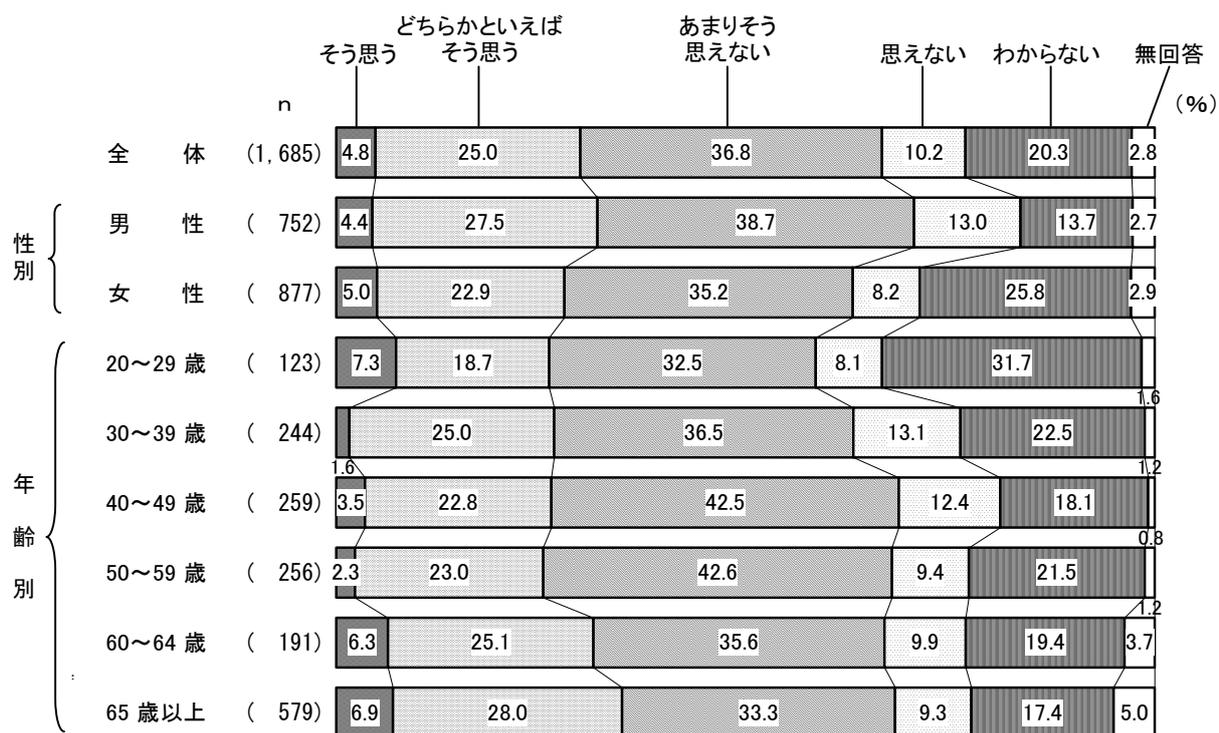
問43 あなたは、市内の交通渋滞が緩和されていると思いますか。(○は1つだけ)

図8-22-1



市内の交通渋滞が緩和されていると思うかを聞いたところ、「あまりそう思えない」が4割近く（36.8%）と最も高く、これに「思えない」（10.2%）を合わせた《思えない》は5割近く（47.0%）となっている。一方、「どちらかといえばそう思う」（25.0%）と「そう思う」（4.8%）を合わせた《そう思う》は3割弱（29.8%）となっている。（図8-22-1）

図 8-22-2 市内の交通渋滞が緩和されていると思うかー性別・年齢別

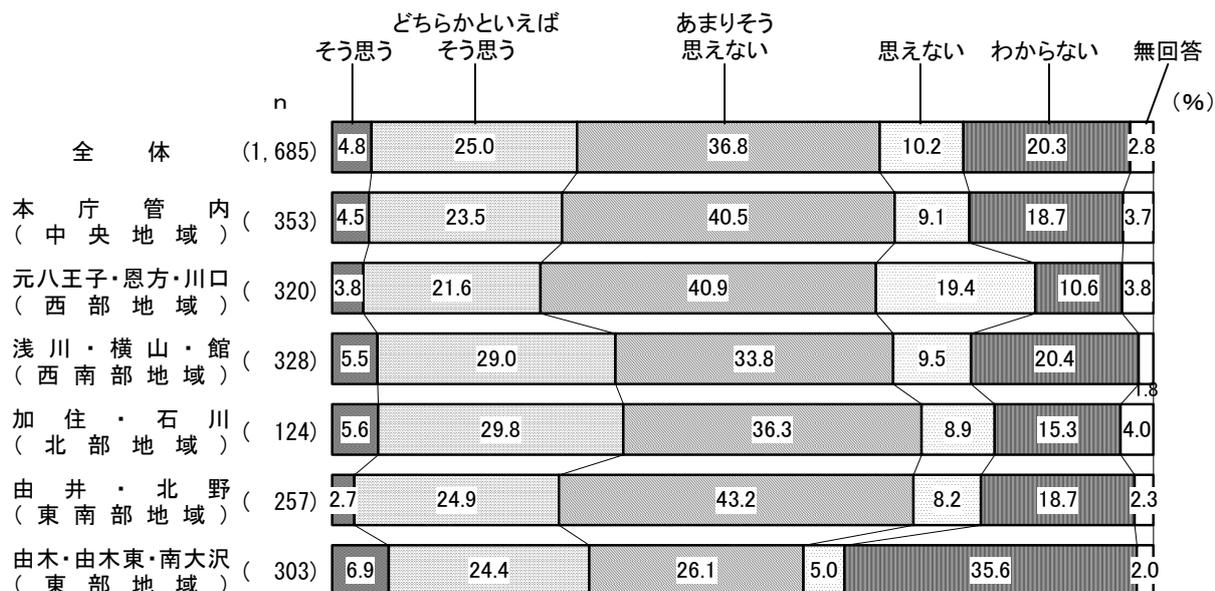


性別にみると、《思えない》は男性が8.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は65歳以上で3割台半ば（34.9%）と高くなっている。

(図 8-22-2)

図 8-22-3 市内の交通渋滞が緩和されていると思うかー居住地域別



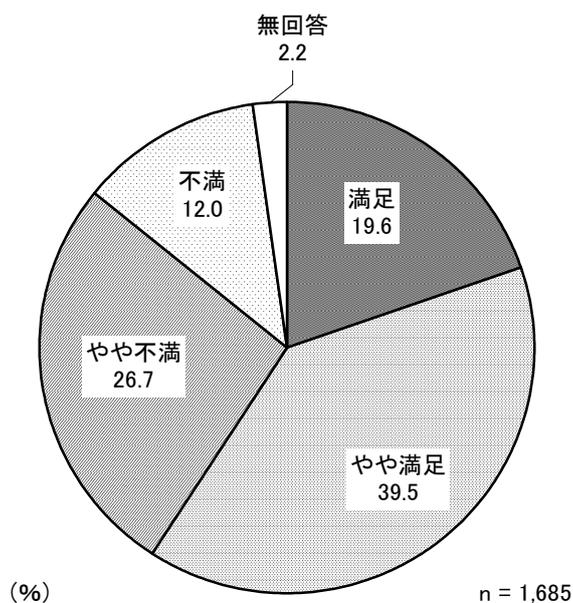
居住地域別にみると、《思えない》は元八王子・恩方・川口（西部地域）で約6割（60.3%）と高くなっている。(図 8-22-3)

8-23 公共交通機関の満足度

◇《満足》が6割弱

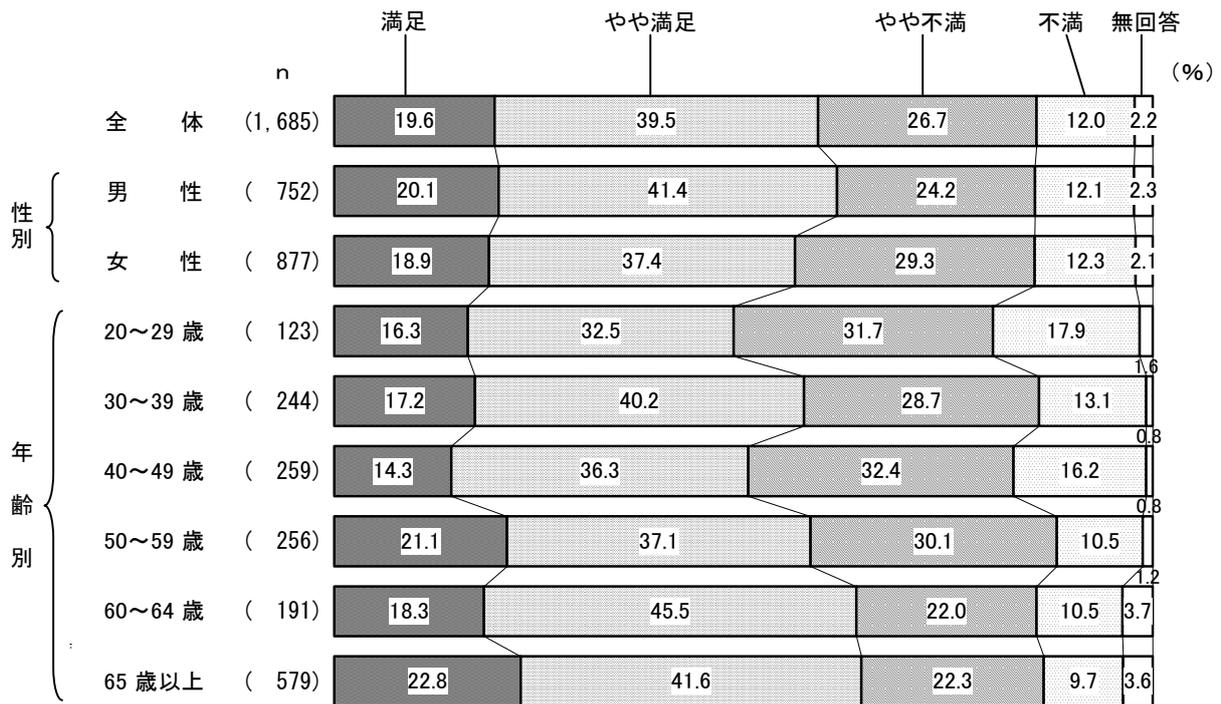
問44 あなたは、あなたのお住まいの地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足していますか。（○は1つだけ）

図8-23-1



公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足度しているかを聞いたところ、「やや満足」が4割弱（39.5%）と最も高く、これに「満足」（19.6%）を合わせた《満足》は6割弱（59.1%）となっている。一方、「やや不満」（26.7%）と「不満」（12.0%）を合わせた《不満》は4割近く（38.7%）となっている。（図8-23-1）

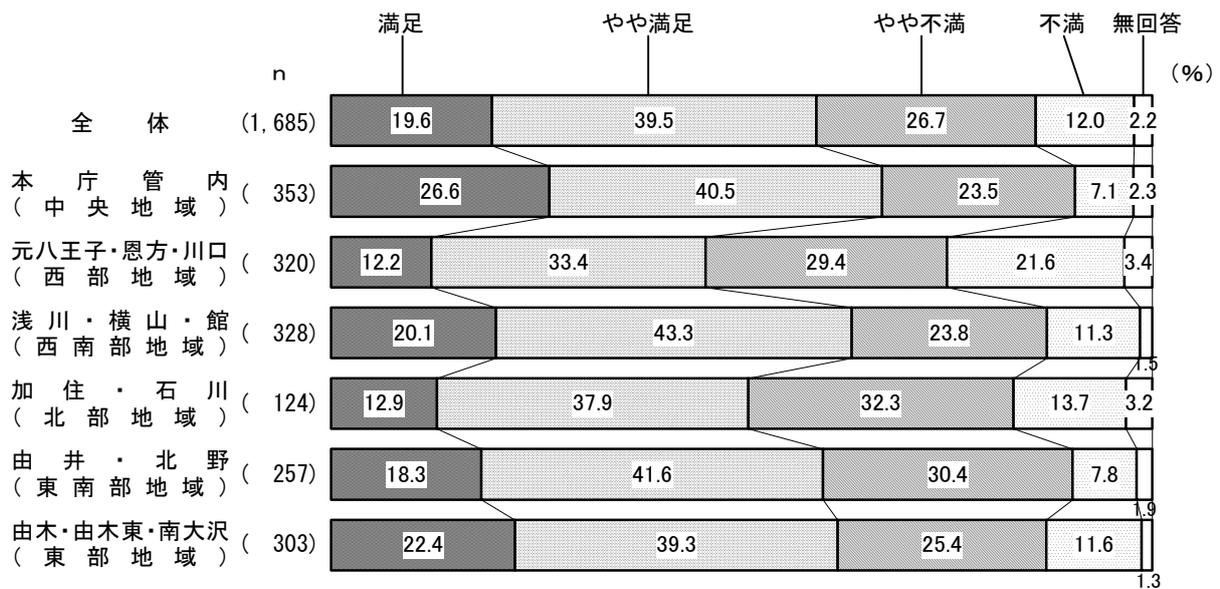
図8-23-2 公共交通機関の満足度－性別・年齢別



性別にみると、《不満》は女性が5.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《満足》は65歳以上で6割台半ば（64.4%）と高く、60～64歳でも6割強（63.8%）と高くなっている。（図8-23-2）

図8-23-3 公共交通機関の満足度－居住地域別



居住地域別にみると、《満足》は本庁管内（中央地域）で7割近く（67.1%）と高くなっている。一方、《不満》は元八王子・恩方・川口（西部地域）で5割強（51.0%）と高くなっている。

（図8-23-3）

8-24 市内の産業活動に対する意識

◇《そう思う》が3割台半ば

問45 あなたは、商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思いますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。

(○は1つだけ)

※市の産業活動活性化の取組とは・・・

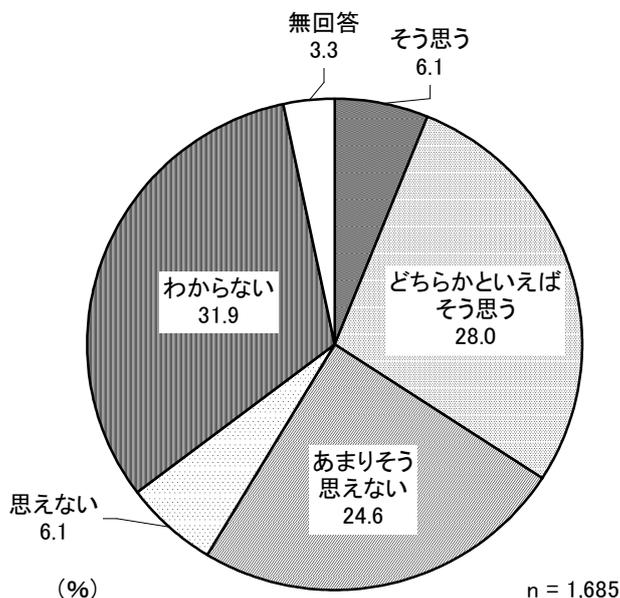
商業・・・中心市街地でのイベントの開催。スマートフォンを活用したまちなか案内や商店の魅力の発信。空き店舗への出店支援。

観光業・・・JR八王子駅北口及び南口や京王線高尾山口駅前へインフォメーションセンターを開設。八王子車人形・西川古柳氏などの観光大使による魅力の発信。

農業・・・道の駅「八王子滝山」等の直売所による地産地消の推進。八王子農業塾や援農ボランティア制度等による農業の担い手。

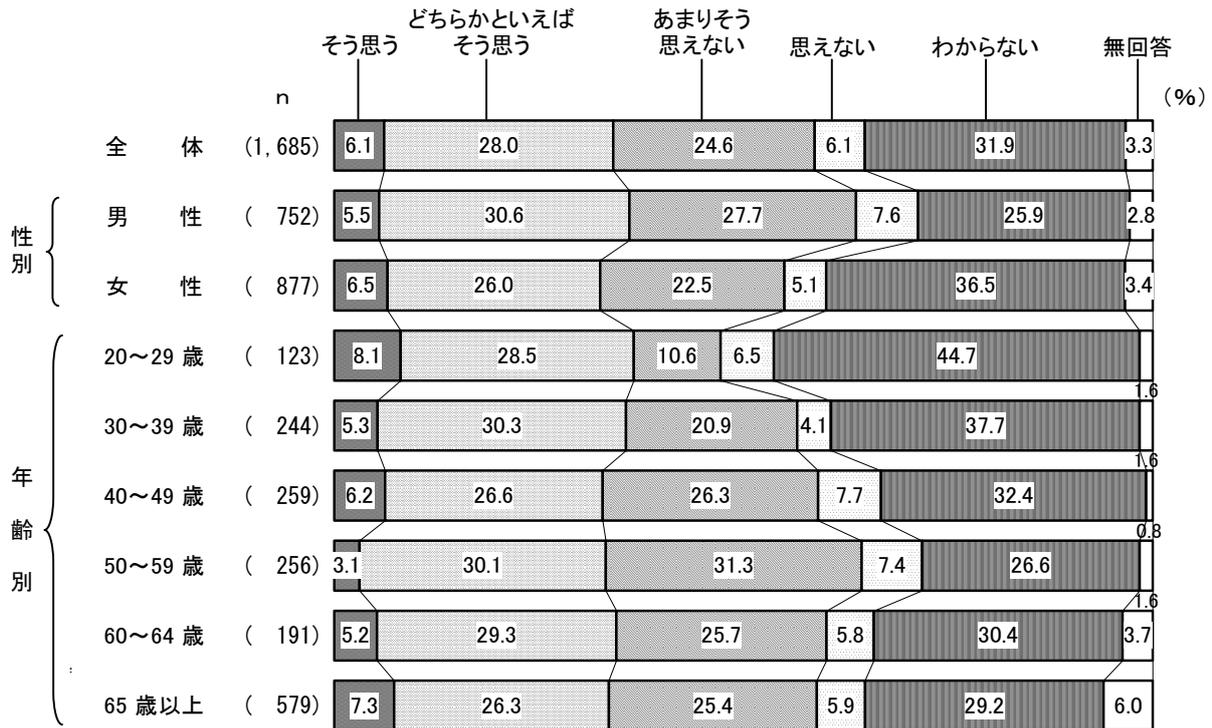
工業・・・いきいき企業支援条例に基づく工場等の企業誘致（これまで約3,200人の新たな雇用創出と約13億円（24年度分）の税収増）。

図8-24-1



市内の産業活動が活発に行われていると思うかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が3割近く（28.0%）と高く、これに「そう思う」（6.1%）を合わせた《そう思う》は3割台半ば（34.1%）となっている。一方、「あまりそう思えない」（24.6%）と「思えない」（6.1%）を合わせた《思えない》は約3割（30.7%）となっている。（図8-24-1）

図8-24-2 市内の産業活動に対する意識－性別・年齢別

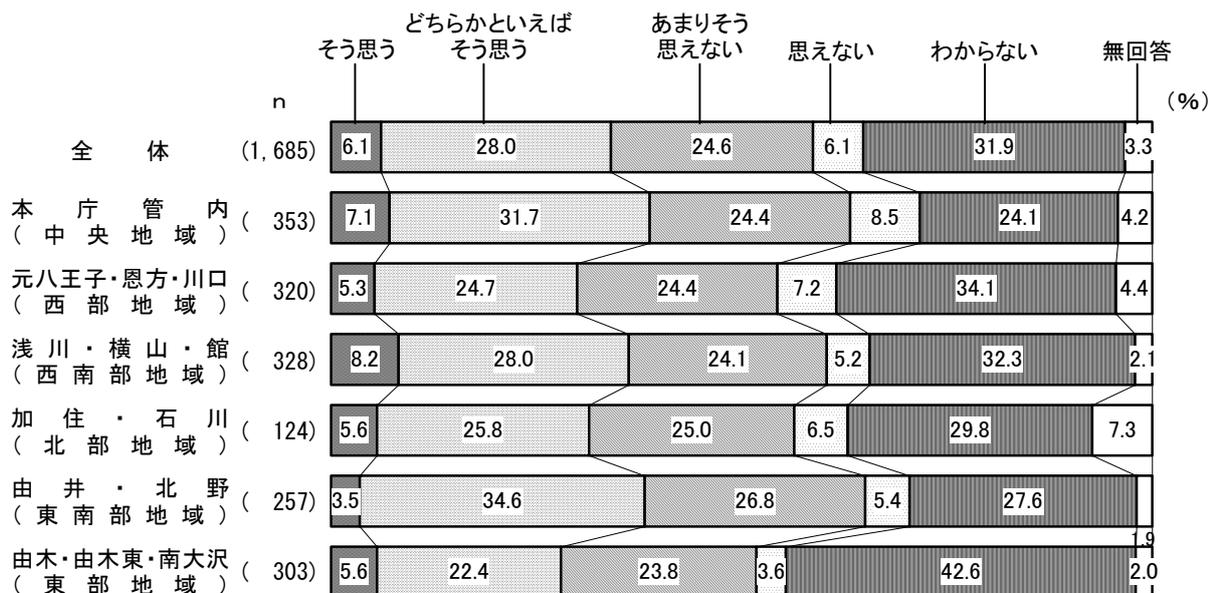


性別にみると、「思えない」は男性が7.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「思えない」は50～59歳で4割近く（38.7%）と高くなっている。

(図8-24-2)

図8-24-3 市内の産業活動に対する意識－居住地域別



居住地域別にみると、「そう思う」は本庁管内（中央地域）（38.8%）と由井・北野（東南部地域）（38.1%）と浅川・横山・館（西南部地域）（36.2%）で4割近くと高くなっている。

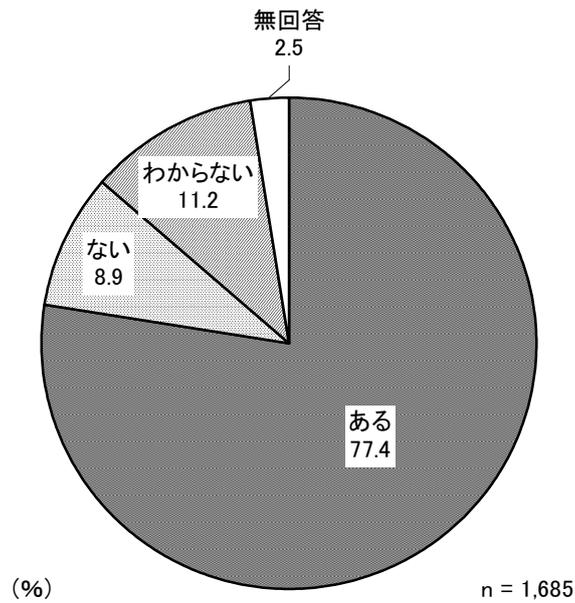
(図8-24-3)

8-25 市内産農産物の購入経験

◇「ある」が8割近く

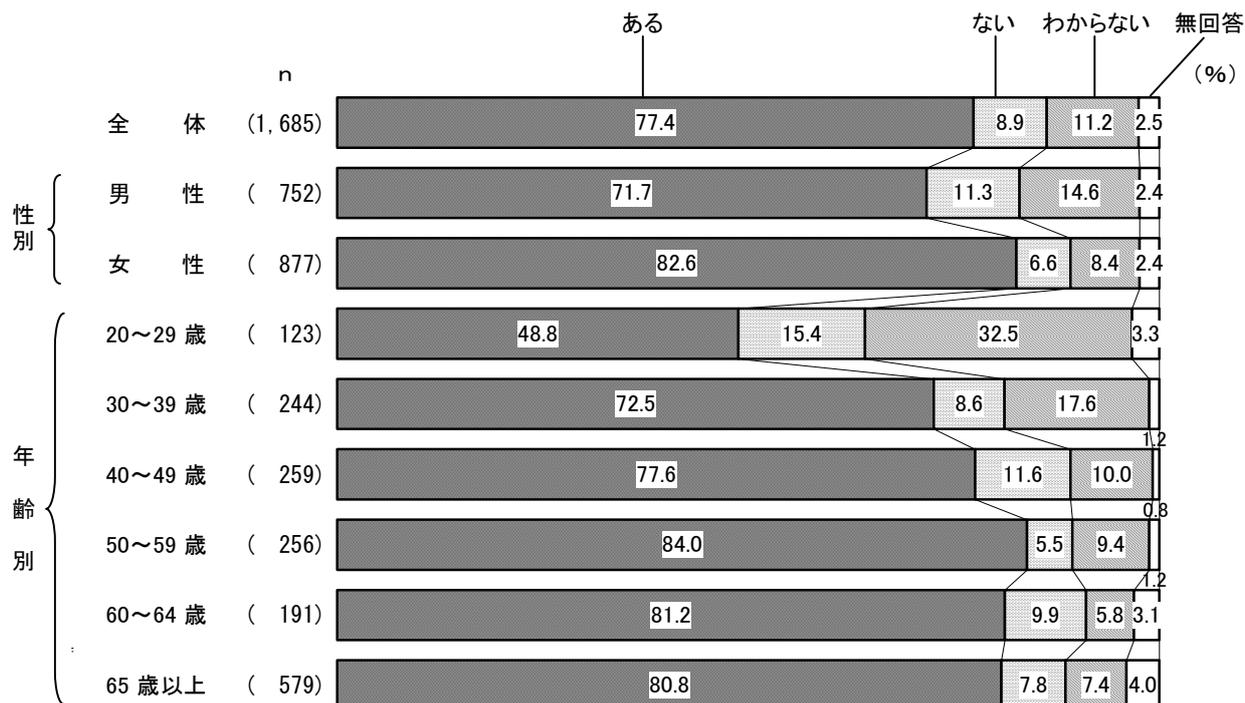
問46 あなたは、市内産の農産物（野菜・果物・花など）を購入（消費）したことがありますか。（○は1つだけ）

図8-25-1



市内産の農産物（野菜・果物・花など）を購入（消費）したことがあるかを聞いたところ、「ある」が8割近く（77.4%）、「ない」が1割近く（8.9%）となっている。（図8-25-1）

図 8-25-2 市内産農産物の購入経験—性別・年齢別

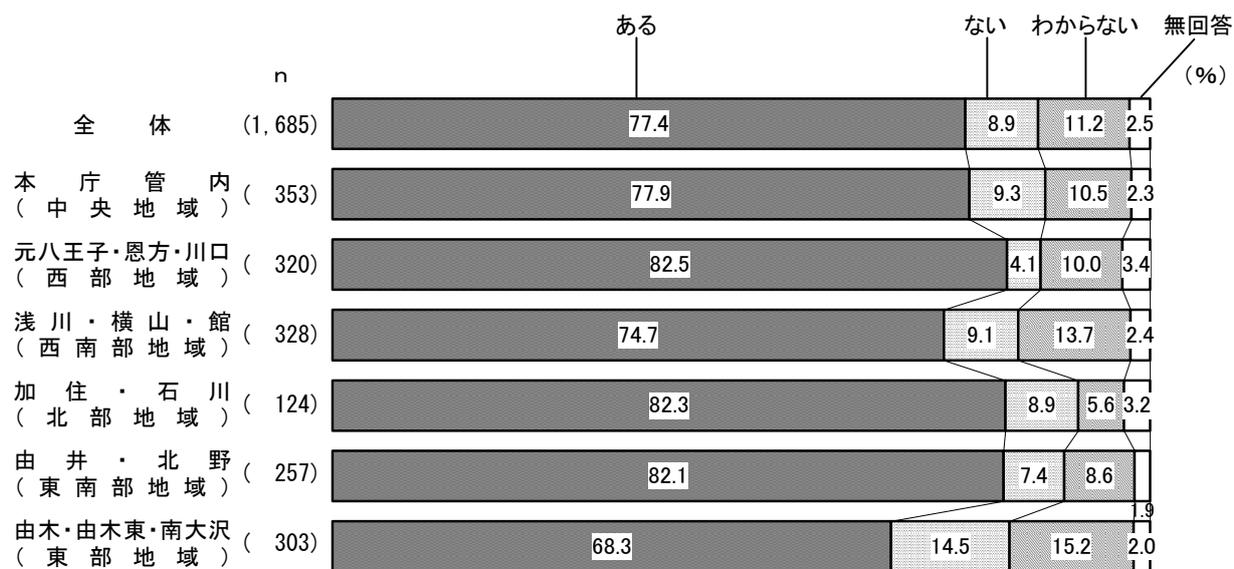


性別にみると、「ある」は女性が10.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「ある」は50~59歳で8割台半ば（84.0%）と高くなっている。

(図 8-25-2)

図 8-25-3 市内産農産物の購入経験—居住地域別



居住地域別にみると、「ある」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（82.5%）、加住・石川（北部地域）（82.3%）、由井・北野（東南部地域）（82.1%）で8割強と高くなっている。

(図 8-25-3)

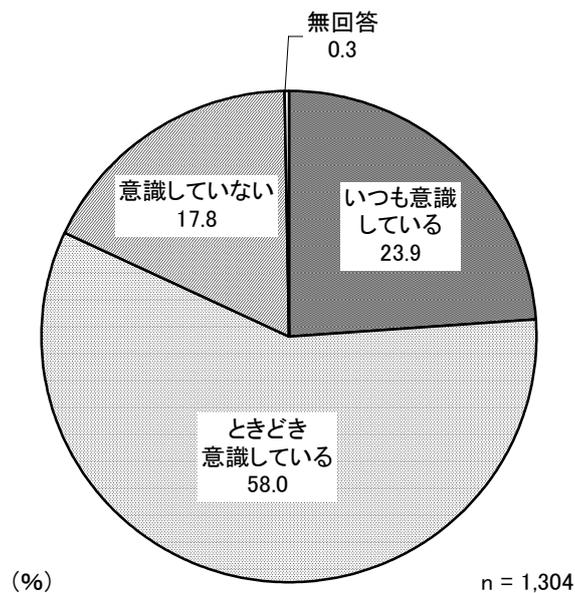
8-26 市内産農産物購入に対する意識

◇ 《意識している》が8割強

(問46で、「ある」とお答えの方に)

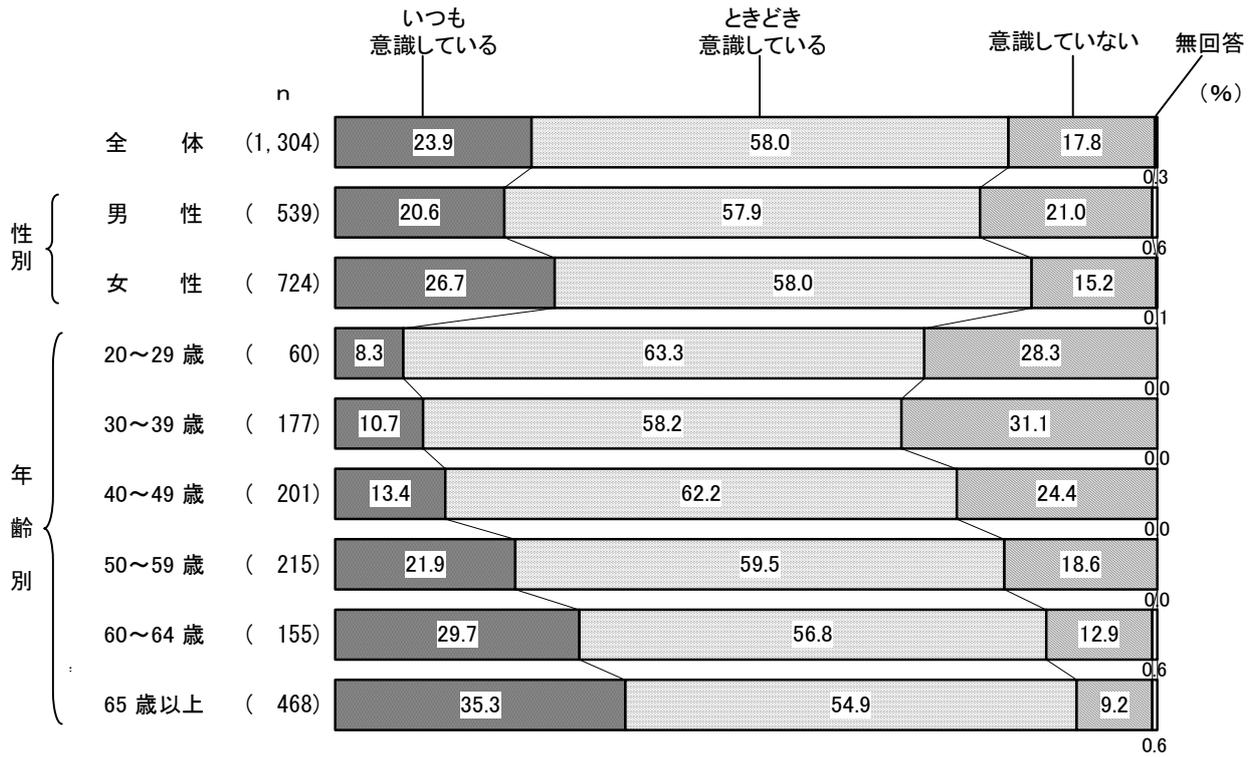
問46-1 あなたは、市内の農産物を意識して購入(消費)していますか。(○は1つだけ)

図8-26-1



市内の農産物を意識して購入(消費)しているかを聞いたところ、「ときどき意識している」が6割近く(58.0%)と最も高く、これに「いつも意識している」(23.9%)を合わせた《意識している》は8割強(81.9%)となっている。一方、「意識していない」は2割近く(17.8%)となっている。(図8-26-1)

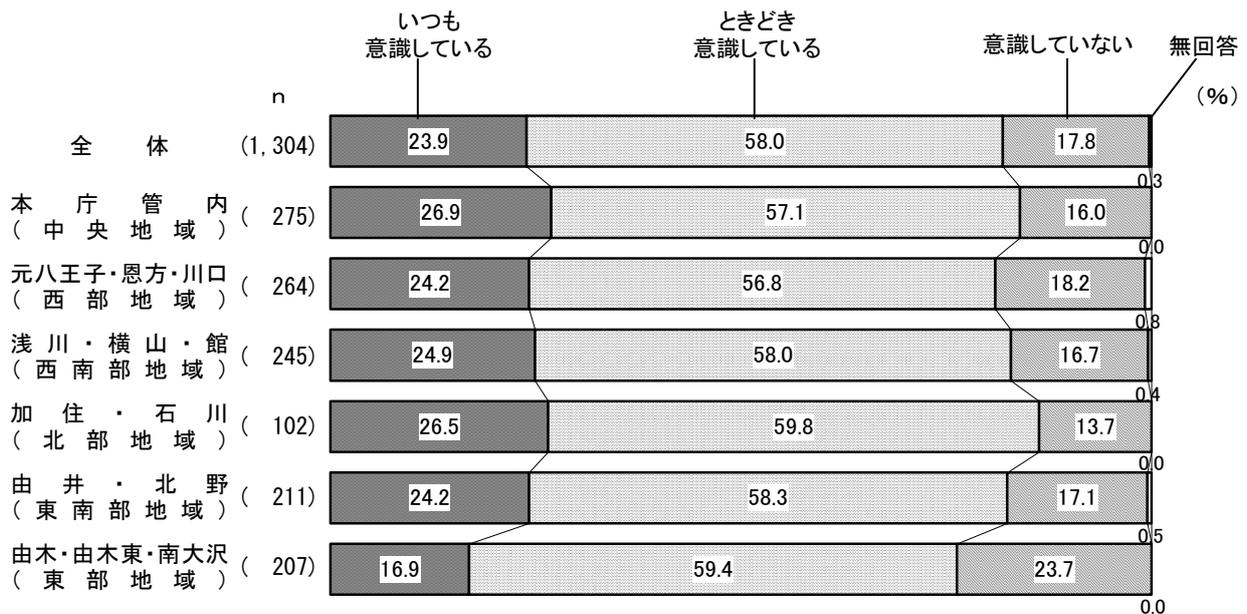
図 8-26-2 市内産農産物購入に対する意識—性別・年齢別



性別にみると、「意識している」は女性が6.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「意識している」はおおむね年代が上がるにつれて割合が高く、65歳以上で約9割(90.2%)と高くなっている。(図8-26-2)

図 8-26-3 市内産農産物購入に対する意識—居住地域別



居住地域別にみると、「意識していない」は由木・由木東・南大沢(東部地域)で2割強(23.7%)と高くなっている。(図8-26-3)

8-27 省エネ・省資源への配慮

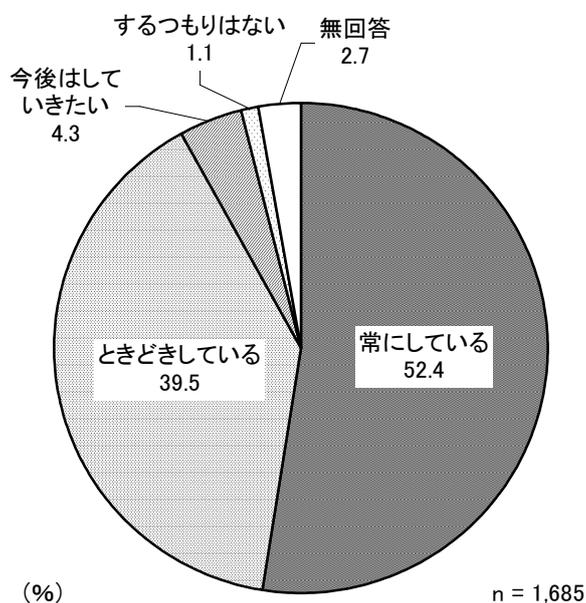
◇《配慮している》が9割強

問47 あなたは、ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしていますか。(○は1つだけ)

※ふだんの暮らしの中で地球環境のためにできる取組とは・・・

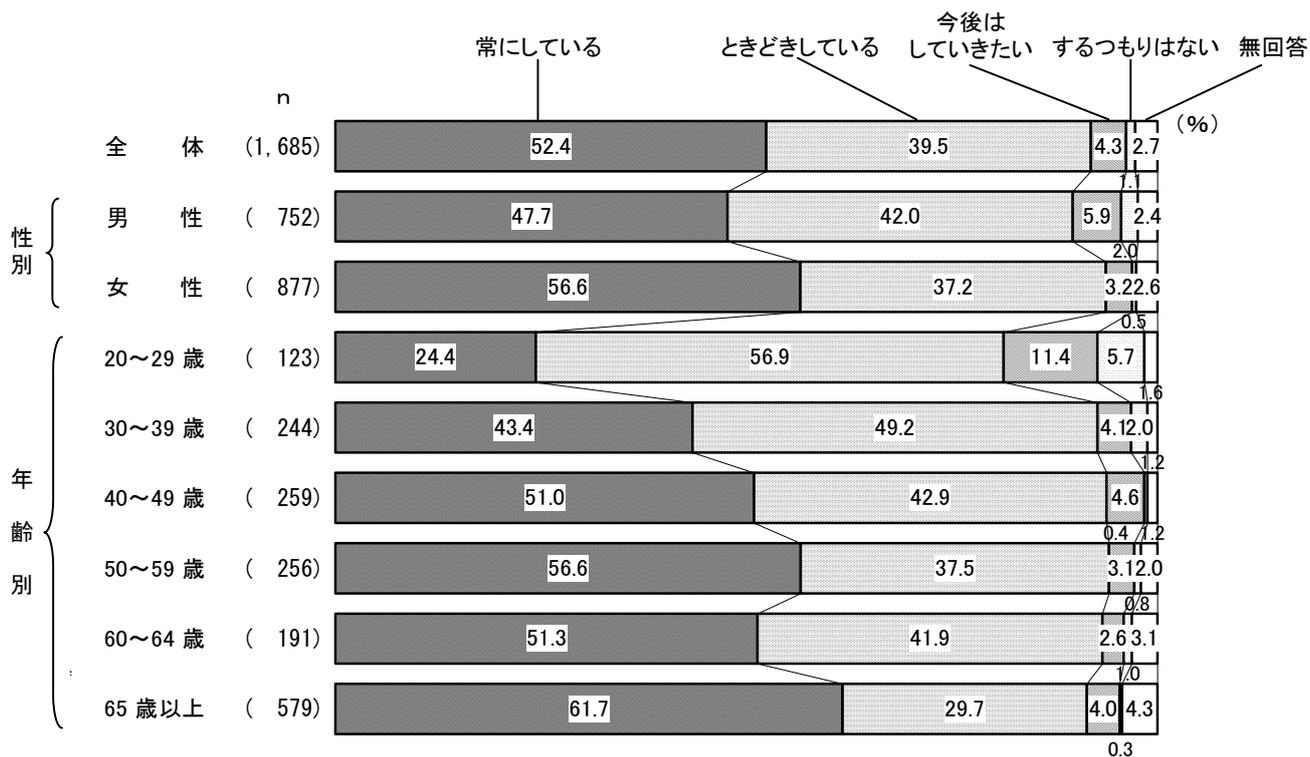
- 過度な冷暖房の使用を控える
- マイカーの使用を控える
- 電気をこまめに消す
- 省エネ製品を利用する
- 冷蔵庫の開閉に気を使う
- 買物用のバッグを持参して買い物に行く
- ごみと資源物を分別し、適正に排出する など

図8-27-1



省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしているかを聞いたところ、「常にしている」が5割強(52.4%)と最も高く、これに「ときどきしている」(39.5%)を合わせた《配慮している》は9割強(91.9%)となっている。また、「今後はしていきたい」(4.3%)と「するつもりはない」(1.1%)は1割未満となっている。(図8-27-1)

図8-27-2 省エネ・省資源への配慮—性別・年齢別

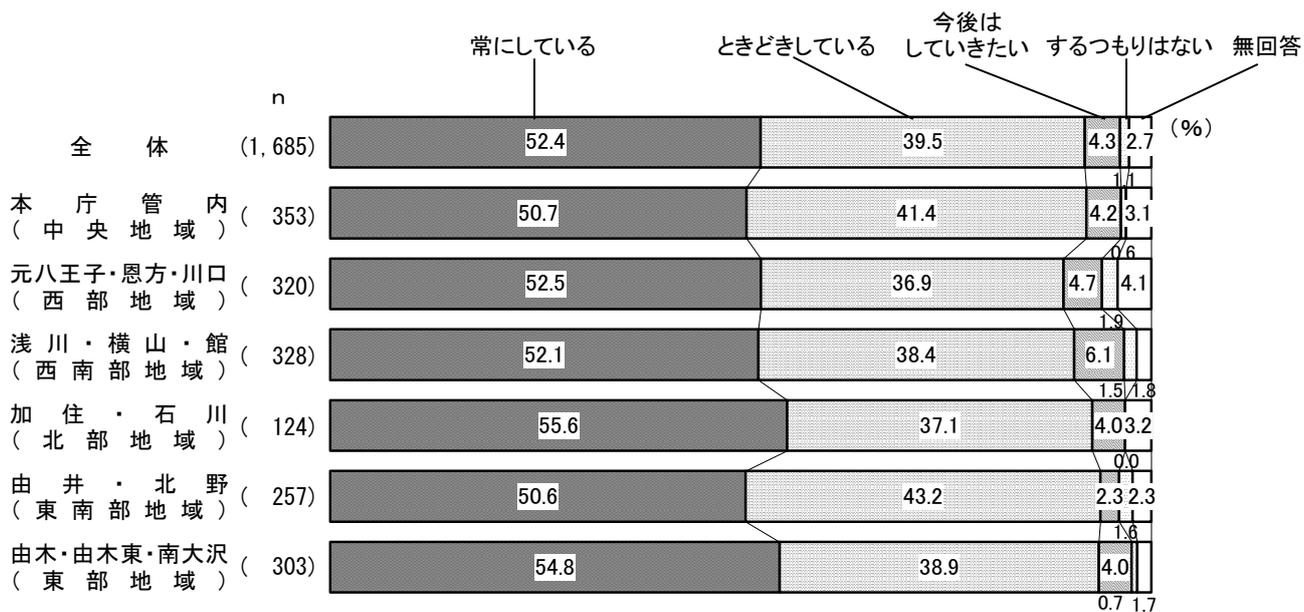


性別にみると、《配慮している》は女性が4.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《配慮している》は20~29歳を除くすべての年代で9割台と高くなっている。

(図8-27-2)

図8-27-3 省エネ・省資源への配慮—居住地域別

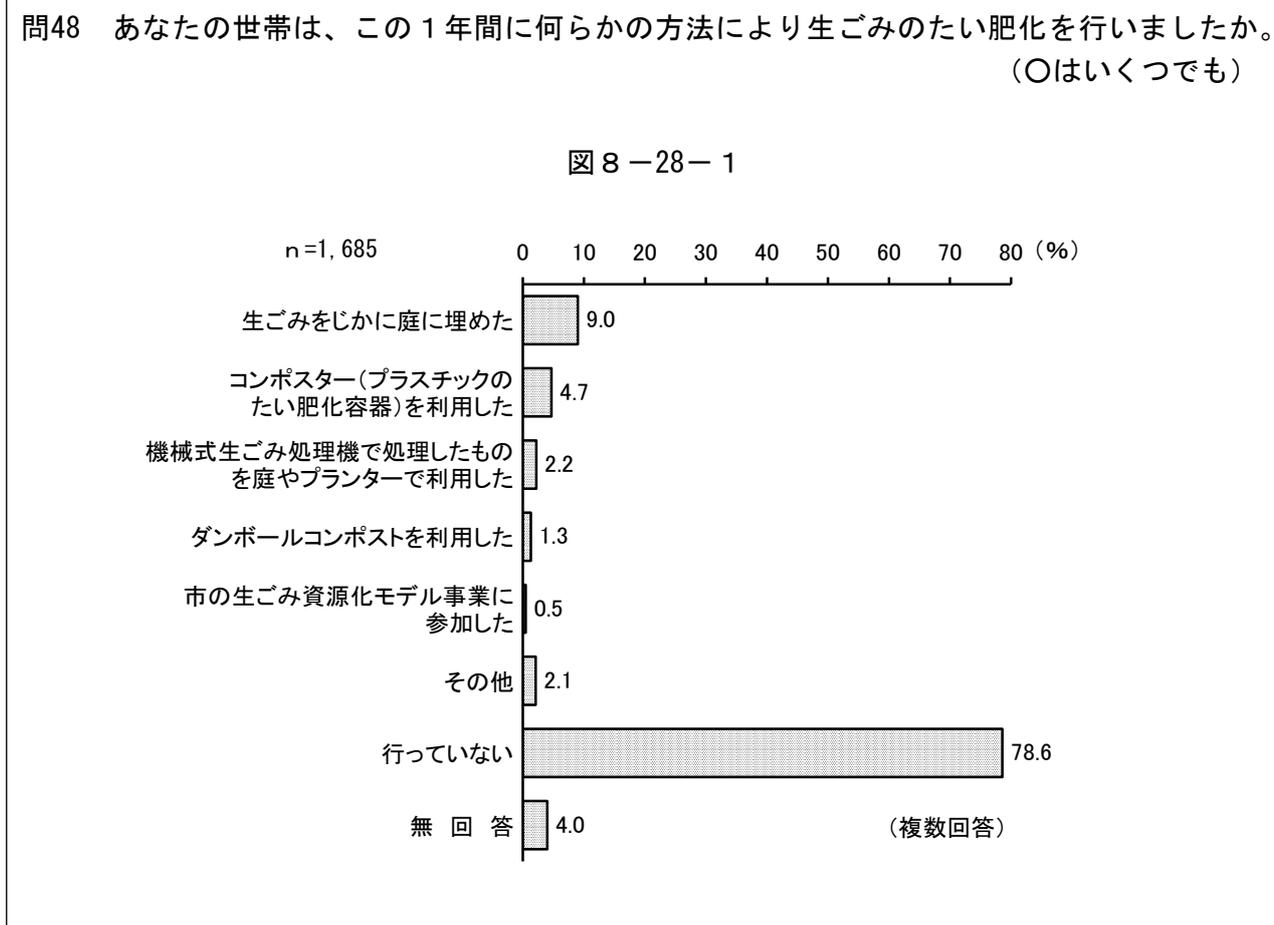


居住地域別にみると、《配慮している》はすべての地域で9割前後と高くなっている。

(図8-27-3)

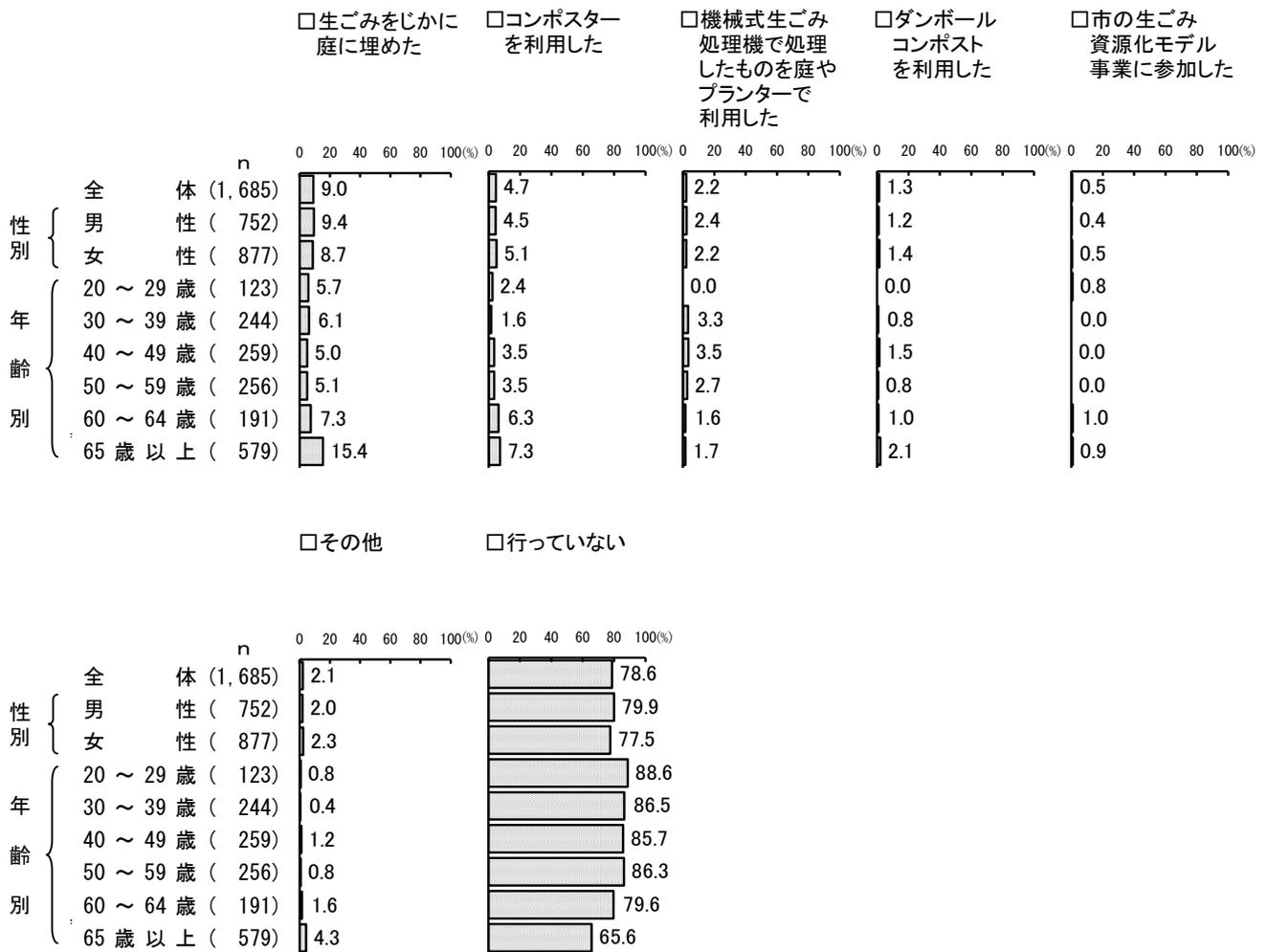
8-28 この1年間の生ごみのたい肥化の有無

◇「行っていない」が8割近く



この1年間に何らかの方法により生ごみのたい肥化を行ったかを聞いたところ、生ごみのたい肥化を行った中では「生ごみをじかに庭に埋めた」が1割弱(9.0%)、次いで「コンポスター(プラスチックのたい肥化容器)を利用した」(4.7%)、「機械式生ごみ処理機で処理したものを庭やプランターで利用した」(2.2%)、「ダンボールコンポストを利用した」(1.3%)、「市の生ごみ資源化モデル事業に参加した」(0.5%)と続いている。一方、「行っていない」は8割近く(78.6%)となっている。(図8-28-1)

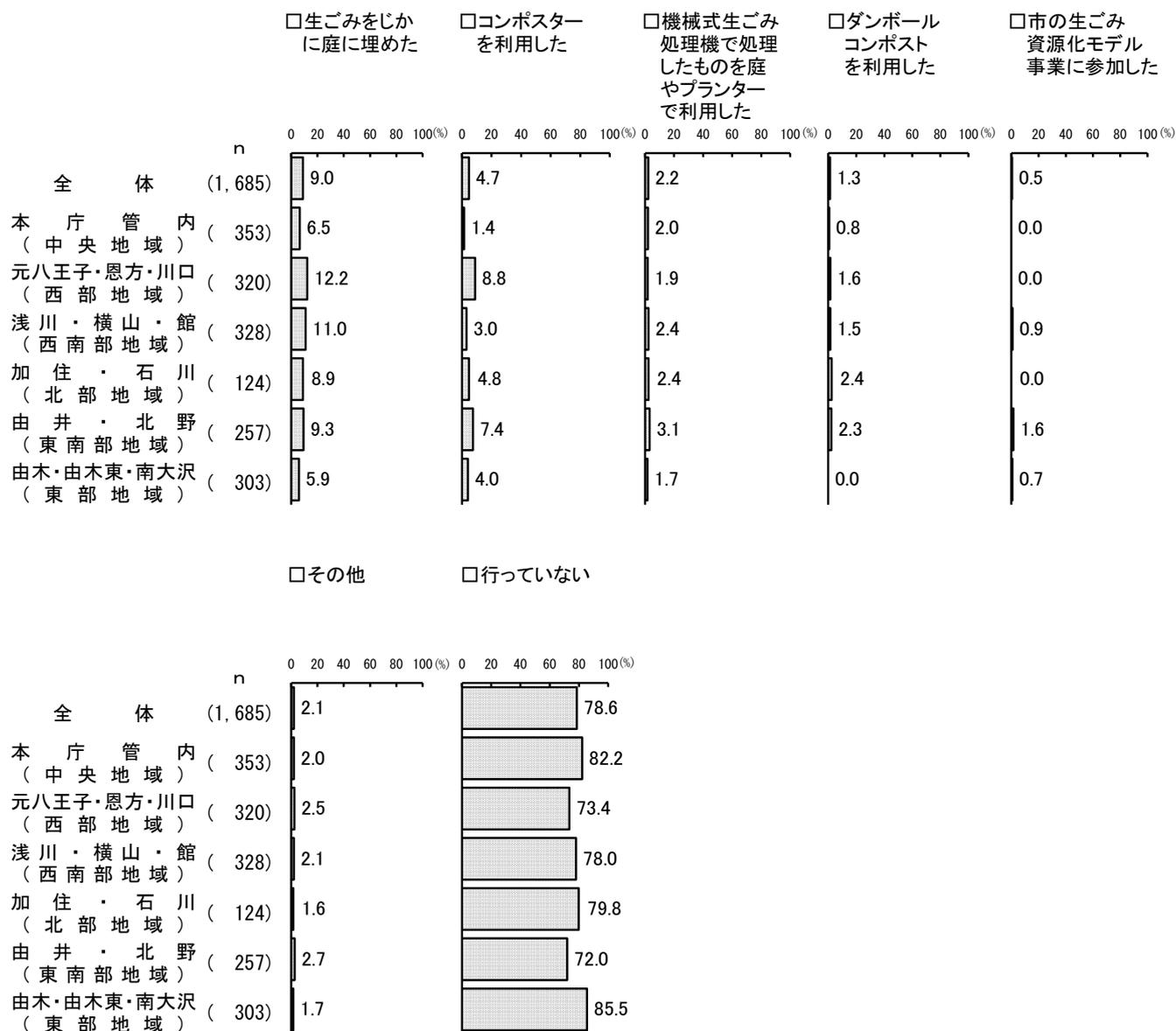
図 8-28-2 この1年間の生ごみのたい肥化の有無—性別・年齢別



性別にみると、「行っていない」は男性が2.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「生ごみをじかに庭に埋めた」は65歳以上で1割台半ば（15.4%）と高くなっている。（図8-28-2）

図 8-28-3 この1年間の生ごみのたい肥化の有無—居住地域別



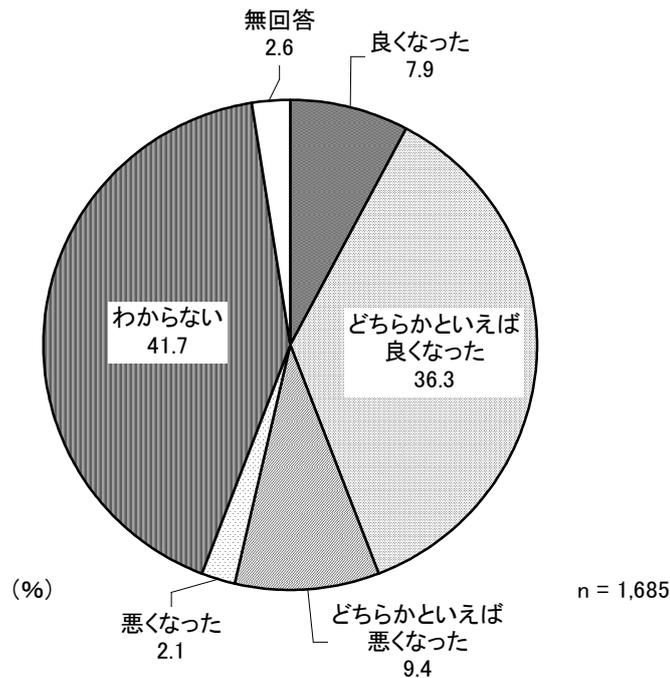
居住地域別にみると、「行っていない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）で8割台半ば（85.5%）と高くなっている。（図8-28-3）

8-29 市の生活環境

◇ 《良くなった》が4割台半ば

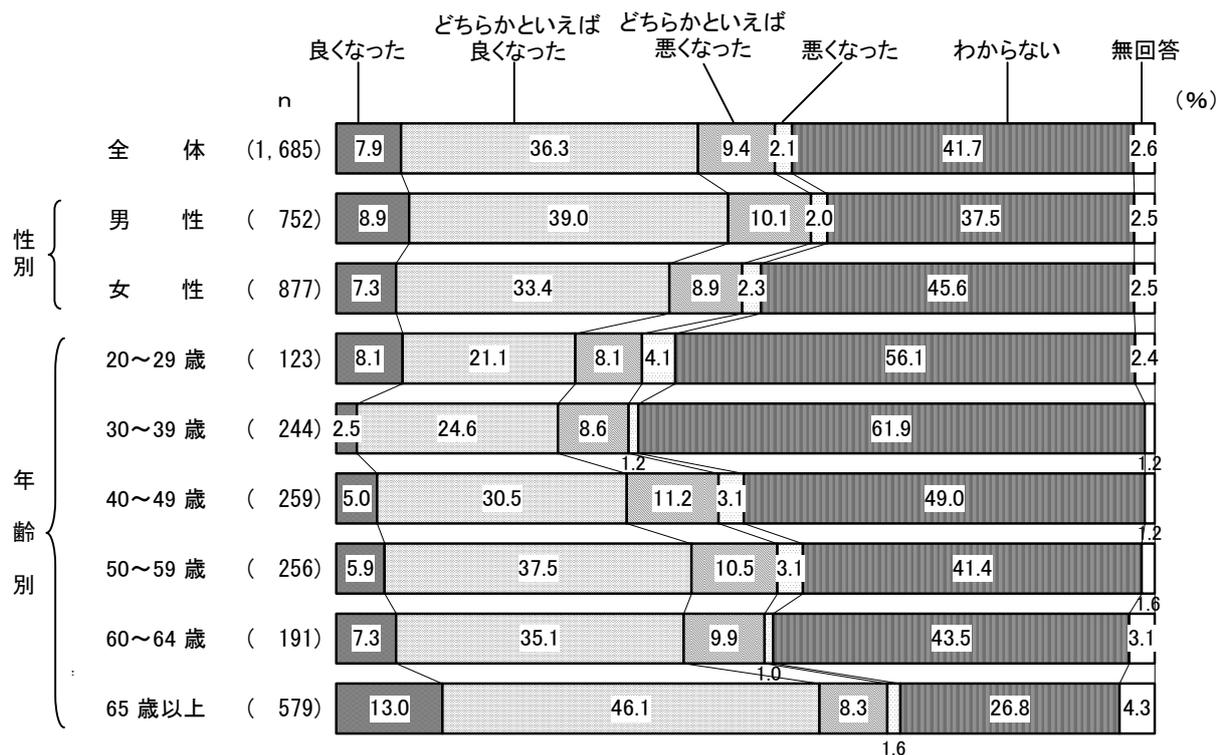
問49 あなたは、市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べどうなったと思いますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。（○は1つだけ）

図8-29-1



市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べどうなったと思うかを聞いたところ、「どちらかといえば良くなった」が4割近く（36.3%）と高く、これに「良くなった」（7.9%）を合わせた《良くなった》は4割台半ば（44.2%）となっている。一方、「どちらかといえば悪くなった」（9.4%）と「悪くなった」（2.1%）を合わせた《悪くなった》は1割強（11.5%）となっている。（図8-29-1）

図 8-29-2 市の生活環境—性別・年齢別

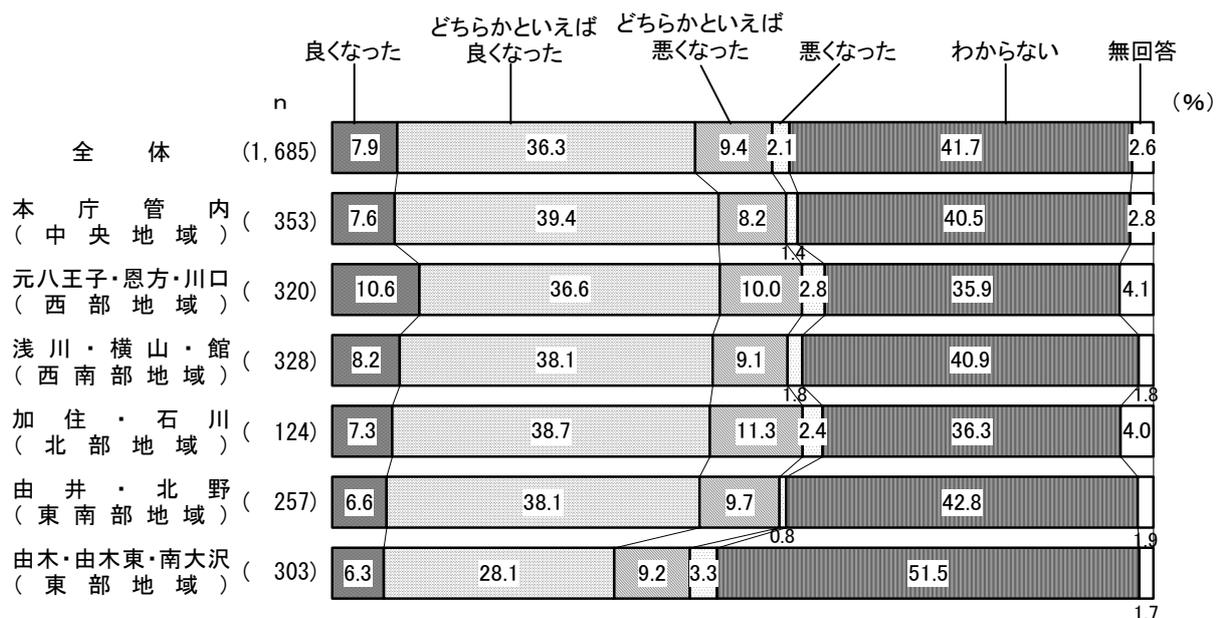


性別にみると、《良くなった》は男性が7.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《良くなった》は65歳以上で6割弱（59.1%）と高くなっている。

(図 8-29-2)

図 8-29-3 市の生活環境—居住地域別



居住地域別にみると、《良くなった》は由木・由木東・南大沢（東部地域）を除くすべての地域で4割台となっている。(図 8-29-3)

8-30 ワーク・ライフ・バランスの周知度

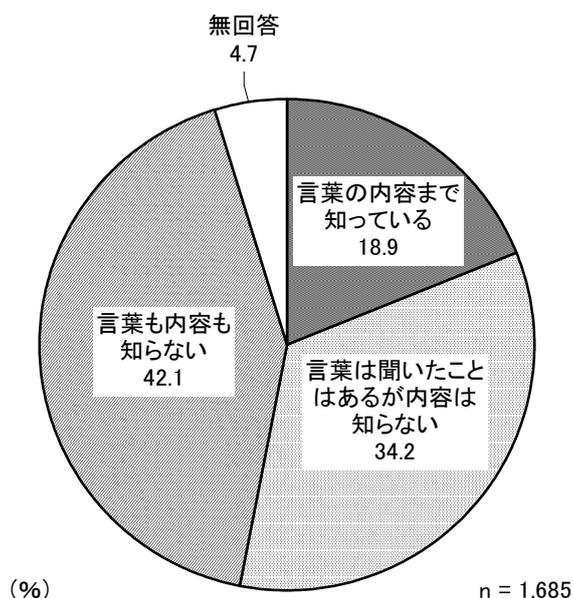
◇「言葉も内容も知らない」は4割強

問50 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉を知っていますか。（○は1つだけ）

※仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）とは・・・

ワーク・ライフ・バランスとは、人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態で、望ましいバランスは、人によっても異なり、青年期・子育て期・中高年期といったライフステージによっても変化すると考えられています。ワーク・ライフ・バランスが実現すれば、個人は、より充実した生活をおくり、社会全体にも活力が生まれます。

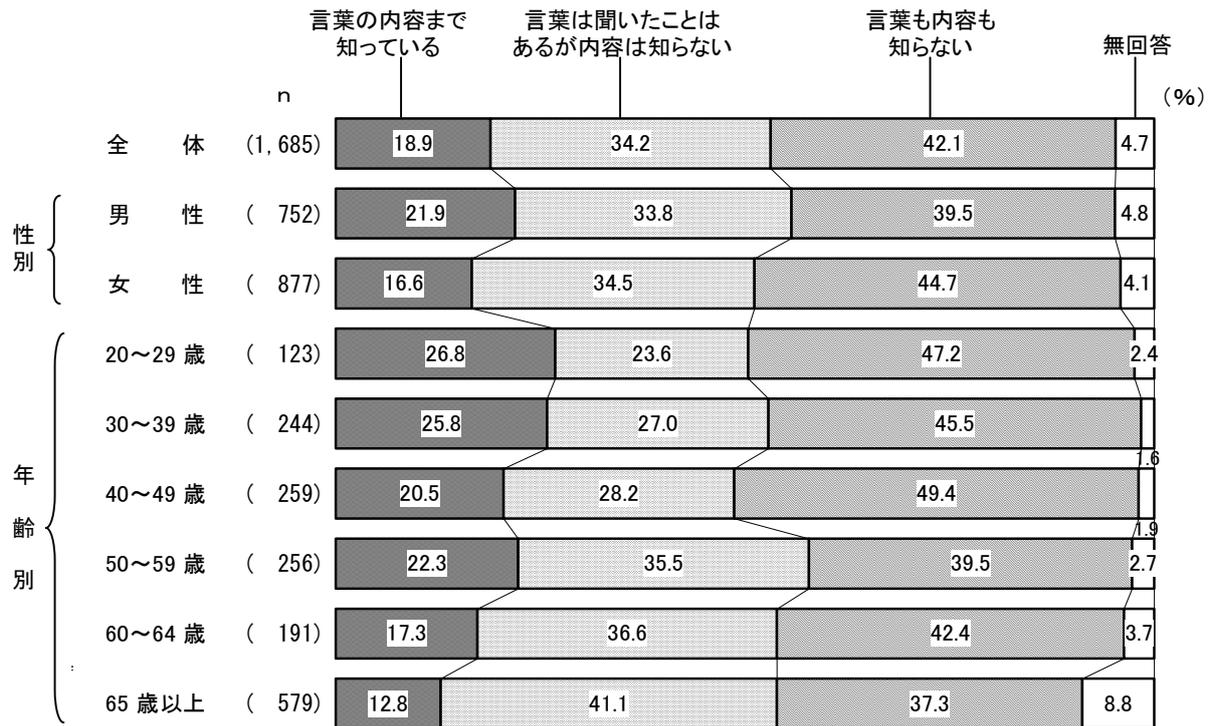
図 8-30-1



ワーク・ライフ・バランスという言葉を知っているかを聞いたところ、「言葉の内容まで知っている」が2割近く（18.9%）、「言葉は聞いたことはあるが内容は知らない」は3割台半ば（34.2%）となっている。一方、「言葉も内容も知らない」は4割強（42.1%）となっている。

(図 8-30-1)

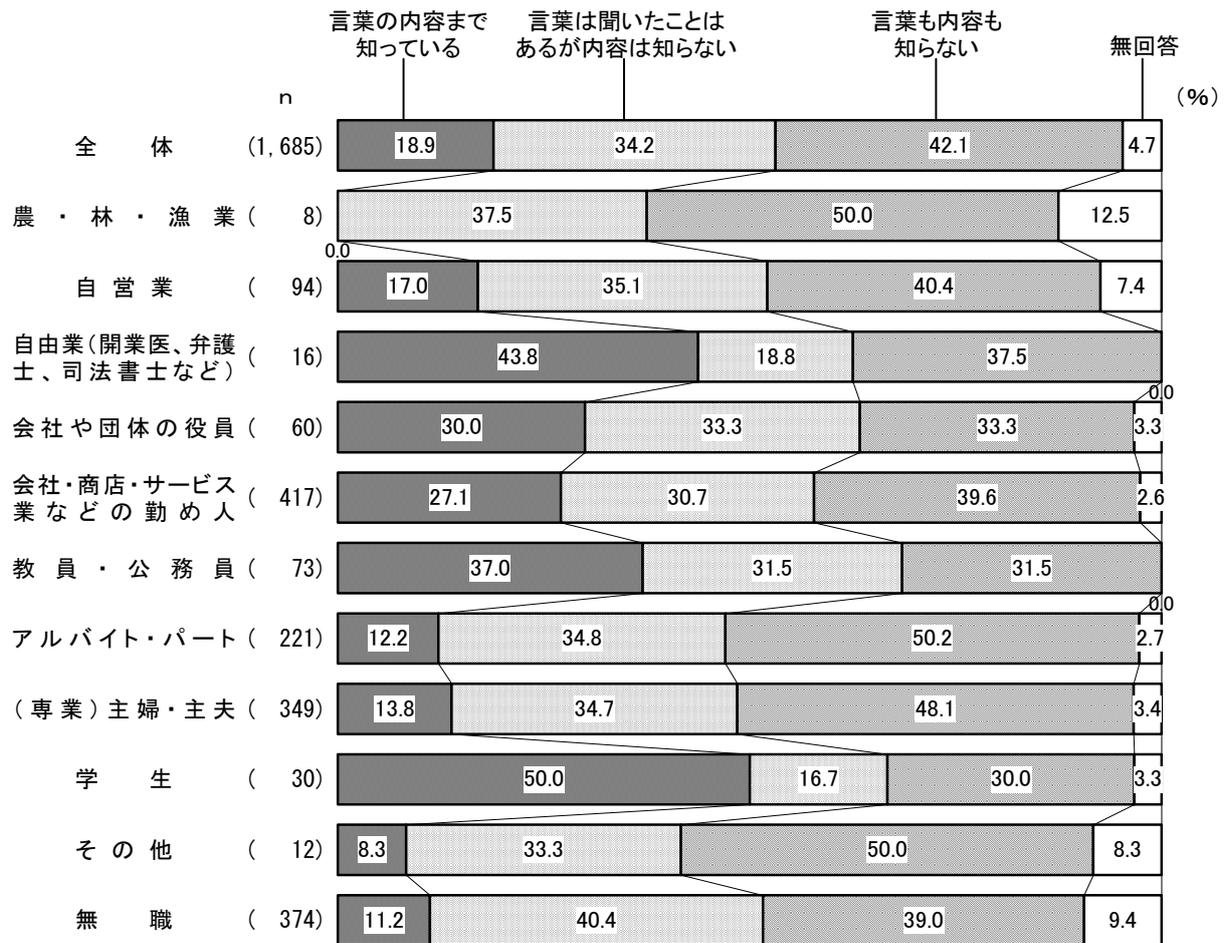
図 8-30-2 ワーク・ライフ・バランスの周知度—性別・年齢別



性別にみると、「言葉の内容まで知っている」は男性が5.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「言葉の内容まで知っている」は20~29歳で3割近く（26.8%）と高く、おおむね年代が上がるにつれて割合が低くなっている。（図 8-30-2）

図8-30-3 ワーク・ライフ・バランスの周知度－職業別



職業別にみると、「言葉の内容まで知っている」は学生で5割（50.0%）、自由業（開業医、弁護士、司法書士など）で4割強（43.8%）と高くなっている。（図8-30-3）

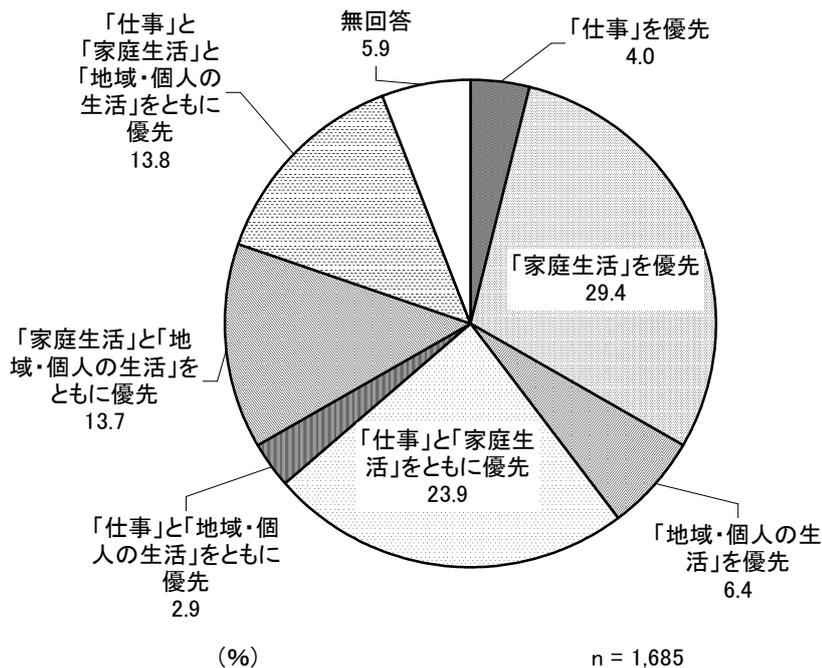
8-31 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度

◇【希望する優先度】は「家庭生活を優先」が3割弱

問51 あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度についておうかがいします。（○はそれぞれ1つ）

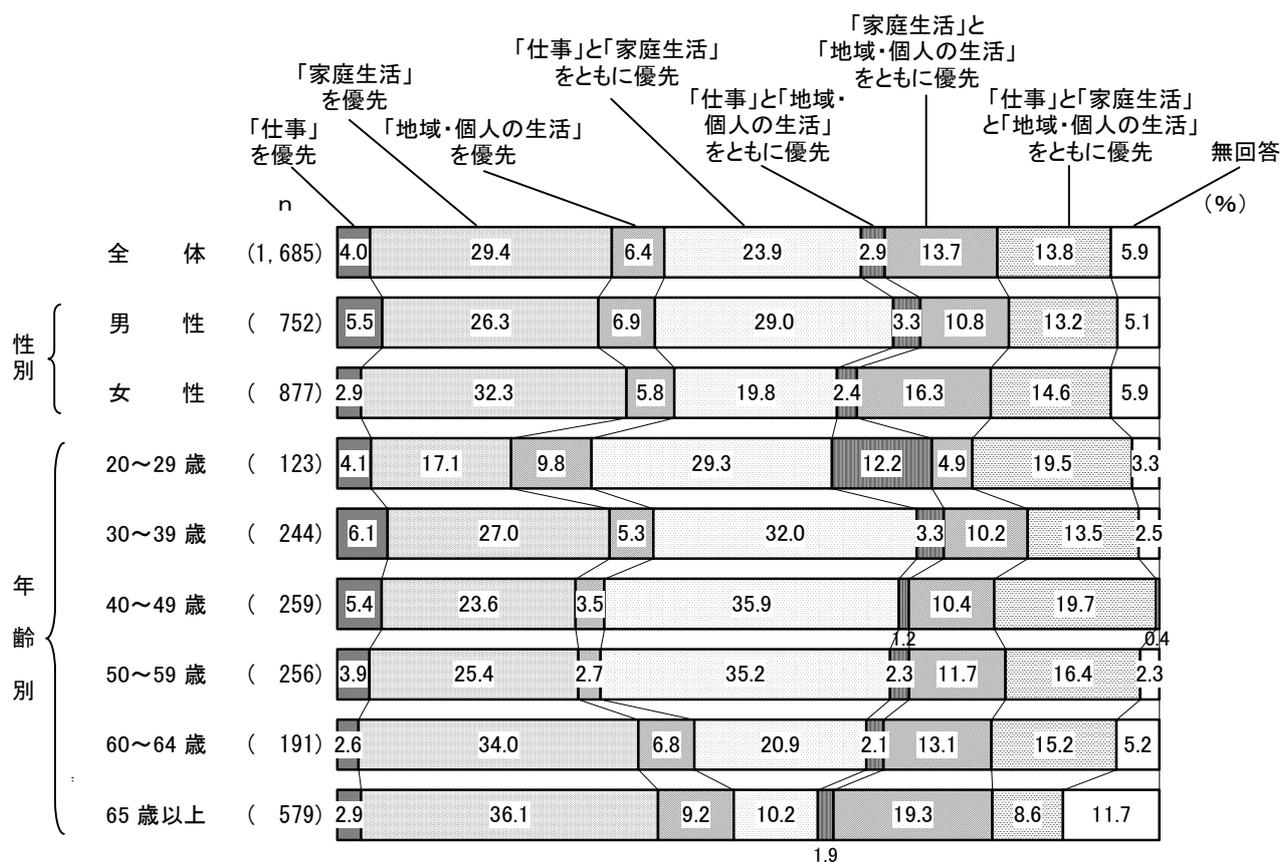
(1) あなたの望む優先度

図8-31-1



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の希望する優先度を聞いたところ、『「家庭生活」を優先』が3割弱（29.4%）と最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』（23.9%）、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』（13.8%）、『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』（13.7%）、『「地域・個人の生活」を優先』（6.4%）、『「仕事」を優先』（4.0%）、『「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先』（2.9%）と続いている。（図8-31-1）

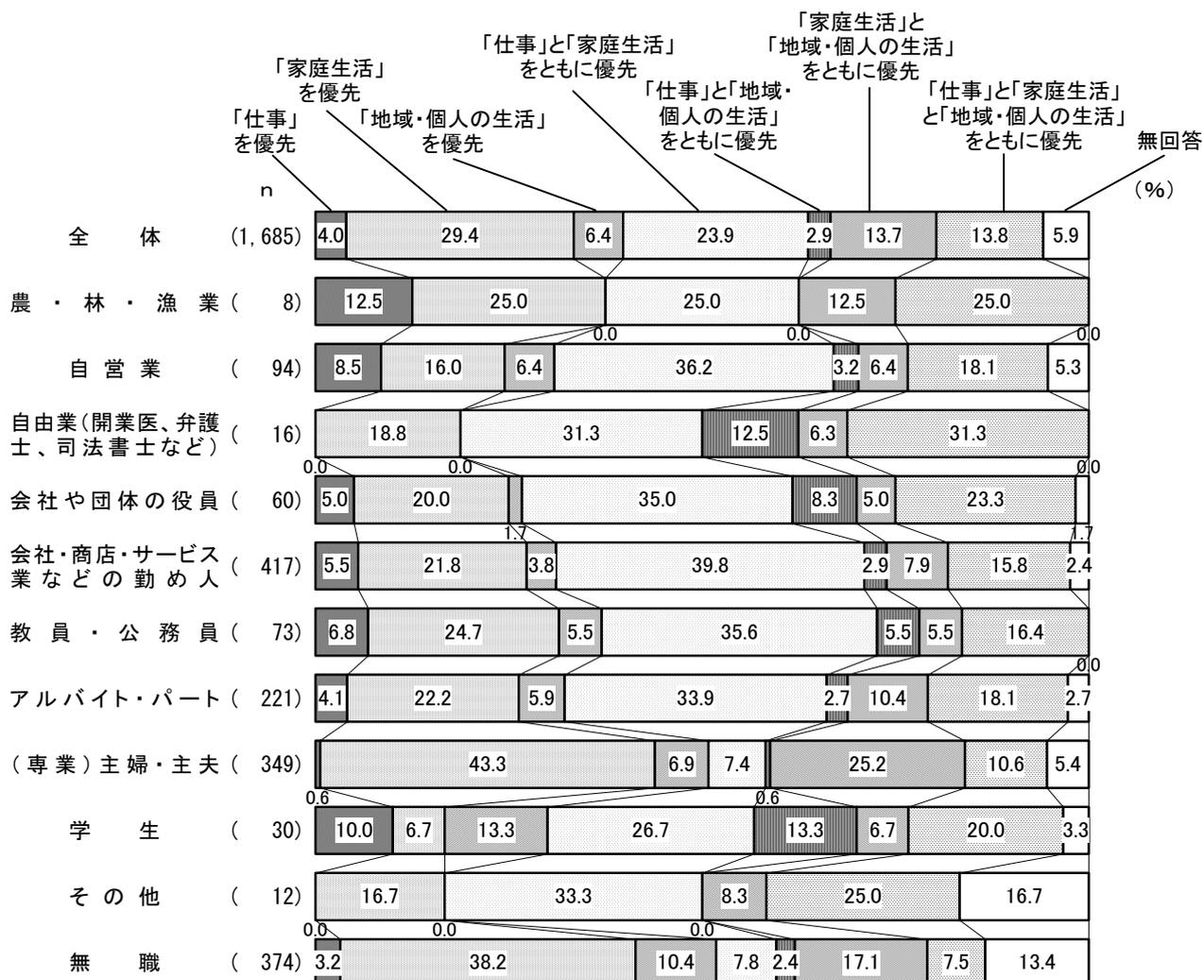
図8-31-2 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度—性別・年齢別



性別にみると、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』は男性が9.2ポイント高くなっている。一方、『「家庭生活」を優先』は女性が6.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『「家庭生活」を優先』は65歳以上で4割近く（36.1%）と高くなっている。また、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』は40~49歳（35.9%）と50~59歳（35.2%）で3割台半ばと高くなっている。（図8-31-2）

図 8-31-3 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度—職業別



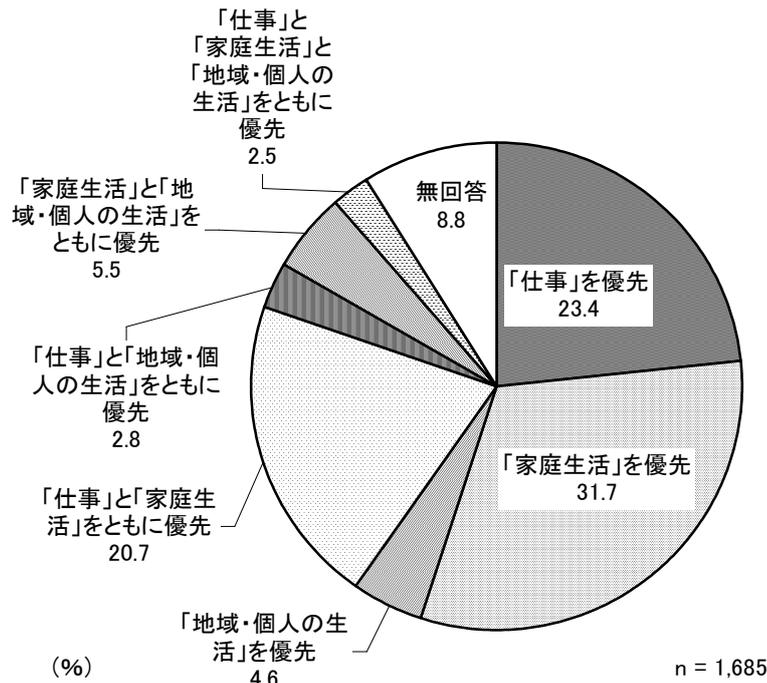
職業別にみると、『「家庭生活」を優先』は(専業)主婦・主夫で4割強(43.3%)と高くなっている。また、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』は会社・商店・サービス業などの勤め人で4割弱(39.8%)と高くなっている。(図8-31-3)

◇【実際の優先度】は「家庭生活を優先」が3割強

問51 あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度についておうかがいします。（○はそれぞれ1つ）

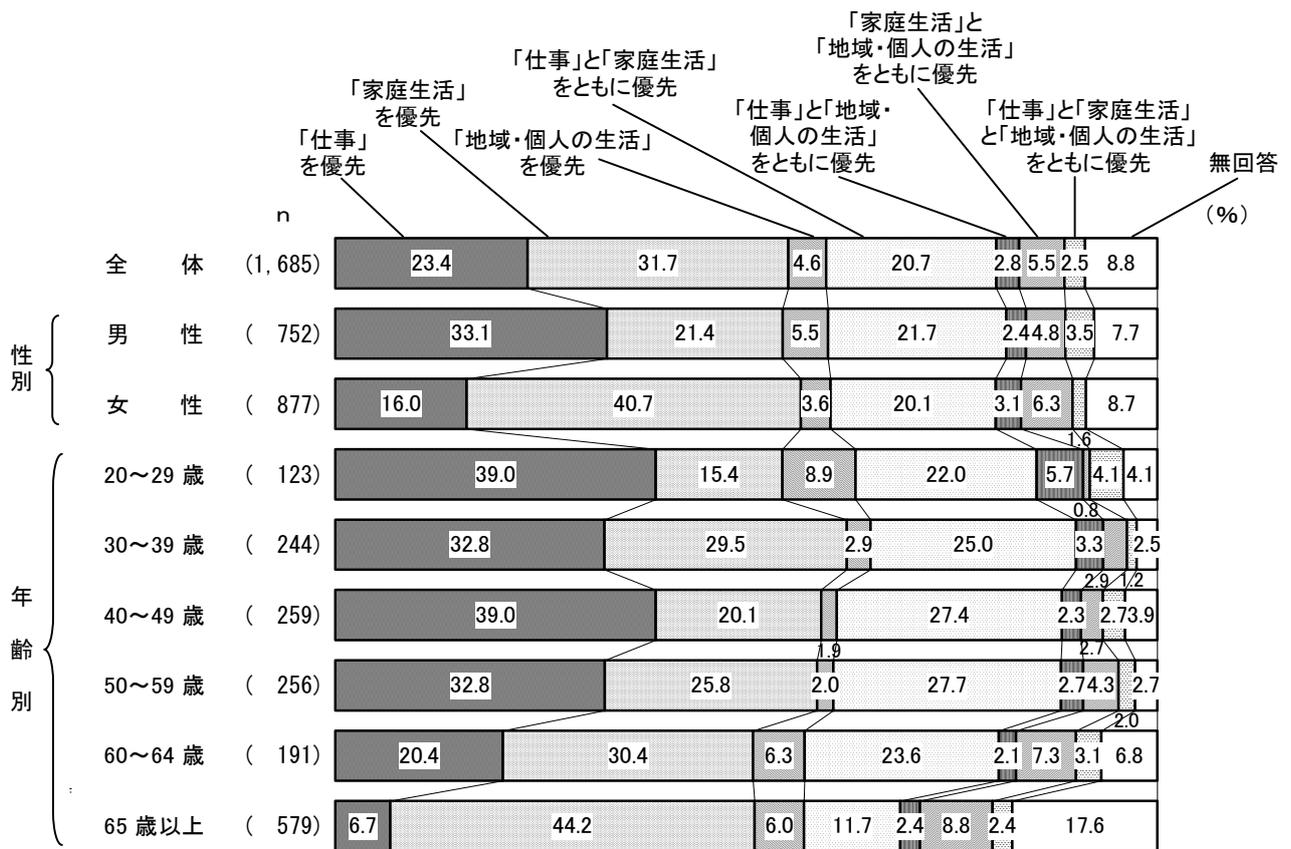
(2) 実際の優先度

図8-31-4



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の実際の優先度について聞いたところ、『「家庭生活」を優先』が3割強（31.7%）と最も高く、次いで『「仕事」を優先』（23.4%）、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』（20.7%）、『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』（5.5%）、『「地域・個人の生活」を優先』（4.6%）、『「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先』（2.8%）、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』（2.5%）と続いている。（図8-31-4）

図 8-31-5 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度—性別・年齢別

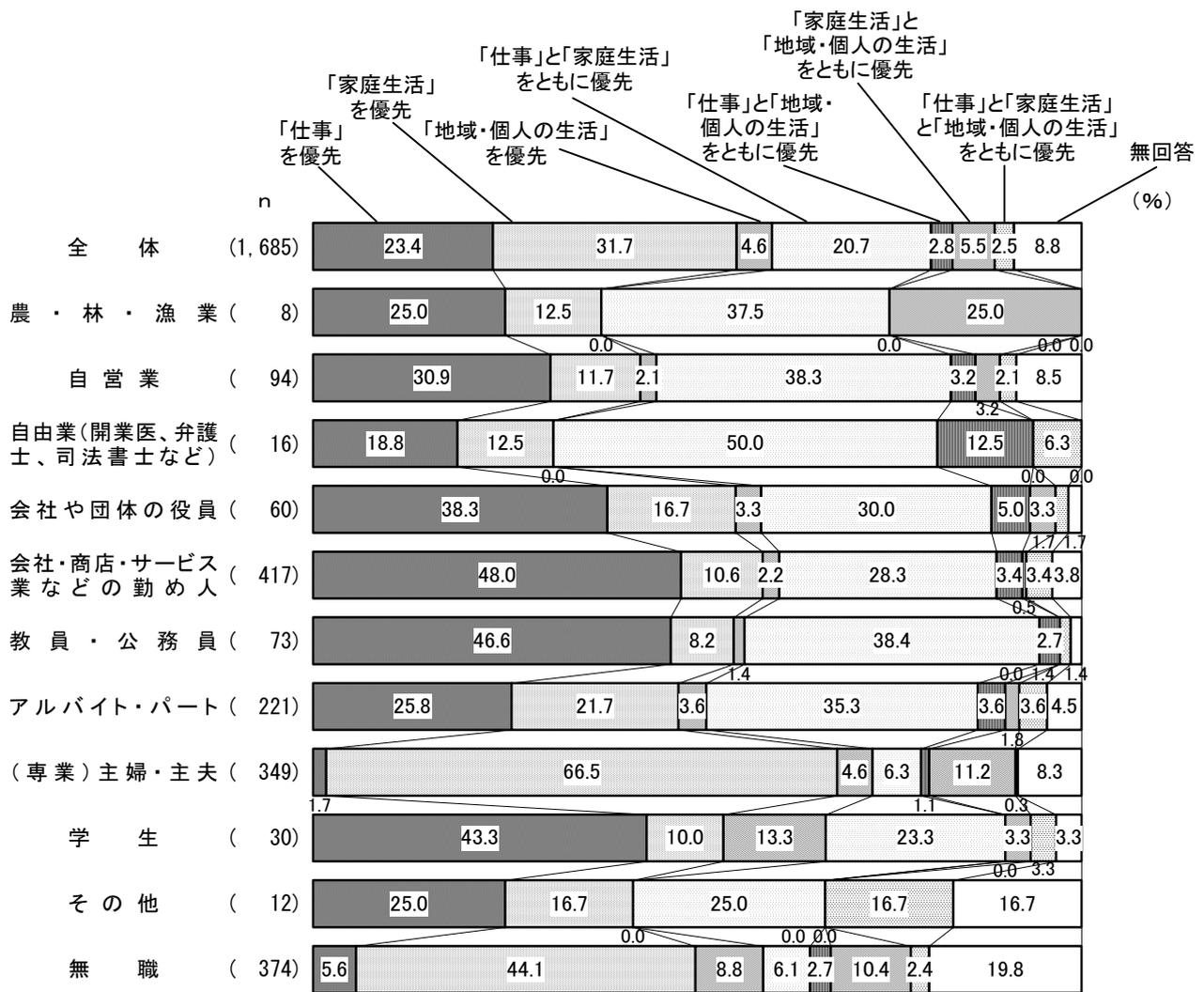


性別にみると、『「家庭生活」を優先』は女性が19.3ポイント高くなっている。一方、『「仕事」を優先』は男性が17.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『「仕事」を優先』は20~29歳と40~49歳で4割弱（39.0%）と高くなっている。また、『「家庭生活」を優先』は20~29歳で1割台半ば（15.4%）と低くなっている。

(図 8-31-5)

図8-31-6 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度—職業別



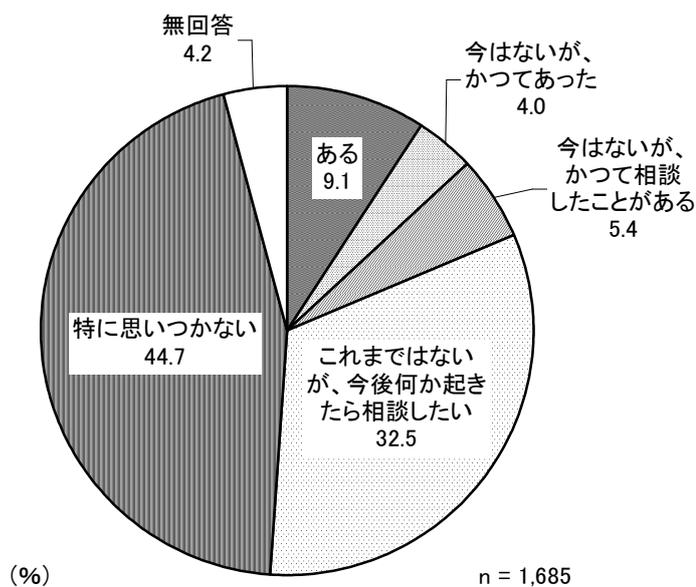
職業別にみると、『「仕事」を優先』は会社・商店・サービス業などの勤め人（48.0%）と教員・公務員（46.6%）で5割近くと高くなっている。また、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』は自由業で5割（50.0%）と高くなっている。（図8-31-6）

8-32 市に相談したいことの有無

◇「特に思いつかない」が4割台半ば

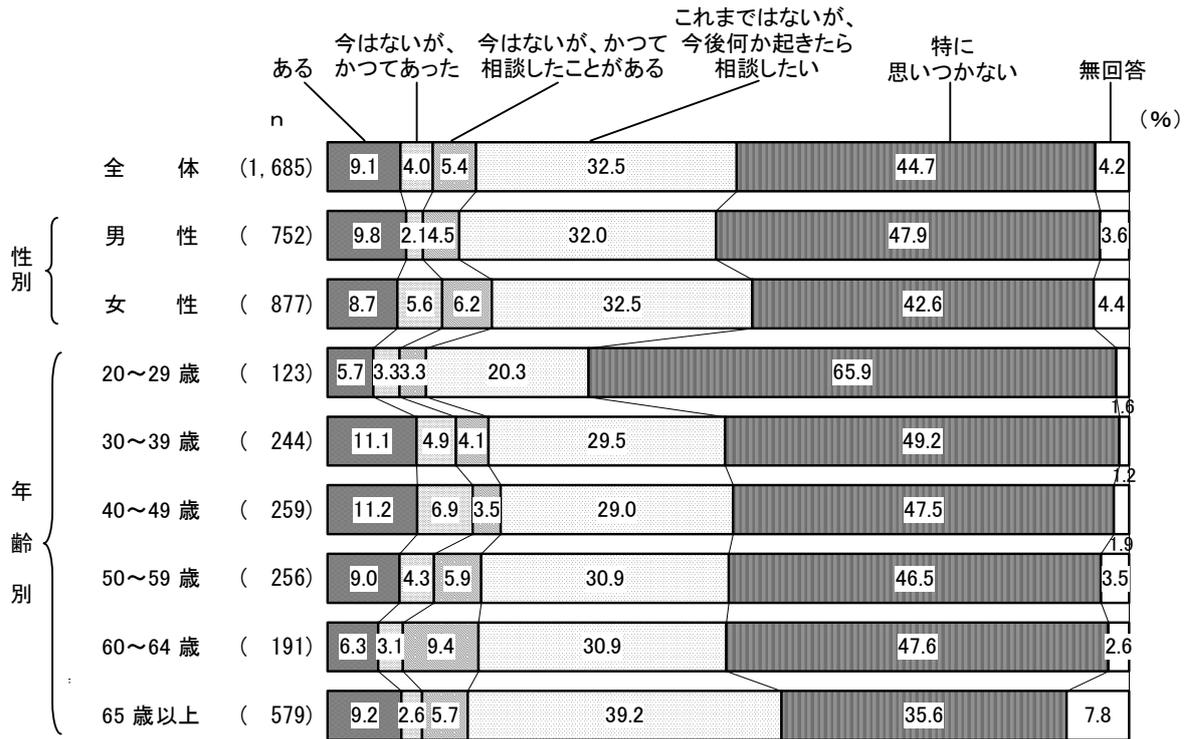
問52 あなたは、日常生活における問題やトラブルなどについて、市に相談したいことはありますか。(○は1つだけ)

図8-32-1



日常生活における問題やトラブルなどについて、市に相談したいことはあるかを聞いたところ、「特に思いつかない」が4割台半ば（44.7%）と最も高くなっている。また、「これまではないが、今後何か起きたら相談したい」は3割強（32.5%）、「ある」は1割弱（9.1%）、「今はないが、かつて相談したことがある」（5.4%）と「今はないが、かつてあった」（4.0%）は1割未満となっている。（図8-32-1）

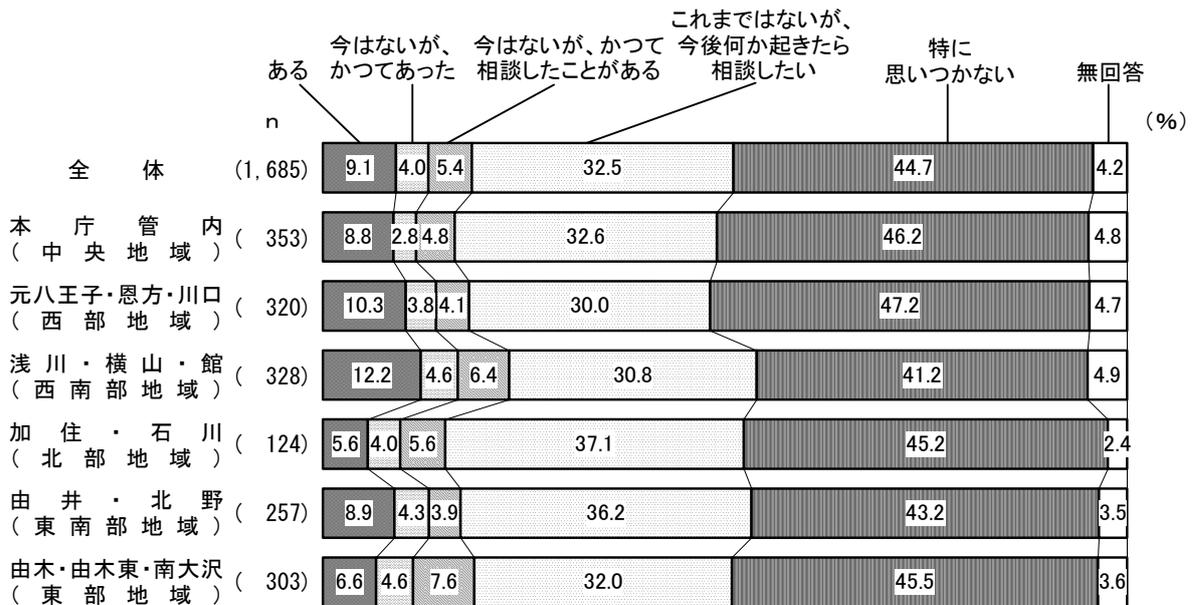
図8-32-2 市に相談したいことの有無－性別・年齢別



性別にみると、「特に思いつかない」は男性が5.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「特に思いつかない」は20～29歳で6割台半ば（65.9%）と高くなっている。また、「これまではないが、今後何か起きたら相談したい」は65歳以上で4割弱（39.2%）と高くなっている。（図8-32-2）

図8-32-3 市に相談したいことの有無－居住地域別



居住地域別にみると、「これまではないが、今後何か起きたら相談したい」は加住・石川（北部地域）（37.1%）、由井・北野（東南部地域）（36.2%）で4割近くと高くなっている。

（図8-32-3）

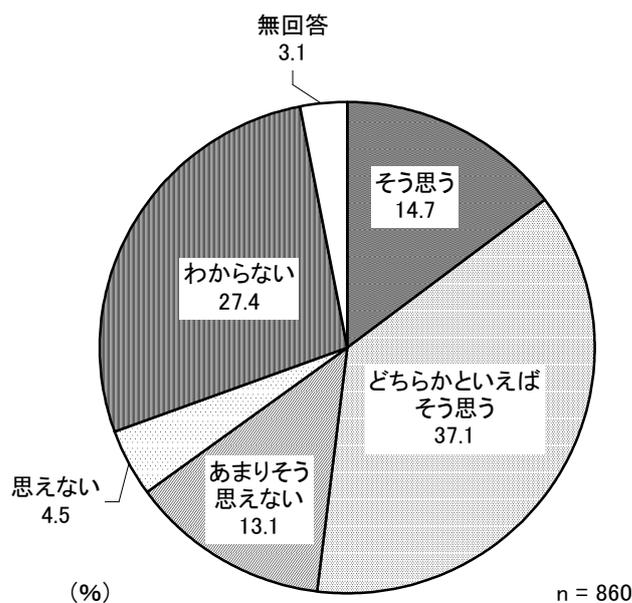
8-33 市の相談体制の満足度

◇ 《そう思う》が5割強

(問52で、相談したいことがある(あった)とお答えの方に)

問52-1 あなたは、市が実施する相談体制は充実していると思いますか。総体的にみて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけて下さい。(○は1つだけ)

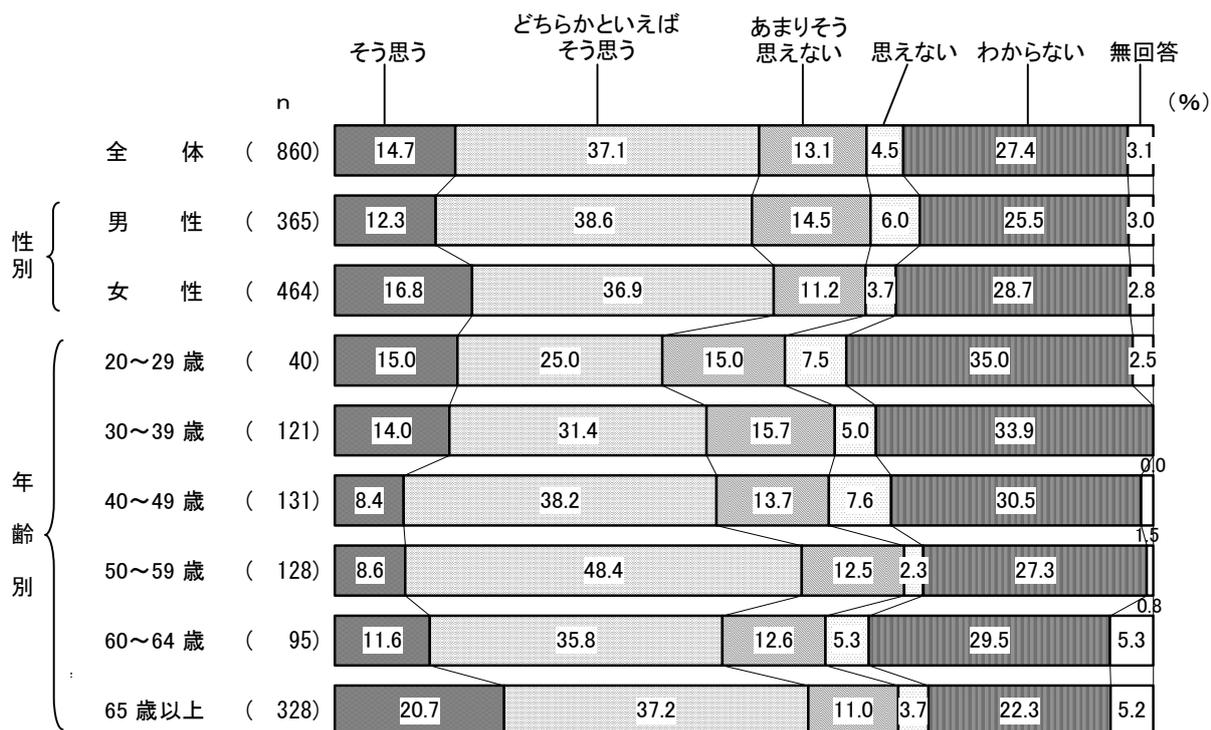
図8-33-1



市に相談したいことの有無で、相談したいことがある(あった)と答えた人(860人)に市の相談体制が充実していると思うかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が4割近く(37.1%)で最も高く、これに「そう思う」(14.7%)を合わせた《そう思う》は5割強(51.8%)となっている。一方、「あまりそう思えない」(13.1%)と「思えない」(4.5%)を合わせた《思えない》は2割近く(17.6%)、「わからない」は3割近く(27.4%)となっている。

(図8-33-1)

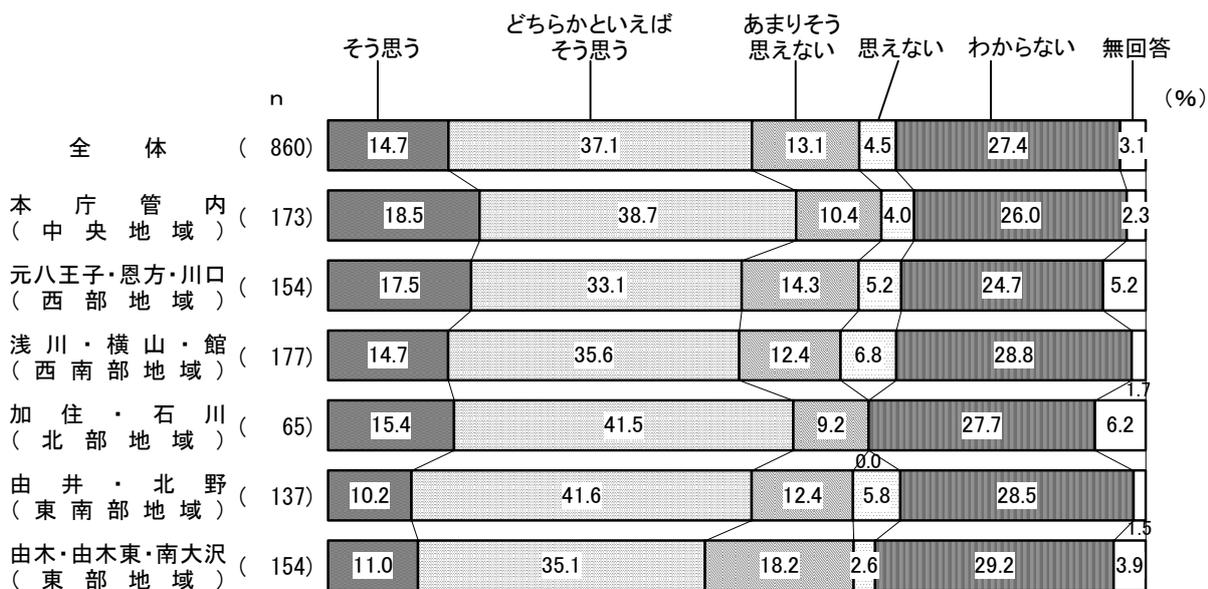
図8-33-2 市の相談体制の満足度—性別・年齢別



性別にみると、《思えない》は男性が5.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は50~59歳（57.0%）と65歳以上（57.9%）で6割近くと高くなっている。（図8-33-2）

図8-33-3 市の相談体制の満足度—居住地域別



居住地域別にみると、《そう思う》は本庁管内（中央地域）（57.2%）と加住・石川（北部地域）（56.9%）で6割近くと高くなっている。（図8-33-3）

市政世論調査報告書（第45回）

平成25年10月

発行 八王子市 総合経営部 広聴課
東京都八王子市元本郷町三丁目24番1号
電話 042 (620) 7411 (直通)
FAX 042 (620) 7322
調査担当 株式会社 エスピー研
電話 03 (3239) 0071